加須市埋蔵文化財調査報告書　第18集

埼玉県加須市

騎西城跡

KB19区調査

－中近世編－

遺物２
遺構

2025
加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書　第18集

埼玉県加須市

騎西城跡（きさいじょうあと）

KB19区調査

－中近世編－

遺物 2
遺構

2025
加須市教育委員会

騎西城跡　城郭部　（中央KB19区）

口絵２

KB19区　B～D区　完掘（上が北）

１号堀　完掘（北から）

２・３・４号堀　完掘（西から）

口絵４

５号堀・６号堀イ　完掘（西から）

６号堀ハ　完掘（西から）

6 号堀ニ・７・８号堀　完掘（西から）

9 ～11号堀　完掘（西から）

口絵６

12・13号堀　完掘（西から）

14～16号堀　完掘（西から）

15・16号堀　完掘（西から）

19～21号堀　完掘（西から）

口絵８

18～21号堀　完掘（南から）

Ａ１区　完掘（西から）

Ａ２区　完掘（東から）

Ａ２区　完掘（西から）

Ａ区道路分・Ｂ区　完掘（東から）

同左（西から）

口絵 10

1 号堀　織部黒沓形茶碗（土 5 ）

同　漆椀（木31）

同　漆椀（木37）

同　将棋の駒（木99）

同　木槌（木101）

同　位牌の台座（木102）

同　丸木材（行方不明　№168）

同　漆椀（取上不能　D 区№180）

6 号堀　Bライン土層堆積（南から）

同　漆椀（木41）

同　漆椀（木42）

同　白木高盤ヵ（木43）

同　漆椀（木44）

口絵 12

6 号堀　漆椀（木45）

同　漆椀（木48）

同　漆椀（木49）

同　漆椀（木49）

同　漆椀（木51）

同　漆椀（木52）

同　漆椀（木53）

同　漆器（円形状）（木90）

6 号堀　脚付円形板（木97）

同　柄ヵ（木105）

同　呪符（木103）

同　円形状製品（木108）

同　漆椀（図化不能　C区№491）

口絵 14

6 号堀　漆椀（図化不能　C 区№516）

同　漆椀（図化不能　C 区№561）

同　竹製品（図化不能　C 区№625　H 6 ㎝）

同　漆椀（図化不能　C 区№693）

同　薙鎌ヵ（金41）

7 号堀　かわらけ（土135～154）

7 号堀　かわらけ（土135～154）

9 号堀　漆合子蓋（木65）

9 ・10号堀　完掘（西から）

9 号堀　杭列

10号堀　杭列

12号堀　筒状漆製品（木113）

16号堀　二股木製品（木116）

口絵 16

15・16号堀　完掘（西から）

15号堀　杭列

16号堀　杭列

調査風景
（16号堀）

18号堀　杭列（西から）

18・19号堀　杭列（西から）

19号堀　杭列（西から）

29・30号堀　土層堆積（西から）

口絵 18

29・30号堀　完掘（北から）

4 号井戸　桶（木30）

12号井戸　ウマの骨

12号井戸　同拡大（ウマの歯）

同　ほうろく（土285）、石臼・板碑（石39・435）

12号井戸　板碑・五輪塔（石434・505）

25号井戸　焼土

9・13号土壙　遺物出土

9号土壙　人骨出土

1号建物跡　基礎地業跡

口絵 20

1 建　基礎地業跡　南西隅

1 建　基礎地業跡　南東隅

橋跡 ヵ

3 C層　総織部（土353）

5 C層　染付端反皿（土269）

5 C層　染付芙蓉手鉢（土361）

同　染付碗（土384）

C区５Ｃ層　遺物分布状況（西から）

同　土層堆積（南から）

口絵 22

5 C層　天目茶碗（土390）

同　丸皿（土393）

同　志野丸皿（土396）

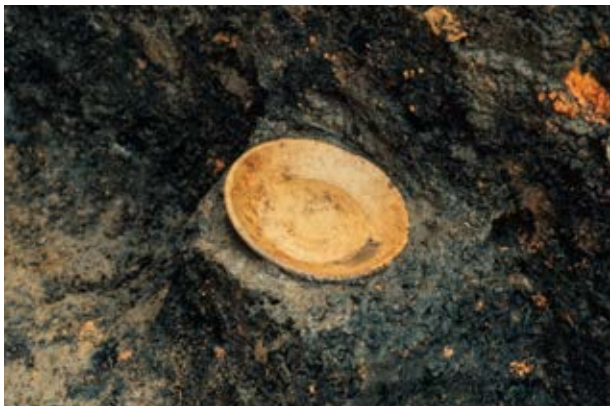
同　擂鉢（土398）

同　擂鉢（土400）

同　志野鉢（土401）

同　茶入（土402）

同　志戸呂徳利（土416）



5 C層　かわらけ（土420）

同　かわらけ（土422）

同　かわらけ（土429）

同　志野丸碗（土435）

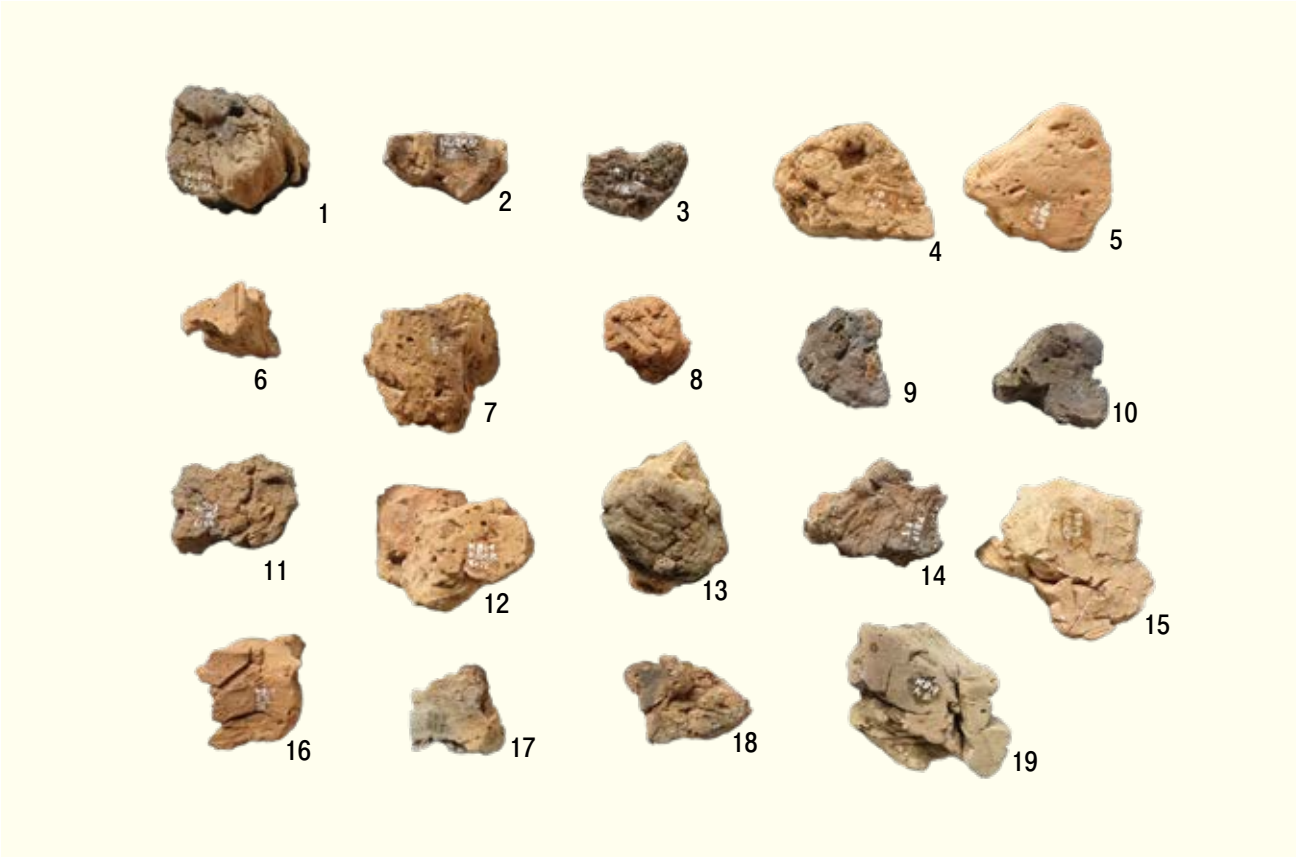
同　煙管（金57）

同　鋺状製品（金66）

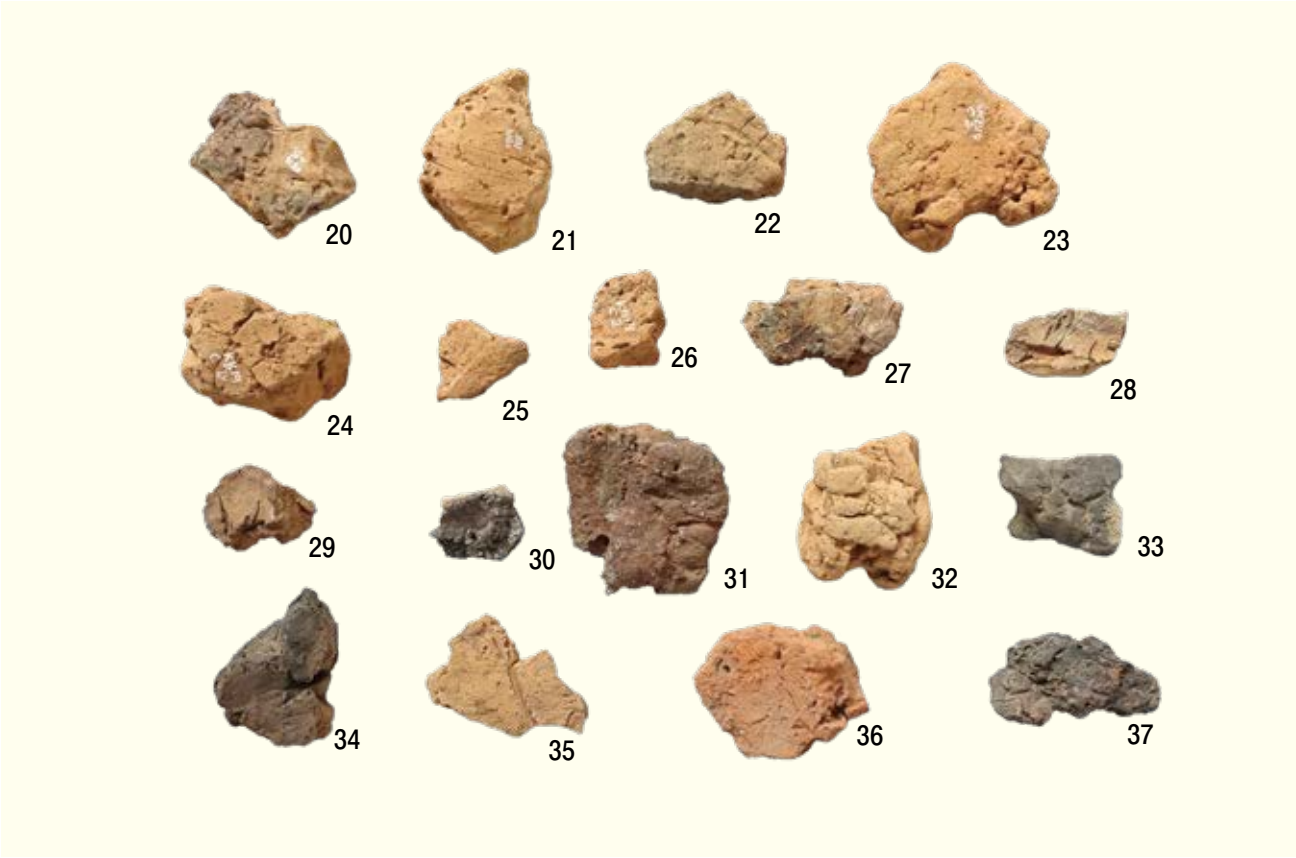
同　小柄（金76）

金泥貼板碑（石499）

口絵 24



土壁片 1



土壁片 2

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯です。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に騎西領48ヵ村の総鎮守といわれた久伊豆神社(玉敷神社)が鎮座し、源頼朝の上洛に従った多賀谷氏や道智氏という武蔵武士を擁した歴史のある地域であります。

地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、平成３年から４年に掛けて実施された根古屋地区に所在する騎西城跡KB19区調査の記録です。当調査区は城郭部に位置し、調査の結果、曲輪を囲む障子堀、当時の土壙・井戸の跡、厚い炭化物層、焼けた壁土、朝鮮陶器や多量の唐津・織部陶器・漆椀、呪符、つぶて石と思われる100点近い石製円盤など貴重な遺構・遺物が検出されました。特に今回の報告では、未報告である石製品類、動植物遺体と遺構について報告するものです。

これらの調査成果は城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

令和７年３月

加須市教育委員会

教育長　小野田　誠

例　言

1　本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は根古屋外川土地区画整理に先立つもので、平成３・４年に実施したものである。

3　本書の刊行に際して次のように作業に当たった。

（1）執筆

第Ⅰ～Ⅲ章　　（第17集）

第Ⅳ～Ⅵ・Ⅶ章（下記以外）　嶋村英之

第Ⅶ章第３節４　　嶋村薫

（2）写真撮影は、現場では調査担当者が、その他は嶋村英之のもと遺物整理者が行った。

（3）出土品の整理・基礎データ・原稿下書・図版の作成は嶋村英之のもと、整理協力員・遺物整理者が行った。

『騎西町史考古資料編１・２』掲載のものは本報告を優先する。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編２』掲載のものを加工した。

4　本書の編集は嶋村英之が行った。

5　資料は加須市教育委員会が保管している。

6　「騎西」城は「私市」城とも記すが武家屋敷が存在していた時期の絵図により「騎西」城とする。

7　スラグという語は既報告では「金属加工に伴う非金属製のカス」を指していたが、スラグ(鉱滓)は本来「鉱石を溶錬する際に生じるもの」とされ、不適切な用語と考えられるため「金属加工滓」とする。

8　調査時、Ａ１区はＡ区、Ａ２区はＡ区その２としている。

調査組織

1　発掘調査組織（平成３・４年度）

調査主体者　騎西町教育委員会

担　当　者　主査　島村範久　主事　嶋村英之

調査協力員・整理協力員は第17集に掲載

2　整理組織（令和６年度）

整理主体者　　加須市教育委員会

教育長　　小野田　誠

生涯学習部　　部　長　斉藤千恵美

副部長　高貫貢

生涯学習課　　課　長　蓮見晴美

文化財担当　　主　幹　坂本征男

主　事　高橋杜人

会計年度任用職員・一般事務補助員

嶋村英之

遺物整理者（会計年度任用職員・一般事務補助員）

小川美津子　嶋村薫　長谷川恵　松村順子

凡　例

1　本文および表について

○（　）の数値は残存値である

○※は不確定な推定復元値

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号堀→□堀　□井戸状遺構→□井戸・□井

□号溝→□溝　□号土壙→□壙　□号建物跡→□建

2　挿図について

○縮尺は以下の通りである

遺構　完掘・断面：堀・溝・井戸・土壙：１／60

土層堆積：溝１／40　溝・井戸・１／60

遺物出土：堀任意～１／60　井戸・土壙１／40

遺物　１／２～４

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。
○遺物の図ナンバーは製品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNo.に種別の略号を冠した。土器類（土）、土壁片（壁）、木製品（木）、金属製品（金）、羽口（羽）、金属加工滓（滓）、石製品（石）。

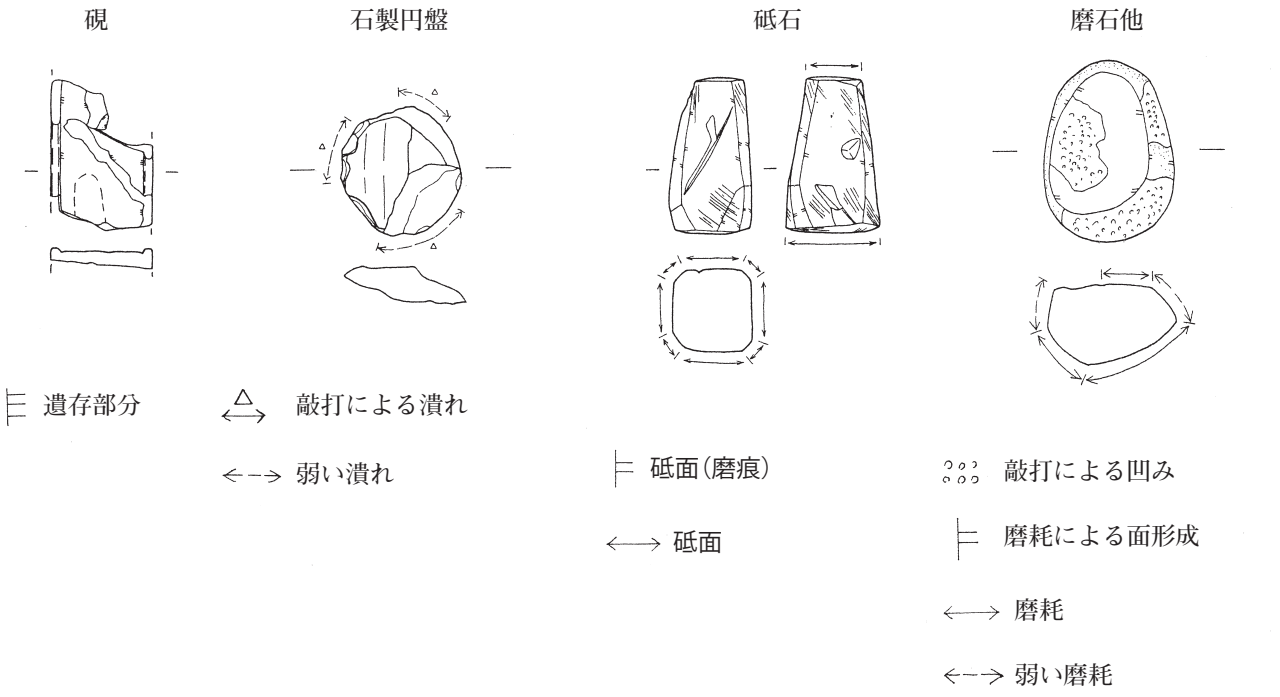
土器類・木製品・金属製品については第17集のナンバーを記載した。18集補遺で報告したものは補を加えた。

○土層説明は土層色調／含有物の順に記載した。

略称凡例

※テフラ＝T、ローム＝L、炭化物＝C、焼土＝S、酸化鉄＝FE、黒褐色＝BB、黒色＝B、褐色＝Br
※粒子＝R、ブロック＝B
※非常に多い＝☆、多量＝◎、少量＝△、微量＝▲、万遍なく＝万
※やや明るい＝やや明、やや暗い＝やや暗
※非常に軟らかい＝軟度高、軟らかい＝軟質、やや軟らかい＝軟度低、硬い＝堅緻
※締まり良し＝締良、締まり悪し＝締悪、粘性強し＝粘強、粘性有り＝粘有

3　遺物IDについて　　17集に掲載
4　製品別分類について　17集に掲載



目　次

序／例言／目次

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

第Ⅱ章　調査に至る経過

第Ⅲ章　出土した遺物
　第１節　土器類
　第２節　土壁片
　第３節　木製品類
　第４節　金属製品
　第５節　金属の生産

以上17集に掲載

第Ⅳ章　出土した遺物２
　第１節　石製品類……１
　第２節　礫類……61
　第３節　動植物遺体……63

第Ⅴ章　出土遺物補遺
　第１節　瓦……64
　第２節　金属の生産……64
　第３節　土壁片……64

第Ⅵ章　調査概要と検出された遺構……68
第Ⅶ章　検討・まとめ……130

図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　石製品類１（石臼１）……４
第２図　石製品類２（石臼２）……５
第３図　石製品類３（石臼３）……６
第４図　石製品類４（石臼４）……７
第５図　石製品類５（石臼５）……８
第６図　石製品類６（石臼６）……９
第７図　石製品類７（石臼７）……10
第８図　石製品類８（石臼８）……11
第９図　石製品類９（石臼９）……12
第10図　石製品類10（石臼10）……13
第11図　石製品類11（石臼11）……14
第12図　石製品類12（石臼12）……15
第13図　石製品類13（石臼13）……16
第14図　石製品類14（碁石・駒石・硯１）……17
第15図　石製品類15（硯２・石製円盤１）……18
第16図　石製品類16（石製円盤２）……19
第17図　石製品類17（石製円盤３）……20
第18図　石製品類18（石製円盤４）……21
第19図　石製品類19（石製円盤５）……22
第20図　石製品類20（石製円盤6･円形石製品･他）…23
第21図　石製品類21（方形石製品）……24
第22図　石製品類22（成形礫･打割礫･砥石１）…25
第23図　石製品類23（砥石２）……26
第24図　石製品類24（砥石３）……27
第25図　石製品類25（砥石４）……28
第26図　石製品類26（砥石５）……29
第27図　石製品類27（砥石６）……30
第28図　石製品類28（砥石７）……31
第29図　石製品類29（砥石８・敲石１）……32
第30図　石製品類30（敲石２･抉り石･磨石１）…33
第31図　石製品類31（磨石２）……34
第32図　石製品類32（磨石３）……35
第33図　石製品類33（磨石４）……36
第34図　石製品類34（火打石）……37
第35図　石製品類35（板碑１）……38
第36図　石製品類36（板碑２）……39
第37図　石製品類37（板碑３）……40
第38図　石製品類38（板碑４）……41
第39図　石製品類39（板碑５）……42
第40図　石製品類40（板碑６）……43
第41図　石製品類41（板碑７）……44
第42図　石製品類42（板碑８）……45

第43図　石製品類43（板碑９）……46
第44図　石製品類44（板碑10）……47
第45図　石製品類45（板碑11）……48
第46図　石製品類46（五輪塔）……49
第47図　石製品類47（宝篋印塔・石塔・他）……50
第48図　石製品類48（他）……51
第49図　出土遺物補遺１（瓦・羽口・滓）……64
第50図　出土遺物補遺２（土壁片１）……65
第51図　出土遺物補遺３（土壁片２）……66
第52図　周辺の調査……80
第53図　遺構位置図（A・B区）……81
第54図　遺構位置図（C・D区）……83
第55図　C・D区エレベーション図……85
第56図　堀凡例……87
第57図　遺構１　１号堀……89
第58図　遺構２　１号堀遺物分布図……91
第59図　遺構３　２・３号堀……93
第60図　遺構４　４号堀……94
第61図　遺構５　５号堀……95
第62図　遺構６　６号堀……97
第63図　遺構７　６号堀遺物分布図……99
第64図　遺構８　７・８号堀……101
第65図　遺構９　９・10号堀……102
第66図　遺構10　10b・11号堀……103
第67図　遺構11　12・13号堀……104
第68図　遺構12　14号堀……105
第69図　遺構13　15・16号堀……106
第70図　遺構14　17号堀……107
第71図　遺構15　18・19号堀……109
第72図　遺構16　20・21号堀……111
第73図　遺構17　22号堀……113
第74図　遺構18　23・24号堀、橋跡……115
第75図　遺構19　29・30号堀……116
第76図　遺構20　溝……117
第77図　遺構21　井戸１……118
第78図　遺構22　井戸２……119
第79図　遺構23　井戸３……120
第80図　遺構24　土壙……121
第81図　遺構25　A２区セクション・１号建物跡…122
第82図　遺構26　５C層遺物分布図……123
第83図　『絵図』との対照図……130
第84図　堀の位置……130
第85図　層位別土器類・木製品類出土１……132
第86図　層位別土器類・木製品類出土２……133
第87図　層位別土器類・木製品類出土３……134
第88図　層位別土器類・木製品類出土４……135
第89図　層位別土器類・木製品類出土５……136
第90図　３C層・５C層出土土器類……137
第91図　５C層他出土土器類……138
第92図　騎西城の範囲想定図（下図昭和62年)…140
第93図　改正地引番号全図（明治９年)……140
第94図　かわらけ法量分布図……141
第95図　石製円盤の重量・長さ分布図……143
第96図　遺構の変遷……146

表目次

第１表　石製品類一覧表１……52
第２表　石製品類一覧表２……53
第３表　石製品類一覧表３……54
第４表　石製品類一覧表４……55
第５表　石製品類一覧表５……56
第６表　石製品類一覧表６……57
第７表　石製品類一覧表７……58
第８表　石製品類一覧表８……59
第９表　石製品類一覧表９……60
第10表　石製品類一覧表10……60
第11表　礫類一覧表１……61
第12表　礫類一覧表２……62
第13表　礫類一覧表３……62
第14表　炭化種子一覧表……63
第15表　出土遺物補遺１（瓦・羽口・滓）……64
第16表　出土遺物補遺２（土壁片）……67
第17表　遺構一覧表１……125
第18表　遺構一覧表２……126
第19表　遺構一覧表３……127
第20表　遺構一覧表４……128

第21表　遺構一覧表５ ……129
第22表　緑泥石片岩出土地点ごとの重量 ……144

図版目次

図版１　出土遺物　石製品類１
図版２　出土遺物　石製品類２
図版３　出土遺物　石製品類３
図版４　出土遺物　石製品類４
図版５　出土遺物　石製品類５
図版６　出土遺物　石製品類６
図版７　出土遺物　石製品類７
図版８　出土遺物　石製品類８
図版９　出土遺物　石製品類９
図版10　出土遺物　石製品類10
図版11　出土遺物　石製品類11
図版12　出土遺物　石製品類12
図版13　出土遺物　石製品類13
図版14　出土遺物　石製品類14
図版15　出土遺物　石製品類15
図版16　出土遺物　石製品類16
図版17　出土遺物　石製品類17
図版18　出土遺物　石製品類18
図版19　遺構１　調査区１
図版20　遺構２　調査区２
図版21　遺構３　調査区３
図版22　遺構４　調査区４
図版23　遺構５　堀１
図版24　遺構６　堀２
図版25　遺構７　堀３
図版26　遺構８　堀４
図版27　遺構９　堀５・溝１
図版28　遺構10　溝２
図版29　遺構11　溝３・井戸１
図版30　遺構12　井戸２
図版31　遺構13　井戸３
図版32　遺構14　井戸４・土壙１
図版33　遺構15　土壙２
図版34　遺構16　土壙３・橋１
図版35　遺構17　橋１・建物・他
図版36　遺構18　５Ｃ層

調査風景

第Ⅳ章　出土した遺物２

第１節　石製品類

ここでは、成形して使用したものを石製品、使用による損耗形態を呈す石器、墓標・供養塔である板碑・五輪塔・宝篋印塔を石造物として扱う。

（１）石製品

【石臼】（１～90）

○器種　茶臼と粉挽臼と搗臼がある。茶臼は３・６・17・28・31・38・39・47・51・52・55・62・72・80・81・89・90で、搗 臼 は24・27・29・35・82・88で、他は粉挽臼である。

○構造　挽木の挿入口は39・78に見られる。茶臼の39は挿入口に菱形の浮き彫りを施し、39・78は使用による磨耗で挿入口の下部が欠失している。その他の貫通する穴（18・36・74・76・78）は紐などを通して挽木を固定したか。供給口の穴は２・13・18・21・23・66・68・75に見られる。芯棒孔が４・７・11・14・16・17・19・23・33・34・39・40・42・44・47・49・63・77・79・80に、芯棒受が２・18・74に見られる。

○使用痕等　12・18・35・52・60・69・81・83に２次的な磨耗痕がみられる。10・45には敲打痕が認められる。

11・16・17・19・31・34・35・47に成形時のノミ痕・敲打痕がある。39は磨面に放射状の線刻があり磨面を簡易的に再生したものか。

【碁石・駒石】（91～111）

扁平で、不整円形の91～104を碁石、不整形の105～111を駒石ヵとした。碁石は長さ1.5～2.6cm、駒石ヵは長さ２cmを超えるものが多い。色調は、黒色 は92・93・95・97・100・101・103～105、108・111、黒灰色は94・107、黒褐色は96・109、黒緑色は110、暗緑色は106、暗灰色は102、灰色は98・99、淡緑色は91である。

【硯】（112～128）

113は長さ６cm・幅２cmの小型もので携帯用か。全面に墨が付着している。右縁の窪みは用途不明。側面の斜条線は成形時鋸痕か。121も同様。114は硯面頭部が二重の段を有す木瓜形で、縁上部に菊花枝文を浮き彫りする。128の硯面が不整形で縁に刻文を有す。色調が唯一灰白色である。117の縁・海に墨が付着する。裏面・全側面の縦横位擦痕は製形時のものか。丘に擦痕顕著。裏面下部は被熱によるものか大きく剥離する。118は剥落顕著で縁上部は欠損し原型が不明である。硯面は楕円形で頭部上部に凸部を有し、中央部は使い込まれ３mm程窪む。縁上部の刻線は傷か。119は海部、112・115・116・120・122・123・125・126・128は丘部である。

【石盤ヵ】（129）

細い刻線で枠を描く。表面は研磨されており石盤と思われる。

【石製円盤】（130～225）

周囲を敲打により連続して剥離し円形にする。側面に敲打による潰れがあるものが多数ある。151・153・219は絹雲母片岩、204は石墨片岩、206は砂岩、そのほかは緑泥石片岩製である。直径3.2～9.2cm、厚さ0.3～2.2cmである。Ｃ・Ｄ区で多く出土し、遺構では１・５・６堀、５Ｃ層出土が多い。200は板碑由来が明らかである。

【成形石製品】（226～242）

緑泥石片岩を用いていずれかの形を目指して成形したもの。

226・227は大きく欠損し円形石製品とする。直径10cmで、石製円盤より大振りで厚さは0.7～１cmと薄い。

228・229は右側面を直線成形する半円形石製品で長さは15cm近く。周縁を敲打する。229の直線部は板碑側面部か。

230～233は三角形石製品としたが、230は長二等辺三角形で側縁の剥離が顕著である。231の頂部は平坦、232は正三角形、233には２条の線刻・左側面に磨痕・上部に強い敲打痕がある。

234～242は方形石製品で、剥離・敲打成形により方形・長方形を呈す。234は表裏面敲打により窪む。240の押し削り痕・242の蓮座は板碑由来の痕跡。

【成形礫・打割礫】（243～249）

つぶて石を意識して掲載したものである。掌に収まり、投擲に負担のない重さのものである。243～246は成形礫で剥離や敲打により塊状に成形したもの。247～249は打割礫で手頃な自然礫を数回の敲打で打ち割ったもの。

（２）石器

【砥石】（250～323）

○石質・使用痕・用途　251・252・254～288は直方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。泥岩質で持ち砥となりうるものがほとんどで､255・270・276・280・285は頁岩、261は蛇紋岩ヵで表面平滑。仕上げ砥か。また、泥岩としたものうち256・267・268・274・275・279・281・282・286は灰白色で凝灰岩質と思われる。

289～298・300～319・321～323は緑泥石片岩で、磨痕・敲打による潰れ・抉りが認められる。299は火山岩、320は角閃石安山岩である。

○加工痕　253は大型で表裏に成形時のノミ痕が残る。手頃な大きさに分割する前の素材か。左側面は研ぎ痕が認められ分割せずに使用している。250・260・262・283も同様にノミ痕が残る。255は段、273・276・280・285には条線が認められ分割時のもの（鋸痕）であろう。257・260・282の櫛歯状条線は整形時のものか。

【敲石】（324～328）

324～327は緑泥石片岩、328は紅簾石片岩で、側面等に何れも敲打による潰れが、324・325に磨痕が、326に抉りがある。325・328は円形成形、326は三角形成形を目指したものか。

【抉り石】（329・330）

緑泥石片岩製の断面を抉るものである。

【磨石】（331～400）

「磨石」は縄文時代のものを連想させるが砥石と区別するために特別に扱う。

○形態　礫の原型が残るものは333・338・340・341・346・347・349～354・360・362・365・371・375・379・390・395・396など１／４程で、そのうち半球形は349・350・354・379・395・396である。また、直方体近似形は335・342・355・367・372・373・383・387・389・392、三角柱形は336・391、扁平形は347・359・363である。使用により形成された面が不規則に存在する。

○使用痕　使用面の形態により、1.平坦・2.凸平坦・3.凹平坦・4.片平坦・溝状（5.Ｖ字・6.Ｖ字（刃）・7.Ｕ字）－凡例参照－とした。この形態は、対象物の形状や作業方法を反映しているものと思われる。いずれも手持ちで、1.平坦は磨石全面を平坦面に当て、2.凸平坦は作業面全面で対象物の平坦・凹・凸面に、3.凹平担は作業面全面を対象物の凸面に、4.片平坦は作業面の一部を対象物に当てたものと思われる。溝状の筋は5.角度の大きいＶ字状のもの・6.狭いＶ字状－刃の痕跡か・7.Ｕ字状のものの別がある。

ほぼ凸平担を有するものだが、凹平担・片平担が多いものは､331・346・352・356・364・366・372・378・380・393・394などである。

側面が曲面のものは自然礫面と区別がつかないものが多い。

敲打による面が荒れた凹みを広く有するものは、341・346・364・383である。

【火打石】（401～409）

石英・チャートで擦痕・潰れを認められるものを火打ち石とした。剥落部を持つものも火打ち石と思われるが、判別は困難で割愛したものもある。401の上部・405の下部・406の正面に剥落があり打撃によるものか。

（３）石造物

【板碑】（410～502）

板碑は93点を数え、完形・略完形のものは415・439で他は破片で、主尊の残るものは431・434・435である。

○銘文など　年号のわかるものは、415の応永（1394～1428）二月十五日・439の貞和二年（1346）五月十二日・465の正和五（1316）・471の応永十五年（1408）八月四日・478の延文三年（1358）・499の天文廿三（1554）で、14世紀前半から16世紀中頃のものがある。

供養者は471に日慶、499に妙春ヵである。

種子はキリークが413・415・420・429（月輪）・

431・434（月 輪）・435（月 輪）・439・440・448・457・485・496に、キリークヵが442、バンが419・474に、バンヵが478に、バクヵが475に、サクが472、サクヵが485に、カーンヵが487に、サが494にあり、サヵが499、そのうち三尊様式は472・487・494と思われる。

装飾は、485・500は天蓋、476は花瓶、483は香炉と思われる。

光明真言が418・439・462・466・482・485・486・495・497に、真言が416・443？・450？・480に刻まれている。また、499の法名に金泥が施されている。日蓮宗系は、471は日慶、481は妙法、499は妙春とあり相当するか。500は庚ヵ申待

○製作　種子の彫りが深いものは429・434・435・439・440・448で､厚く側面平坦のものは412・422・426・435・440・473である。

ケガキ線が残るものは431・435・456・471である。

○使用痕　表裏面及び断面(割れ面)に摩耗・磨痕・条痕が認められ砥石として使用したものである。415・417・434・435・437など大・中型のものは置き砥として、小型のものは持ち砥として使用したものであろう。断面・側面の磨痕には縦のみならず横方向のもの（473）もある。

敲打による潰れ（敲打痕）は側面・断面に見られ手持ちで敲いたものと思われる。417は大型。

抉りが認められるもののうち、419・426・469・501は幅狭で薄い対象物によると思われ、419・469は深く入れる。430は広角のＶ字状で研磨痕か。486は潰れており敲打による、476・497は剥離によるものである。

穴は円形の凹みが439に２か所と492に１ヶ所あり径１cm深さ４～７mmを計る。回転運動によるものか。437の凹みは突いたものか。

２次成形としては、方形が472・479、弧状が458・461、半円形が482で、成形石製品と同様に剥離・敲打痕が認められる。

○付着物など　ススが付着しているものは、412・419・422・427・431・432・440・442・444・445・447・448・450・462・468・470・473・475・484・485・497で、468・475はタール状である。そのうち表裏全面にわたるものは412・422・432、片面全体は427・440、火災・焼却などによるものであろう。

黒化・赤化しているものは、411・413・414・426・431・435・443・448・449・451・452・457・467・475～478・483・496で、そのうち、表裏全面にわたるもの414・452・476・483・500、片面全体にわたるもの426・440・442・478である。被熱によるものである。

【五輪塔】（503～507）

505は火輪、503・507は水輪、504・506は地輪である。505以外は半分以下に欠損している。505は屋根４面に梵字（正面より右回りにラー・ラ・ラク・ラン）を刻み、漆と思われる黒色付着物が残る。金泥を施したものか。下面中央付近は整形後？の敲打痕が広がり、設置のための調整を想定させる。ほかは、摩耗痕・敲打痕が認められ、砥石などに転用している。

【宝篋印塔】（508～512）

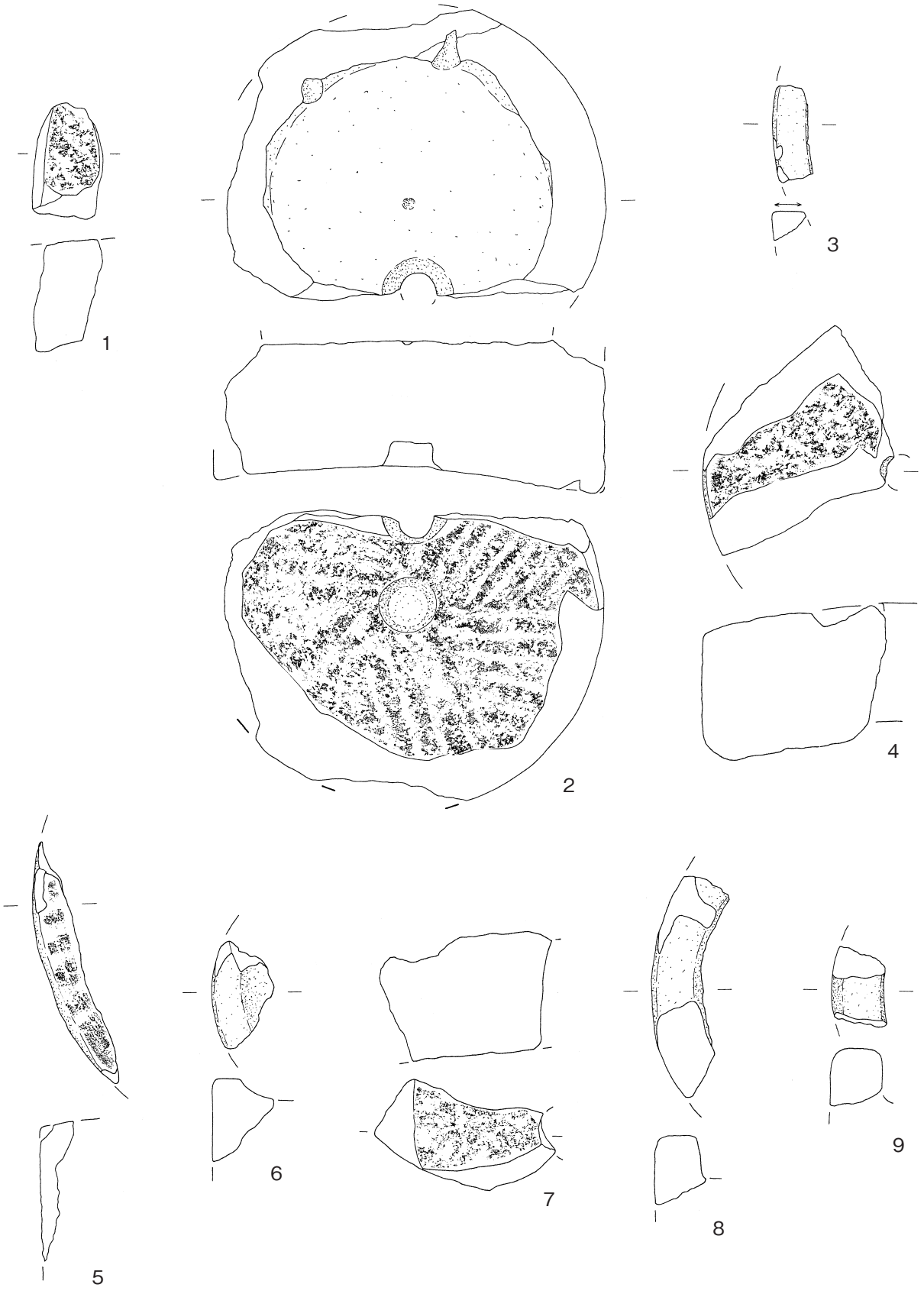
509は相輪、510・512は隅飾、508・511は基礎である。509は宝珠・受花・九輪・受花・伏鉢と遺存する。下面に僅かに円形の凸部（ホゾ）を有する。508は基礎で、二区画ではなく、正面に「□禅尼」を刻む。

【石造物】（513～519）

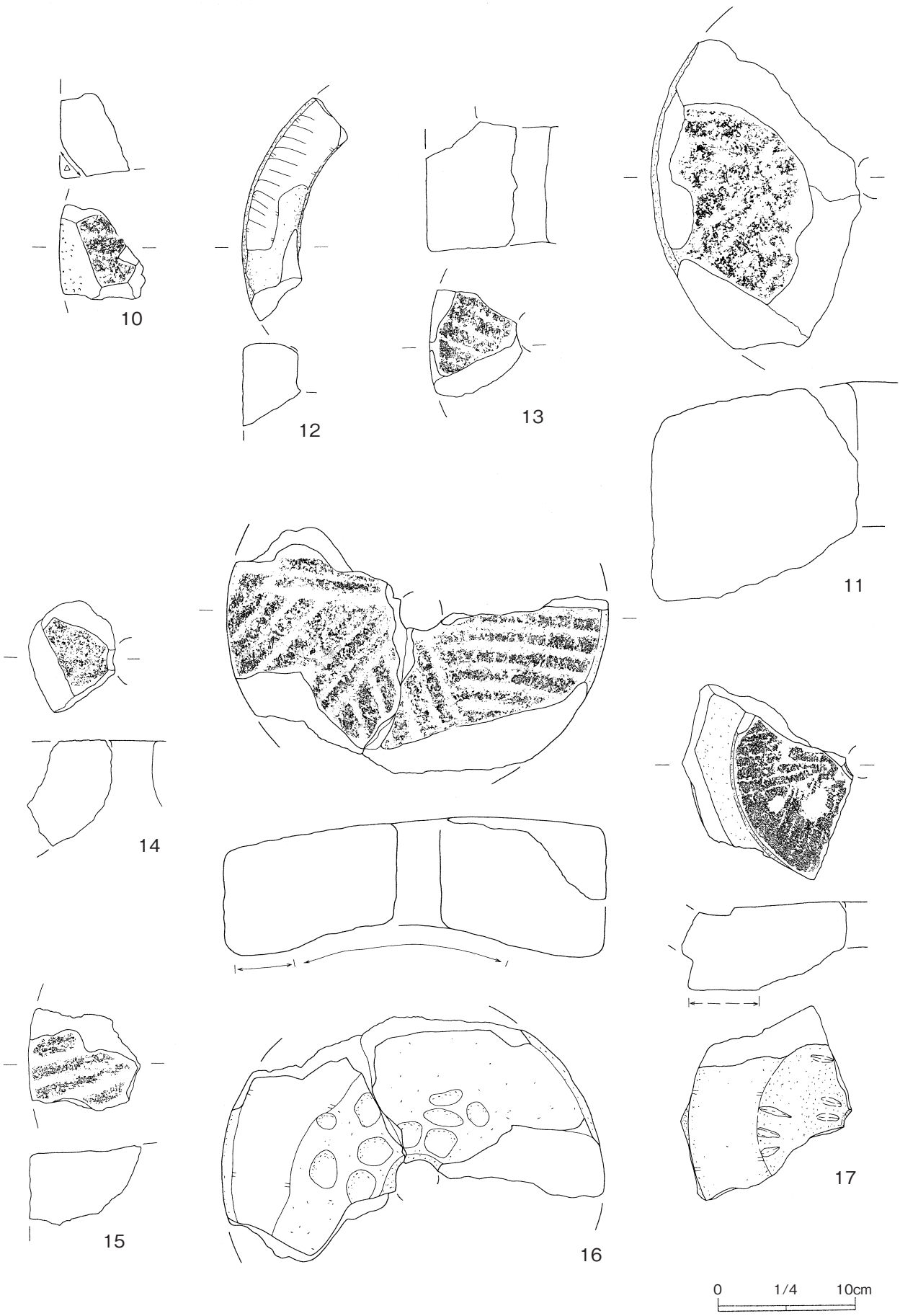
513・514は台石か。515～519は石造物か。514・519は摩耗痕が認められる。

【礎石か】（520～524）

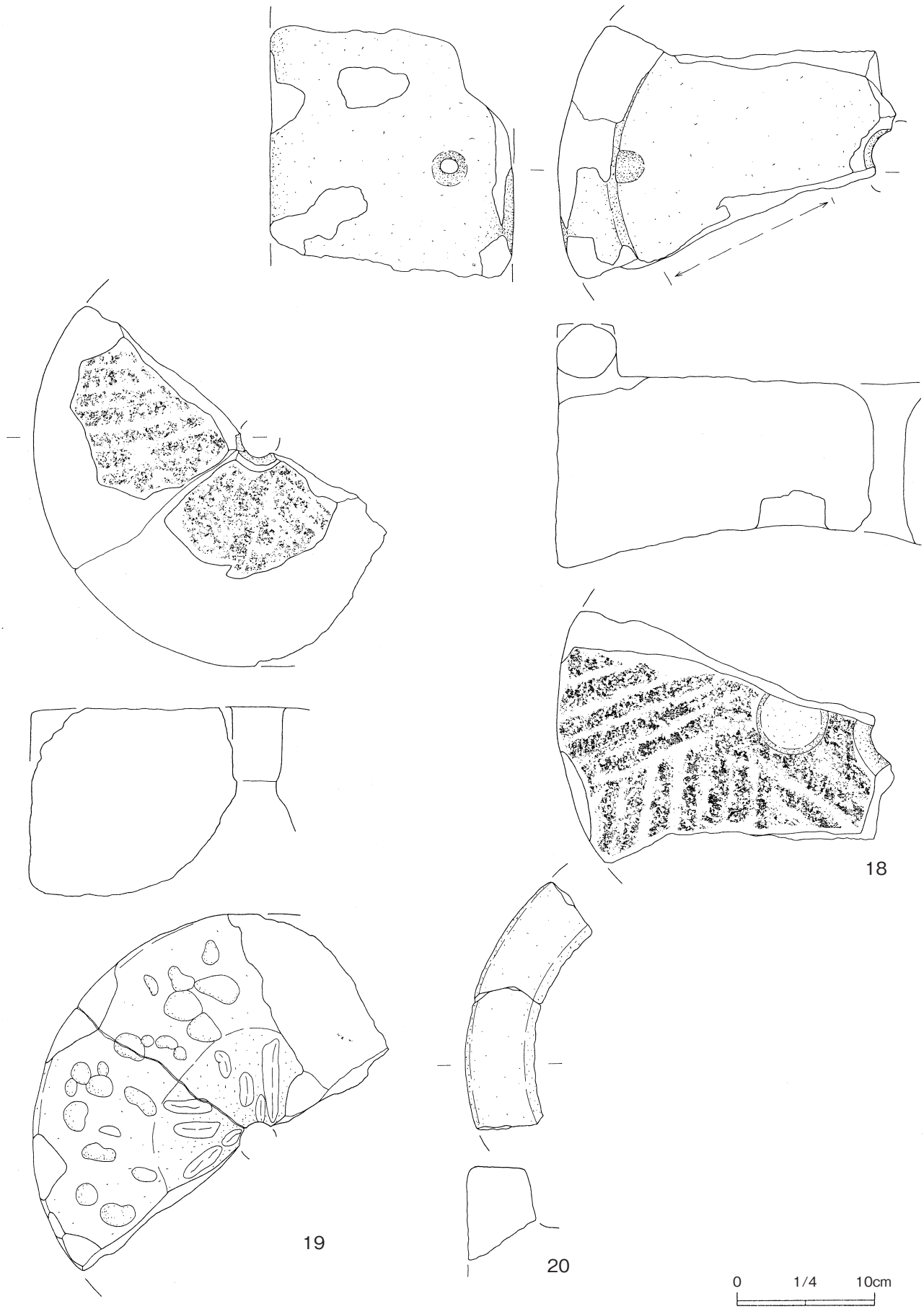
いずれも比較的大型で平坦面を有し、スス付着及び赤化・黒化している。520はススの付着状況から、左側面は土中埋設、右側面は露出、上面左に一部に設置物があったものとも思われ、上面が平坦面とする。上部及び左のススが無い範囲がほぼ矩形で、柱を据えた礎石が想定される。521～523も礎石に類するものか。



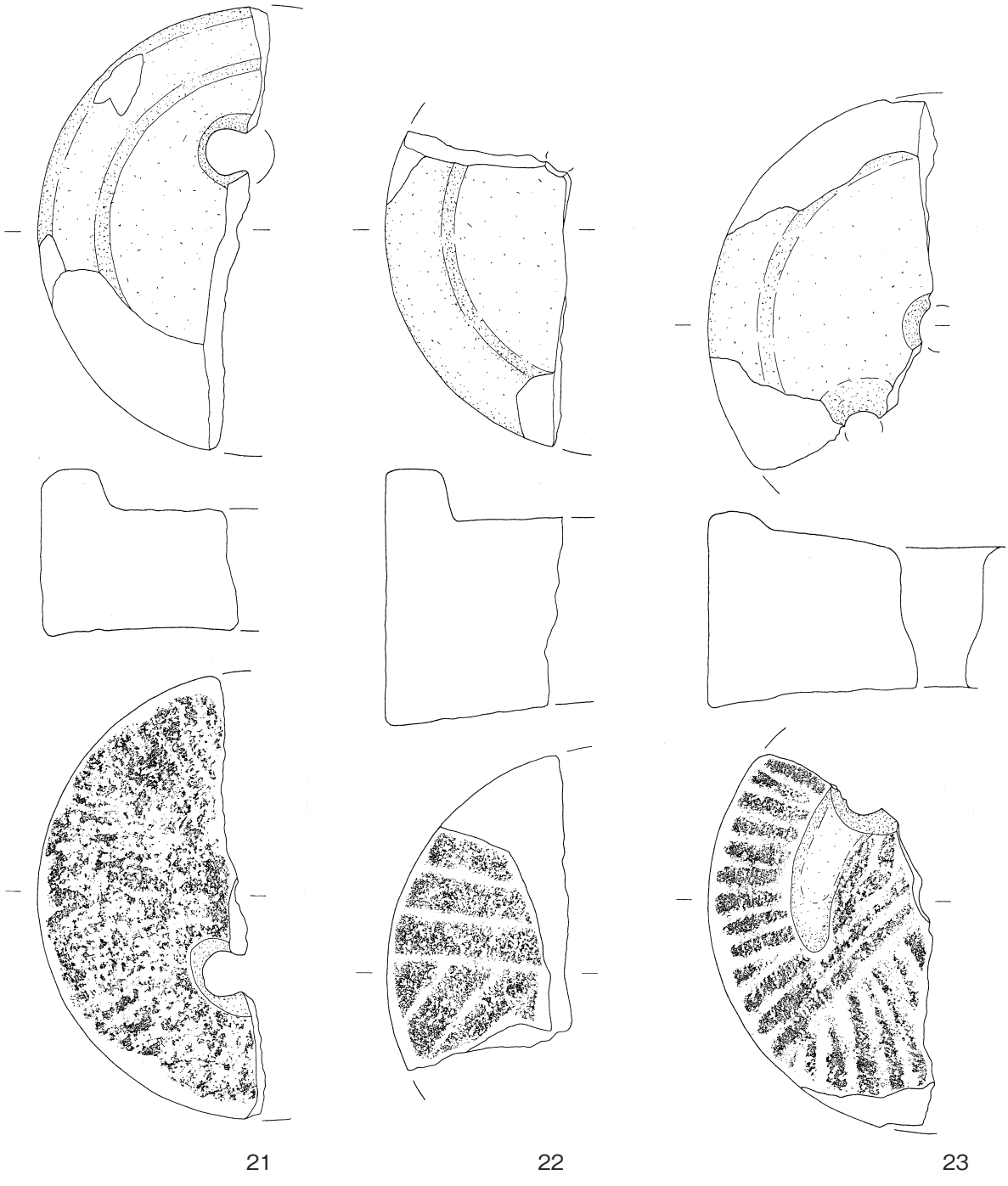
第１図　石製品類１（石臼１）



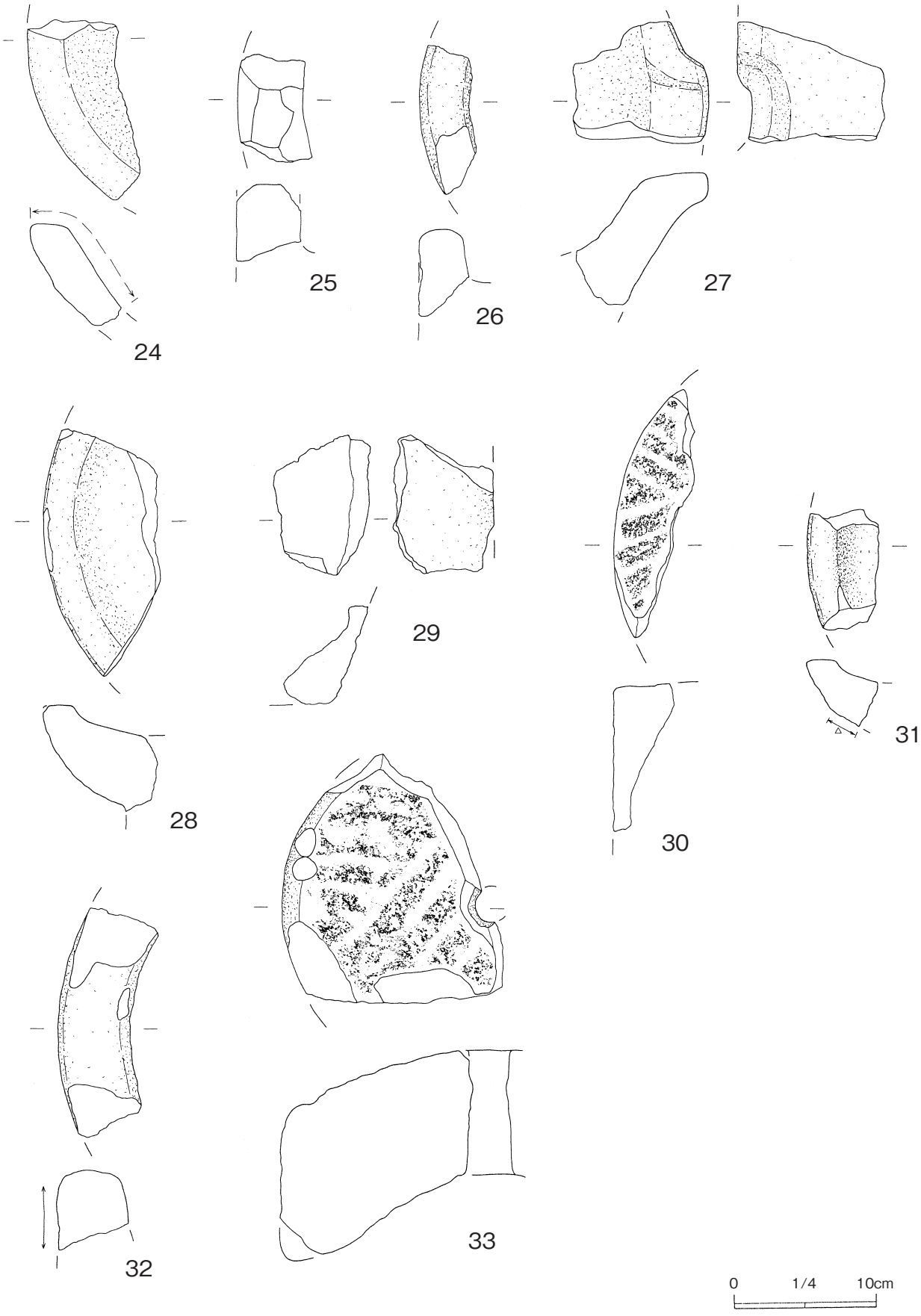
第２図　石製品類２（石臼２）



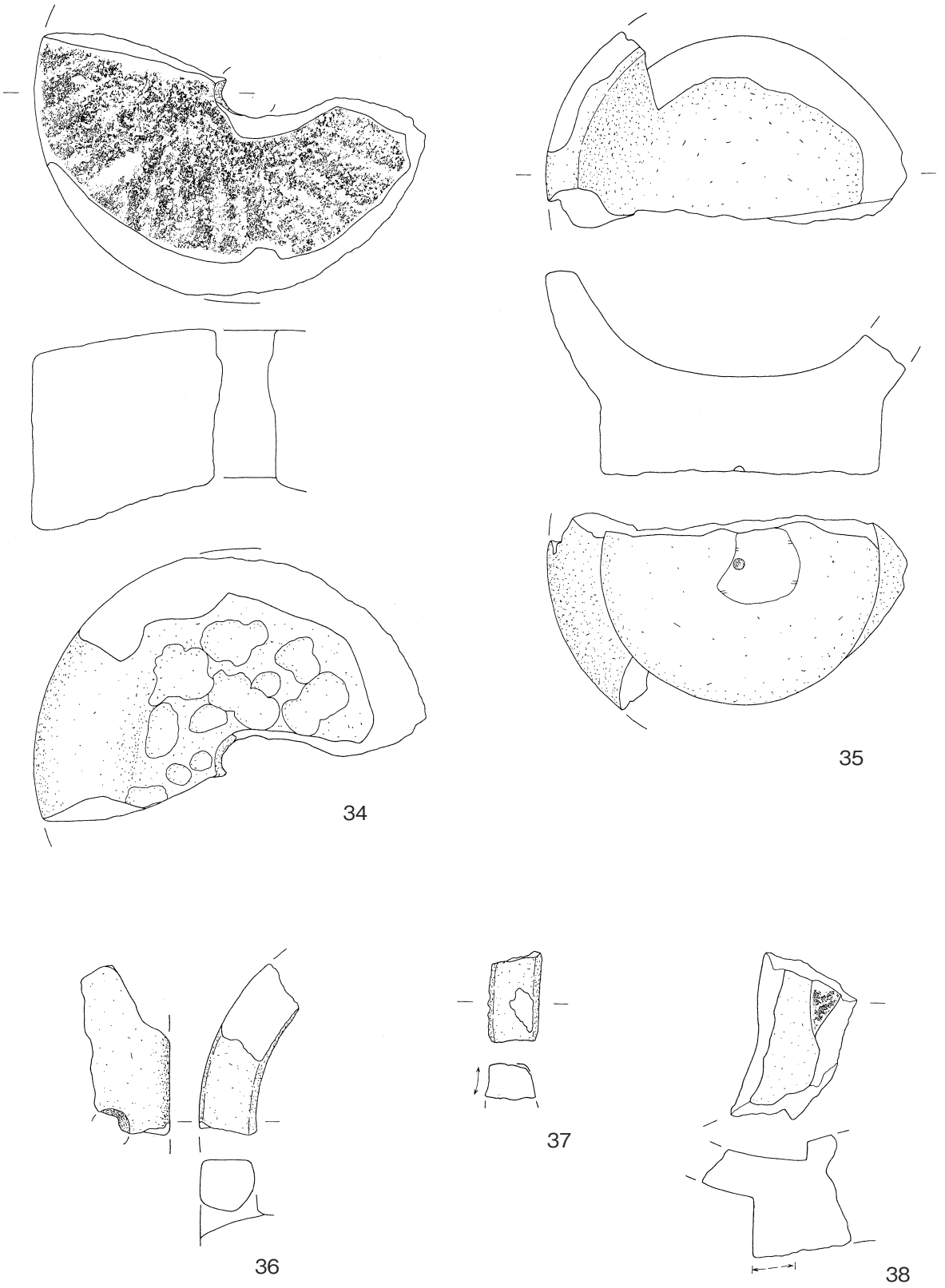
第3図　石製品類3（石臼3）



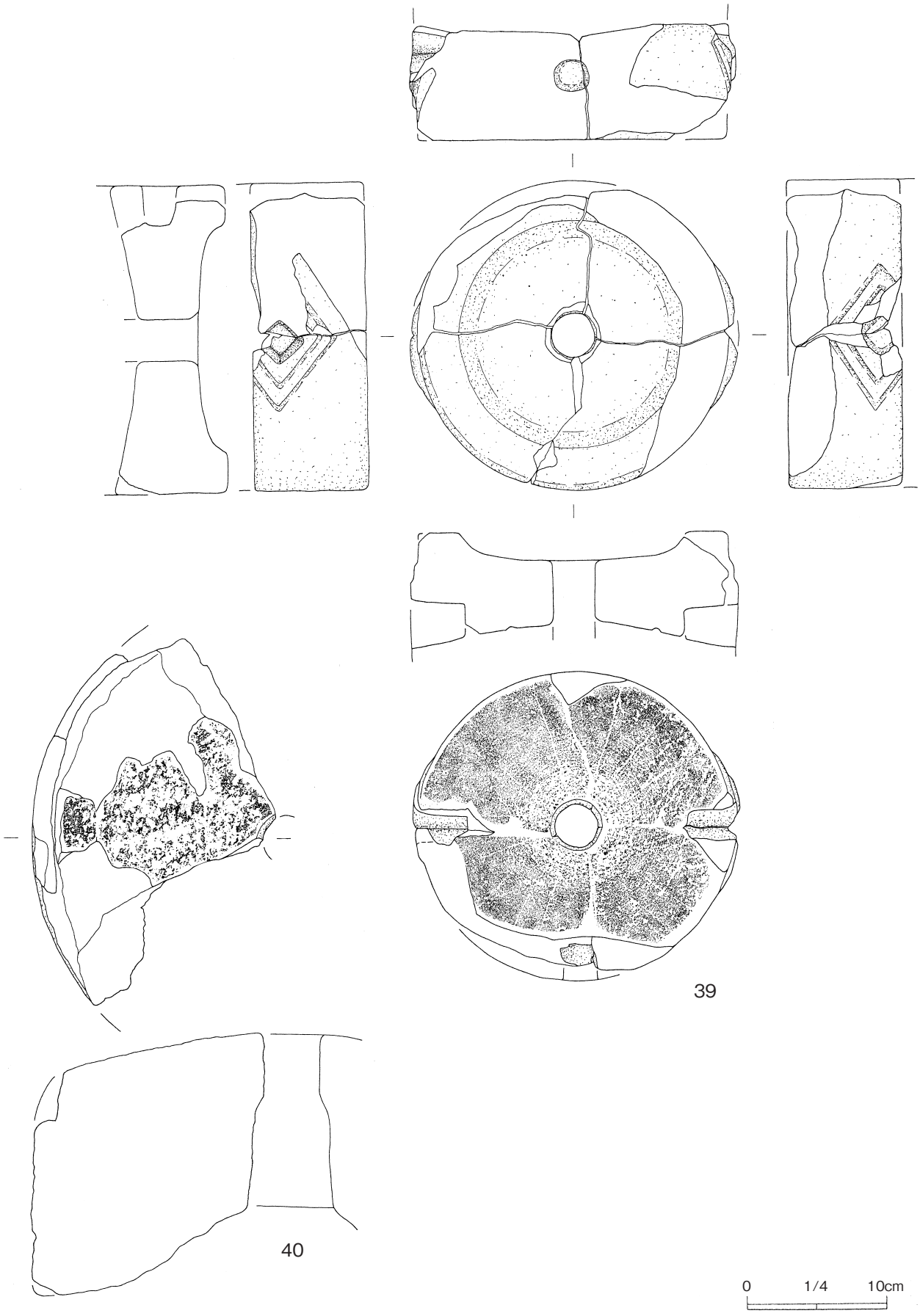
第４図　石製品類４（石臼４）



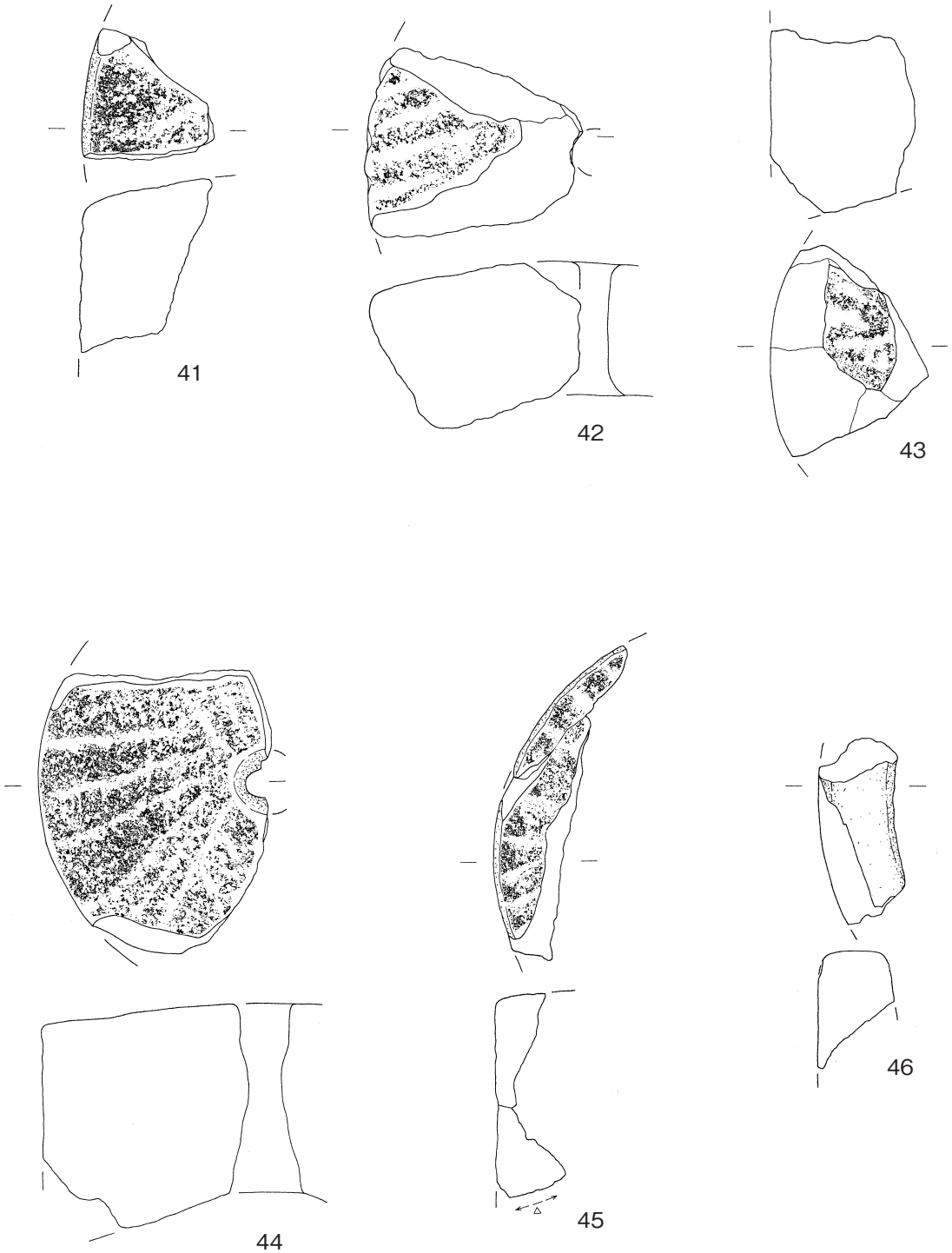
第5図　石製品類5（石臼5）



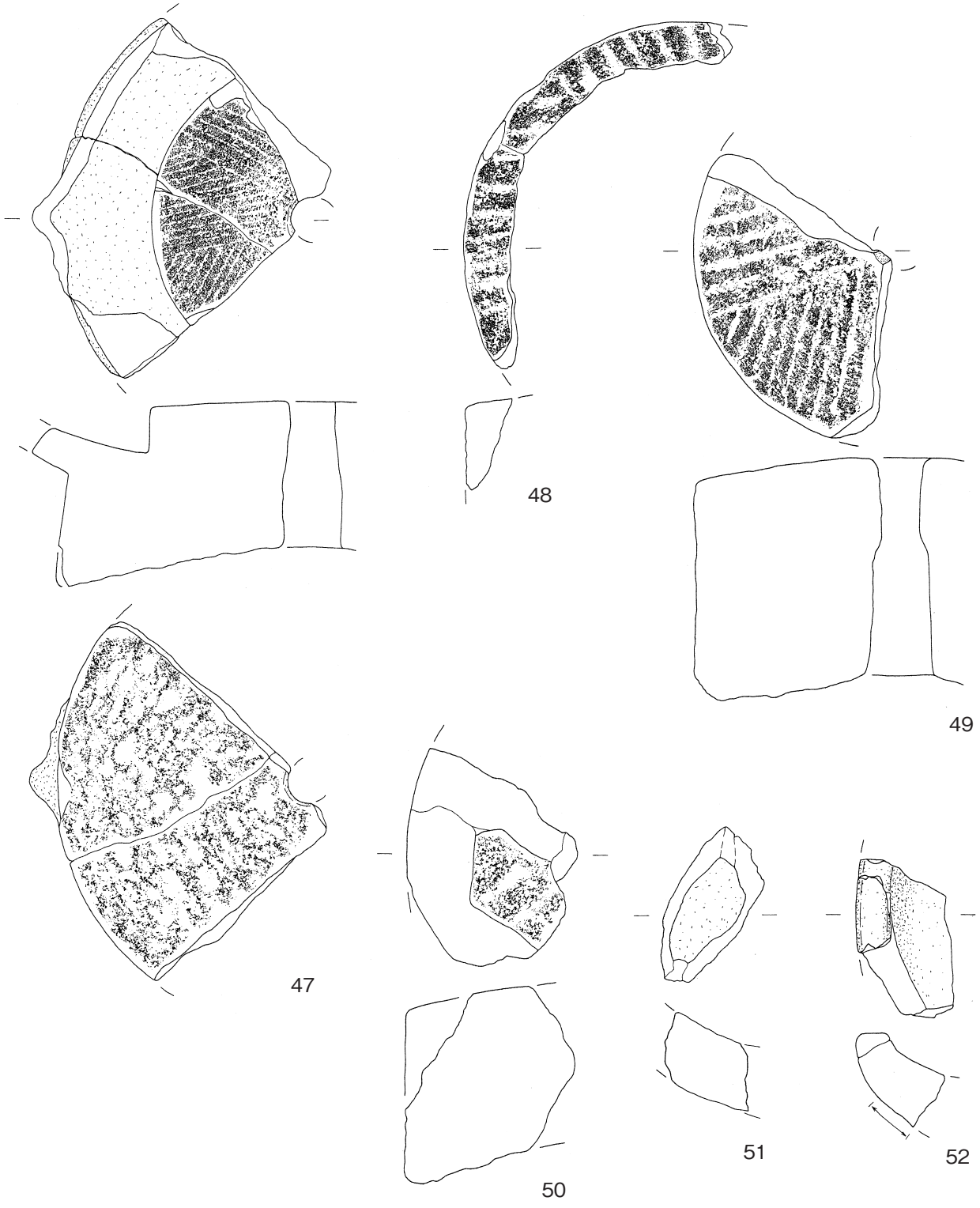
第６図　石製品類６（石臼６）



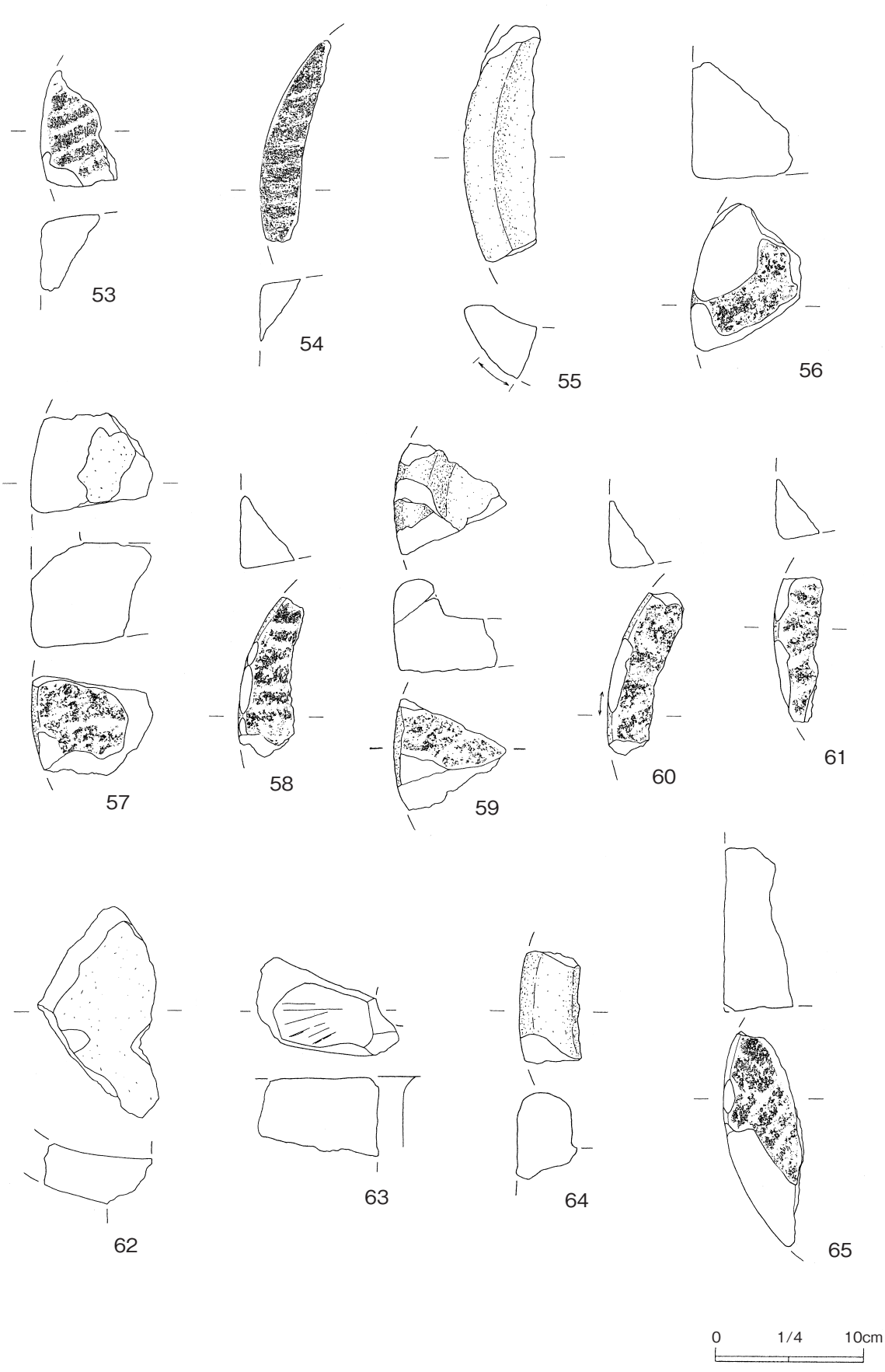
第７図　石製品類７（石臼７）



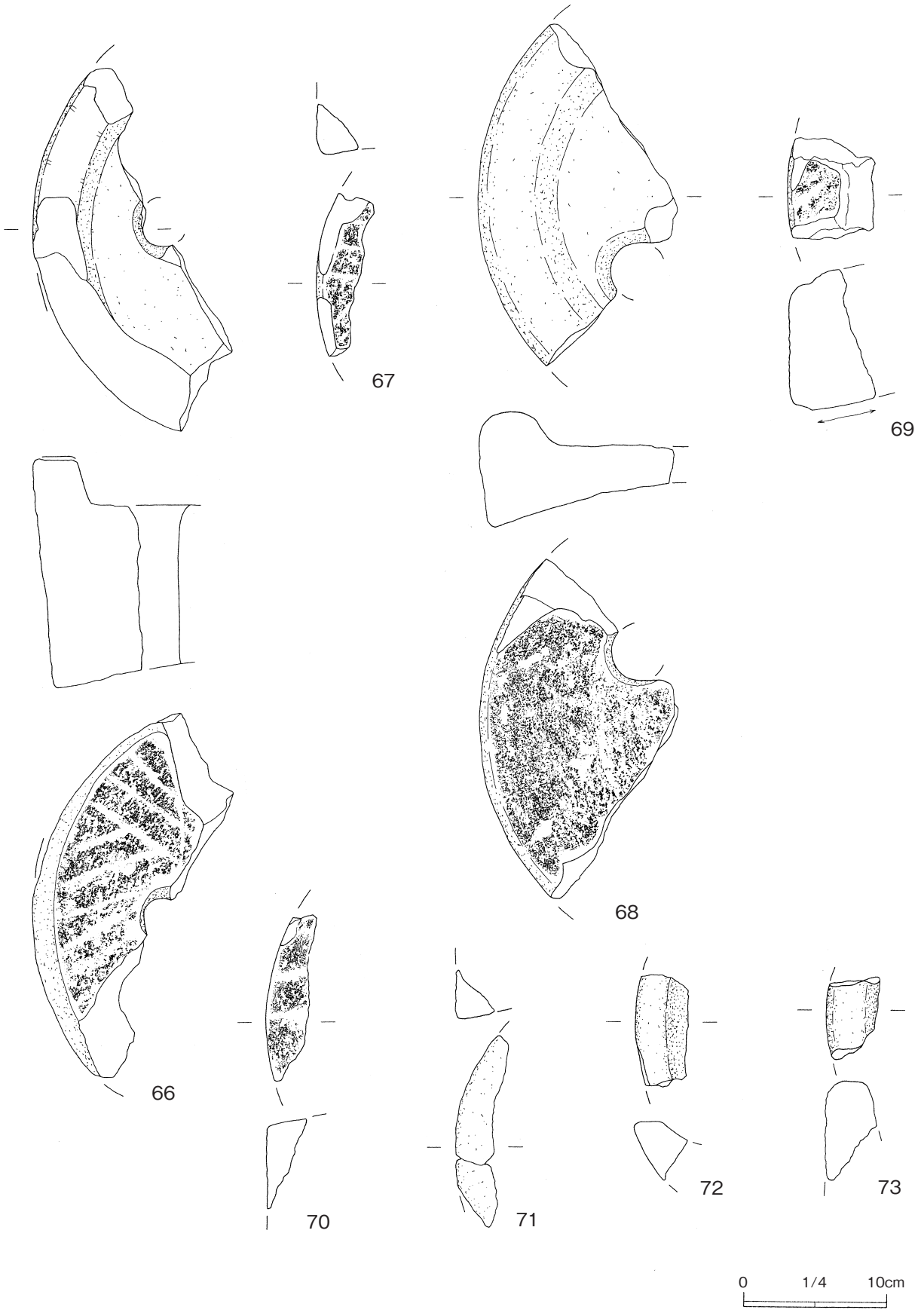
第８図　石製品類８（石臼８）



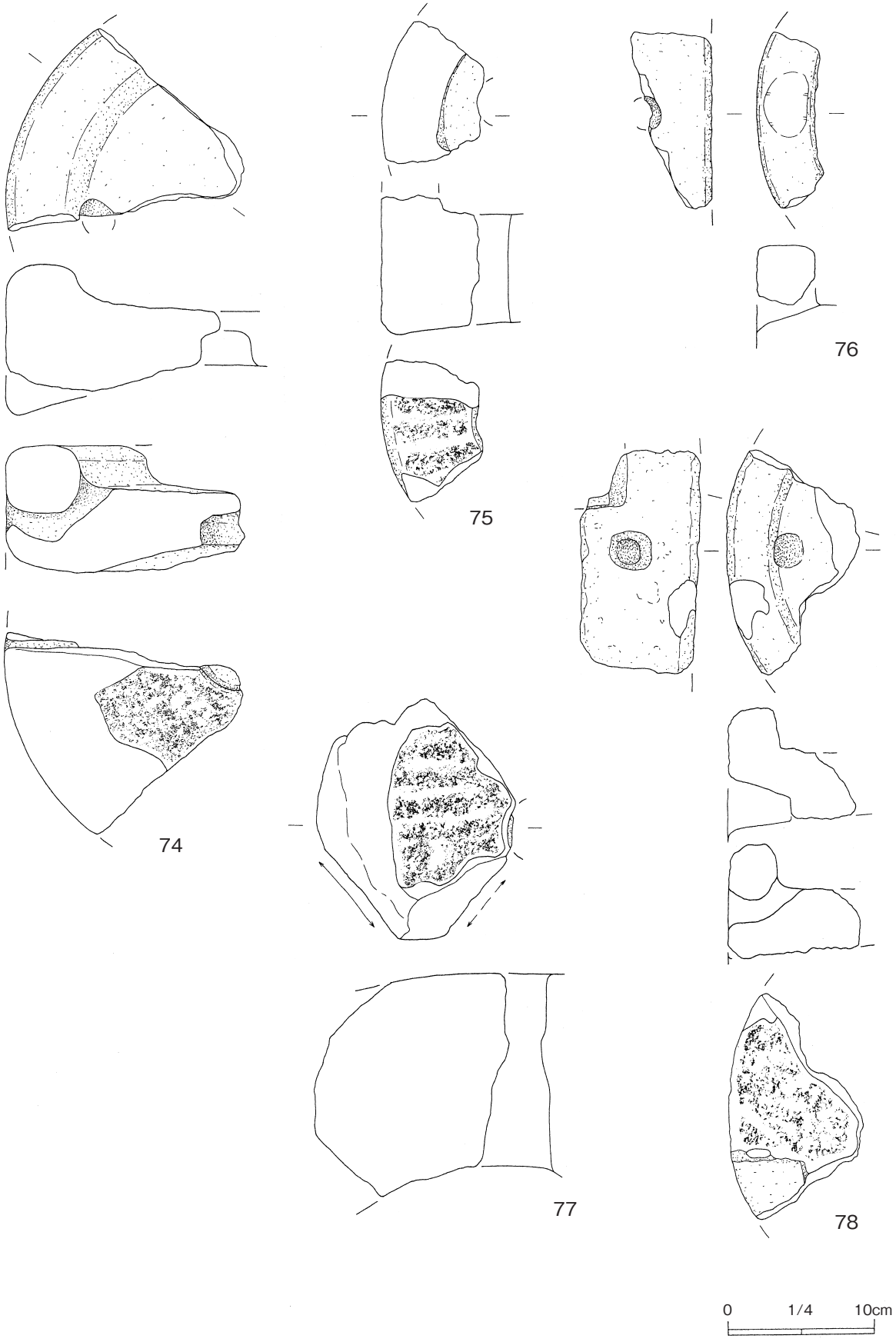
第9図　石製品類9（石臼9）



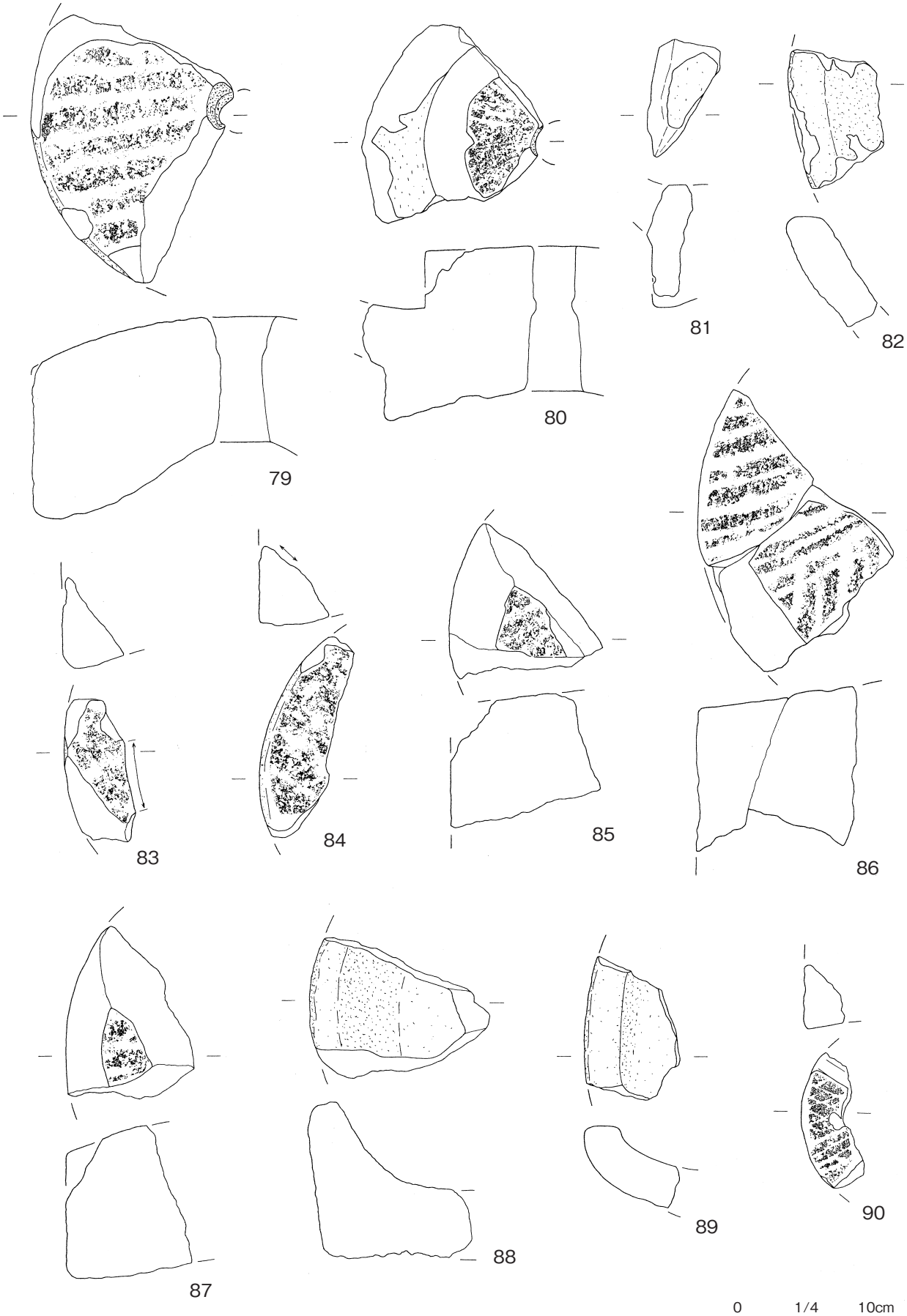
第10図　石製品類10（石臼10）



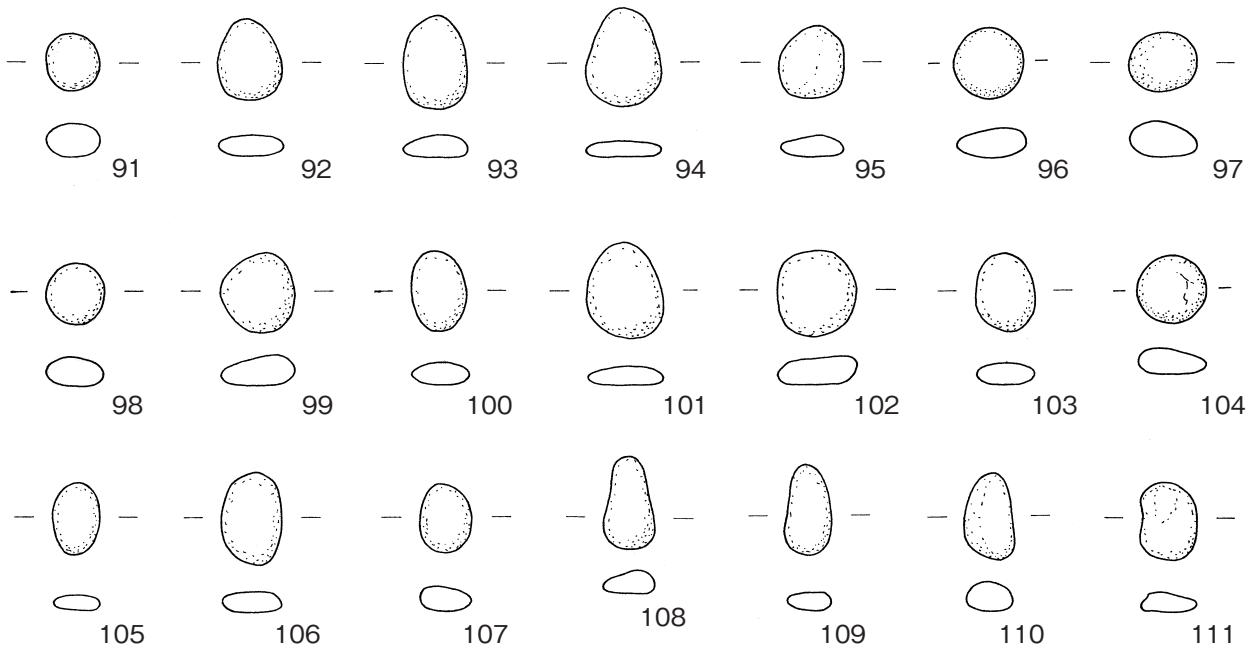
第11図　石製品類11（石臼11）



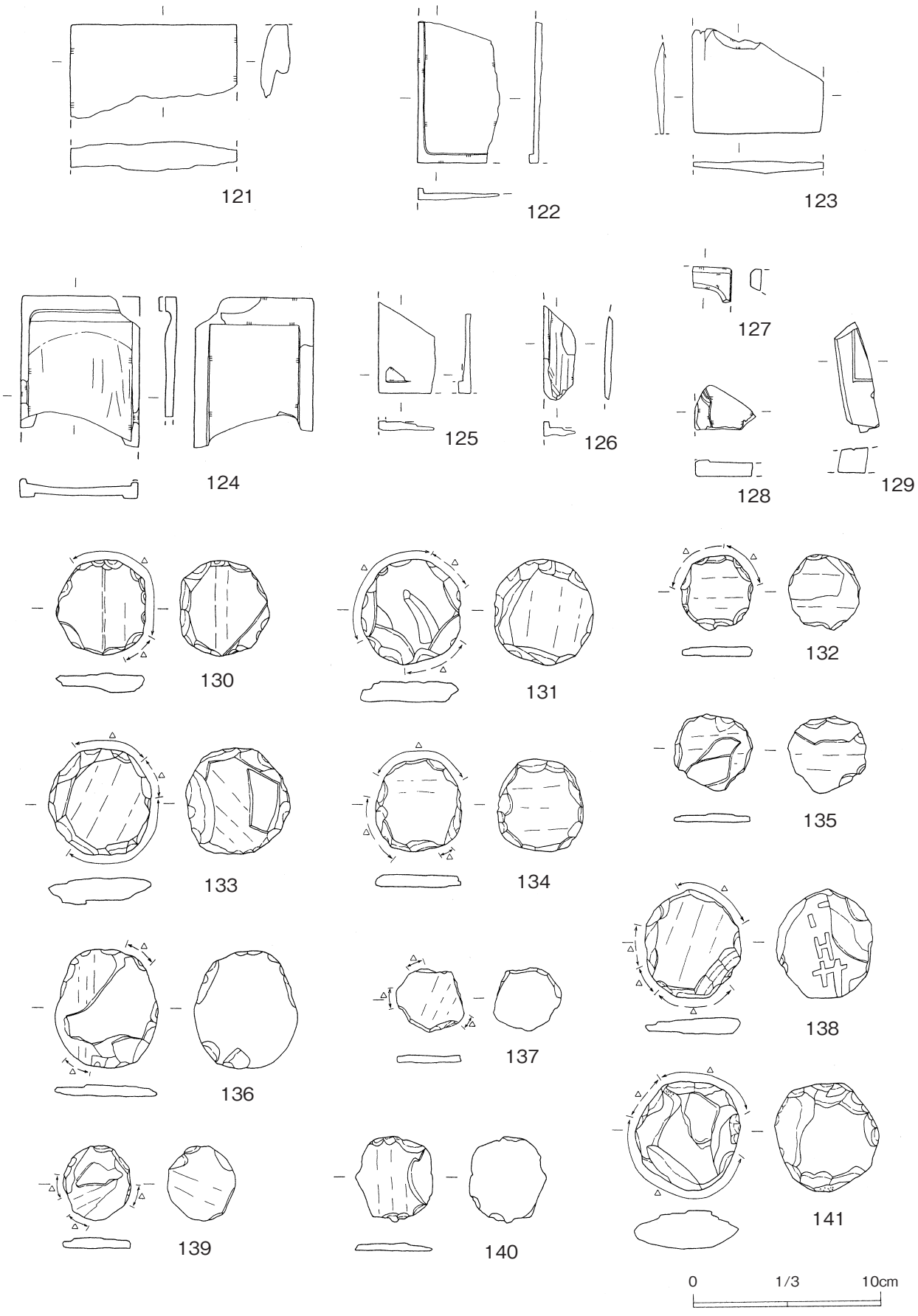
第12図　石製品類12（石臼12）



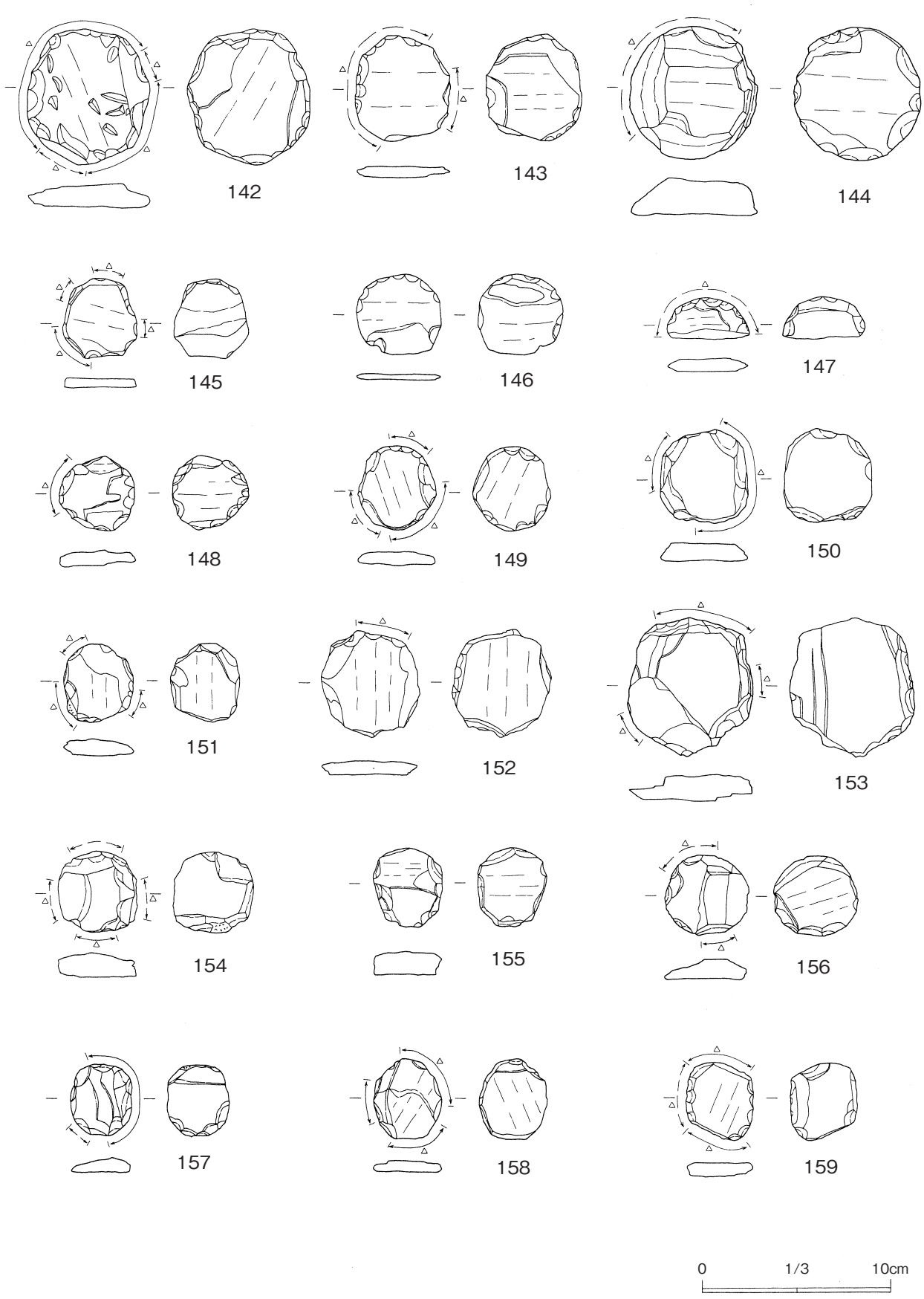
第13図　石製品類13（石臼13）



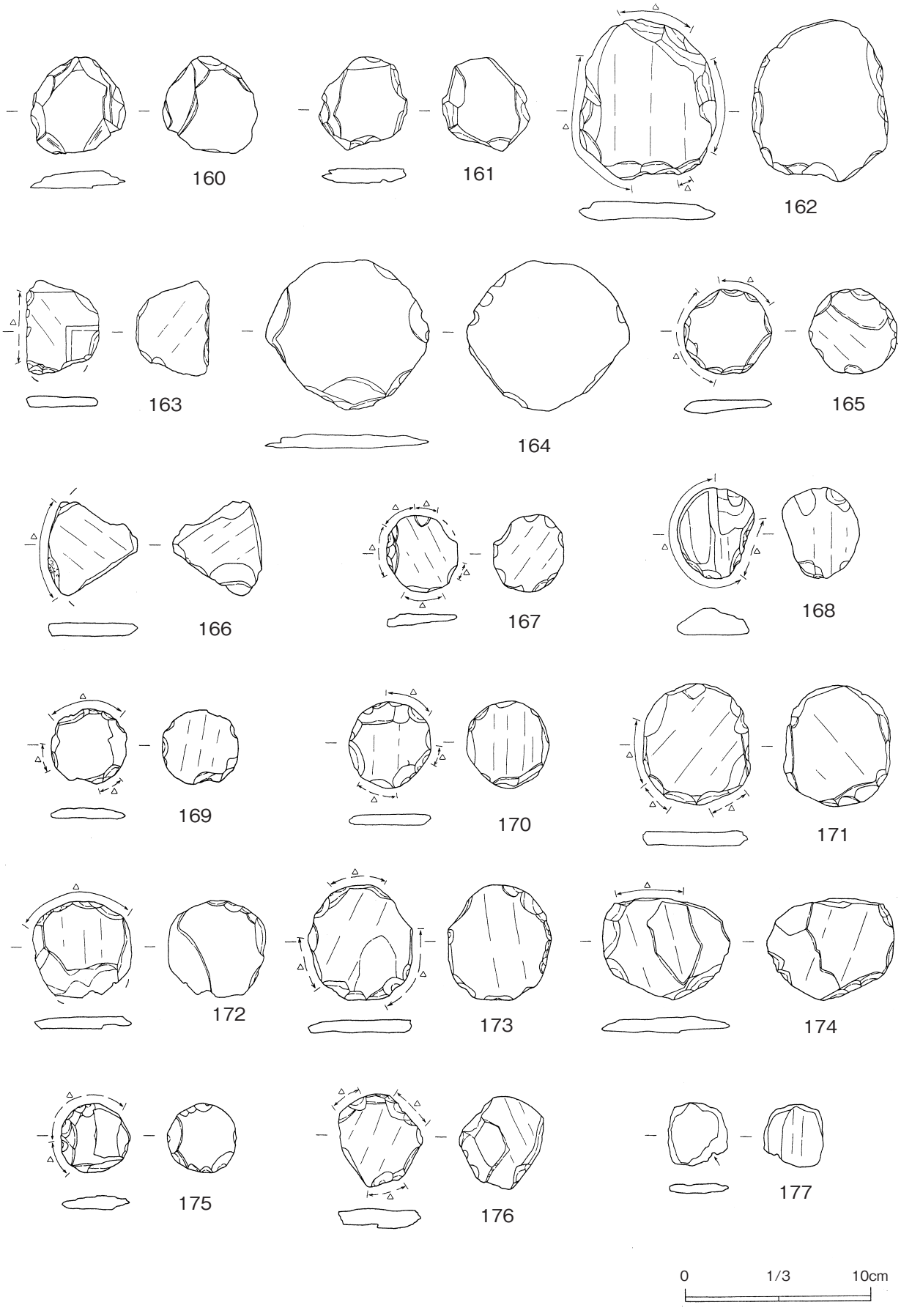
第14図　石製品類14（碁石・駒石・硯１）



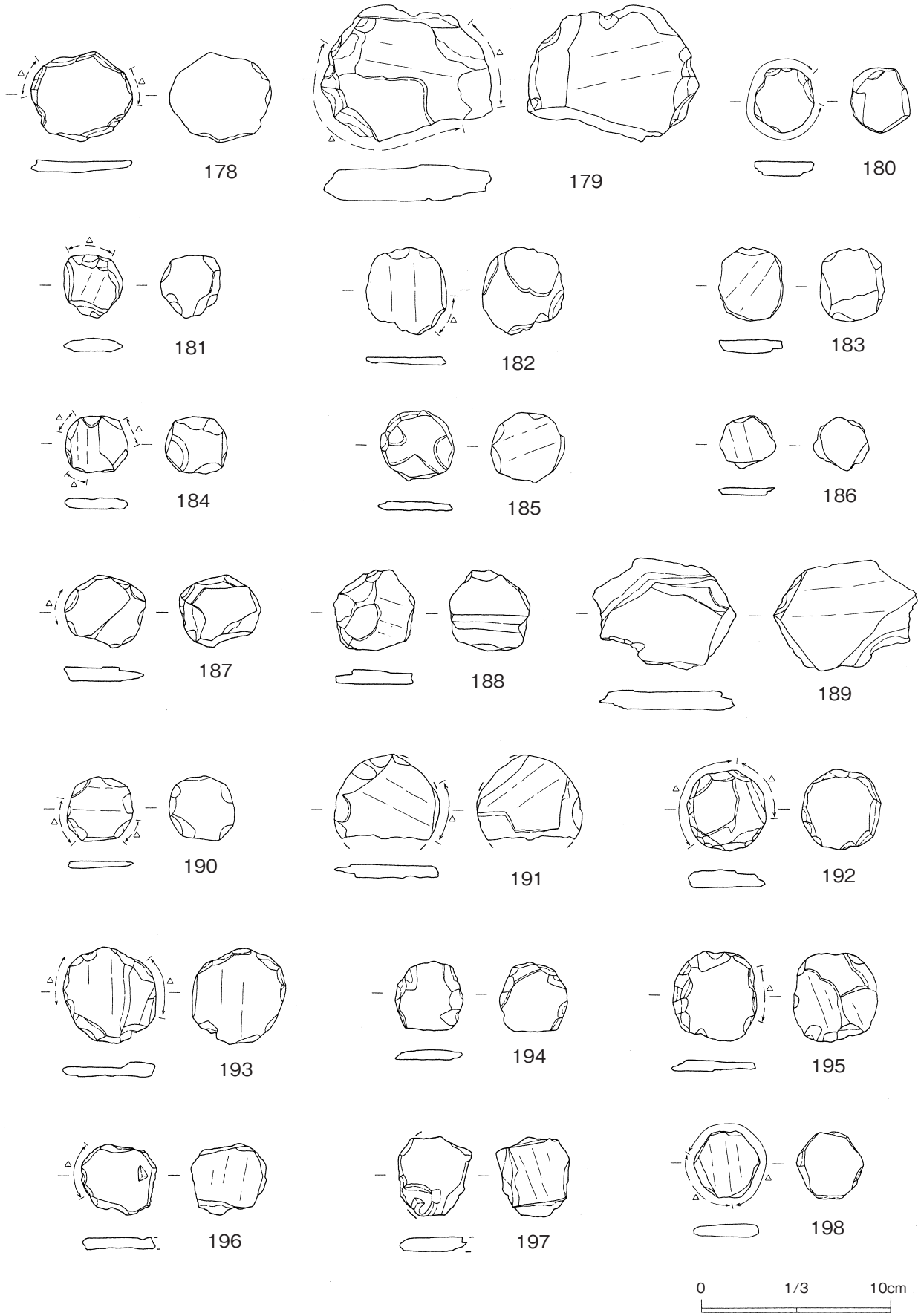
第15図　石製品類15（硯２・石製円盤１）



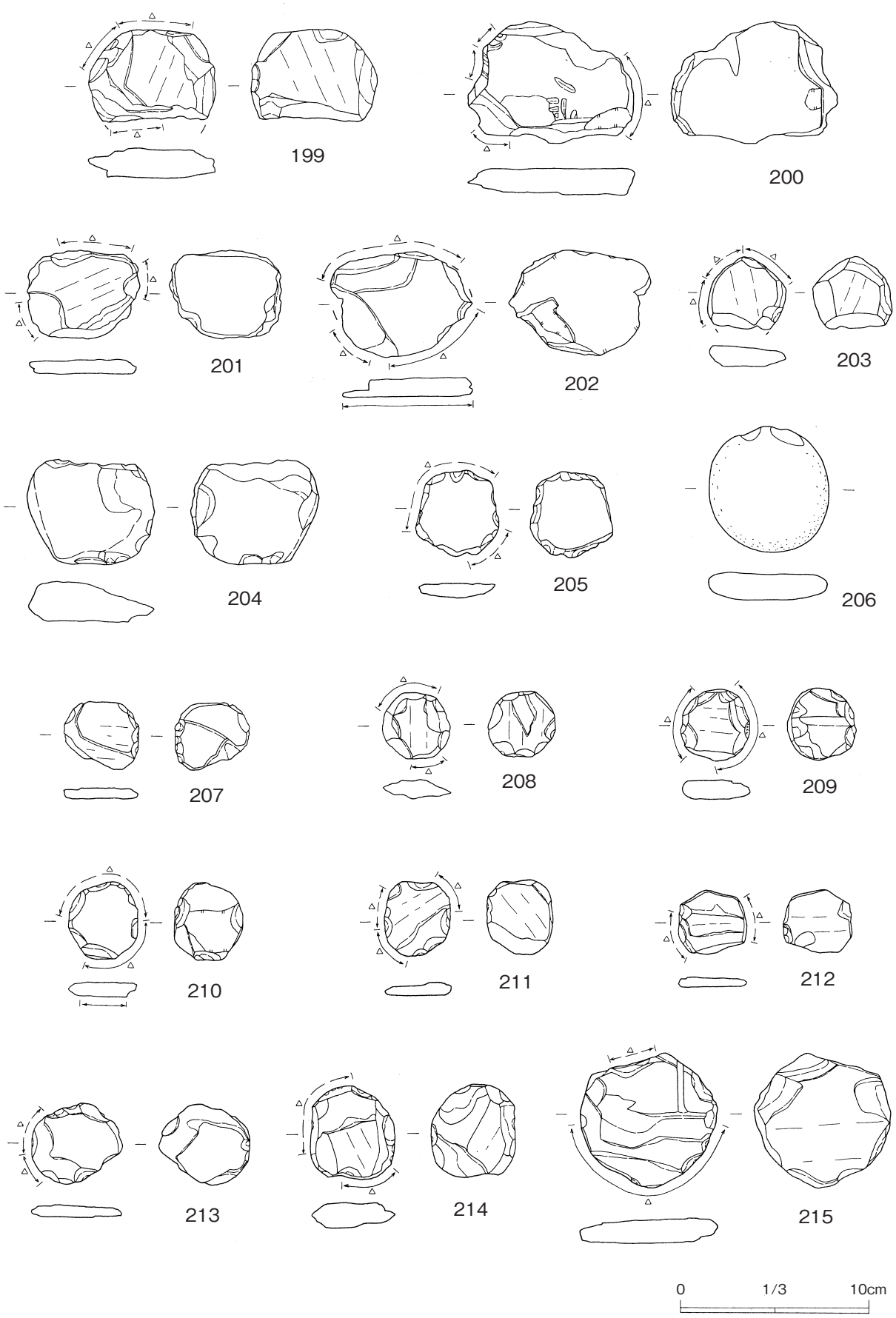
第16図　石製品類16（石製円盤２）



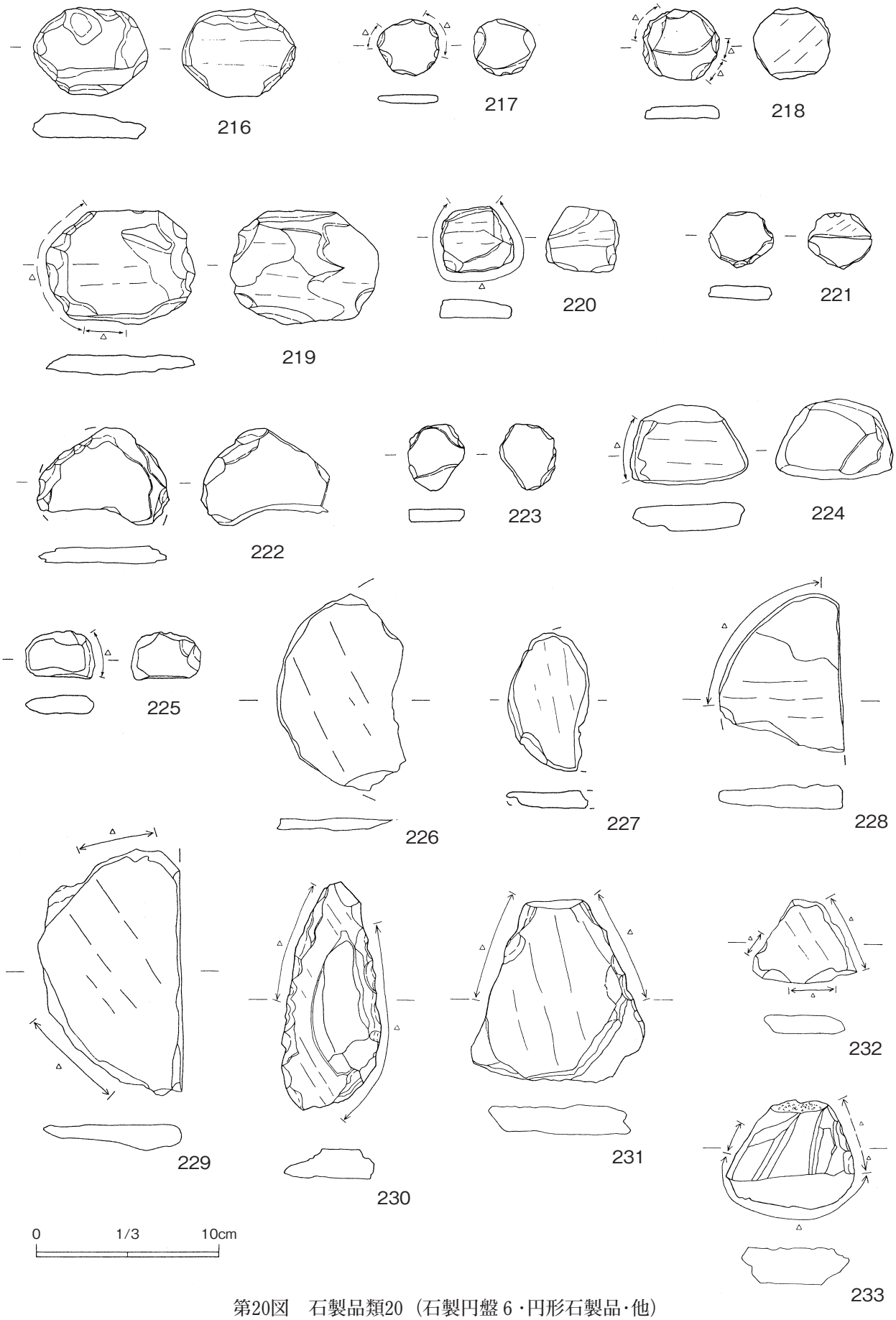
第17図　石製品類17（石製円盤３）



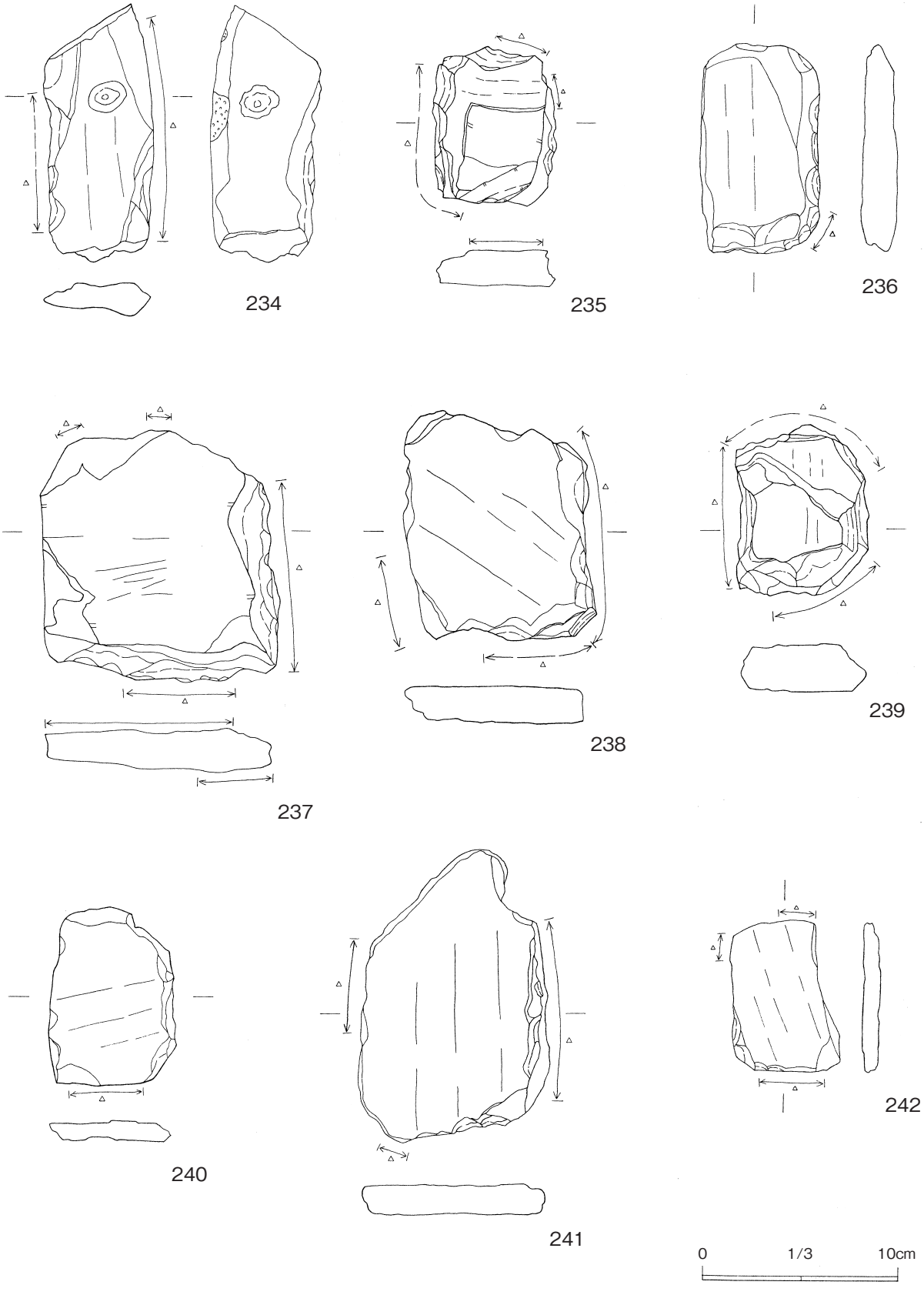
第18図　石製品類18（石製円盤４）



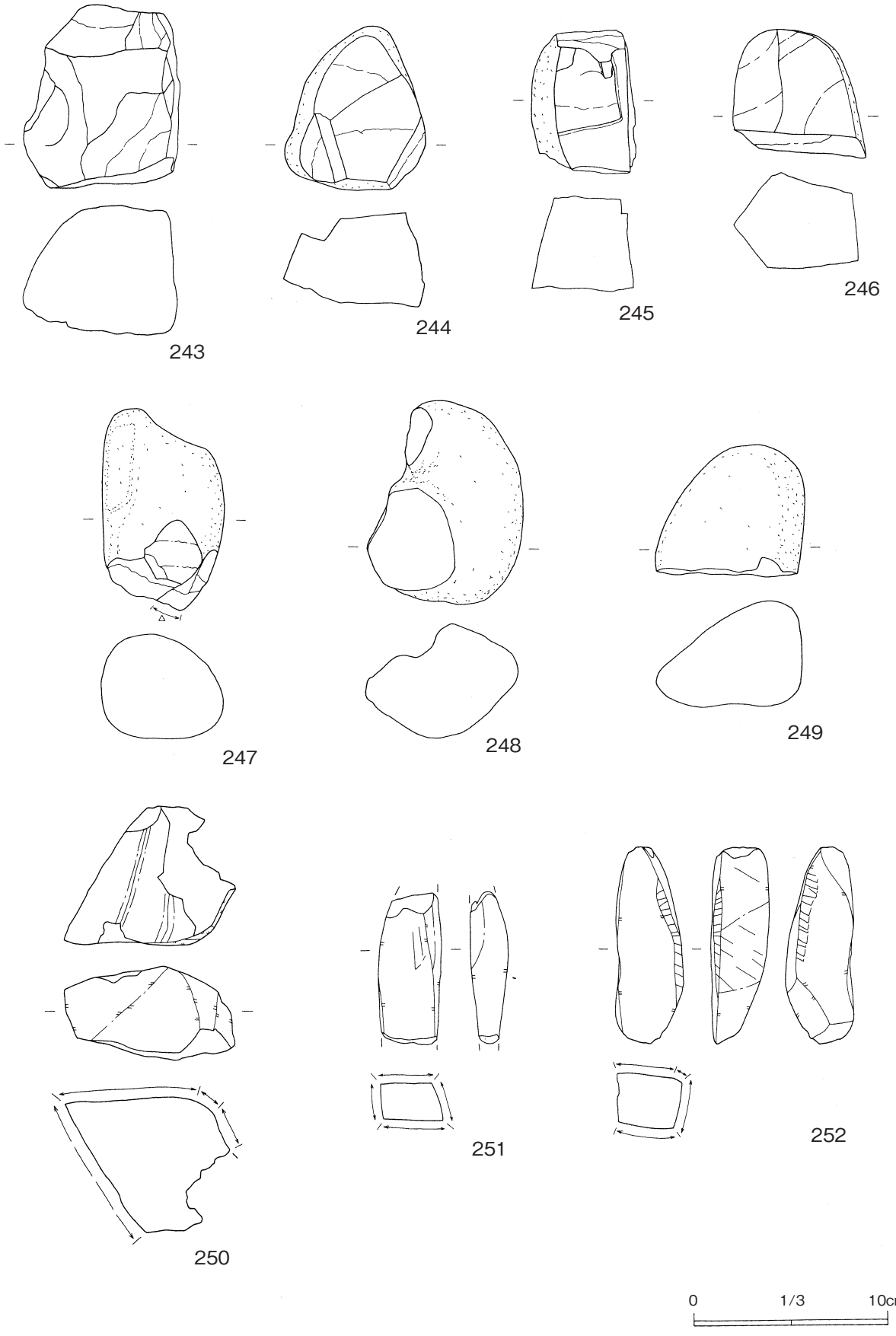
第19図　石製品類19（石製円盤５）



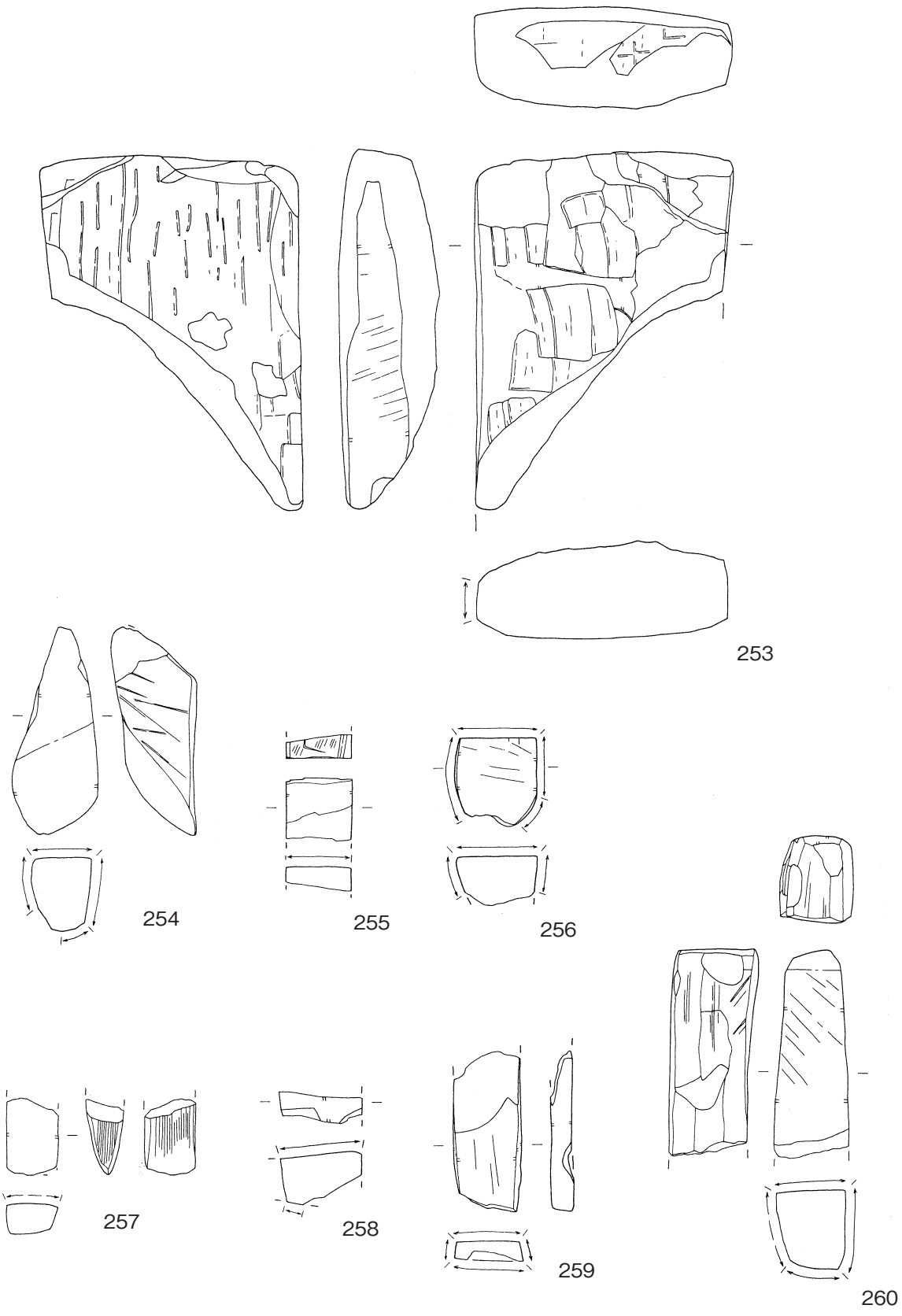
第20図　石製品類20（石製円盤６・円形石製品・他）



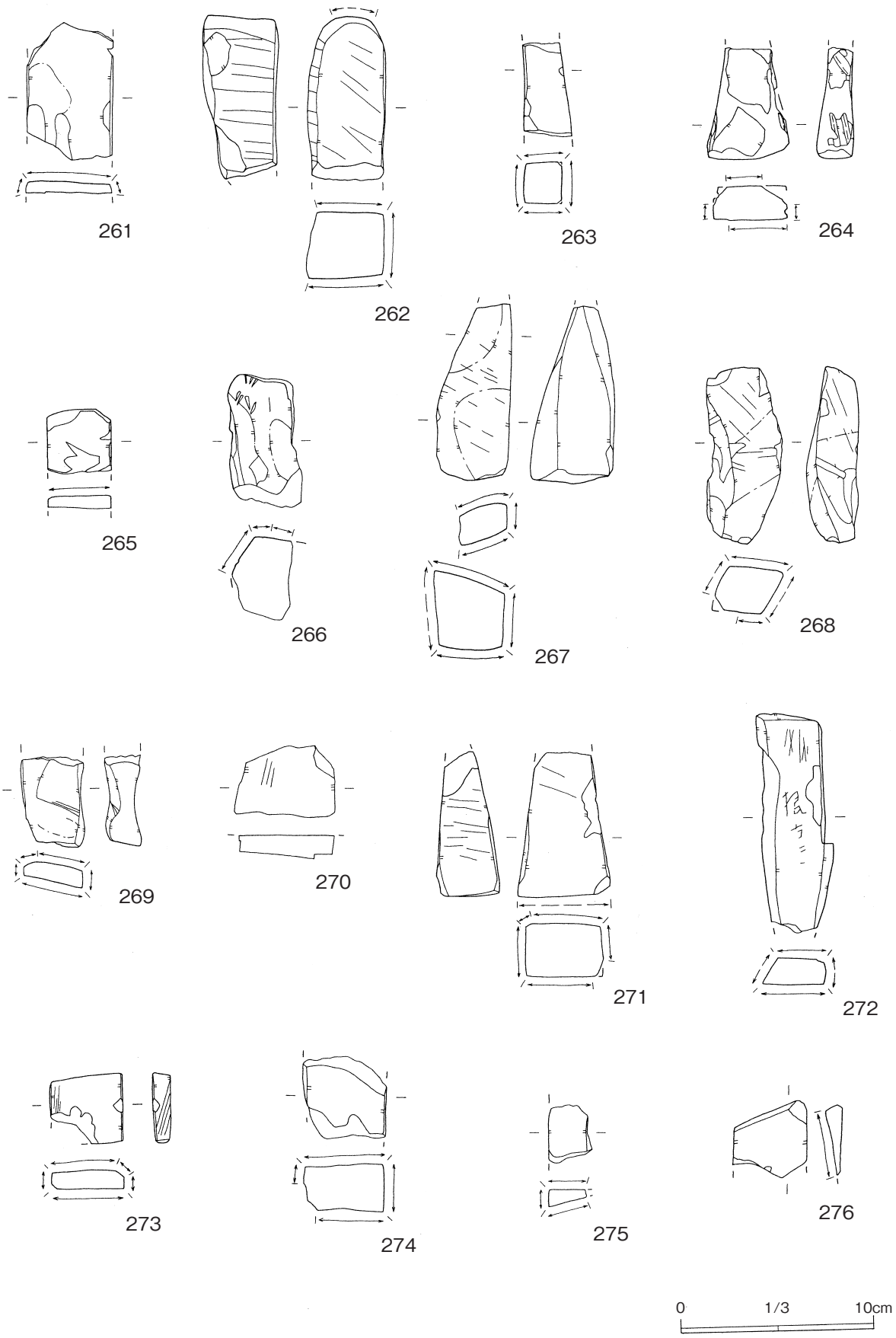
第21図　石製品類21（方形石製品）



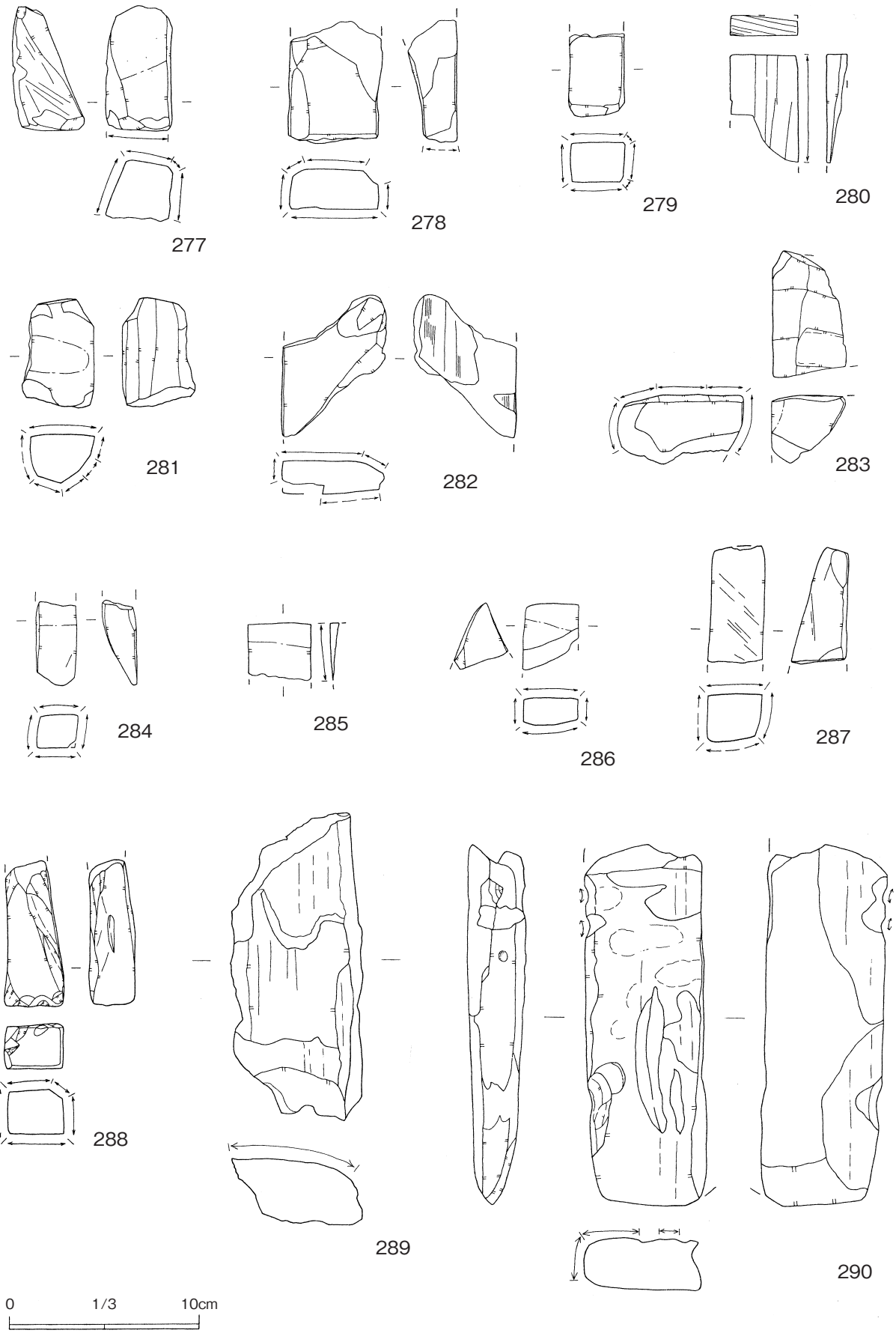
第22図　石製品類22（成形礫・打割礫・砥石１）



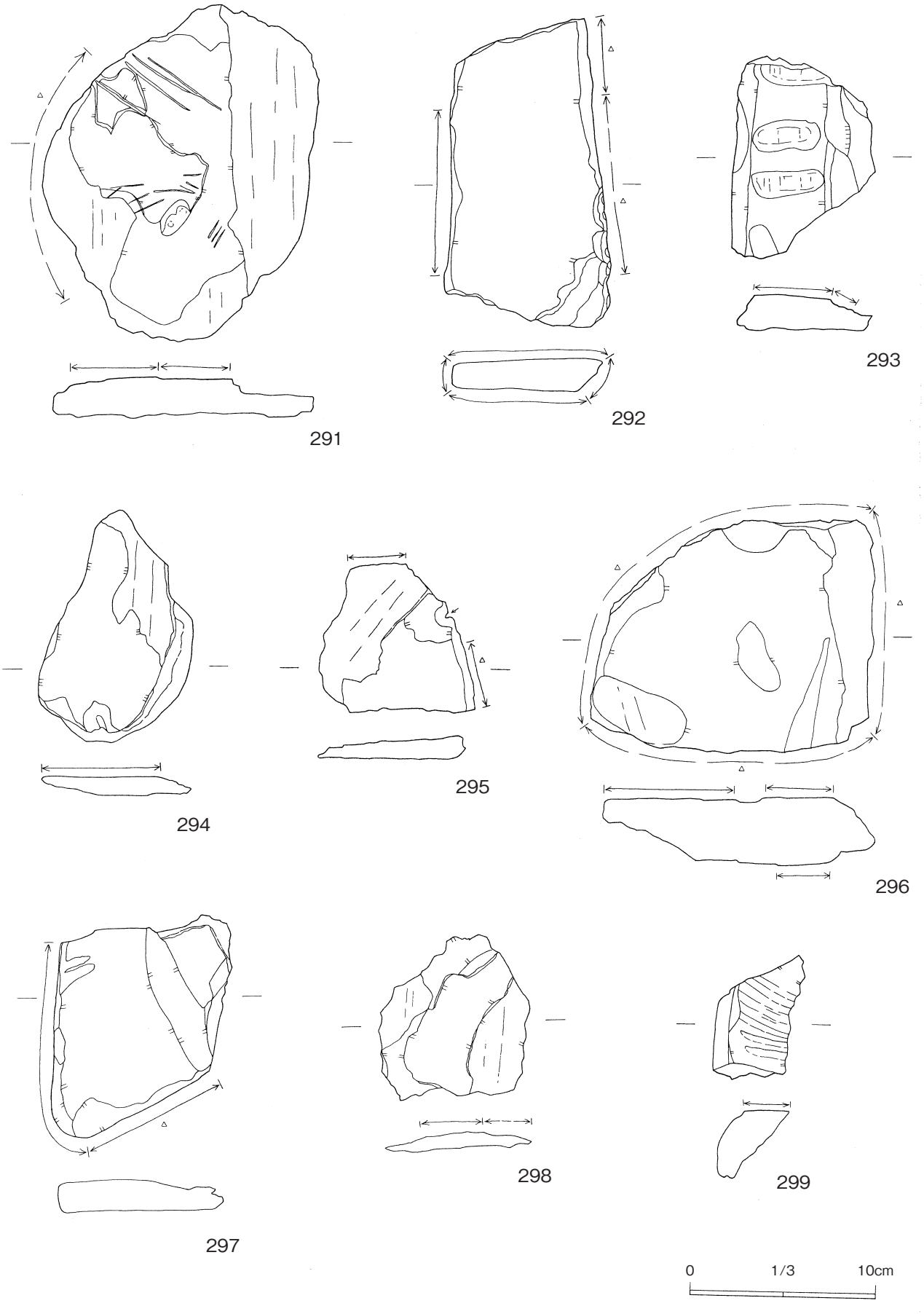
第23図　石製品類23（砥石２）



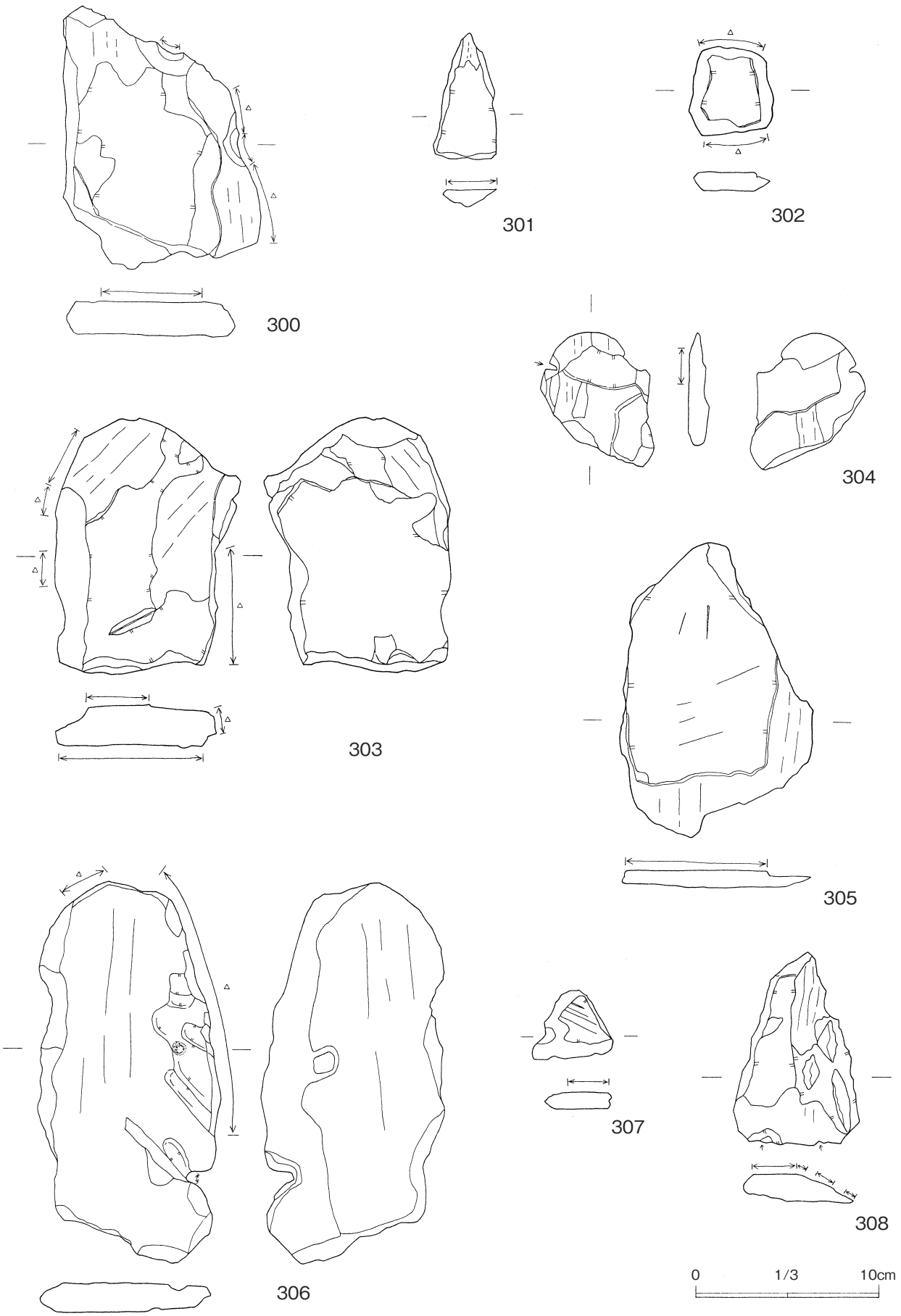
第24図　石製品類24（砥石３）



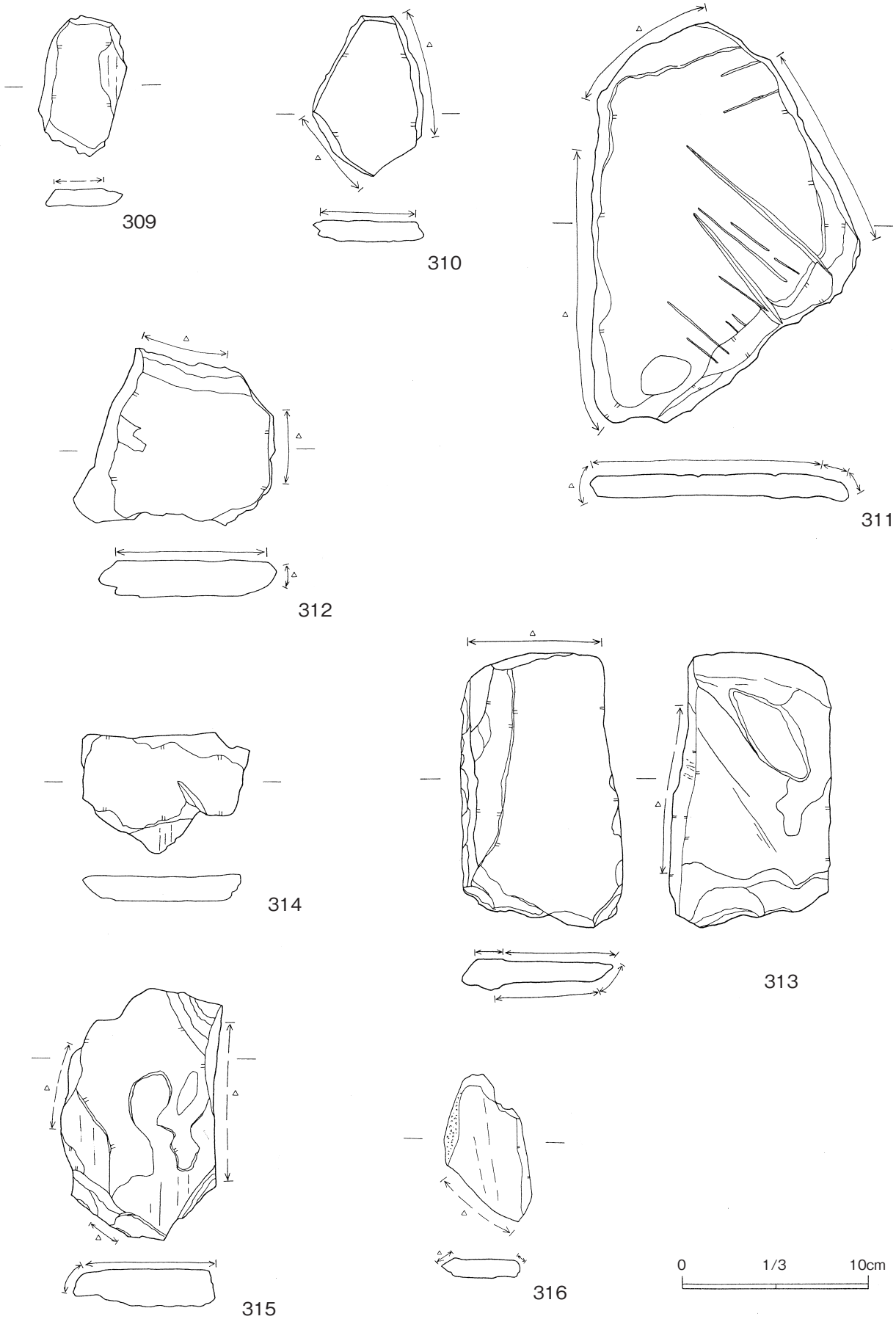
第25図　石製品類25（砥石４）



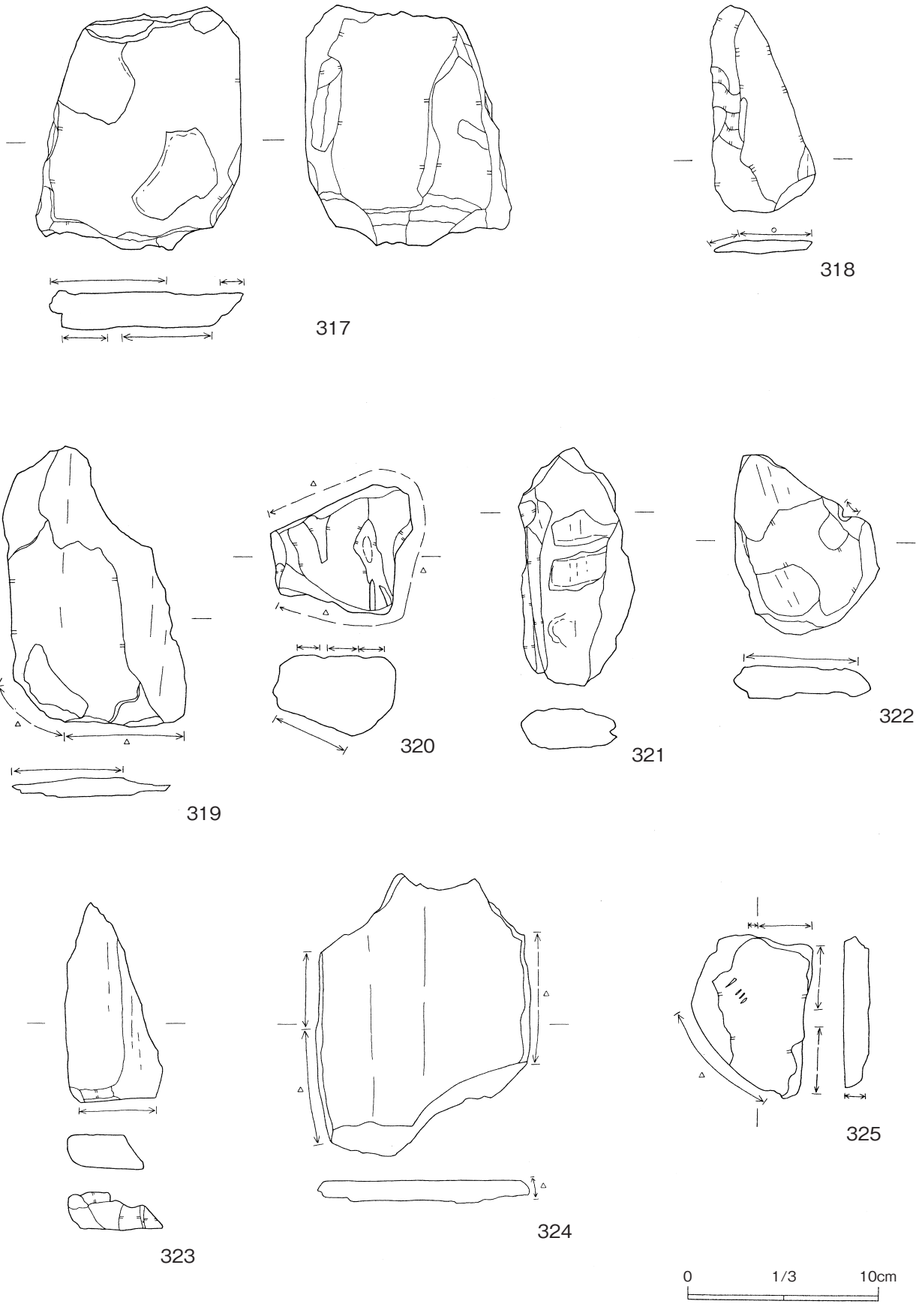
第26図　石製品類26（砥石５）



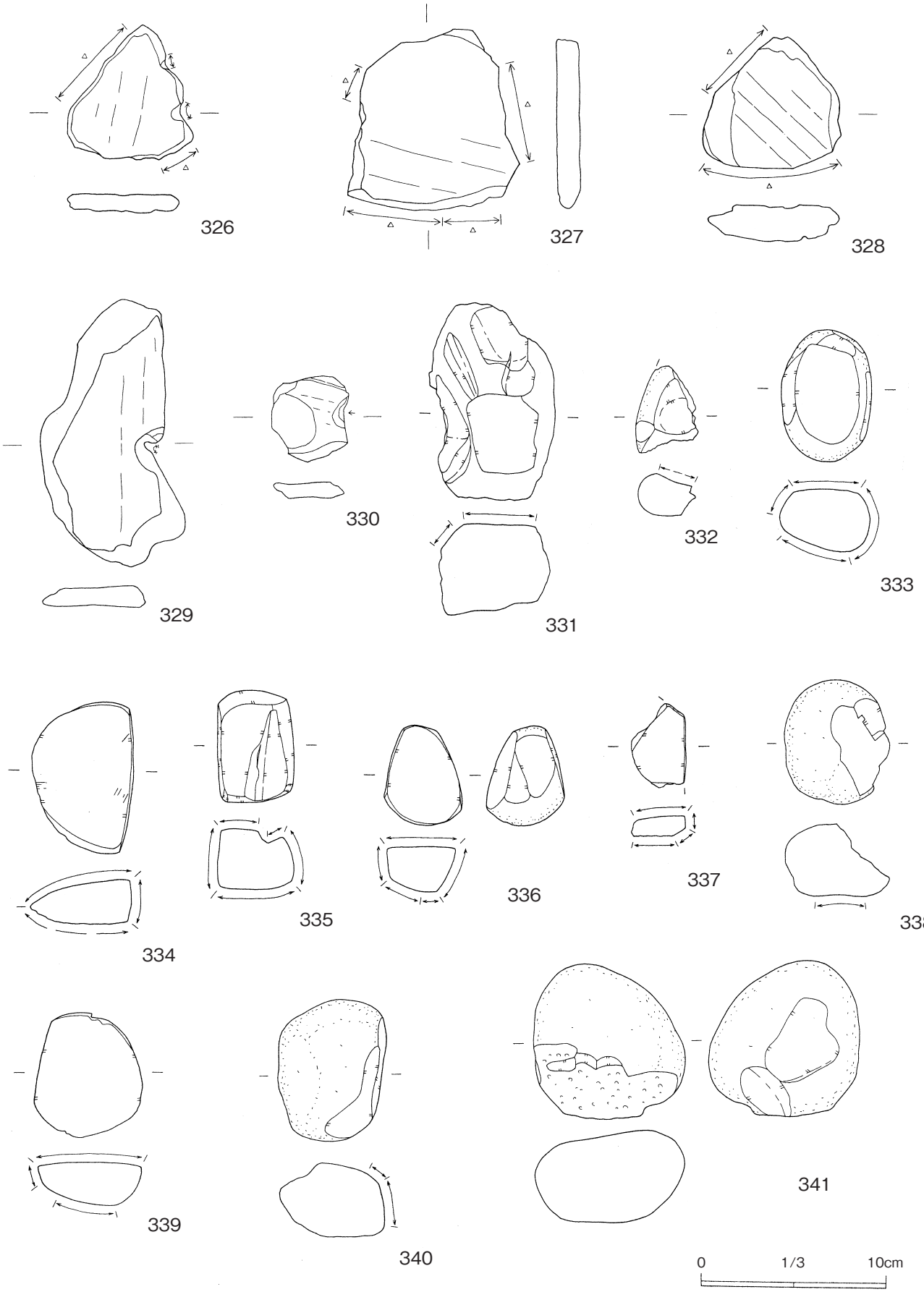
第27図　石製品類27（砥石６）



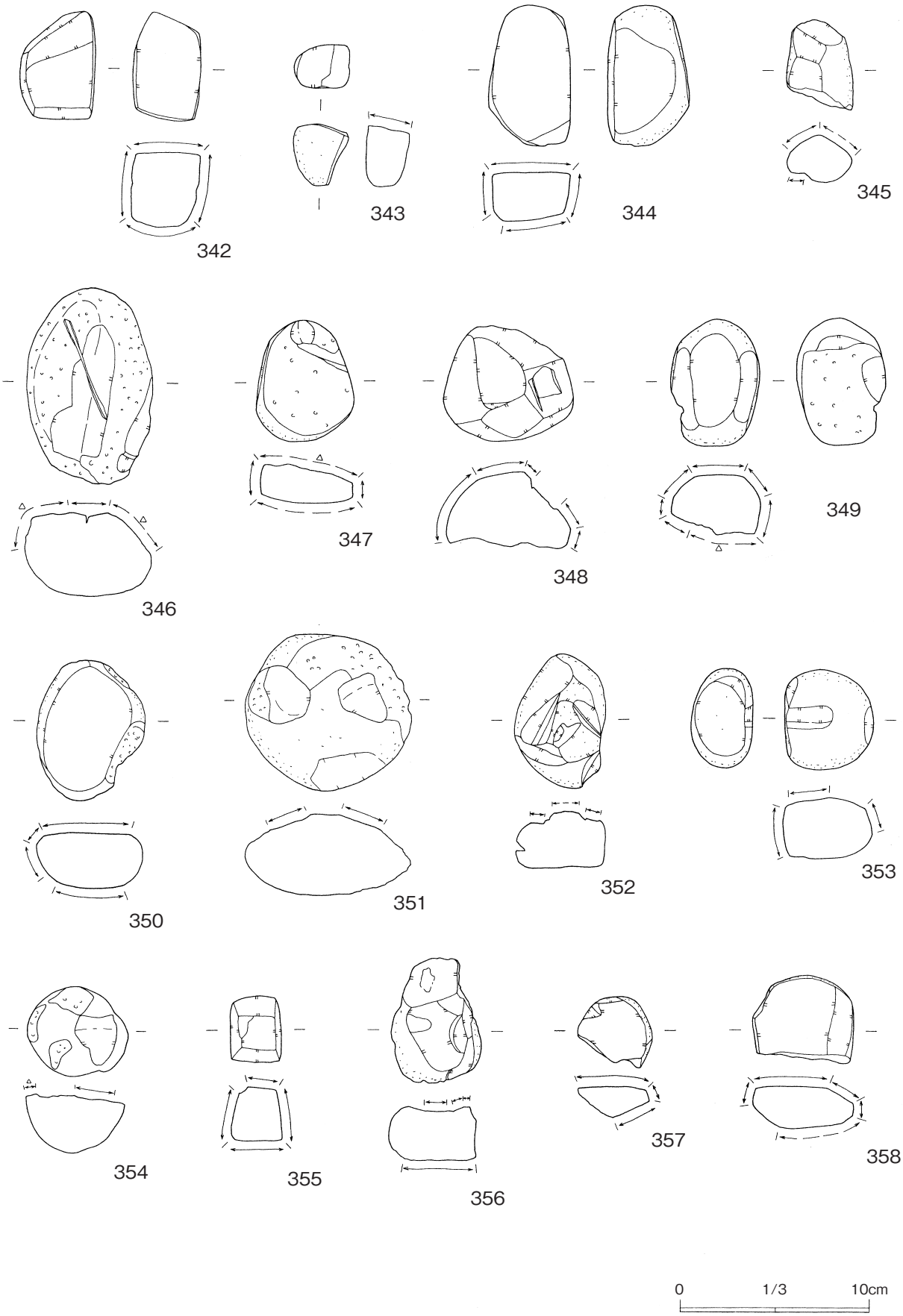
第28図　石製品類28（砥石７）



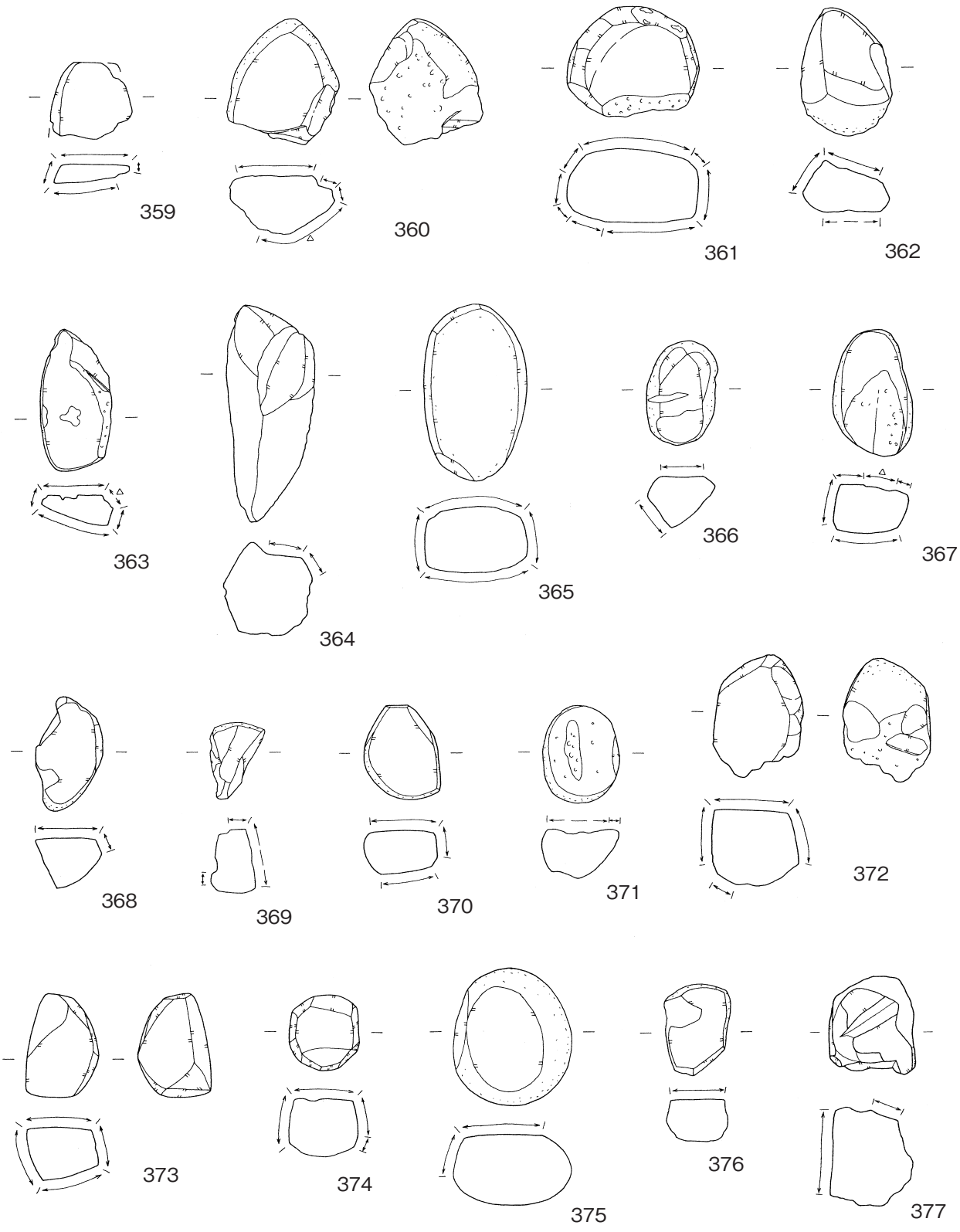
第29図　石製品類29（砥石８・敲石１）



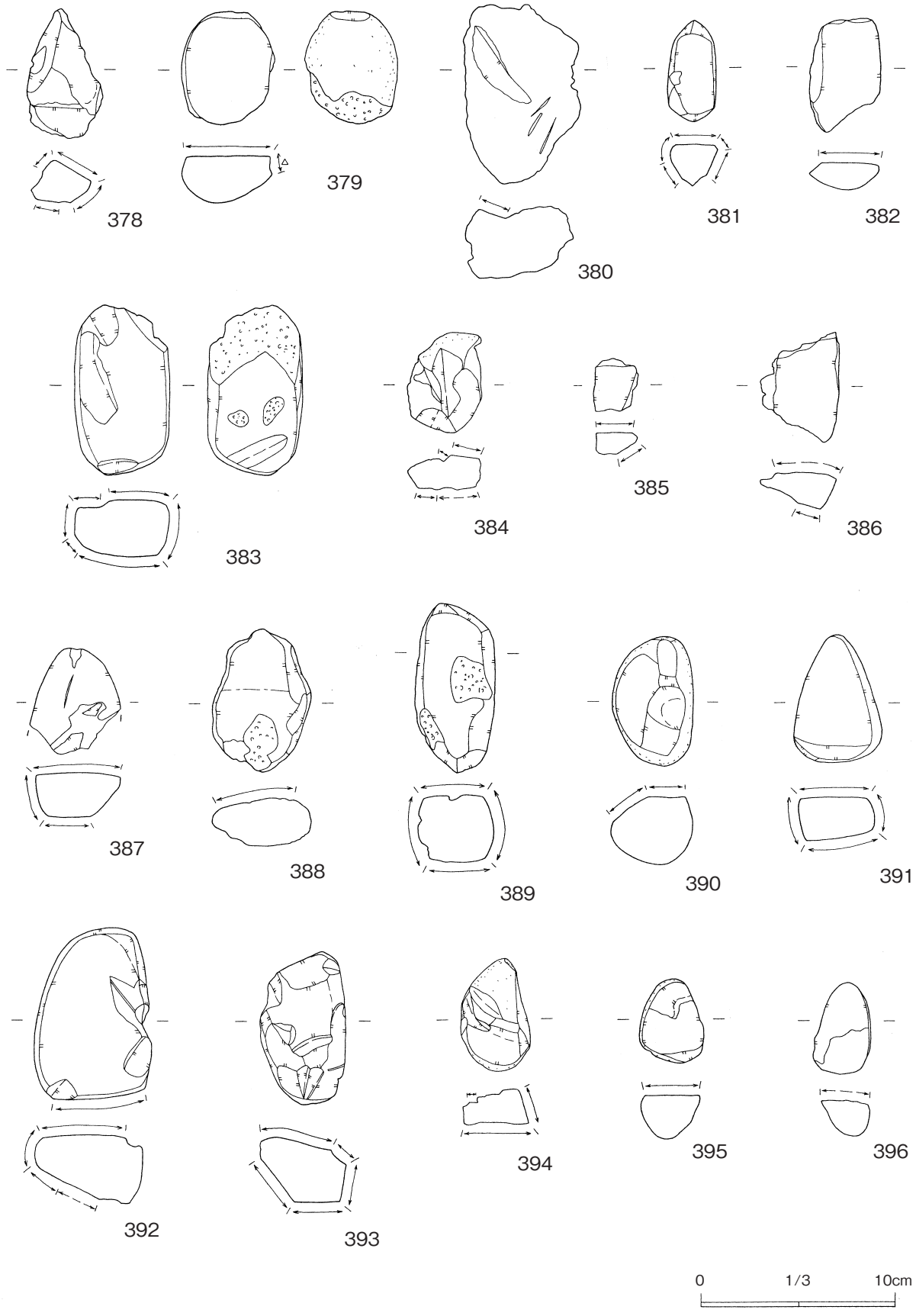
第30図　石製品類30（敲石２・抉り石・磨石１）



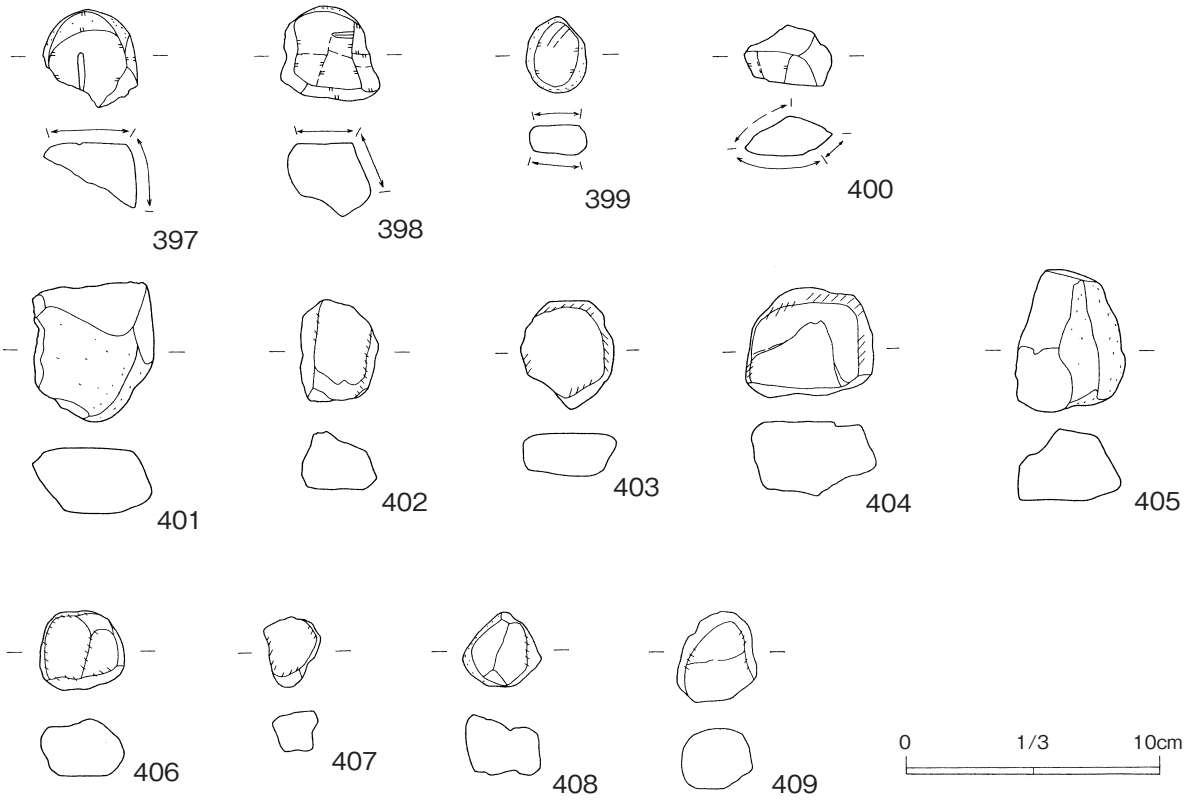
第31図　石製品類31（磨石２）



第32図　石製品類32（磨石３）

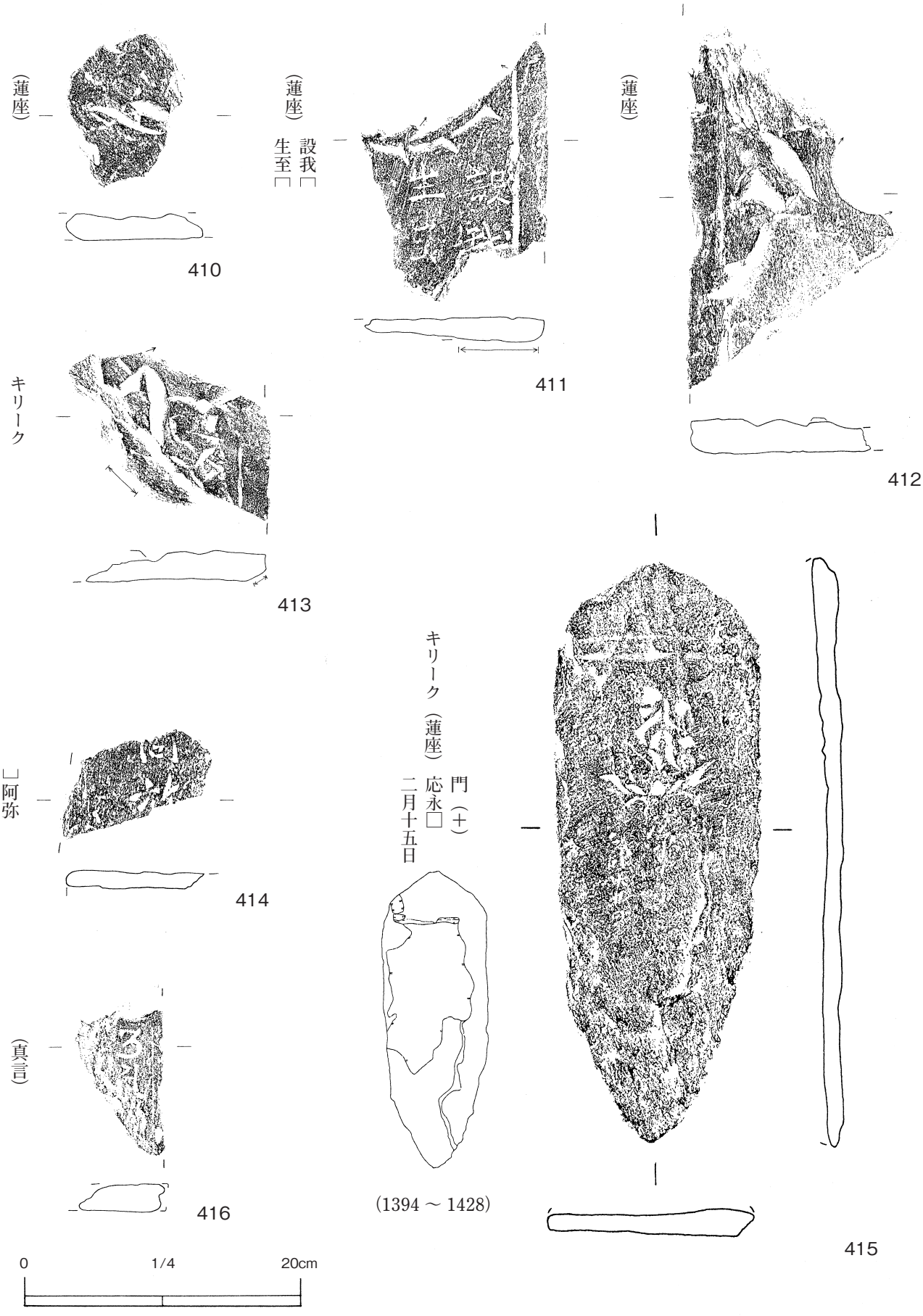


第33図　石製品類33（磨石４）

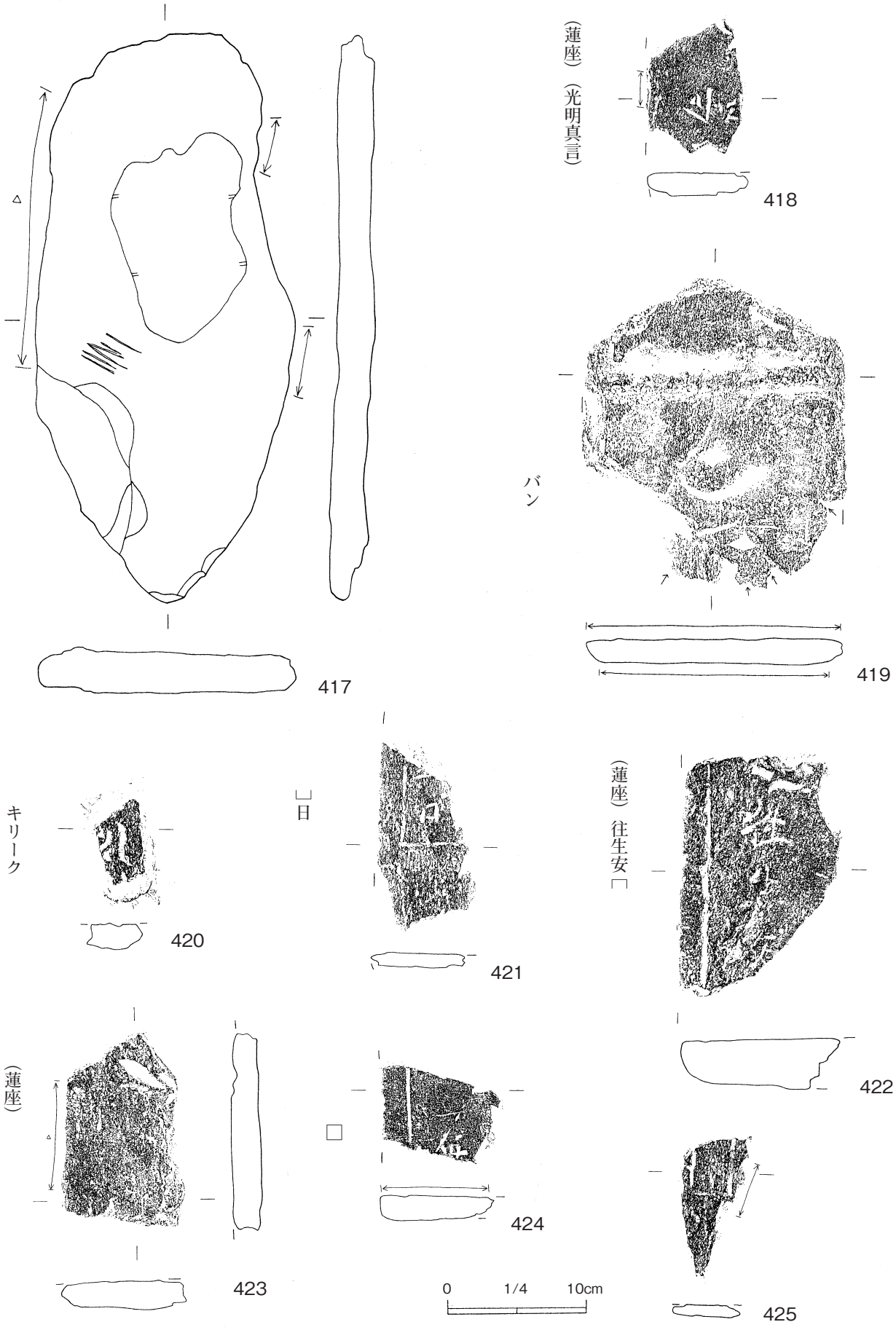


第34図　石製品類34（火打石）

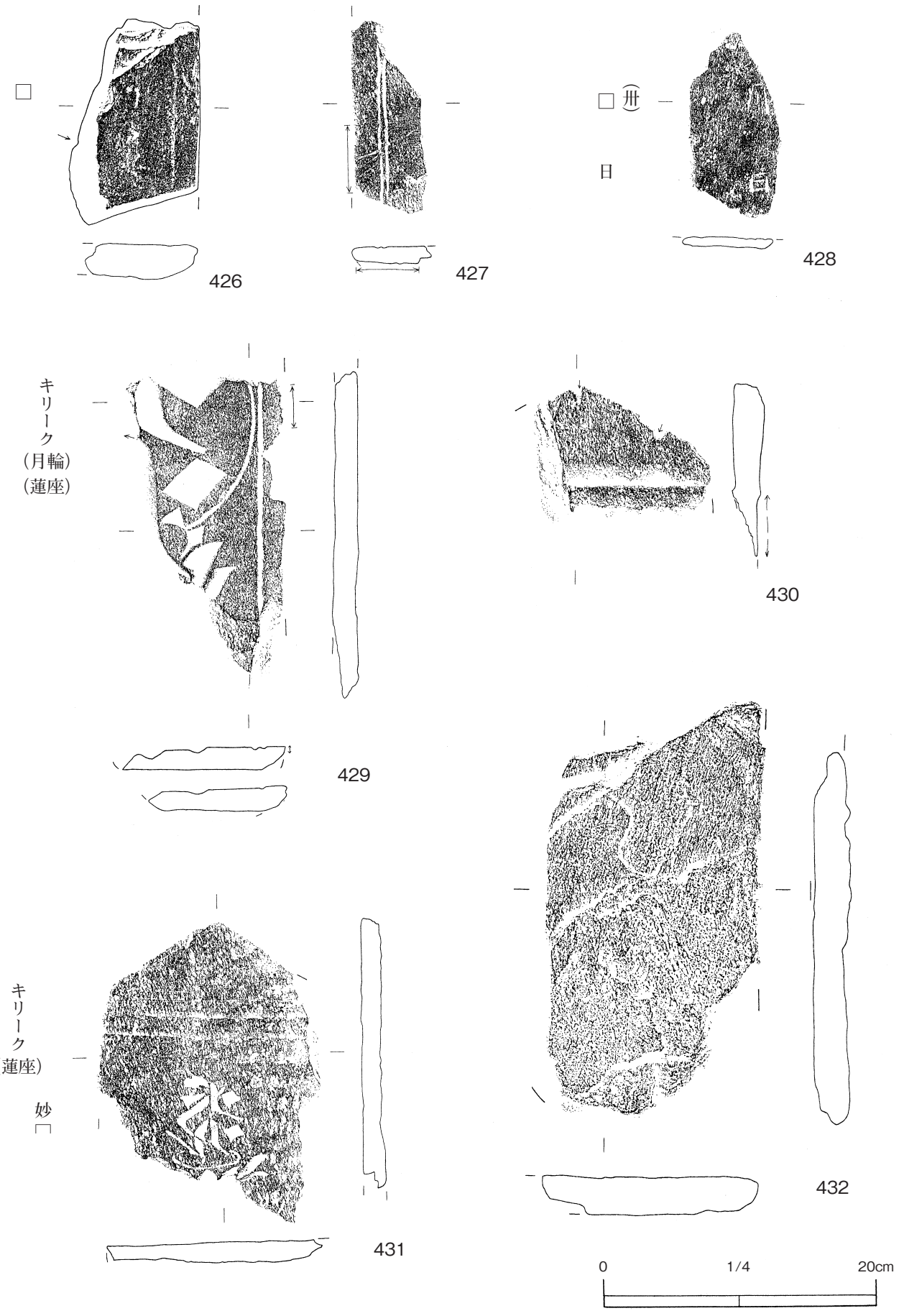
D区　調査風景



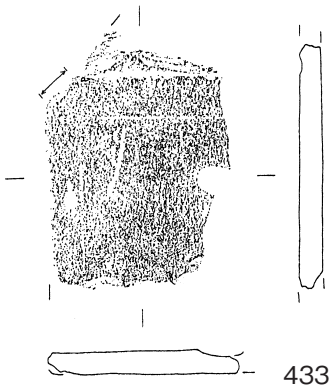
第35図　石製品類35（板碑１）



第36図　石製品類36（板碑２）

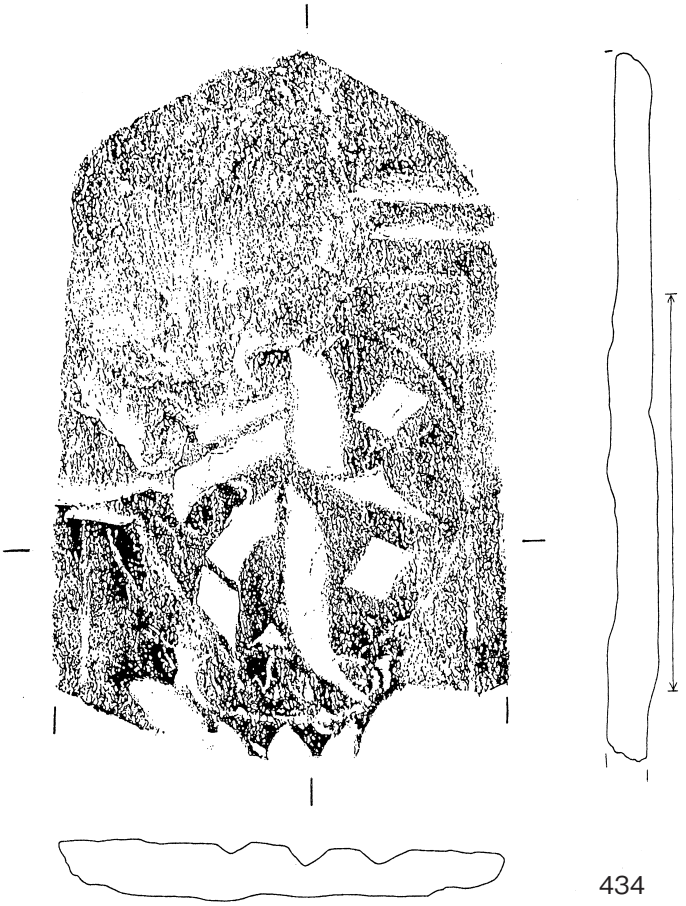


第37図　石製品類37（板碑３）

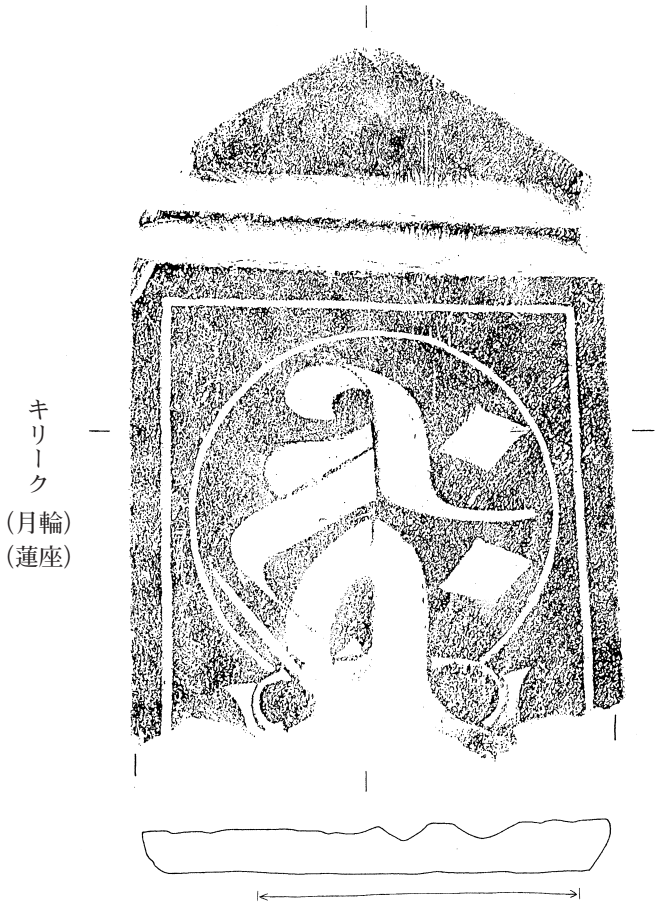


433

キリーク
（月輪）
（蓮座）



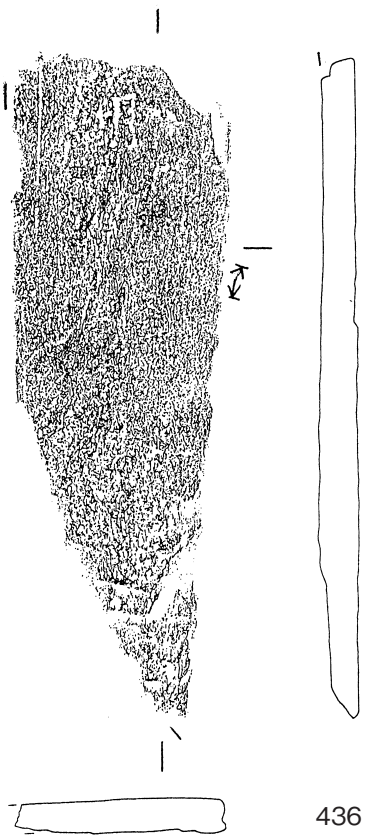
434



キリーク
（月輪）
（蓮座）

435

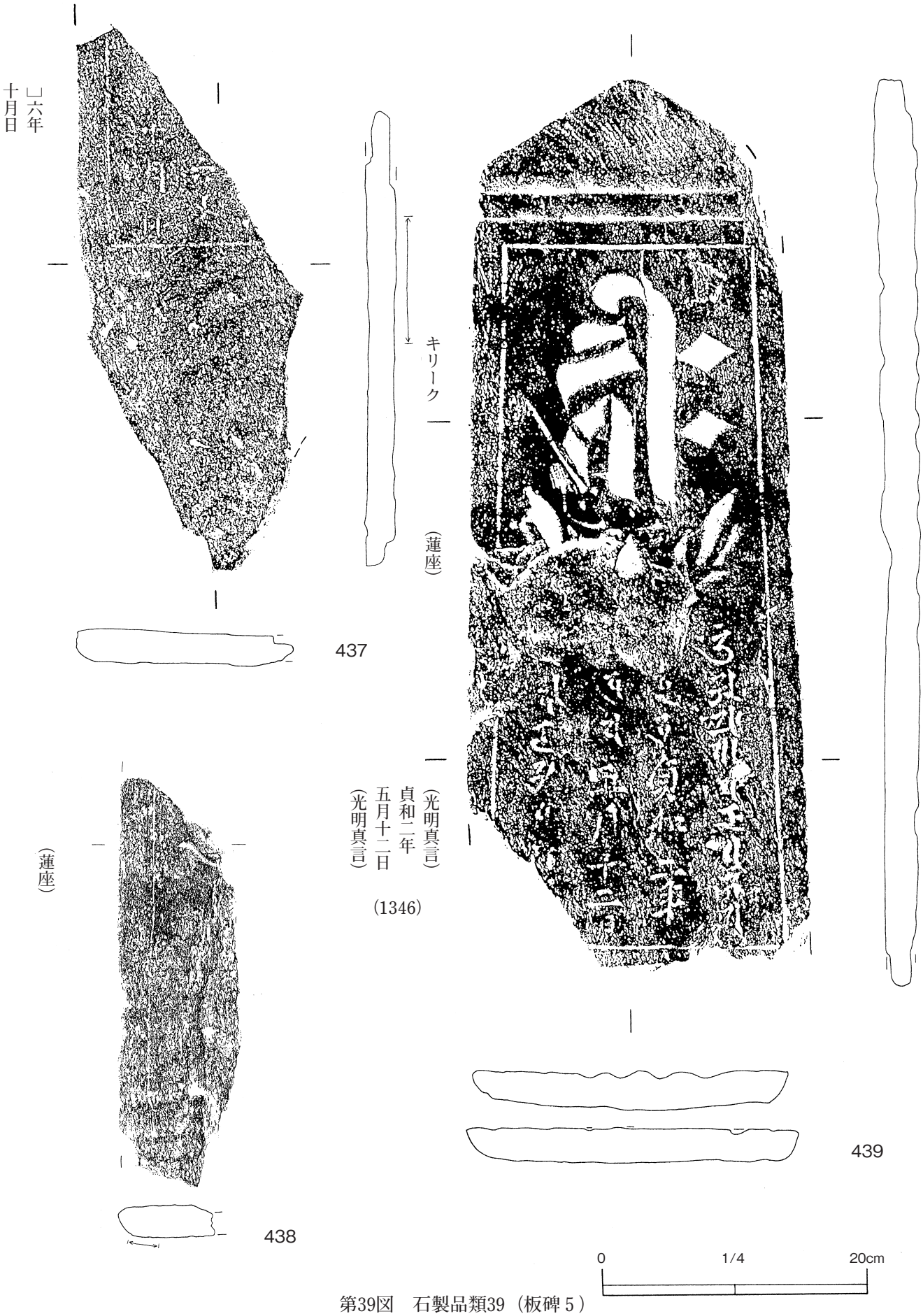
月



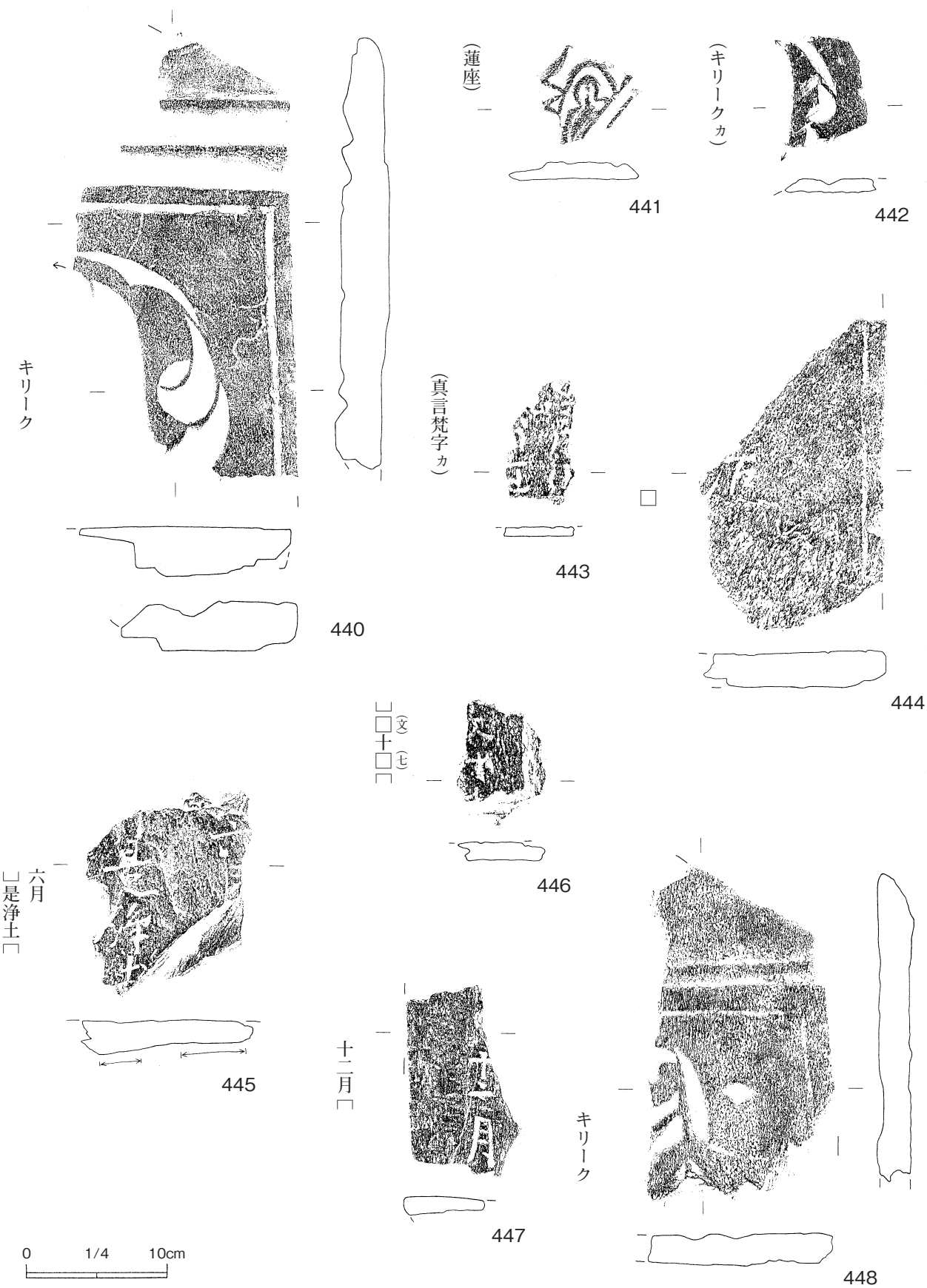
436

第38図　石製品類38（板碑４）

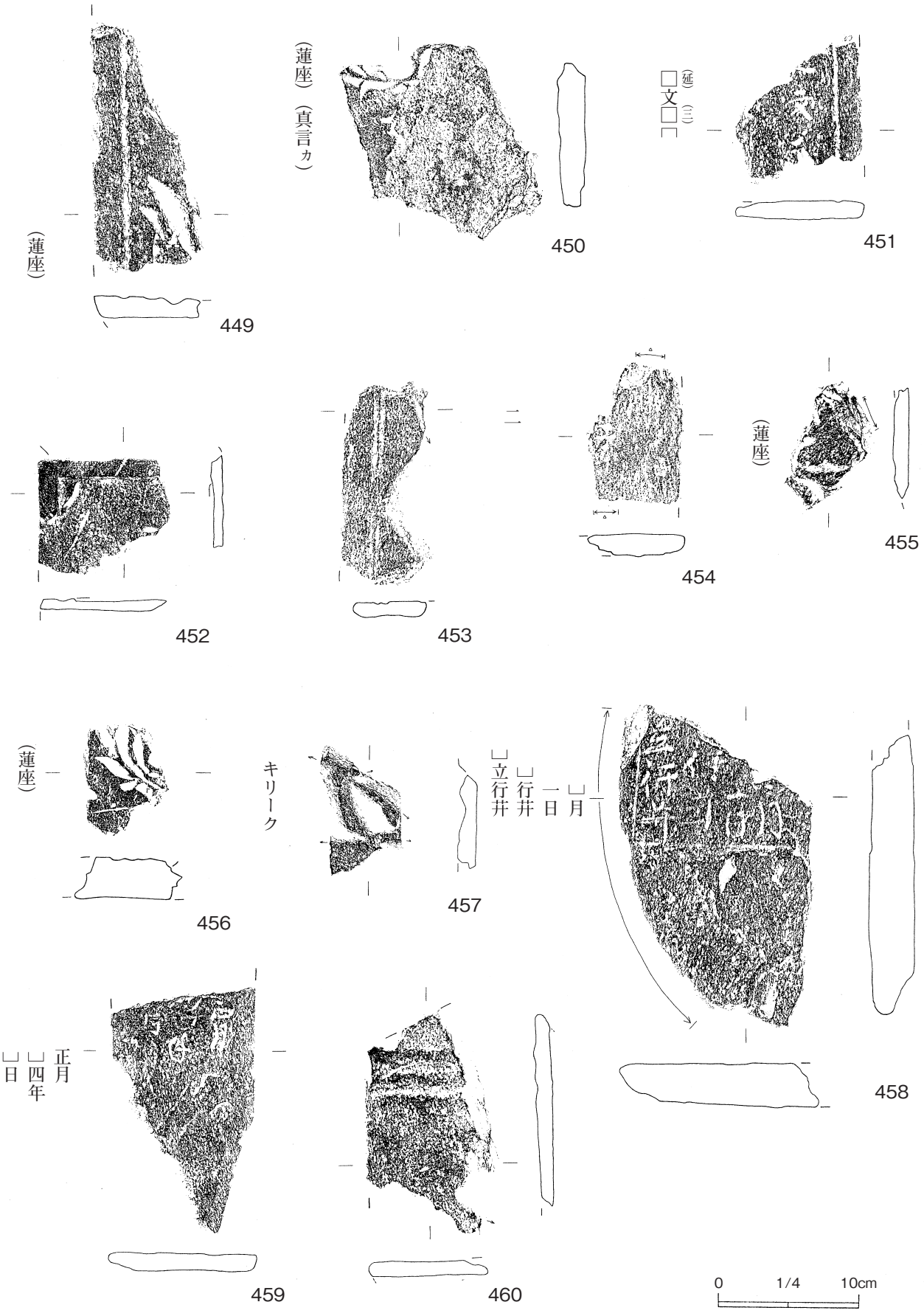
0　1/4　10cm



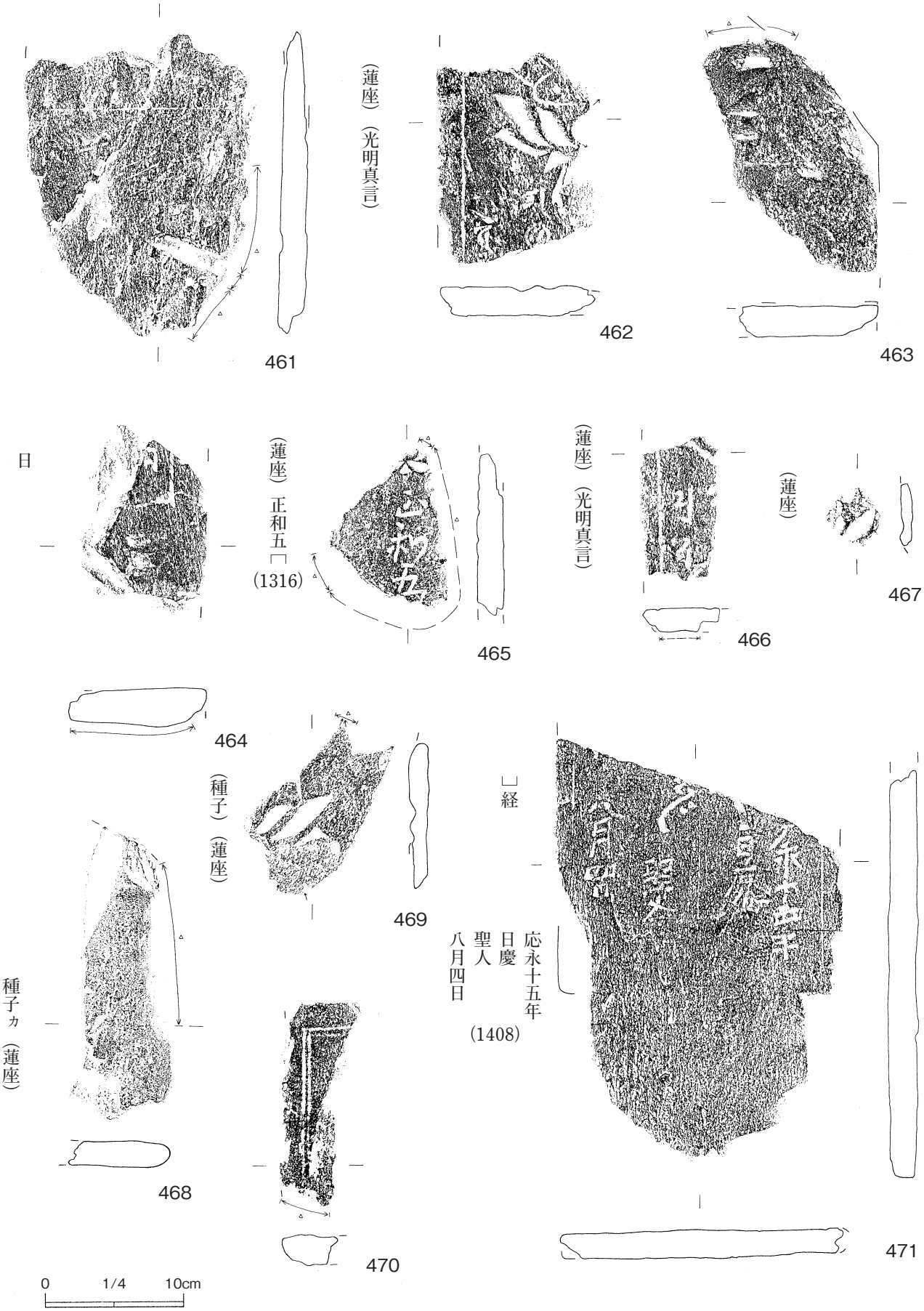
第39図　石製品類39（板碑５）



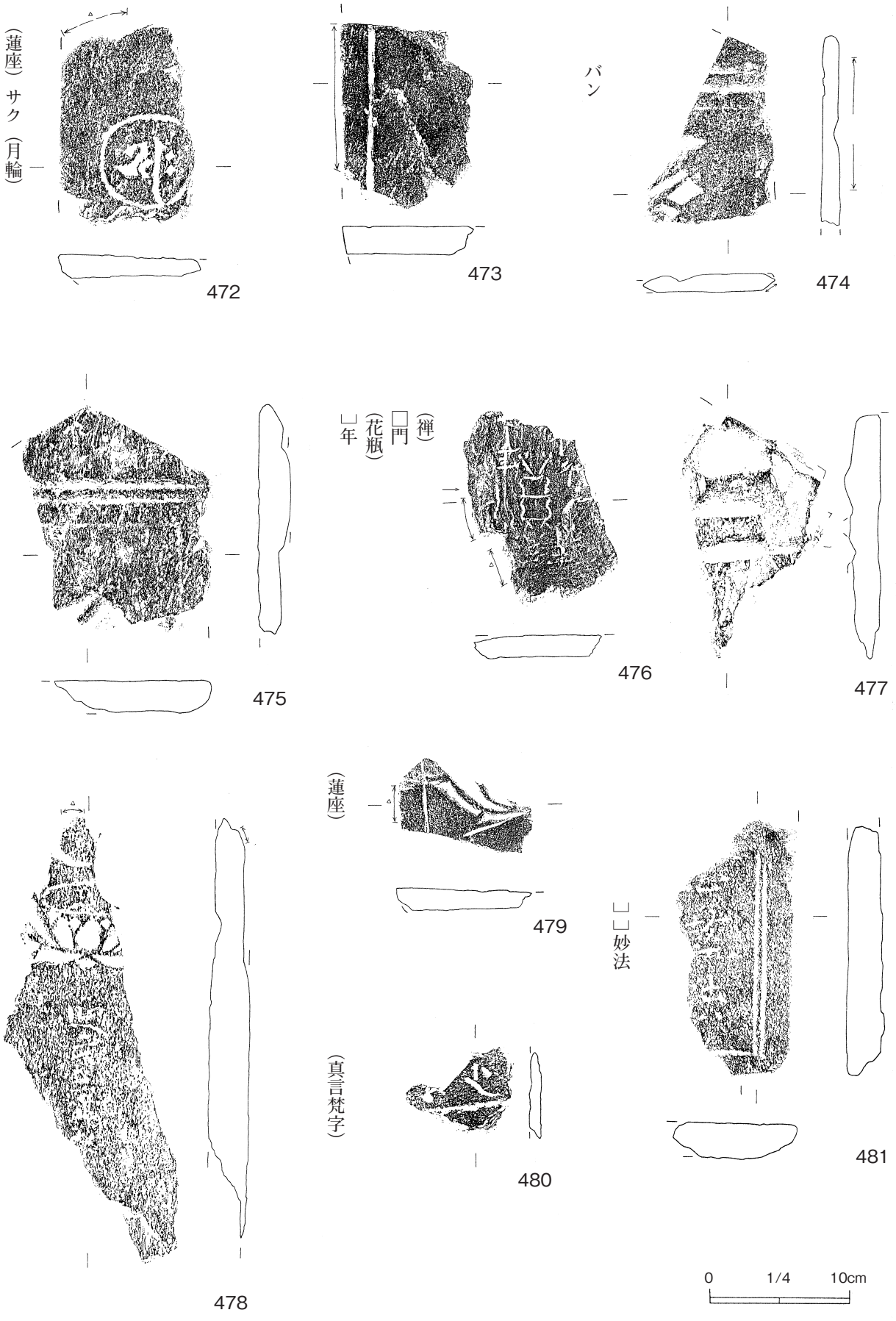
第40図　石製品類40（板碑６）



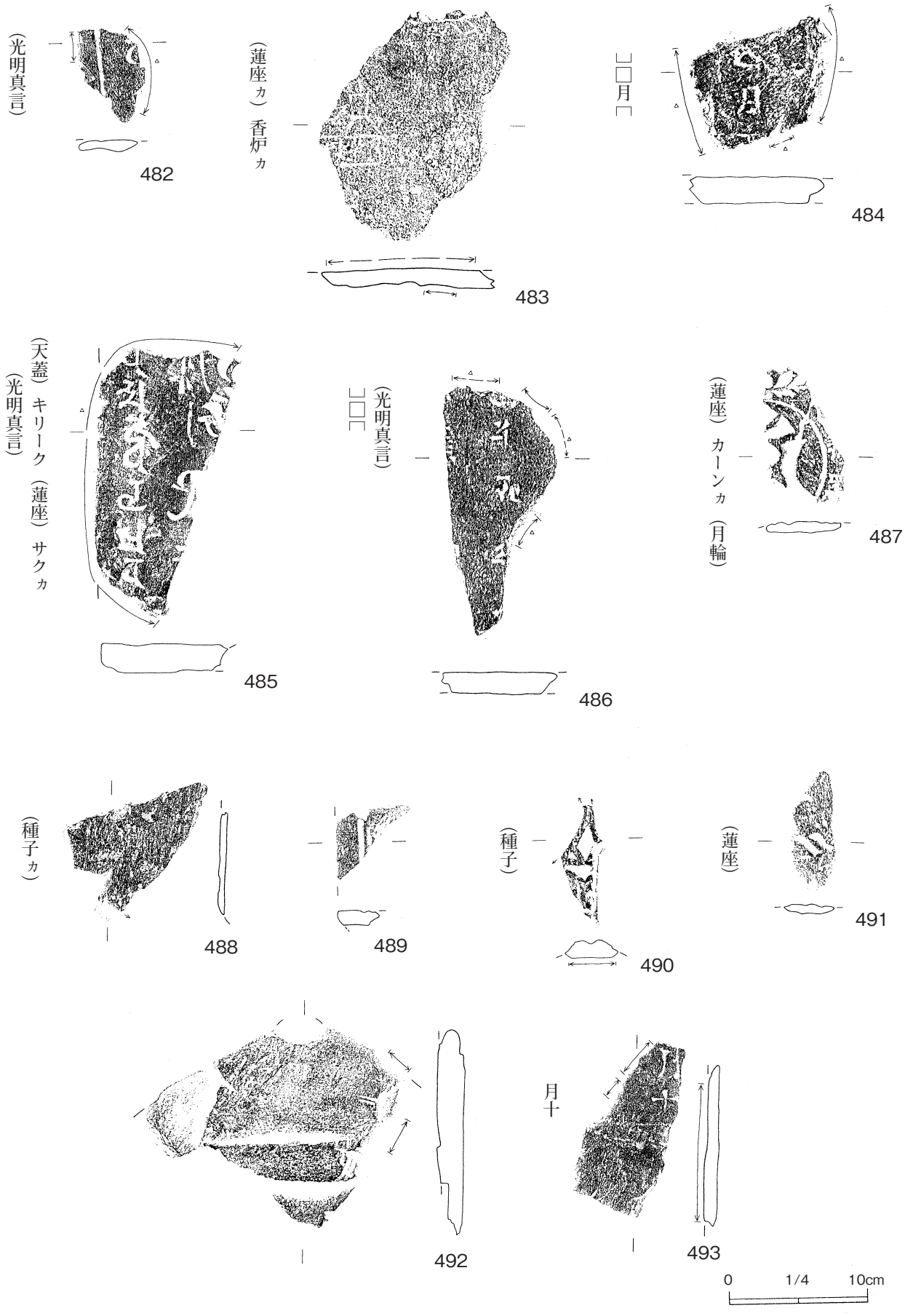
第41図　石製品類41（板碑７）



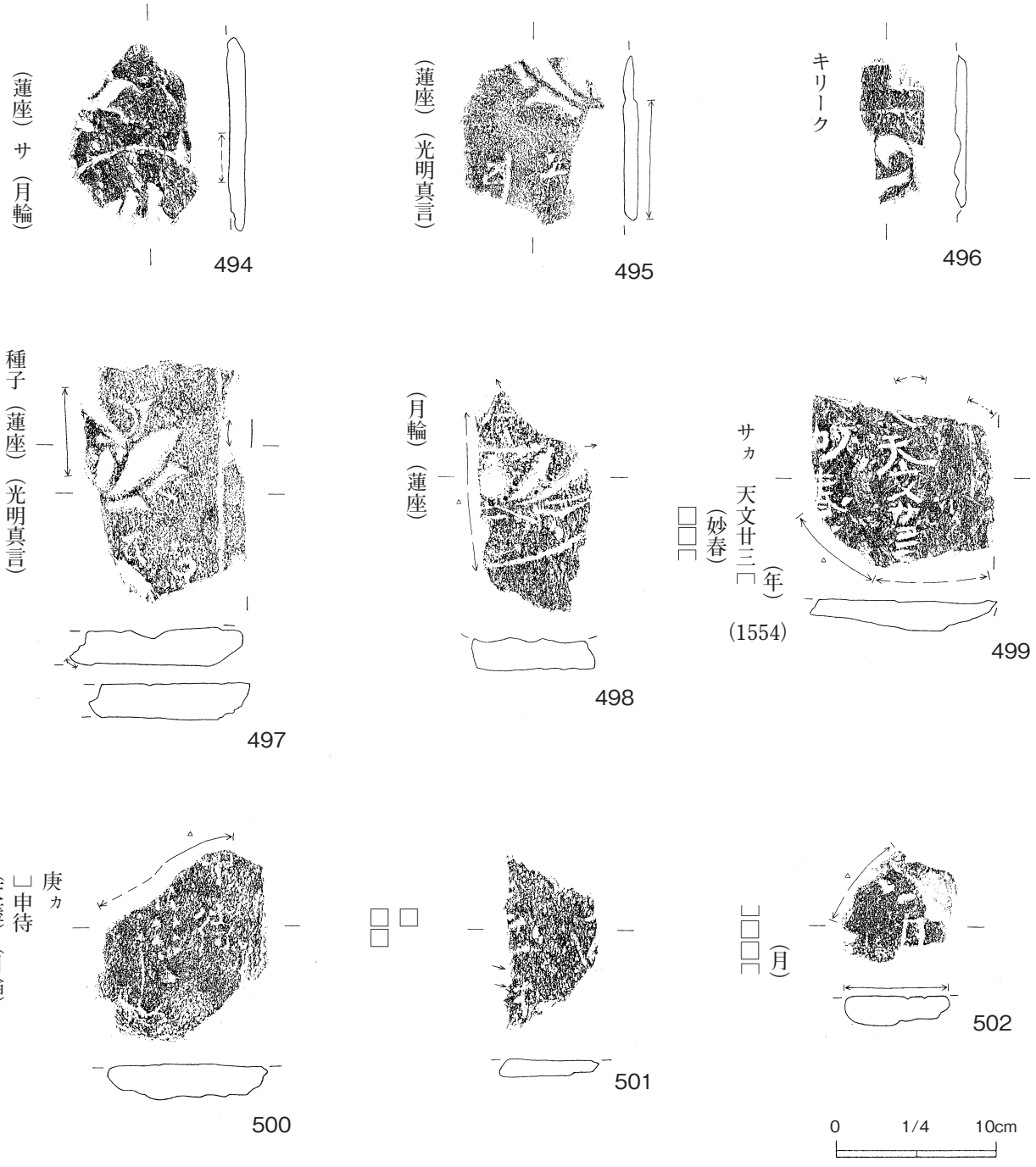
第42図　石製品類42（板碑８）



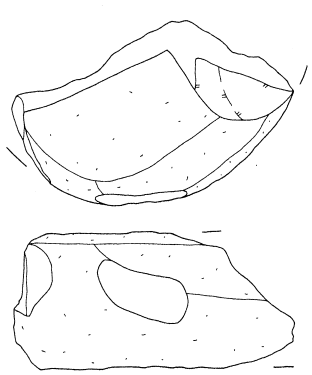
第43図　石製品類43（板碑９）



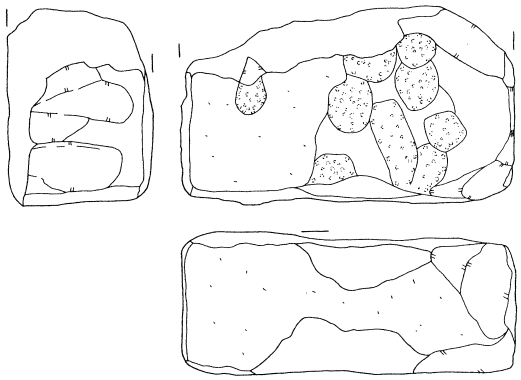
第44図　石製品類44（板碑10）



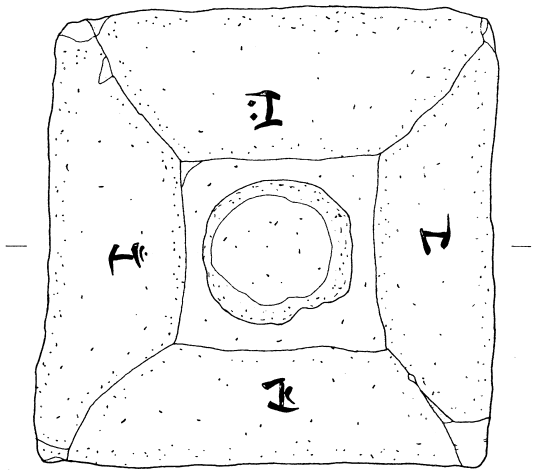
第45図　石製品類45（板碑11）

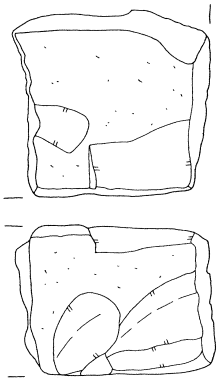


503

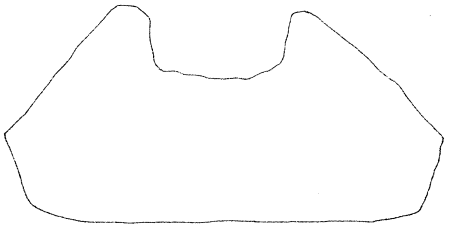


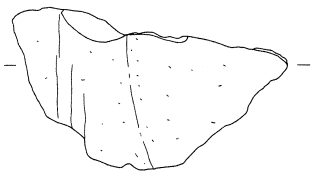
504

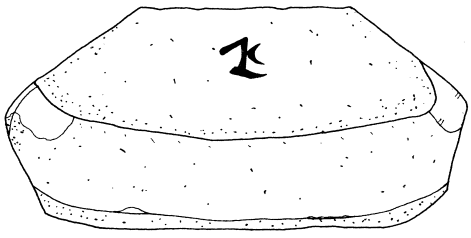




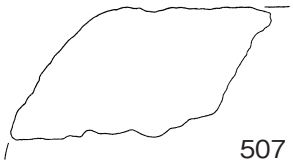
506







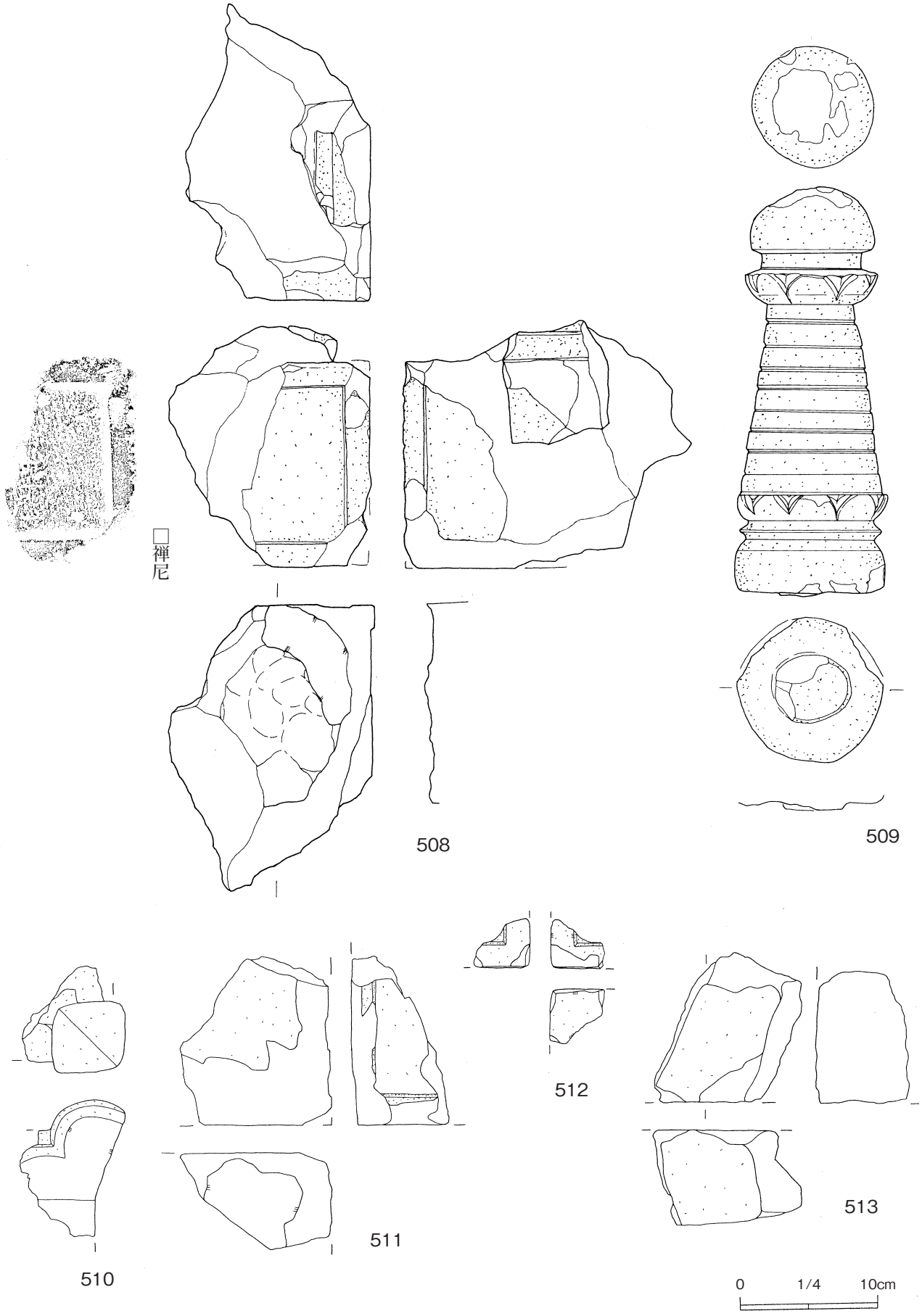
505



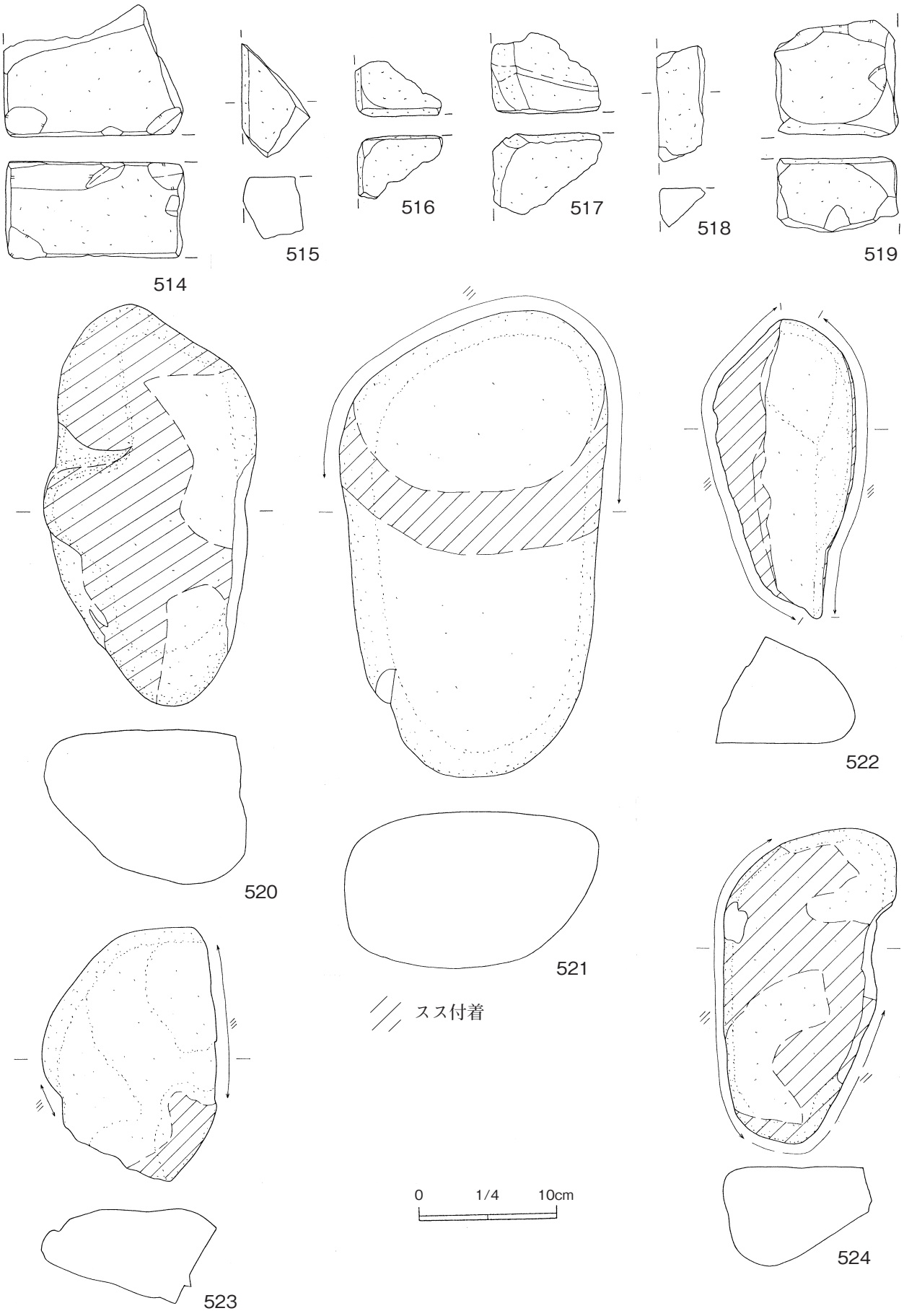
507

0　1/4　20cm

第46図　石製品類46（五輪塔）



第47図　石製品類47（宝篋印塔・石塔・他）



第48図　石製品類48（他）

（ ）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
1	粉挽臼(下臼)	安山岩	1堀5層 D区No.156	-	(4.9)	(7.8)	0001	
2	粉挽臼(上臼)	安山岩	1堀5層 D区No.185	-	(26.0)	(10.5)	0002	芯棒受/供給口/上面縁内側2ヶ所凹(紐掛孔ヵ)/中央に径8mm深さ2mmの穴/上面・磨面平滑
3	茶臼ヵ(上臼)	安山岩ヵ	1堀5層 D区No.224	-	(6.6)	(2.0)	0003	表面平滑(直径32cm・大きい)
4	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	1堀5層 D区No.265	-	(15.9)	10.7	0004	芯棒孔/磨目不明瞭/一部黒化
5	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	1堀5層 D区No.287・288	-	(16.8)	(9.6)	0005	一部黒化
6	茶臼(上臼)	角閃石安山岩	1堀5層 D区No.308	-	(7.4)	(5.6)	0006	表面平滑/一部黒化
7	粉挽臼(下臼)	花崗岩	1堀5層 D区No.458	-	(12.3)	(9.0)	0007	芯棒孔/一部黒化
8	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	1堀6層 D区No.408	-	(15.2)	(4.7)	0008	一部黒化
9	粉挽臼(上臼)	安山岩	1堀6層 D区No.445	-	(5.5)	(4.0)	0009	
10	粉挽臼(上臼)	安山岩	1堀6層 D区No.468	-	(6.9)	(6.0)	0052	敲打により平滑/磨面摩耗顕著
11	粉挽臼(下臼)	安山岩	1堀6層 D区No.495	-	(22.5)	(15.5)	0010	芯棒孔/底面成形敲打痕/磨面摩耗痕
12	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	1堀6層 D区No.499	-	(16.2)	(6.0)	0053	上面砥面/表面黒化
13	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	6堀5層 C区No.507	-	(7.9)	(9.4)	0011	供給口/磨面摩耗/一部黒化
14	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	6堀5層 C区No.559	-	(8.2)	(7.7)	0012	芯棒孔/黒色付着物厚い(破片化後)
15	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	6堀6層 C区No.684	-	(8.2)	(5.8)	0013	磨面摩耗/一部黒化
16	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	6堀6層 C区No.744、9堀上層 C区	-	28.0	9.0	0014	芯棒孔/底面ノミ痕/磨面摩耗/町石32
17	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	6堀6層 C区No.746	-	(14.3)	(6.5)	0015	芯棒孔/底面ノミ痕/磨面摩耗顕著/底面外周平滑/底面黒化
18	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	6堀6層 C区No.747	-	(24.7)	17.8	0016	芯棒受/供給口/紐掛孔ヵ/断面摩耗痕/磨面摩耗/町石11
19	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	6堀6層 C区No.747、10堀上層 C区	-	(26.2)	14.0	0017	芯棒孔/底面ノミ痕/町石30
20	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	6堀7層 C区No.611・639	-	(9.4)	(7.3)	0018	上面平坦
21	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	6堀7層 C区No.695	-	(27.5)	10.4	0019	供給口/磨面摩耗・磨目一部残る/片減り(供給口周辺が薄い)/一部黒化
22	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	6堀7層 C区No.787	-	(19.6)	16.0	0020	磨面黒化摩耗顕著
23	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	6堀7層 C区	-	(23.0)	12.2	0021	芯棒孔/供給口/縁低い/磨面外周摩耗顕著(黒化後摩耗ヵ)/ほぼ全面黒化
24	搗臼	角閃石安山岩	6堀7層 C区	-	(12.8)	(7.2)	0022	上端から内面平滑/一部赤・黒化
25	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	7堀1層 C区No.801	-	(7.6)	(5.4)	0023	
26	粉挽臼(上臼)	安山岩	10堀下層 C区	-	(10.5)	(6.2)	0024	
27	搗臼	安山岩	9・10堀埋土 C区	-	(9.5)	(10.4)	0025	
28	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	9・10堀埋土 C区	-	(17.5)	(7.5)	0026	
29	搗臼	安山岩	13堀 C区	-	(9.8)	(7.2)	0027	一部黒化
30	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	16堀上層 C区	-	(17.5)	(10.2)	0028	磨面平滑
31	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	16堀盛土C区	-	(8.5)	(4.7)	0029	敲打痕(成形時ヵ)
32	粉挽臼(上臼)	安山岩	22堀㋣ A区	-	(16.1)	(5.5)	0030	
33	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	22堀㋑ A区	-	(17.5)	(14,5)	0031	芯棒孔
34	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	1溝A区	-	(25.8)	13.3	0032	芯棒孔/底面内側敲打による凹み(成形時ヵ)/磨面摩耗顕著
35	搗臼		1溝A区	-	(23.7)	13.6	0033	下面中央に径7mm深4mm穿孔/底面全面・側面一部に成形時ノミ痕/一部摩耗痕/内面全面平滑
36	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	2溝A区	-	(11.4)	(5.0)	0034	紐掛孔ヵ/表面平滑に整形/一部黒化
37	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	3溝C区	-	(5.9)	(2.4)	0035	側面凹む摩耗によるものか
38	茶臼(下臼)		12井No.1 C区	-	(11.0)	(8.2)	0036	底面外周平滑/臼面立上がりにタール状付着物/一部黒化
39	茶臼(上臼)		12井No.2・4・5・6 C区	-	23.6	8.2	0037	芯棒孔/下面摩耗顕著/側面3ヶ所挽木穴(深さ左右2ヶ所4cm・裏面3cm)/下端まで損耗/磨面放射状の線刻
40	粉挽臼(下臼)	安山岩	21井A区、1建、A区	-	(26.4)	19.0	0038	芯棒孔/下面工具痕/磨面摩耗顕著/一部黒化
41	粉挽臼(下臼)	安山岩	21井A区	-	(8.0)	(10.5)	0039	磨面摩耗顕著
42	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	23井A区	-	(12.5)	(9.4)	0040	芯棒孔/全面黒化
43	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	1壙C区	-	(12.8)	(11.0)	0041	内面一部黒化
44	粉挽臼(下臼)		1壙C区	-	(17.0)	(13.5)	0042	芯棒孔/磨面摩耗顕著/3/4黒化
45	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	5CⅡ層C区No.18・191、C区	-	(19.0)	(12.4)	0043	下面敲打痕/表面黒化
46	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	5CⅡ層C区No.44	-	(8.3)	(7.1)	0044	一部黒化
47	茶臼(下臼)	安山岩	5CⅡ層C区No.158・442	-	(24.0)	12.5	0045	芯棒孔/磨面摩耗顕著/下面ノミ痕/一部黒化
48	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	5CⅡ層C区No.470、5C層C区	-	(23.0)	(6.1)	0046	磨面摩耗
49	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩(デイサイト)	D区3層	-	(18.8)	16.3	0047	芯棒孔/磨面摩耗顕著/一部摩耗/一部赤・黒化
50	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	D区3層	-	(14.5)	(13.2)	0048	一部赤・黒化
51	茶臼(下臼)	安山岩	D区3層	-	(10.3)	(6.5)	0049	
52	茶臼(下臼)	角閃石安山岩(デイサイト)	D区4層No.29、D区	-	(10.6)	(6.3)	0050	一部摩耗
53	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩(デイサイト)	D区4層No.65	-	(7.8)	(5.2)	0051	磨面摩耗顕著

第1表　石製品類一覧表1

（ ）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
54	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	6T	-	(13.6)	(4.3)	0054	磨面摩耗顕著/一部黒化
55	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	6T	-	(16.0)	(5.0)	0055	ID-0072と同一ヵ
56	粉挽臼(上臼ヵ)	角閃石安山岩	A区東	-	(10.0)	(7.9)	0056	磨面摩耗顕著
57	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	A区東	-	(8.2)	(7.1)	0057	磨面摩耗/一部タール状付着物
58	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区東	-	(10.8)	(5.0)	0058	磨面摩耗顕著
59	粉挽臼(上臼)	安山岩	A区西	-	(7.6)	6.3	0059	磨面摩耗/ほぼ黒化
60	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区西	-	(11.0)	(4.5)	0060	磨面・側面一部摩耗/一部黒化
61	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区西	-	(9.7)	(4.0)	0061	磨面摩耗/表面黒化
62	茶臼(下臼)	安山岩	A区㋑	-	(14.3)	(4.0)	0062	
63	粉挽臼(下臼)	砂岩ヵ	A区㋩	-	(9.6)	(5.4)	0063	芯棒孔/下・側面タール付着
64	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区オチキワ	-	(7.6)	(5.9)	0064	
65	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区オチキワ	-	(14.6)	(11.0)	0065	磨面摩耗顕著
66	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区	-	(25.3)	(16.0)	0066	供給口/上端磨面摩耗顕著/一部黒化
67	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	A区	-	(11.3)	(3.5)	0067	磨面摩耗/一部黒化
68	粉挽臼(上臼)	花崗岩	A区	-	(23.7)	8.0	0068	供給口/磨面摩耗顕著/一部赤化
69	粉挽臼(下臼)	花崗岩	A区	-	(7.1)	(9.8)	0069	下面一部摩耗/表面黒化
70	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	C区堀埋土	-	(11.5)	(6.2)	0070	磨面平滑
71	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	C区堀埋土	-	(13.4)	(3.5)	0071	一部黒化
72	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	C区南土塁	-	(7.8)	(4.1)	0072	ID-0055と同一ヵ
73	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	C区南	-	(5.8)	(6.9)	0073	
74	粉挽臼(上臼)	花崗岩	C区	-	(16.3)	(8.7)	0074	芯棒受/紐掛孔ヵ/磨面摩耗
75	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	C区	-	(9.7)	(9.6)	0075	供給口/磨面摩耗
76	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	C区	-	(12.0)	(5.6)	0076	紐掛孔ヵ
77	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	C区	-	(16.5)	(15.5)	0077	芯棒孔/側断面摩耗痕/一部黒化
78	粉挽臼(上臼)	安山岩	オチキワ	-	(15.4)	8.2	0078	使用による摩耗により、挽木穴下部欠失、穿孔→紐掛孔新設
79	粉挽臼(下臼)	安山岩	オチキワ	-	(19.2)	14.5	0079	芯棒孔/下面摩耗
80	茶臼(下臼)	普通輝石安山岩	オチキワ	-	(14.2)	12.5	0080	芯棒孔
81	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	オチキワ	-	(8.4)	(9.8)	0081	下面摩耗顕著
82	搗臼	角閃石安山岩	用水	-	(9.9)	(7.9)	0082	一部赤化
83	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	北	-	(10.3)	(6.5)	0083	断面摩耗
84	粉挽臼(上臼)	安山岩	一括	-	(14.4)	(5.7)	0084	一部摩耗
85	粉挽臼(下臼)	安山岩	一括	-	(11.0)	(9.6)	0085	一部黒化
86	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	一括	-	(20.2)	(12.0)	0086	磨面摩耗ややいびつ
87	粉挽臼(下臼)	花崗岩	一括	-	(12.4)	(11.0)	0087	表面黒化
88	搗臼	角閃石安山岩	一括	-	(13.0)	(12.0)	0088	
89	茶臼(下臼)	安山岩	一括	-	(10.3)	(5.8)	0089	上面平滑/一部黒化
90	茶臼(上臼)	安山岩ヵ	一括	-	(9.8)	(4.5)	0090	磨面摩耗顕著
91	碁石	不明	22堀 B区㋥	1.5	1.4	0.9	0091	
92	碁石	頁岩	2溝 A区	2.1	1.7	0.6	0092	
93	碁石	頁岩	24井 A区	2.5	1.7	0.6	0093	
94	碁石	不明	5CⅠ層 C区№377	2.6	2.0	0.4	0094	
95	碁石	頁岩	D区2層	2.0	1.7	0.6	0095	
96	碁石		15T	1.9	1.8	0.8	0096	
97	碁石	頁岩	A区西	1.6	1.8	0.9	0097	
98	碁石	不明	A区	1.7	1.5	0.8	0098	
99	碁石	不明	A区	2.1	1.9	0.8	0099	
100	碁石	頁岩	A区カクラン	2.1	1.5	0.6	0100	
101	碁石	頁岩	一括	2.5	2.0	0.5	0101	
102	碁石	砂岩	一括	2.2	2.1	0.8	0102	
103	碁石	頁岩	一括	2.1	1.5	0.6	0103	
104	碁石		一括	1.8	1.8	0.7	0104	
105	駒石ヵ	頁岩	1壙 C区	1.9	1.2	0.4	0105	
106	駒石ヵ	不明	A区カクラン	2.5	1.6	0.5	0106	
107	駒石ヵ	不明	A区カクラン	1.8	1.4	0.6	0107	
108	駒石ヵ	頁岩	一括	2.5	1.4	0.6	0108	
109	駒石ヵ	頁岩	一括	2.4	1.2	0.5	0109	
110	駒石ヵ	不明	一括	2.3	1.3	0.8	0110	
111	駒石ヵ	不明	一括	2.0	1.5	0.5	0111	
112	硯	頁岩	1堀 D区	(6.0)	(3.8)	(0.7)	0112	
113	硯		6堀5層 C区№523	6.0	2.0	0.8	0113	成形雑/上・左側面斜条線/右側面縦条線/右縁に凹み/全面に黒滴/町史石3書き直し
114	硯	頁岩	6堀6層 C区№789	(7.5)	(6.7)	(0.7)	0114	上部に菊花枝文/硯面頭部に二重の段
115	硯	頁岩	6堀7層 C区№638	(6.9)	(6.1)	(0.8)	0115	正面黒色物付着
116	硯	頁岩	6堀	(2.3)	(2.6)	(0.4)	0116	縁断面半円形
117	硯	頁岩	22堀 A区埋土(出丸・㋩)	11.9	5.3	1.5	0117	全側面横擦痕/裏面縦擦痕/丘に擦痕/縁上部・海に墨痕/側・裏面に黒色付着物/下部剥落接合(被熱ヵ)/町史石6書き直し

第２表　石製品類一覧表２

（ ）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
118	硯	泥岩	5CⅡ層 C区No.432	(14.6)	5.7	1.4	0118	頭部丸形/硯面頭部に凸部/全面剥落顕著/町史石5書き直し
119	硯	泥岩	5C層 C区	(5.7)	5.8	(1.4)	0119	
120	硯	頁岩	D区4層No.4・66	(6.7)	(5.3)	(0.4)	0120	
121	硯	頁岩	A区	(5.1)	10.0	(1.5)	0121	表裏剥離/上側面斜条線
122	硯	頁岩	B区㋑	(7.6)	(4.4)	(0.6)	0122	町史石4書き直し
123	硯	頁岩	C区No.113	(5.7)	7.1	(0.7)	0123	丘部遺存
124	硯	砂岩	C区南土塁	(8.2)	6.4	1.0	0124	丘に擦痕/町史石2書き直し
125	硯	頁岩	C区	(5.0)	(3.0)	(0.7)	0125	
126	硯	頁岩	C区	(5.1)	(1.7)	(0.8)	0126	丘に擦痕
127	硯	頁岩	C区	(1.9)	(2.1)	(0.6)	0127	
128	硯	凝灰岩ヵ	一括	(2.5)	(3.3)	0.9	0128	硯面不整形/縁に刻文
129	石盤ヵ	頁岩	C区南	(5.9)	(2.4)	1.3	0240	
130	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.133	5.2	4.8	1.0	0129	表裏黒化/重さ35g
131	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.136	5.7	5.4	1.1	0130	表面蓮座ヵ/重さ50g
132	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.167	4.1	3.9	0.5	0131	重さ15g
133	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.169	5.8	5.6	1.3	0132	重さ70g
134	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.205	5.1	4.6	0.7	0133	表面黒化/重さ30g
135	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.206	4.1	4.2	0.5	0134	重さ10g
136	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.218	6.4	5.6	0.6	0135	重さ30g
137	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.235	3.4	3.7	0.4	0136	重さ10g
138	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.238	5.9	5.2	0.9	0137	重さ40g
139	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.295	4.0	3.7	0.6	0138	重さ15g
140	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.314	4.7	4.2	0.4	0139	重さ10g
141	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.365	6.0	5.6	2.1	0140	重さ100g
142	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.383	7.3	6.6	1.4	0141	重さ100g
143	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.405	5.7	5.1	0.6	0142	重さ30g
144	石製円盤	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.478	7.2	6.8	2.0	0196	重さ145g
145	石製円盤	緑泥石片岩	1堀 D区	4.3	4.0	0.6	0143	重さ15g
146	石製円盤	緑泥石片岩	1堀 D区	4.3	4.5	0.3	0144	重さ10g
147	石製円盤	緑泥石片岩	1堀 D区	(2.3)	4.4	0.7	0145	重さ10g
148	石製円盤	緑泥石片岩	2堀 C区	4.0	4.1	0.9	0146	重さ15g
149	石製円盤	緑泥石片岩	4堀 C区	4.5	4.2	0.8	0147	重さ20g
150	石製円盤	緑泥石片岩	5堀 C区	5.1	4.7	1.0	0148	重さ45g
151	石製円盤	絹雲母片岩	5堀 C区	4.3	3.7	0.9	0149	重さ20g
152	石製円盤	緑泥石片岩	5堀 C区	5.8	5.2	0.8	0150	重さ35g
153	石製円盤	絹雲母片岩	5堀 C区	7.5	6.7	1.5	0151	重さ90g
154	石製円盤	緑泥石片岩	5堀 C区	4.4	4.3	1.3	0152	重さ35g
155	石製円盤	緑泥石片岩	5堀 C区	4.4	3.7	1.3	0153	重さ30g
156	石製円盤	緑泥石片岩	6堀2層 C区No.585	4.3	4.5	1.1	0154	重さ30g
157	石製円盤	緑泥石片岩	6堀6層 C区No.492	3.9	3.3	0.8	0155	重さ15g
158	石製円盤	緑泥石片岩	6堀6層 C区No.504	4.3	3.7	0.6	0156	重さ15g
159	石製円盤	緑泥石片岩	6堀 C区	4.2	3.6	0.7	0157	重さ20g
160	石製円盤	緑泥石片岩	6堀 C区	5.3	5.2	0.9	0158	重さ35g
161	石製円盤	緑泥石片岩	22堀 B区㋺	4.8	4.7	0.8	0159	重さ30g
162	石製円盤	緑泥石片岩	1壙 C区	8.8	7.4	1.1	0163	重さ120g
163	石製円盤	緑泥石片岩	1壙 C区	5.1	4.0	0.6	0161	重さ20g
164	石製円盤	緑泥石片岩	1壙 C区	8.3	8.9	0.8	0162	表裏一部赤化　被熱ヵ/重さ70g
165	石製円盤	緑泥石片岩	1壙 C区	4.6	4.8	0.8	0160	重さ20g
166	石製円盤	緑泥石片岩	1建 A区	5.1	4.9	0.7	0164	重さ25g
167	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅠ層 C区No.269	4.2	3.8	0.7	0165	裏面黒化/重さ10g
168	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅠ層 C区No.289	5.0	4.2	1.5	0166	重さ40g
169	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅠ層 C区No.334	4.1	4.1	0.6	0167	重さ15g
170	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅠ層 C区No.380	4.8	4.5	0.6	0168	裏面黒化/重さ20g
171	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅡ層 C区No.104	6.7	5.7	0.8	0169	重さ50g
172	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅡ層 C区No.179	5.3	5.3	0.7	0170	重さ30g
173	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅡ層 C区No.316	6.3	5.6	0.7	0171	重さ40g
174	石製円盤	緑泥石片岩	5CⅡ層 C区No.436	(5.6)	7.0	0.9	0172	重さ50g
175	石製円盤	緑泥石片岩	5C層 C区	3.8	3.8	0.8	0173	重さ10g
176	石製円盤	緑泥石片岩	C区1層	5.1	4.5	1.1	0174	裏面ノミ痕/重さ30g
177	石製円盤	緑泥石片岩	D区1層	3.5	3.2	0.5	0175	右下部に抉り/重さ10g
178	石製円盤	緑泥石片岩	D区1層	4.8	5.4	0.7	0176	重さ20g
179	石製円盤	緑泥石片岩	D区1層	7.4	9.2	1.9	0177	重さ175g
180	石製円盤	緑泥石片岩	D区2層	3.5	3.2	0.8	0179	重さ10g
181	石製円盤	緑泥石片岩	D区2層	3.4	3.2	0.8	0180	重さ10g
182	石製円盤	緑泥石片岩	D区2層	4.7	4.3	0.4	0181	重さ15g
183	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	4.0	3.5	0.7	0182	重さ15g
184	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	3.1	3.3	0.6	0183	梵字ヵ/裏面赤化/重さ10g

第3表　石製品類一覧表3

（ ）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
185	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	3.8	4.0	0.5	0184	重さ15g
186	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	2.9	3.0	0.4	0185	重さ5g
187	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	3.9	4.3	0.8	0186	重さ20g
188	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	4.4	4.4	0.7	0187	二重枠線ヵ/裏面平滑/重さ20g
189	石製円盤	緑泥石片岩	D区3層	6.0	7.7	1.1	0188	未整品ヵ/重さ60g
190	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層No.1	3.5	3.5	0.4	0189	重さ10g
191	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層No.13	(4.6)	5.6	0.7	0190	重さ30g
192	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層No.36	4.3	4.2	1.0	0191	重さ25g
193	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層No.55	5.2	5.0	0.8	0192	重さ25g
194	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層	3.8	3.7	0.5	0178	重さ10g
195	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層	4.8	4.5	0.6	0193	重さ20g
196	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層	3.8	4.0	0.6	0194	梵字ヵ/裏面平滑/重さ15g
197	石製円盤	緑泥石片岩	D区4層	(4.3)	(3.9)	0.8	0195	梵字あり/裏面平滑/重さ20g
198	石製円盤	緑泥石片岩	A区西	3.7	3.5	0.7	0197	重さ15g
199	石製円盤	緑泥石片岩	A区西	(5.0)	6.8	1.6	0198	重さ90g
200	石製円盤	緑泥石片岩	A区西	(6.6)	9.0	1.6	0200	蓮台ヵ/一部磨痕/重さ130g
201	石製円盤	緑泥石片岩	A区西	4.8	6.1	0.8	0199	重さ40g
202	石製円盤	緑泥石片岩	B区㋕	5.7	7.6	1.0	0201	裏面平滑・磨痕/重さ60g
203	石製円盤	緑泥石片岩	B区㋕	(4.0)	4.2	1.1	0241	重さ20g
204	石製円盤	石墨片岩	C区No.86	5.7	6.9	2.2	0202	重さ105g
205	石製円盤	緑泥石片岩	C区南	4.6	4.6	0.8	0203	重さ20g
206	石製円盤	砂岩	C区南	6.8	6.4	1.5	0204	重さ105g
207	石製円盤	緑泥石片岩	C区堀埋土	3.6	4.0	0.6	0205	重さ15g
208	石製円盤	緑泥石片岩	C区	3.6	3.6	1.1	0206	重さ15g
209	石製円盤	緑泥石片岩	C区	3.9	3.7	1.0	0207	重さ20g
210	石製円盤	緑泥石片岩	C区	4.2	3.7	0.8	0208	裏面磨痕/重さ20g
211	石製円盤	緑泥石片岩	C区	4.0	3.6	0.7	0209	重さ15g
212	石製円盤	緑泥石片岩	C区	3.5	3.7	0.5	0210	重さ10g
213	石製円盤	緑泥石片岩	C区	4.4	4.9	0.7	0211	裏面黒化/重さ20g
214	石製円盤	緑泥石片岩	C区	5.0	4.5	1.3	0212	T字状刻線/重さ40g
215	石製円盤	緑泥石片岩	C区	7.3	7.4	1.4	0213	重さ90g
216	石製円盤	緑泥石片岩	D区	5.0	6.3	1.4	0214	重さ60g
217	石製円盤	緑泥石片岩	D区	2.7	3.4	0.5	0215	重さ10g
218	石製円盤	緑泥石片岩	D区	4.0	4.3	0.7	0216	重さ20g
219	石製円盤	絹雲母片岩	D区	6.3	8.2	1.1	0217	重さ90g
220	石製円盤	緑泥石片岩	D区	3.7	4.1	1.1	0218	重さ20g
221	石製円盤	緑泥石片岩	1T南	3.0	3.5	0.9	0219	重さ10g
222	石製円盤	緑泥石片岩	オチキワ	(5.5)	7.3	1.0	0220	重さ55g
223	石製円盤	緑泥石片岩	一括	3.7	3.1	0.7	0221	重さ10g
224	石製円盤	緑泥石片岩	一括	4.5	6.3	1.5	0222	重さ70g
225	石製円盤	緑泥石片岩	一括	2.6	3.8	1.1	0223	重さ15g
226	円形石製品	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.361	(11.0)	(7.1)	(.0.7)	0224	
227	円形石製品	緑泥石片岩	B区㋑	(7.7)	(4.5)	1.0	0242	被熱赤化
228	半円形石製品	紅簾石片岩	22堀 A区㋑	(8.7)	(7.0)	(1.3)	0226	右側面直線成形
229	半円形石製品	緑泥石片岩	D区2層	(13.7)	(8.0)	(1.4)	0233	右側面直線成形(板碑状)/一部赤化ヵ
230	三角形石製品	緑泥石片岩	1堀6層 D区No.325	(12.7)	(5.6)	(1.6)	0225	周縁敲打による潰れ/裏面ほぼ無調整
231	三角形石製品	緑泥石片岩	15c壙 A区	(10.1)	(9.7)	(1.7)	0228	上部節理ヵ/側面敲打による潰れ
232	三角形石製品	緑泥石片岩	D区2層	(4.6)	(5.7)	(1.0)	0234	
233	三角形石製品	緑泥石片岩	一括	(6.0)	(7.1)	2.0	0237	上部周縁敲打による潰れ/表面線刻
234	方形石製品	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.310	(13.4)	(5.7)	(1.7)	0238	上部節理ヵ/右側面・裏面 凹ースス付着後敲打
235	方形石製品	緑泥石片岩	22堀 ㋒	(8.2)	(6.5)	(1.9)	0227	表裏弱い磨痕/側縁弱い敲打による潰れ
236	方形石製品	緑泥石片岩	17壙 A区No.18	(10.8)	(6.2)	1.9	0239	被熱赤化剥落
237	方形石製品	緑泥石片岩	A区西	(13.0)	(12.4)	(2.2)	0229	左側面節理ヵ/側面敲打による潰れ/表裏磨痕
238	方形石製品	片岩	A区	(12.0)	(10.0)	2.0	0230	側面敲打による潰れ/一部黒化
239	方形石製品	緑泥石片岩	C区	(8.8)	(6.9)	(2.4)	0231	側面敲打による潰れ
240	方形石製品	緑泥石片岩	C区	(9.2)	(6.6)	1.0	0232	裏面押し削り痕/下面敲打による潰れ
241	方形石製品	緑泥石片岩	D区3層	(15.1)	(9.9)	(1.6)	0235	左右側面敲打による潰れ
242	方形石製品	緑泥石片岩	D区3層	(7.8)	(5.7)	1.0	0236	側面敲打による潰れ/裏面蓮座ヵ/ススト付着
243	成形礫	チャートヵ	1堀8層 D区No.498	9.7	8.1	6.8	0243	全面スス付着/重さ 860g
244	成形礫	ホルンフェルス	6堀2層 C区No.579	8.6	7.4	5.0	0244	重さ 415g
245	成形礫	チャート	10堀ヵ中層 C区	(7.5)	5.4	5.0	0245	被熱赤化/重さ 300g
246	成形礫	砂岩	C区3C層	(6.8)	7.0	5.0	0246	被熱赤化/重さ 280g
247	打割礫	砂岩	1堀6層 D区No.137	(10.5)	6.4	5.5	0247	スタンプ形石器の転用ヵ/重さ 495g
248	打割礫	角閃石安山岩	1堀6層 D区No.497	10.7	8.1	6.0	0248	被熱による剥落/重さ 525g
249	打割礫	閃緑岩	9・10堀埋土 C区	(6.9)	7.9	5.5	0249	スス付着後打割/重さ 420g
250	砥石	泥岩	1堀5層 D区No.350	5.0	8.9	7.3	0150	上面成形ノミ痕ヵ
251	砥石	泥岩	6堀6層 C区No.657	(8.0)	4.3	2.0	0001	
252	砥石	泥岩	6堀6層 C区No.754	10.4	3.6	3.0	0002	鉄分付着

第４表　石製品類一覧表４

（ ）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
253	砥石	泥岩	7堀5層 C区No.802	(18.0)	13.1	5.1	0003	表・裏面整形ノミ痕/左側面砥石/右側面平滑/黒化
254	砥石	泥岩	15堀上層 C区	10.5	4.3	4.4	0004	
255	砥石	頁岩	22堀㋑ A区	(3.2)	3.3	(1.2)	0005	上面鋸痕/仕上砥ヵ
256	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	10溝 A区	(4.5)	4.1	(2.7)	0006	
257	砥石	泥岩	17井 C区	(3.9)	2.6	(1.9)	0007	両側面・裏面に櫛歯状条線
258	砥石	泥岩ヵ	3壙 A区	(1.6)	(4.2)	(2.7)	0008	
259	砥石	泥岩	5CⅠ層 C区No.333	(8.1)	3.5	1.1	0009	黒化
260	砥石	泥岩	5CⅡ層 C区No.80	(10.5)	(3.7)	4.4	0010	左側面ノミ痕/上面・左側面に櫛歯状条線/黒化
261	砥石	蛇紋岩ヵ	5CⅡ層 C区No.439	(7.3)	4.5	0.6	0011	仕上砥ヵ
262	砥石	泥岩	5CⅡ層 C区No.490	(8.6)	4.1	4.0	0012	左側面ノミ痕/全面スス付着
263	砥石	泥岩	A区No.17	(5.0)	2.5	2.2	0013	黒化
264	砥石	泥岩	A区㋑	(5.8)	4.3	1.9	0014	両側面に溝状砥痕/全面黒化
265	砥石	泥岩	A区東	(3.4)	3.3	(0.7)	0015	一部赤化/仕上砥ヵ
266	砥石	泥岩	A区東	(7.0)	(3.9)	(4.5)	0016	一部黒化
267	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	A区東	(9.2)	3.9	4.3	0017	黒化(右側面以外)
268	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	A区西	9.3	4.0	2.7	0018	右・裏面 黒化
269	砥石	泥岩	A区オチキワ	(4.6)	3.3	1.9	0019	
270	砥石ヵ	頁岩	A区オチキワ	(3.7)	(5.2)	(1.2)	0020	仕上砥ヵ
271	砥石	泥岩	A区	(7.6)	4.8	3.3	0021	全面ほぼ黒化
272	砥石	不明(金粒子含む)	B区㋒	(11.6)	3.7	1.7	0152	刻書「根古屋ヵ」
273	砥石	泥岩	B区㋓	3.6	3.8	1.0	0153	表面ススヵ付着/右側面条線
274	砥石	擬灰岩ヵ(白色)	B区	(4.3)	4.3	2.5	0154	崩壊(被熱ヵ)
275	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	C区西堀上	(3.0)	(2.3)	0.9	0022	裏面黒化ススヵ
276	砥石	頁岩	C区	(4.1)	3.8	(0.9)	0023	両側面横条線/仕上砥ヵ
277	砥石	泥岩	C区	6.6	3.5	3.8	0024	表裏・左側面黒化
278	砥石	泥岩	C区	(6.5)	5.0	2.5	0025	一部黒化
279	砥石	擬灰岩	C区	(4.4)	3.0	2.1	0026	黒化ススヵ
280	砥石	頁岩	C区	(5.7)	3.6	1.1	0027	上面条線(鋸痕ヵ)/正面擦痕/仕上砥ヵ
281	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	オチキワ	5.8	3.9	2.5	0028	断面多面形
282	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	オチキワ	(7.6)	(5.5)	1.8	0029	右側面・裏面櫛歯状条線(整形痕ヵ)
283	砥石	泥岩	オチキワ	(3.9)	6.8	(3.7)	0030	上面ノミ痕/全面黒化
284	砥石	泥岩	オチキワ	(4.5)	2.2	1.8	0031	
285	砥石	頁岩	一括	(3.1)	3.4	(0.5)	0032	上面縦条線/左側面横条線/右側面斜条線/仕上砥ヵ
286	砥石	泥岩(擬灰岩質ヵ)	一括	(3.5)	3.0	(2.8)	0033	
287	砥石	泥岩	一括	(7.8)	3.2	2.4	0034	全面鉄分付着
288	砥石	泥岩	一括	(6.3)	2.9	(3.0)	0035	
289	砥石	緑泥石片岩	1堀5層 D区No.386	(16.3)	(7.0)	(3.5)	0036	表面黒化→線条痕
290	砥石	緑泥石片岩	1堀8層 D区No.236	(19.0)	(6.6)	(2.7)	0037	左側面抉り2ヶ所・凹1ヶ所/下部両刃状
291	砥石	緑泥石片岩	5堀 C区	(18.4)	(15.1)	(2.2)	0038	磨痕顕著 線条痕/側面敲打による潰れ/表裏黒化
292	砥石	緑泥石片岩	13堀 C区	(16.8)	(9.0)	1.8	0039	方形成形ヵ/表裏左側面磨痕顕著/右側面頂部敲打による潰れ/表側面スス付着
293	砥石	緑泥石片岩	19堀(㋓?)	(11.0)	(7.9)	(2.0)	0040	表面押し削り痕・磨痕・黒化
294	砥石	緑泥石片岩	22堀㋕ B区	(12.7)	(8.5)	(1.0)	0041	下部孤状成形ヵ/表面磨痕光沢あり
295	砥石	緑泥石片岩	1溝 A区	(8.1)	(8.5)	(1.4)	0042	表面一部磨痕・黒化/側面抉り、敲打による潰れ、磨痕/裏面1ヶ所凹穴
296	砥石	緑泥石片岩	10溝 A区	(12.8)	(15.5)	(3.8)	0043	上下右辺 直線形成ヵ/表面磨痕顕著/裏面一部磨痕/周縁頂部 敲打による潰れ
297	砥石	緑泥石片岩	24井 A区	(12.2)	(10.0)	1.8	0044	表面磨痕/側面磨痕敲打による潰れ
298	砥石	緑泥石片岩	24井 A区	(8.9)	(8.3)	(1.0)	0045	表面磨痕 一部弱い磨痕
299	砥石	火山岩	1Tミナミ	(6.9)	(5.0)	(3.7)	0046	表面磨痕顕著/段形成/一部赤化
300	砥石	緑泥石片岩	9T A区	(14.3)	(11.0)	1.9	0047	表面磨痕/側面抉り2ヶ所・敲打による潰れ/一部黒・赤化
301	砥石	緑泥石片岩	5CⅠ層 C区No.123	(6.9)	(3.5)	(0.9)	0048	表面平滑/黒化
302	砥石	緑泥石片岩	5CⅠ層 C区No.376	(4.8)	(4.6)	(1.0)	0049	側面敲打による潰れ
303	砥石	緑泥石片岩	5CⅡ層 C区No.47	(14.0)	(10.2)	(2.3)	0050	表裏磨痕顕著/側面敲打による潰れ、磨痕
304	砥石	緑泥石片岩	D区 2層	(7.4)	(6.2)	(1.1)	0051	上辺弧状成形ヵ/左側面抉り/表面磨痕/一部黒化
305	砥石	緑泥石片岩	D区 2層	(16.2)	(10.7)	(1.0)	0052	表面磨痕・ 線条痕/一部黒・赤化
306	砥石	緑泥石片岩	D区 3層	(21.0)	(10.0)	(1.6)	0053	表面浅い砥面・凹み/側面抉り・敲打による潰れ
307	砥石	緑泥石片岩	D区 3層	(3.8)	(4.5)	0.9	0054	線条痕/表面磨痕/黒化
308	砥石	緑泥石片岩	D区 4層 No.85	(10.7)	(6.9)	(1.6)	0055	表面磨痕/下辺抉りヵ(2ヶ所)
309	砥石	緑泥石片岩	D区 4層 No.103	(7.6)	(4.9)	(1.0)	0056	表面弱い磨痕/表面黒化
310	砥石	緑泥石片岩	A区東	(8.7)	(6.0)	1.2	0057	表面弱い磨痕/側面敲打による潰れ
311	砥石	緑泥石片岩	A区西	(21.8)	(14.5)	(1.6)	0058	磨痕顕著・溝状痕・線状痕/側面磨痕・敲打による潰れ/表面黒化・スス付着
312	砥石	緑泥石片岩	A区西	(9.6)	(11.0)	2.0	0059	表面磨痕/上面・右側面敲打による潰れ

第5表　石製品類一覧表5

（　）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
313	砥石	緑泥石片岩	A区㋑	(14.9)	(8.7)	(1.7)	0060	方形成形ヵ/右側面砥痕ヵ/裏面線条痕
314	砥石	緑泥石片岩	A区	(6.6)	(9.1)	1.5	0061	蓮座ヵ/表面磨痕/中央ややくぼむ/側面敲打による潰れ
315	砥石	緑泥石片岩	B区㋣	(13.7)	(8.8)	(2.0)	0062	側面敲打ヵ
316	砥石	緑泥石片岩	B区㋣	(8.0)	(4.9)	1.1	0063	側面一部磨痕/敲打による潰れ
317	砥石	緑泥石片岩	C区	(12.9)	(10.9)	(2.1)	0064	方形成形ヵ/表裏面磨痕
318	砥石	緑泥石片岩	C区	(11.0)	(5.5)	(0.7)	0065	磨痕光沢あり・表面黒化
319	砥石	緑泥石片岩	オチキワ	(14.8)	(9.7)	1.0	0066	直線成形ヵ/表面磨痕/左・下側面 敲打による潰れ
320	砥石	角閃石安山岩	オチキワ	(6.8)	(8.3)	(4.2)	0067	表裏磨痕平坦/周縁 敲打による潰れ/後世の痕含むヵ/石皿の転用ヵ
321	砥石	緑泥石片岩	一括	(12.6)	(6.1)	(2.1)	0068	方形成形ヵ/表面一部磨痕押し削り痕/側面磨痕ヵ
322	砥石	緑泥石片岩	一括	(9.5)	(7.8)	(1.7)	0069	表面弱い磨痕/側面 括り
323	砥石	緑泥石片岩	一括	(10.6)	(5.2)	(1.8)	0070	上面磨痕/スス付着
324	敲石	緑泥石片岩	23井 A区	(15.0)	(11.3)	(1.2)	0072	側面 敲打による潰れ・磨痕
325	敲石	緑泥石片岩	A区㋑	(8.7)	(6.5)	1.4	0074	円形成形ヵ/銘文ヵ/弱い磨痕/左側面敲打による強い潰れ/表面スス付着
326	敲石	緑泥石片岩	B区㋭	(7.4)	(6.8)	(!.0)	0075	三角形成形ヵ/右側面抉り2ヶ所/側面敲打痕/裏面ノミ痕/一部スス付着
327	敲石	緑泥石片岩	用水	(9.9)	(9.5)	1.2	0076	側・下面敲打による潰れ
328	敲石	紅簾片岩	一括	(7.2)	(7.6)	2.0	0077	円形成形ヵ/側・下面敲打による潰れ
329	抉り石	緑泥石片岩	B区	(14.7)	(7.9)	(1.2)	0078	右側面抉り1ヶ所
330	抉り石	緑泥石片岩	D区 4層 №120	(4.8)	(4.2)	(0.8)	0079	右側面表裏から抉りヵ
331	磨石	デイサイト	1堀7層 D区№493	10.8	6.8	5.1	0080	凹平坦7・片平坦7・V字溝1・U字溝1(刃)
332	磨石	デイサイト	5堀 C区	4.8	3.4	2.4	0081	凹平坦1
333	磨石	デイサイト	6堀5層 C区№654	7.3	5.0	3.5	0082	凸平坦5
334	磨石	デイサイト	6堀7層 C区№635	8.4	5.6	2.5	0083	凸平坦3・片平坦2・V字溝1(刃)/一部黒化
335	磨石	デイサイト	6堀7層 C区	6.2	4.2	3.4	0084	凸平坦7・片平坦1
336	磨石	デイサイト	6堀㋑ C区	5.5	4.3	2.5	0085	平坦1・凸平坦4
337	磨石	デイサイト	9堀上層 C区	4.7	3.0	1.1	0086	凸平坦5
338	磨石	デイサイト	9堀上層 C区	6.9	5.8	4.0	0155	凹平坦2
339	磨石	デイサイト	10堀中層 C区	6.9	6.0	2.4	0087	凸平坦3
340	磨石	デイサイト	10堀下層 C区	7.8	5.8	4.1	0156	凸平坦2/一部黒化
341	磨石	デイサイト	10堀下層 C区	8.6	8.3	5.1	0157	凹平坦2/下面敲打による荒れ
342	磨石	デイサイト	9・10堀埋土 C区	5.8	3.7	4.0	0088	凸平坦8
343	磨石	デイサイト	13堀 C区	3.3	2.9	2.3	0089	凸平坦1/一部黒化
344	磨石	デイサイト	15堀下層 C区	7.5	4.4	2.6	0090	凸平坦4
345	磨石	デイサイト	15堀 C区	7.8	3.6	2.5	0091	凸平坦1・凹平坦4・片平坦1・V字溝1(刃)
346	磨石	デイサイト	16堀 C区	10.5	6.8	4.5	0092	凹平坦4・片平坦1・V字溝1(刃)/正・側面敲打痕
347	磨石	デイサイト	19堀 C区	6.5	5.2	2.1	0093	凸平坦3・片平坦1・V字溝1/正面敲打ヵ
348	磨石	デイサイト	22堀㋩埋土 A区	6.2	6.9	4.0	0094	凸平坦8・V字溝1(刃)
349	磨石	デイサイト	22堀㋩埋土 A区	6.8	4.8	3.2	0095	凸平坦6/裏面敲打ヵ
350	磨石	デイサイト	3溝 C区	7.5	5.8	3.0	0096	凸平坦3・片平坦1・V字溝1(刃)/側面敲打痕
351	磨石	デイサイト	6溝 A区	8.4	8.8	4.3	0158	凹平坦3/裏面剥離する(被熱ヵ)/表面敲打による荒れヵ
352	磨石	デイサイト	7溝 A区	7.2	4.8	3.0	0097	片平坦4・V字溝2
353	磨石	デイサイト	15c壙 A区	5.3	4.8	3.3	0098	凸平坦3・凹平坦1・片平坦1
354	磨石	デイサイト	1建 A区	4.8	5.3	3.1	0159	凹平坦1/敲打による荒れ/一部黒化
355	磨石	デイサイト	5C Ⅰ層 C区№133	3.6	2.8	2.9	0099	凸平坦6・片平坦1
356	磨石	デイサイト	D区1層	6.6	4.8	2.9	0100	凸平坦1・凹平坦4・片平坦1
357	磨石	デイサイト	D区2層	3.8	3.8	1.7	0101	凸平坦4・片平坦1
358	磨石	デイサイト	D区3層	4.8	5.4	2.3	0102	凸平坦3・凹平坦1・片平坦2
359	磨石	デイサイト	3T	4.2	4.3	1.0	0103	凸平坦5
360	磨石	デイサイト	4T	6.5	5.8	3.0	0104	凸平坦2・凹平坦1・片平坦3・V字溝2
361	磨石	デイサイト	6T	6.9	5.7	3.9	0105	凸平坦13・凹平坦1・V字溝1
362	磨石	デイサイト	9T	6.7	4.7	2.7	0106	凸平坦2・片平坦1
363	磨石	デイサイト	1P	7.3	3.7	1.6	0107	凸平坦5・片平坦1/一部敲打ヵ
364	磨石	デイサイト	A区㋥	11.2	4.6	4.8	0108	凸平坦4・凹平坦2・片平坦1/裏面敲打
365	磨石	デイサイト	A区東	9.1	5.3	3.5	0109	凸平坦6
366	磨石	デイサイト	A区東	5.4	3.7	2.7	0110	凸平坦1・凹平坦4・U字溝1/一部赤化
367	磨石	デイサイト	A区東	6.6	4.1	2.6	0111	凸平坦5・凹平坦2/弱い敲打ヵ
368	磨石	デイサイト	A区東	6.1	3.5	2.6	0112	凸平坦2
369	磨石	デイサイト	A区東	4.0	2.8	3.3	0113	凹平坦2・片平坦1/弱い磨耗
370	磨石	デイサイト	A区西	4.9	4.0	2.3	0114	凸平坦6/一部黒化
371	磨石	デイサイト	A区オチキワ	5.1	4.1	2.5	0115	凹平坦1/弱い磨耗
372	磨石	デイサイト	A区	6.4	4.5	3.9	0116	凸平坦4・凹平坦2・片平坦3・U字溝1
373	磨石	デイサイト	A区	5.4	3.8	2.8	0117	凸平坦11
374	磨石	デイサイト	A区	4.0	3.6	3.0	0118	凸平坦12・凹平坦1

第６表　石製品類一覧表６

（ ）は残存値、法量の単位はcm、遺物IDはNo.249まで604-、No.250から601-

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID 60■-0705-0019	備考
375	磨石	デイサイト	A区	7.1	6.1	3.7	0119	凸平坦2
376	磨石	デイサイト	A区	4.8	3.5	2.2	0120	凸平坦2
377	磨石	デイサイト	B区㋑	5.1	4.4	5.2	0151	凸平坦2
378	磨石	デイサイト	C区南	6.8	4.0	2.2	0121	凹平坦6・片平坦2
379	磨石	デイサイト	C区堀埋土	6.0	4.8	2.5	0122	平坦1・凸平坦1/敲打痕1/一部赤・黒化
380	磨石	デイサイト	C区	9.4	6.1	3.8	0123	凹平坦1・片平坦2・V字溝3(刃)/一部黒化
381	磨石	デイサイト	C区	5.3	2.6	2.1	0124	凸平坦8・凹平坦1・V字溝5
382	磨石	デイサイト	C区	6.0	3.7	1.4	0125	凸平坦1/一部黒化
383	磨石	デイサイト	C区	9.0	5.0	3.0	0126	凸平坦5・片平坦3/裏・側面敲打痕
384	磨石	デイサイト	C区	5.2	3.9	1.8	0127	凸平坦1・凹平坦1・片平坦2・U字溝2
385	磨石	デイサイト	C区	2.8	2.3	1.1	0128	凸平坦3
386	磨石	デイサイト	C区	5.8	4.1	1.9	0129	凸平坦1・片平坦1
387	磨石	デイサイト	C区	(5.6)	4.8	2.3	0160	
388	磨石	デイサイト?	用水	7.5	5.2	2.5	0130	凸平坦2・片平坦3/敲打痕
389	磨石	デイサイト	用水	8.9	4.2	3.6	0131	凸平坦8/敲打痕
390	磨石	デイサイト	一括	6.9	4.2	3.6	0132	凸平坦4・凹平坦1
391	磨石	デイサイト	一括	6.8	4.6	2.3	0133	凸平坦8・V字溝1
392	磨石	デイサイト	一括	9.1	6.1	3.6	0134	凸平坦6・凹平坦3・V字溝3(刃)/一部赤・黒化
393	磨石	デイサイト	一括	8.0	4.5	3.4	0135	凸平坦5・凹平坦5・片平坦11・V字溝5
394	磨石	デイサイト	一括	5.9	3.6	1.8	0136	凹平坦4・片平坦2・V字溝1/全面黒化
395	磨石	デイサイト	一括	4.4	3.3	2.3	0137	凸平坦3・片平坦1
396	磨石	デイサイト	一括	4.8	3.0	1.9	0138	凸平坦1・U字溝1
397	磨石	デイサイト	一括	4.0	3.7	2.6	0139	凸平坦3・凹平坦1・U字溝1
398	磨石	デイサイト	一括	3.8	4.0	2.9	0140	凸平坦1・凹平坦2・V字溝1/一部赤化
399	磨石	デイサイト	一括	3.0	2.4	1.2	0141	平坦2・片平坦1
400	磨石	デイサイト	一括	2.4	3.5	1.6	0142	凸平坦3
401	火打石	石英	1堀5層 D区No.372	5.6	4.8	2.6	0143	剥落あり
402	火打石	石英	1堀 D区	4.1	3.1	2.3	0144	
403	火打石	石英	2溝 A区	4.3	3.7	1.8	0161	
404	火打石	石英	9溝 A区	4.3	5.1	3.0	0162	
405	火打石	石英	12井 C区	5.7	4.4	2.9	0145	剥落あり
406	火打石	石英	3壙 A区	3.1	3.4	2.3	0146	剥落あり
407	火打石	石英	C区1層	2.8	2.2	1.6	0147	
408	火打石	石英	C区南堀上	3.0	3.1	2.4	0148	
409	火打石ヵ	石英	A区西	3.6	3.2	2.4	0149	

第7表　石製品類一覧表7

6号堀　調査風景

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	遺物ID (606-0705)	備考
410	板碑	1堀6層 D区 No.296	(15)×(11)×2	0019-0001	表裏平滑/表面磨痕
411	板碑	1堀5層 D区 No.417	(19)×(13)×2	0019-0002	表面黒化・条痕/裏面平滑(磨痕)
412	板碑	1堀5層 D区 No.496	(31)×(15)×(3)	0019-0077	彫り深い/側面平坦/表裏磨痕/表裏全面スス付着
413	板碑	5堀 C区	(13)×(15)×(2)	0019-0003	彫り深い/表面平滑/下断面磨痕(縦)/断面裏面黒化
414	板碑	5堀 C区	(7)×(12)×1	0019-0004	表裏黒化
415	板碑	6堀5層 C区 No.660	(43)×(15)×(2)	0019-0005	表面磨耗顕著
416	板碑	6堀5層 C区 No.671	(11)×(7)×2	0019-0006	表面平滑
417	板碑	6堀5層 C区 No.699	(41)×(18)×(3)	0019-0007	表面磨耗・条痕/右側面磨痕(縦横)/左側面敲打による潰れ
418	板碑	6堀 C区 No.748	(10)×(8)×2	0019-0069	表面平滑/側面磨痕(縦)
419	板碑	6堀6層 C区 No.785	(23)×(19)×2	0019-0008	磨耗痕/下断面抉り(狭)4カ所/表裏スス付着
420	板碑	10堀 C区下層	(8)×(5)×2	0019-0009	
421	板碑	15堀 C区上層	(15)×(8)×(1)	0019-0010	表裏やや平滑
422	板碑	17堀C区	(19)×(12)×(4)	0019-0011	表面平滑/側面平坦/表裏全面スス付着
423	板碑	17堀C区	(15)×(9)×(2)	0019-0012	表裏平滑/断面敲打による潰れ
424	板碑	17堀C区	(7)×(9)×2	0019-0013	表面磨耗痕
425	板碑	17堀C区	(12)×(5)×1	0019-0014	断面磨痕
426	板碑	19堀	(15)×(10)×(3)	0019-0015	断面抉り(狭)/表裏一部磨耗ヵ/表全面黒化
427	板碑	21堀 C区 最下層	(16)×(6)×1	0019-0016	二重枠/表裏・側面磨痕/表裏・側面・断面スス付着
428	板碑	22堀 A区 埋土	(14)×(7)×(1)	0019-0017	表面平滑
429	板碑	4溝 C区	(25)×(12)×2	0019-0018	彫り深い/表面平滑/側面磨痕(縦・横)
430	板碑	4溝 C区	(13)×(13)×(2)	0019-0019	上辺研痕2ヶ/裏面磨痕ヵ
431	板碑	3井 C区	(23)×(16)×(2)	0019-0020	二条線上・頂部ケガキ線/裏面スス付着
432	板碑	5井 C区	(31)×(16)×(3)	0019-0021	表裏全面・断面スス付着
433	板碑	9井 C区	(14)×(10)×1	0019-0022	頂部縦磨痕/右凹は後世の削痕ヵ
434	板碑	12井 C区 No.9	(38)×(24)×(3)	0019-0023	彫り深い/表面条痕/裏面磨痕/下断面一部敲打
435	板碑	12井 C区 No.8	(38)×(25)×(3)	0019-0024	ケガキ線(中心)/彫り深い/表裏平滑/側面細かいノミ痕/裏面磨痕黒化
436	板碑	13井 B区	(36)×(11)×(2)	0019-0025	表・側面磨痕/表裏剥落
437	板碑	13井 B区	(42)×(17)×(3)	0019-0026	裏面磨痕/表面円形凹6ヶ
438	板碑	13井 B区	(31)×(9)×2	0019-0027	表裏磨痕/断面敲打による潰れ
439	板碑	16井 A区	(69)×(26)×(3)	0019-0028	彫り深い/下部抉り(基部成形ヵ)/表面右下円形穴(径1cm深4mm)2
440	板碑	24井 A区	(35)×(16)×(4)	0019-0029	彫り深い/表面平滑/表裏・側・断面スス付着
441	板碑	1壙 C区	(8)×(8)×1	0019-0030	
442	板碑	7壙 A区	(9)×(7)×(1)	0019-0031	表面平滑/表裏スス付着
443	板碑	17壙 A区 No.5・9	(9)×(5)×1	0019-0032	表面黒化/2点接合
444	板碑	17壙 A区 No.20	(23)×(13)×(3)	0019-0034	裏面平滑(磨痕ヵ)/表面スス付着
445	板碑	17壙 A区 No.22	(16)×(13)×(2)	0019-0035	平滑/裏面磨痕/表面スス付着
446	板碑	1T 南	(9)×(6)×(1)	0019-0036	
447	板碑	A区 9T	(14)×(9)×(1)	0019-0037	表裏・側面磨痕ヵ/スス付着
448	板碑	A区 東	(25)×(14)×(3)	0019-0038	彫り深い/表裏断面黒化/スス付着
449	板碑	A区 東	(18)×(9)×(2)	0019-0039	表面黒化
450	板碑	A区 東	(14)×(15)×(2)	0019-0040	表面磨耗/表裏スス付着
451	板碑	A区 東	(10)×(9)×1	0019-0041	被熱?による赤・黒化
452	板碑	A区 東	(9)×(10)×(1)	0019-0042	側面平坦/表面平滑/表裏黒化
453	板碑	A区 西	(15)×(7)×1	0019-0043	二重枠
454	板碑	A区 西	(10)×(7)×(2)	0019-0044	上下断面敲打/表面磨痕
455	板碑	A区 西	(9)×(6)×1	0019-0045	一部磨痕ヵ
456	板碑	A区(Ⓐ?)	(9)×(8)×3	0019-0046	ケガキ線ヵ
457	板碑	A区 ㋑	(10)×(9)×1	0019-0047	表面黒化
458	板碑	A区 オチキワ	(23)×(15)×3	0019-0048	左側面潰れ(弧状成形ヵ)
459	板碑	A区 オチキワ	(18)×(11)×1	0019-0049	左下辺連続剥離→成形痕ヵ=非対称形/右側面角(節理ヵ)/左側面剥離
460	板碑	A区 オチキワ	(16)×(9)×1	0019-0050	側面平坦/裏面剥離ヵ
461	板碑	A区	(22)×(17)×(2)	0019-0051	断面敲打による潰れ(弧状成形ヵ)/磨痕
462	板碑	A区	(18)×(12)×2	0019-0052	表面磨痕/表裏スス付着
463	板碑	A区	(18)×(14)×(2)	0019-0053	二条線/断面敲打による潰れ
464	板碑	A区	(18)×(10)×3	0019-0054	裏面磨痕
465	板碑	A区	(12)×(9)×2	0019-0055	表面平滑/断面敲打による潰れ
466	板碑	A区	(11)×(6)×2	0019-0056	裏面磨耗ヵ
467	板碑	A区	(5)×(4)×1	0019-0057	表面赤化
468	板碑	B区 ㋺	(21)×(8)×(2)	0019-0058	断面敲打による潰れ/裏面タール付着
469	板碑	B区 ㋩	(13)×(11)×1	0019-0059	断面敲打による潰れ/抉り(狭)
470	板碑	B区 ㋥	(15)×(6)×(2)	0019-0060	二重枠/下断面敲打による潰れ/表裏スス付着
471	板碑	B区	(33)×(21)×(2)	0019-0061	中心線ケガキ
472	板碑	B区	(16)×(11)×2	0019-0062	断面敲打による潰れ(方形成形ヵ)
473	板碑	B区	(14)×(9)×2	0019-0063	側面平坦/表面平滑(磨痕ヵ)/磨痕(縦・横)/裏面スス付着
474	板碑	B区	(14)×(10)×1	0019-0064	裏面磨痕
475	板碑	C区 No.110	(17)×(14)×(2)	0019-0065	表面タール付着/裏面・断面黒化
476	板碑	C区 No.165	(15)×(11)×(2)	0019-0066	断面敲打による潰れ、剥離による抉れ、磨痕(縦)/表面平滑黒化/裏面磨痕赤化
477	板碑	C区 No.212	(19)×(11)×3	0019-0067	二条線/表面磨痕/表面・側面・断面黒化

第８表　石製品類一覧表８

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図№	遺物名	出土地点	縦×横×厚	遺物ID (606-0705)	備考
478	板碑	C区 №298	(32)×(14)×(3)	0019-0068	断面敲打による潰れ/磨痕/表裏・断面 赤・黒化
479	板碑	C区 1層	(9)×(10)×(2)	0019-0070	側・断面敲打ヵ(方形成形ヵ)/表面平滑
480	板碑	C区 中層	(6)×(8)×1	0019-0071	
481	板碑	C区 南 土塁	(18)×(9)×(3)	0019-0072	二重枠
482	板碑	C区 南 土塁	(7)×(5)×(1)	0019-0073	断面潰れ(半円形成形ヵ)/表・側面磨痕
483	板碑	C区	(17)×(14)×(2)	0019-0074	表裏磨耗・赤化
484	板碑	C区	(10)×(10)×2	0019-0075	断面敲打による潰れ/表裏スス付着
485	板碑	D区 4層 №14	(21)×(11)×(2)	0019-0076	表面平滑(磨痕)ヵ/側・断面敲打による潰れ/裏面スス付着
486	板碑	D区 2層	(20)×(9)×2	0019-0078	断面磨耗痕・敲打による潰れ
487	板碑	D区 2層	(10)×(6)×1	0019-0079	表面平滑
488	板碑	D区 2層	(10)×(9)×1	0019-0080	表面平滑
489	板碑	D区 3層	(6)×(6)×1	0019-0081	二重枠/裏面剥落ヵ
490	板碑	D区 4層	(9)×(4)×(1)	0019-0082	
491	板碑	用水	(9)×(4)×(1)	0019-0083	裏面磨痕
492	板碑	北	(15)×(19)×(2)	0019-0084	表面一部磨痕ヵ/表面黒化・裏面穴(径1cm-7mm)1
493	板碑	オチキワ	(14)×(9)×(1)	0019-0085	表面平滑/表裏・側面(縦)磨痕/裏面ガジリヵ
494	板碑	オチキワ	(12)×(8)×1	0019-0086	表面磨痕
495	板碑	オチキワ	(11)×(10)×1	0019-0087	裏面磨耗
496	板碑	オチキワ	(10)×(5)×1	0019-0088	二条線/裏面黒化
497	板碑	一括	(18)×(12)×2	0019-0089	左側面磨痕/右側面剥離による抉れ/裏面スス付着
498	板碑	一括	(18)×(8)×2	0019-0090	断面敲打による潰れ
499	板碑	一括	(11)×(12)×(2)	0019-0091	種子/法名に金泥/断面敲打による潰れ/表裏磨痕
500	板碑	一括	(12)×(11)×(2)	0019-0092	断面潰れ/表裏赤化
501	板碑	一括	(11)×(6)×1	0019-0093	表裏磨痕/断面抉り(狭)
502	板碑	一括	(8)×(7)×(2)	0019-0094	表面磨痕/断面敲打ヵ

第9表　石製品類一覧表9

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図№	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ (高さ)	遺物ID (608-0705-0019)	備考
503	五輪塔(水輪)ヵ	デイサイト	19堀中層 C区	(9.5)	(14.7)	7.2	0001	磨耗痕/タール付着
504	五輪塔(地輪)	デイサイト	1溝 A区	(10.4)	12.5	7.6	0002	磨耗痕/表面凹み敲打痕ヵ
505	五輪塔(火輪)	普通輝石安山岩	12井№10 C区	24.4	24.0	11.6	0003	屋根に梵字/黒色付着物(漆ヵ)/略完形
506	五輪塔(地輪)ヵ	デイサイト	8壙 A区№3	(9.8)	(10.4)	8.0	0004	磨耗痕/全面に弱い凹み磨耗痕/スス付着
507	五輪塔(水輪)ヵ	デイサイトヵ	A区東	(8.5)	(14.5)	(7.0)	0005	深い条線
508	宝篋印塔(基礎)	角閃石安山岩	6堀4層 C区№498、1堀5層 D区№352	(14.0)	(19.0)	(18.2)	0007	銘文あり
509	宝篋印塔(相輪)	角閃石安山岩	9堀中層 C区		11.0	(29.5)	0008	下面にホゾ/略完形
510	宝篋印塔(隅飾)	角閃石安山岩	A区オチキワ	(7.8)	(7.4)	(10.0)	0009	角面平滑
511	宝篋印塔(基礎)	角閃石安山岩	C区	(12.2)	(11.0)	(7.0)	0010	平面平滑/上側面平坦
512	宝篋印塔(隅飾)	角閃石安山岩	オチキワ	(3.9)	(4.1)	(3.6)	0011	上・正面平滑
513	石造物の基礎ヵ	角閃石安山岩	13堀 C区	(10.9)	(10.6)	(7.9)	0012	上面平坦
514	石造物の基礎ヵ	角閃石安山岩	22堀 B区	(9.5)	(13.1)	7.2	0013	上面平滑/角・下面磨痕/スス付着
515	石造物ヵ	凝灰岩	1建	(8.3)	(5.0)	(4.3)	0014	上面黒化
516	石造物ヵ	角閃石安山岩	C区	(4.0)	(6.2)	(4.5)	0015	
517	石造物ヵ	普通輝石安山岩	C区	(5.9)	(7.9)	(5.9)	0016	
518	石造物ヵ	角閃石安山岩	D区4層 №67	(8.4)	(3.5)	(2.8)	0017	上面平坦
519	石造物ヵ	デイサイト	一括	(8.5)	(9.0)	(5.5)	0006	磨耗痕
520	礎石ヵ		5CⅡ層 C区№2	29.5	15,5	11.3	609-0705-0019-0001	側面スス付着/重さ6,000g
521	礎石ヵ	閃緑岩	C区№174	35.5	19.5	11.5	609-0705-0019-0002	表面弧状に/上部側面スス付着/重さ11,000g
522	礎石ヵ	ホルンフェルスヵ	C区5C層	21.8	10.4	7.8	609-0705-0019-0003	表面赤化/割面・側面スス付着/重さ1,940g
523	礎石ヵ	ホルンフェルス	C区	18.5	12.7	7.0	609-0705-0019-0004	表面一部赤化/側面黒化/重さ2,150g
524	礎石ヵ	閃緑岩	D区4層№117	23.0	12.5	8.0	609-0705-0019-0005	表面・側面斑にスス付着/重さ2,500g

第10表　石製品類一覧表10

第２節　礫類

KB19区では、第１節で見た礎石ヵの他に、長さ１～30cm、重さ１～13,000gを計る多量の礫が、収納箱（27L入り）18箱分出土している。

用途は不明であるが検討資料として、遺構に伴う長さ約６cm以上のものについて個別に、長さ・幅・厚さ・重さ・特徴（第11・12表）を、遺構内の長さ約６cm以下のもの及び遺構外のものについては遺構・地区ごとに、点数・重さ（第13表）を一覧化した。

長さ約６cm以上のものは、使用痕が無く、欠損が無いもの（自然石とする）・割れているもの（割れ礫とする）である。割れ礫には主たるもの（母岩様）と剥片がある。主な特徴としては被熱により赤化・黒化・ススが付着するものがあり、割れた後の付着と付着後に割れたものがある。

堀からは44点出土しているが、平面分布では１・５～７・９・10・13・19・22・30堀で複数見られ、特に１堀で12点・６堀で９点と多い。１kgを超える重いものは１・６・７・９・10・13・19・22堀で出土する。特に大型で長さ30cm重さ13kgのものが１号堀５層で出土している。枕状の礫は６・19堀、１・２溝見られる。

第13表掲載の遺構内長さ約６cm以下のものと遺構外のものでは、総重量およそ１kgを超える堀は６堀・３壙である。地区ではＡ区27kg、Ｂ区13kg、Ｃ区42kg、Ｄ区17kgと、Ｃ区の出土量が突出している。

調査面積1,000㎡当たりの収納箱数（重さ10～20kg）は、KB１・３～５・７～14・17区で０～3.6箱、２・６・15区は4.1～4.5箱、10区は12箱・16・18区は７箱であったが、19区は9.8箱と多量であった。

No.	遺物名		石質	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	礫	割れ礫(剥)	泥岩	1堀7層 D区No.138	5.5	6.4	5.3	200	割→黒化
2	礫	割れ礫(剥)	角閃石安山岩	1堀6層 D区No.243	9.7	10.0	4.0	260	一部黒化
3	礫	割れ礫(剥)	片岩	1堀6層 D区No.341	9.9	7.0	4.6	230	
4	礫	自然石	チャート	1堀5層 D区No.182	30.0	24.0	14.2	13,000	片面平坦-磨石ヵ
5	礫	自然石	砂岩	1堀5層 D区No.345	9.4	6.9	1.6	180	扁平円礫
6	礫	割れ礫(剥)	ホルンフェルス	1堀5層 D区No.346	14.3	10.2	10.2	1,150	割→ス付着(平坦面)
7	礫	割れ礫(剥)	チャート	1堀5層 D区No.347	6.3	6.5	4.2	180	角礫
8	礫	自然礫	デイサイト	1堀5層 D区No.351	7.0	5.9	4.4	90	
9	礫	割れ礫(剥)	砂岩	1堀5層 D区No.373	13.8	9.3	3.9	560	
10	礫	割れ礫(剥)	ホルンフェルス	1堀5層 D区No.392	20.0	9.2	5.7	920	
11	礫	割れ礫(剥)	不明	1堀5層 D区No.403	14.7	9.3	9.5	1,220	
12	礫	自然石	安山岩	1堀5層 D区No.413	9.0	9.9	3.4	475	扁平/ス付着
13	礫	自然石	泥岩ヵ	5堀 C区	10.0	5.8	4.5	380	
14	礫	自然石	砂岩	5堀 C区	9.6	7.5	2.1	225	扁平円礫
15	礫	自然石	砂岩	5堀 C区	9.4	6.1	2.1	190	扁平円礫
16	礫	割れ礫(剥)	砂岩	5堀 C区	9.2	9.2	5.1	335	割→赤化
17	礫	割れ礫(剥)	不明	5堀 C区	9.9	7.7	5.1	330	
18	礫	自然石	不明	6堀4層 C区No.636	7.5	6.3	3.0	200	扁平円礫
19	礫	割れ礫(剥)	砂岩	6堀5層 C区No.499	9.5	6.1	1.9	140	扁平円礫
20	礫	自然石	砂岩	6堀6層 C区No.555	9.5	7.9	3.3	395	扁平/一部敲打痕ヵ
21	礫	自然石	石英閃緑岩	6堀6層 C区No.747	22.2	14.1	6.2	2,500	一部欠損/枕状
22	礫	割れ礫(主)	砂岩	6堀6層 C区	17.0	13.0	8.5	2,500	片面平坦/大型残欠
23	礫	自然石	角閃石安山岩	6堀7層 C区No.583	8.3	5.8	4.9	300	
24	礫	自然石	不明	6堀7層 C区	12.8	6.6	5.0	400	
25	礫	割れ礫(剥)	砂岩	6堀上部 C区	9.2	9.1	4.3	490	
26	礫	自然石	砂岩	6堀 C区	10.8	5.7	2.5	250	扁平
27	礫	割れ礫(主)	砂岩	7堀1層 C区No.812	13.2	12.1	5.0	1,140	片面平坦/一部黒化
28	礫	自然石	ホルンフェルス	9堀上層 C区	14.4	6.8	5.0	550	棒状
29	礫	自然石	ホルンフェルス	10堀下層 C区	9.5	9.5	3.8	480	扁平/ス付着
30	礫	自然石	チャート	10堀下層 C区	7.3	5.7	2.8	220	直方体
31	礫	自然石	角閃石安山岩	9･10堀埋土 C区	16.4	13.8	4.0	1,305	扁平円礫/一部ス付着
32	礫	自然石	緑色片岩	9･10堀埋土 C区	15.6	7.4	5.8	750	棒状
33	礫	割れ礫(主)	砂岩	13堀 C区	12.4	11.3	7.7	1,420	塊状/一部黒化
34	礫	割れ礫(剥)	不明	13堀 C区	11.1	10.3	10.0	1,140	赤化→割
35	礫	割れ礫(主)	ホルンフェルス	18堀埋土 C区	11.3	11.3	3.5	540	扁平円礫
36	礫	自然石	ホルンフェルス	19堀上層 C区	21.5	10.8	8.8	3,000	枕状
37	礫	自然石	ホルンフェルス	19堀上層 C区	12.2	8.8	5.3	770	

第11表　礫類一覧表１

No.	遺物名		石質	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
38	礫	割れ礫(主)	ホルンフェルス	19堀中層 C区	14.3	11.0	7.5	1,500	
39	礫	自然石	砂岩	22堀 B区㋑	9.0	6.5	3.0	260	扁平円礫/一部欠損
40	礫	自然石	砂岩ヵ	22堀 B区㋒	13.0	9.9	7.6	1,265	
41	礫	割れ礫(主)	砂岩	22堀 B区㋒	12.1	7.4	4.2	460	
42	礫	割れ礫(主)	砂岩	22堀 B区㋓	10.8	4.0	3.9	255	棒状
43	礫	割れ礫(剥)	安山岩ヵ	30堀埋土 B区㋕	8.3	5.0	5.0	240	塊状
44	礫	割れ礫(剥)	チャート	30堀埋土土塁 B区	9.5	4.5	5.6	300	塊状
45	礫	自然石	安山岩	1溝 A区	25.8	12.5	7.5	3,000	枕状/一部赤化
46	礫	割れ礫(剥)	砂岩	1溝 A区	9.3	11.2	7.4	780	
47	礫	割れ礫(剥)	砂岩	1溝 A区	12.0	10.2	6.1	720	
48	礫	割れ礫(主)	堆積岩	1溝 A区	12.4	8.3	5.6	740	
49	礫	割れ礫(主)	輝石安山岩	2溝 A区	17.0	11.5	7.1	1,805	枕状
50	礫	自然石	チャート	2溝 A区	6.8	6.4	5.2	290	塊状
51	礫	自然石	チャート	2溝 A区	6.8	6.4	4.2	260	塊状
52	礫	割れ礫(剥)	安山岩	4溝 C区	8.3	6.3	7.4	350	赤化
53	礫	割れ礫(剥)	花崗岩	4溝 C区	8.9	6.5	3.3	215	片面赤化
54	礫	割れ礫(剥)	チャート	10溝 A区	12.5	8.1	2.0	235	55と接合/板状
55	礫	割れ礫(剥)	チャート	A区西	9.5	11.6	2.3	300	54と接合/板状
56	礫	割れ礫(剥)	砂岩	20井 A区	7.0	11.5	7.3	670	
57	礫	割れ礫(剥)	不明	20井 A区	11.6	6.9	3.0	230	
58	礫	割れ礫(剥)	砂岩	20井 A区	10.0	6.0	2.6	165	
59	礫	割れ礫(剥)	砂岩	20井 A区	10.0	6.2	3.1	180	
60	礫	自然石	砂岩	24井 A区	11.0	8.4	2.5	480	扁平
61	礫	自然石	片麻岩ヵ	26井 A区	10.9	6.2	2.8	250	
62	礫	割れ礫(主)	ホルンフェルス	1壙 C区	16.0	13.8	7.0	2,000	割→赤化
63	礫	割れ礫(剥)	安山岩ヵ	1壙 C区	12.5	13.6	11.5	1,780	赤化→割/黒化
64	礫	割れ礫(主)	安山岩ヵ	1壙 C区	18.3	9.5	5.5	1,160	黒化→割
65	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	9.2	6.6	6.7	400	
66	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	7.7	5.5	5.0	250	
67	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	13.2	8.5	3.6	410	
68	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	12.8	8.0	3.3	410	
69	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	12.5	9.1	5.3	650	70･71と接合/割→赤化･黒化→割
70	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	19.0	8.5	7.5	910	69･71と接合/割→赤化･黒化→割
71	礫	割れ礫(剥)	安山岩	1壙 C区	8.3	6.2	5.1	330	69･70と接合/割→赤化･黒化→割

第12表　礫類一覧表 2

遺構	点数	総重量(g)	遺構	点数	総重量(g)	遺構	点数	総重量(g)
1堀	31	880	2井	1	10	A区	62	12,500
2堀	5	200	9井	2	30	A区西	32	12,000
4堀	2	150	12井	1	30	A区東	18	2,420
5堀	11	350	16井	1	140	A区㋑	6	250
6堀	42	1,240	20井	2	30	A区㋺	7	150
7堀	7	170	21井	2	30	A区㋩	2	250
9堀	4	330	23井	2	50	B区	25	3,480
10堀	9	380	1壙	5	690	B区㋩	7	1,000
12堀	4	410	3壙	27	1,250	B区㋥	21	1,150
13堀	5	60	4壙	2	20	B区㋕	12	1,240
15堀	6	140	5壙	1	10	B区㋑	20	1,280
17堀	4	150	10壙	1	5	B区㋒	34	3,050
19堀	5	390	12壙	1	85	B区㋓	16	980
21堀	3	260	17壙	1	5	B区㋬	11	600
22堀	6	330	1T	3	10	C区	152	34,200
29堀	1	50	2T	3	50	C区3C層	4	600
30堀	9	20	9T	12	470	C区5C層	38	860
1溝	20	360	10T	3	60	C区5CⅠ層	15	820
2溝	11	170	11T	21	310	C区5CⅡ層	22	5,080
3溝	6	50	15T	13	250	D区	191	16,500
7溝	2	50	20T	3	30	一括	511	42,000
7・9溝	1	20	22T	6	300			
9溝	3	60	1建	12	360			
10溝	1	100						

第13表　礫類一覧表 3

第３節　動植物遺体

（１）獣骨

ウマの歯が１号堀５層、12号井戸で出土した。

１堀５層　ウマヵ　臼歯　１本（破片）

６堀ハ７層　動物頭骨（イヌヵ）

12井　　ウマ　　臼歯　11本

（２）貝類

貝がＣ区で７破片（２個体分ヵ）出土した。

（３）種子

モモの種子や炭化した籾米などが出土した。

モモの種子

１堀３点／２堀１点／６堀３点／10堀１点／15堀１点／30堀５点／１壙１点／11壙１点／５Ｃ層１点／Ａ区４点／Ｂ区　ニ４点・ヘ２点・ト３点・チ10点・リ２点・１層１点・Ｂ区一括２点／Ｃ区16点／Ｄ区１層２点／２Ｔ中層１点／15Ｔ２点／19Ｔ１点／19区一括２点

他に不明種子　13堀１点／マツカサ　30堀１点／クルミ　Ｂ区ニ１点・一括１点／ウメ　Ｄ区一括１点

炭化種子

籾米やヒエアワ、ムギが１・６・15号堀及び４号土壙、Ａ区ピット・東で出土したが、総量ではなく可能な限りサンプル的に採取したものと思われる。

籾米は１・６号堀、４号土壙、Ａ区ピット・東で561.3g出土したが特に６号堀出土が482.1gと多量である。

塊に炭化藁が付着するものがあり、カマス等に貯蔵したものと思われる。

ヒエアワは判別が不能で一括呼称とした。６・15号堀で94.9g出土したが、やはり６号堀出土が74.9gと多量に出土した。籾米同様、塊に炭化藁が付着するものがある。

法量の単位はｇ

遺構	細別	籾米	ヒエアワ	籾米・ヒエアワ	籾米・ムギアワ
１堀	下層	32.5			
６堀	５層	10.1			
	６層	25.4			
	７層	219.0	3.3		27.6
	８層	57.3			
	９層	33.3			
	ニ	137.0	71.6	44.2	81.1
６堀合計		482.1	74.9	44.2	108.7
15堀			20.0		
４壙		2.9			
Ａ区	ピット	20.7			
	東	23.1			
合計		561.3	94.9	44.2	108.7

第14表　炭化種子一覧表

炭化物

種子同様サンプル的な採取だが、木や竹などの炭化物が出土した。

１堀 3.7g／５堀 0.6g／６堀 0.7g／10堀 23.8g／15堀 3.1g／１溝 2.5g／１建 2.2g／７Ｐ 2.5g／３Ｃ層 2.1g／５Ｃ層 30.6g／１Ｔ 15.2g／３Ｔ 0.8g／Ａ区 13.5g／Ｂ区 5.8g／Ｃ区 54.8g／Ｄ区 3.4g ／一括 13.7g

石炭ヵ

５Ｃ層より黒色で堅緻、割れ面に光沢がある黒色塊40.3gが出土。

第Ⅴ章　出土遺物補遺

第17集で報告したが、遺漏があったので追加する。

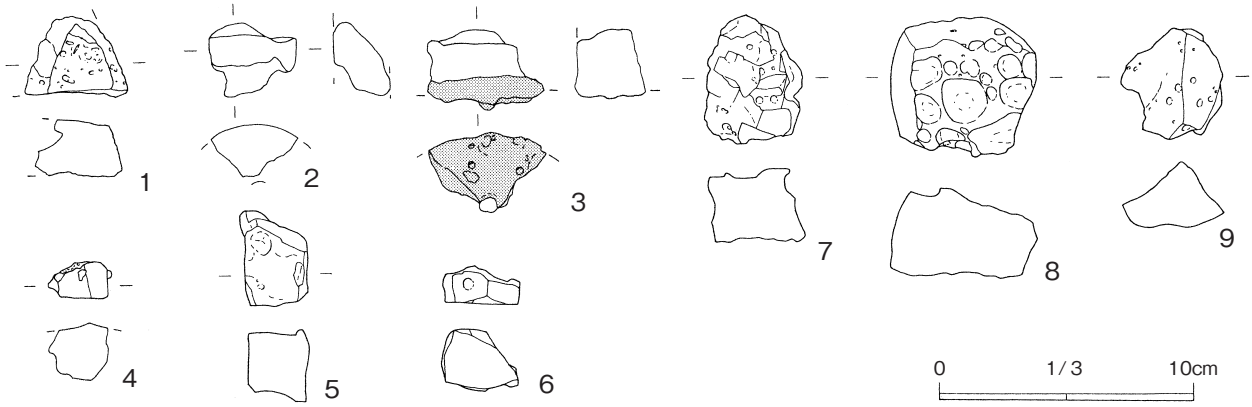
第１節　瓦

１は、被熱により発泡している。以下に遺漏分を加え、総重量を示す。22堀170g、24堀60g、30堀250g、１号建物跡で122.1kg（27ﾘｯﾄﾙ入 箱10.5箱）、20井19.5kg、21井16g、22井7.1kg、13溝240g、Ａ１区西3.5kg、Ａ１区東1.7kg、Ａ区道路分イ～ハ7.4kg、Ａ区落際4.4kg、Ｂ区18.1kg、Ｃ区2.3kg、Ｄ区420g、一括41kg（２箱）である。

第２節　金属の生産

【鞴の羽口】（２・３）細片だが２はホドに近い部分、一部黒化。３はホドの熔融部と思われ、黒色で光沢がある。

【金属加工滓】（４～９）中実で、比較的比重の重いものを図化した。４は上面熔融発泡・正面平坦。５は正面平滑で黒褐色の光沢あり、他面は割れる。６は熔融・発泡し鈍い光沢がある。７・８は凝灰質岩のようで大小の発泡痕がある。９は黒色で上面は熔融し他面は割れる。



第49図　出土遺物補遺１（瓦・羽口・滓）

図№	器種	産地	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID	備考
1	土器･瓦	在地	一括	3.2	4.1	2.3	瓦41	
2	土器･鞴の羽口	在地	1堀 Ｄ区	3.0	-	2.0	素他75	
3	土器･鞴の羽口	在地	15堀 Ｃ区	3.3	-	3.1	素他76	
4	金属加工滓	在地	Ｄ区 1層	1.5	2.5	2.3	鋳08	重さ12.6g/磁着あり
5	金属加工滓	在地	Ｂ区	2.5	3.1	1.5	鋳03	重さ17.6g/磁着あり(弱)
6	金属加工滓	在地	用水	5.1	4.0	3.0	鋳04	重さ79.7g/磁着あり(微弱)
7	金属加工滓	在地	用水	5.5	5.8	3.6	鋳05	重さ146.3g
8	金属加工滓	在地	用水	4.4	4.1	2.6	鋳06	重さ44.4g
9	金属加工滓	在地	用水	3.7	2.6	2.9	鋳07	重さ62.3g/磁着あり(弱)

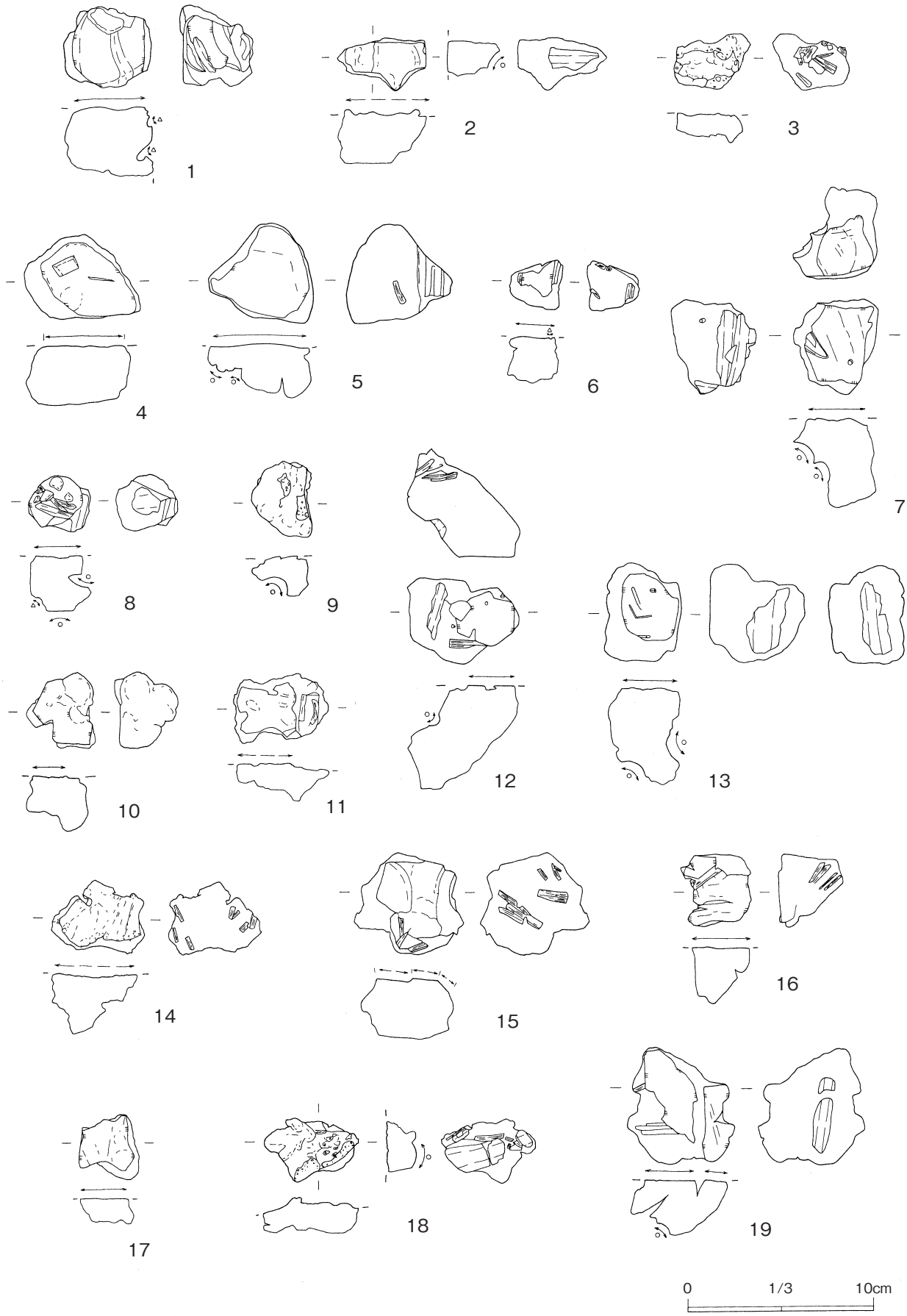
第15表　出土遺物補遺１（瓦・羽口・滓）

第３節　土壁片

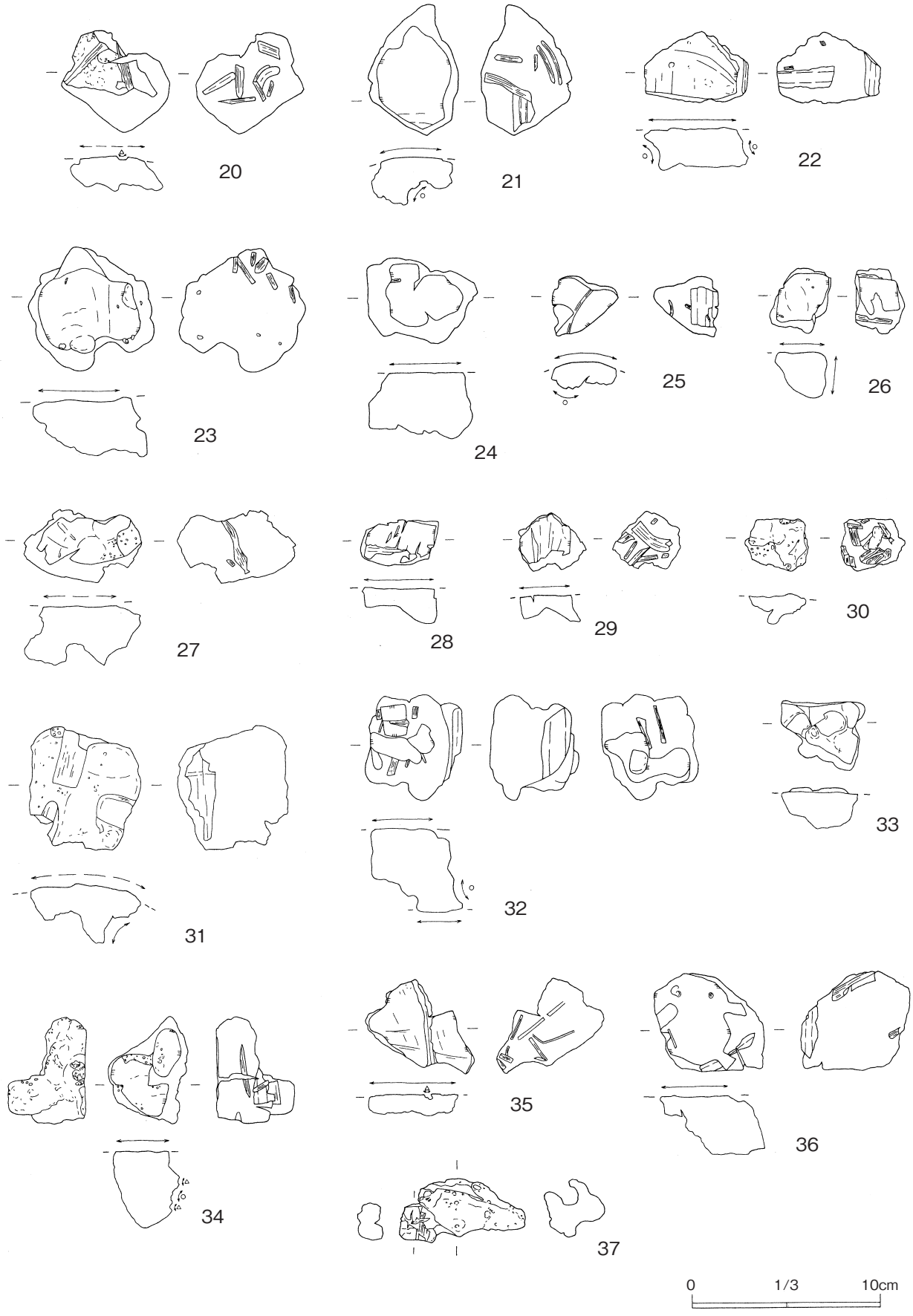
10堀・１溝・25井・１号建物、Ａ・Ｃ・Ｄ区、一括出土のものである。

№37以外は平坦面を有する。器厚が厚いものは12・13で5.2～5.9cmを計る。前回報告に比べ高熱を受けたものが多い。堅緻で指に引っかかる肌を持つものは２・３・７～12・14・20・28・29・35・36で、さらに高熱で熔融するものは３・27・30、膨らむものは９・10・14・18・31・34、発泡するものは31・34・37である。

総重量は遺漏分を合わせると、１堀168g、７堀５g、10堀120g、19堀55g、22堀10g、１溝25g、２井５g、25井100g、１建219g、５Ｃ層15kg、Ａ区3.4kg、Ｂ区45g、Ｃ区1.5kg、Ｄ区300g、一括495gである。



第50図　出土遺物補遺２（土壁片１）



第51図　出土遺物補遺３（土壁片２）

法量の単位はcm

図No.	器種	産地	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID	備考
1	土器・土壁片	在地	10堀中層 C区	4.4	4.8	4.0	素他54	2面平坦(3面ヵ)/正面・下面 溝状凹み・粘土状貼付き/右側面ワラ稈痕(径5㎜)2ヶ所・(径1㎜)1ヶ所/下面平坦ヵ/淡橙～灰色、焼けやや不良
2	土器・土壁片	在地	A区 1溝	2.8	4.8	3.0	素他61	平坦+竹/正面ほぼ平坦・稜あり/裏面竹稈痕/割面ワラ繊維痕/赤化(橙色)、堅緻に焼ける
3	土器・土壁片	在地	A区 1溝	3.0	4.2	1.9	素他62	平坦/正面凸凹あり・高熱熔融/裏面ワラ繊維痕/赤化、堅緻に焼ける
4	土器・土壁片	在地	A区 25井	4.5	6.2	3.2	素他77	平坦/正面平坦・粘土粒子付着/全面赤化(橙色)、ほぼ良く焼ける
5	土器・土壁片	在地	A区 1建	5.5	5.7	2.9	素他55	平坦+竹/正面平坦わずかな凹凸/裏面竹稈半蔵内面痕(かまぼこ状)・ワラ繊維痕/橙～灰白色、焼けやや不良
6	土器・土壁片	在地	A区 1建	2.7	2.8	2.5	素他56	平坦+ワラ/正面平坦・ワラ稈痕/裏・割面ワラ稈痕・ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、良く焼ける
7	土器・土壁片	在地	5C層 C区 16T	5.2	4.6	5.0	素他57	平坦(2面ヵ)+竹/正面平坦・ナデ痕・凸凹あり・ワラ稈痕/右割面竹稈痕2ヶ所/下割面竹稈痕1ヶ所/上面平坦ヵ凹・荒いナデ痕ヵ/全面赤化(橙色)、堅緻に焼ける
8	土器・土壁片	在地	5C層 C区 16T	3.1	3.4	3.0	素他59	平坦+竹/正面平坦・粘土粒付着・ワラ繊維痕/裏面竹稈痕・ワラ稈痕/割面竹稈半蔵痕/全面赤化(橙色)、堅緻に焼ける
9	土器・土壁片	在地	5CⅠ層 C区No.243	4.1	3.3	2.2	素他74	平坦+竹/正面平坦/裏面竹稈痕/全面高熱により膨らむ/黒～赤黒色/堅緻に焼ける
10	土器・土壁片	在地	5CⅡ層 C区No.330	4.2	3.7	3.1	素他73	平坦/正面平坦・高熱により膨らむ/割れ面高熱により膨らむ・ワラ繊維痕・穴(ワラ稈痕)/黒～暗赤灰色、堅緻に焼ける
11	土器・土壁片	在地	5CⅡ層 C区	3.8	5.1	2.1	素他58	平坦/正面平坦荒れる・ワラ繊維痕/裏面ワラ繊維痕/全面にぶい橙色、堅緻に焼ける
12	土器・土壁片	在地	D区4層 No.22	4.7	6.1	5.9	素他51	平坦/正面平坦・ワラ痕(穴)/割面竹稈痕・ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、堅緻に焼ける
13	土器・土壁片	在地	D区3層	5.3	4.2	5.2	素他53	平坦+竹/正面平坦・ワラ稈痕(穴)/右割面・裏面竹稈痕/表面褐灰色/裏面橙色、焼けやや不良
14	土器・土壁片	在地	A区9T	3.8	4.6	3.3	素他60	平坦/正面平坦・ナデ痕・高熱により膨らむ/裏面ワラ繊維痕/赤化(赤橙色)一部黒化、堅緻に焼ける
15	土器・土壁片	在地	A区㋑	5.6	5.8	3.4	素他40	平坦+ワラ/正面凸凹・ナデ痕・ワラ繊維痕/裏面ワラ繊維痕/ほぼ良く焼ける
16	土器・土壁片	在地	A区東	3.9	3.8	3.5	素他43	平坦+ワラ/正面ナデ痕・ワラ稈痕/右割面ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、良く焼けひび割れる
17	土器・土壁片	在地	A区東	3.6	3.3	2.1	素他45	平坦/正面平坦・ナデ痕/裏面ワラ繊維痕/全面灰～橙色、焼けやや不良
18	土器・土壁片	在地	A区西	3.5	5.1	1.7	素他44	平坦+竹/正面平坦・高熱熔融により膨らむ・ワラ繊維痕/裏面竹稈痕・ワラ繊維痕/赤化、堅緻に焼ける
19	土器・土壁片	在地	A区	6.4	5.8	3.0	素他41	平坦+竹/正面平坦・ナデ痕・ワラ痕・ワラ繊維痕/裏面竹稈痕/やや良く焼ける
20	土器・土壁片	在地	A区	5/5	5.8	2.0	素他42	平坦+ワラ/正面平坦・高熱による鮫膚状・ワラ稈痕/裏面繊維痕/堅緻に焼ける
21	土器・土壁片	在地	A区	7.0	4.4	2.6	素他52	平坦/正面凸平坦・ナデ痕/裏面芽溝・ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、やや良く焼ける
22	土器・土壁片	在地	C区	3.8	5.6	2.2	素他46	平坦+竹/正面平坦・荒いナデで凸凹残る/両側面・裏面竹稈痕(木舞)/裏面ワラ繊維痕/全面にぶい橙～褐灰色、良く焼ける
23	土器・土壁片	在地	C区	6.6	6.6	3.2	素他47	平坦/正面平坦・ナデ痕・粘土瘤/全面ワラ痕(穴)/裏面ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、焼けやや不良
24	土器・土壁片	在地	C区	4.6	5.9	3.5	素他48	平坦/正面平坦/全面ワラ痕(穴)/正・裏・割面ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、やや良く焼ける
25	土器・土壁片	在地	C区	3.2	3.5	1.5	素他49	平坦+竹/正面凸平坦・ワラ繊維痕/裏面竹稈痕・ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、良く焼ける
26	土器・土壁片	在地	C区	3.5	3.2	2.6	素他50	2面平坦/整形雑凸凹あり/正面ワラ痕(穴)/右側面・割面ワラ繊維痕/全面赤化(橙色)、良く焼ける
27	土器・土壁片	在地	一括	4.0	6.3	3.2	素他63	平坦/正面平坦凸凹あり/割面高熱熔融/裏面ワラ繊維痕/赤化(橙色)一部黒化、堅緻に焼ける
28	土器・土壁片	在地	一括	2.5	4.2	2.0	素他64	平坦/正面平坦凹む・ナデ痕・割れ目/裏面ワラ繊維痕/赤化(赤褐色～橙色)、正面のみ堅緻に焼ける
29	土器・土壁片	在地	一括	3.1	3.6	1.5	素他65	平坦/正面ほぼ平坦・ナデ痕/裏面ワラ繊維痕/赤化(橙色)、堅緻に焼ける
30	土器・土壁片	在地	一括	2.8	3.4	1.1	素他66	平坦/正面凸凹あり・高熱熔融/裏面ワラ繊維痕/灰白色一部黒褐色、堅緻に焼ける
31	土器・土壁片	在地	一括	6.6	6.0	3.5	素他67	平坦+竹/正面凸凹あり・高熱により膨らむ・ワラ他繊維痕・穴(植物稈)/裏面竹稈痕・ワラ繊維痕/赤化(橙～赤褐色)、堅緻に焼ける
32	土器・土壁片	在地	一括	5.7	5.2	4.8	素他68	2面平坦/正面・裏面 平坦・粘土瘤付着・ワラ繊維痕/右割面竹稈痕/赤化(橙色)、良く焼ける(粉っぽい)
33	土器・土壁片	在地	一括	3.7	4.5	3.3	素他69	平坦/正面平坦・粘土瘤付着/裏面ワラ稈痕/一部黒化、良く焼ける
34	土器・土壁片	在地	一括	5.8	4.3	4.2	素他70	平坦+竹ヵ/正面平坦・高熱により膨らむ/割面竹稈痕ヵ・ワラ繊維痕・高熱により膨らむ/赤褐色～黒色、堅緻に焼ける
35	土器・土壁片	在地	一括	5.1	5.8	1.2	素他71	平坦/正面やや平坦・ワラ稈痕・縦横ナデ痕/裏面ワラ繊維痕/赤化(浅黄橙色)、堅緻に焼ける
36	土器・土壁片	在地	一括	5.3	4.9	3.2	素他72	平坦+竹/正面平坦・ワラ痕(穴)・ワラ繊維痕/裏面竹稈痕・ワラ稈痕・ワラ繊維痕/赤化(橙色)、堅緻に焼ける
37	土器・土壁片	在地	一括	3.5	6.7	3.3	素他78	全面被熱により発泡・熔融・ワラ繊維痕

第16表　出土遺物補遺2 （土壁片）

第Ⅵ章　調査概要と検出された遺構

第１節　調査概要

調査期間　　平成３年３月１日～平成４年８月26日
調査面積　　1,995㎡
調査の経過

KB15区の西に位置する調査区をKB19区とした。当調査区は、江戸初期の絵図では城郭部と城郭と武家屋敷を分ける南の堀北側に相当する。調査区は区画整理道路となる東西方向のＡ・Ｂ区、南北方向のＣ区でＴ字形である。Ｃ区北東のＤ区及びＡ１区・Ａ２区は保留地となる。Ａ区道路分・Ｂ区は幅4.5ｍ・長さ86.5ｍで西端は幅２ｍ程度となる。Ａ１区は24×12ｍ・Ａ２区は５×13ｍで、Ｃ区道路分は幅９～6.5ｍ長さ78ｍ、Ｄ区は現況１ｍほど高い地点で14×８ｍである。

掘り下げは、確認面まで浅く表土から人力により行った。遺構確認面はローム層とした。Ａ区道路分・Ｂ区は南に境界ブロック塀が巡るため倒壊防止のため１ｍ程掘り残した。Ｃ区北側では現下水配管のため３ヶ所ベルトを残した。

調査の迅速化及び土層堆積状況確認のため必要に応じトレンチを設定し掘り下げた。特にＡ・Ｂ区では南に落ち込むローム確認のため７～10・14・21Ｔを、９Ｔ西側で灰色硬質層を追うため12・13Ｔを掘り下げ、５～15cmほど堆積することを確認した（調査者：土塁基底部の可能性）。Ｃ区南側を40cm掘り下げたところで下層を探るため東端南北方向に１Ｔ、東西方向に２～５Ｔ、ロームの落込確認のため６Ｔ設定し掘り下げた。

Ｃ区では堀上位の基本の層位を１層暗灰褐色土（テフラを多く含む）、２層暗灰褐色土（テフラ・鉄分粒子を多く含む）、３層炭化物層（３Ｃ層）、４層暗灰褐色土（テフラ多量・鉄分粒子少量）とした。

16・19堀周辺では３Ｃ層が平面半円形に広がり、６堀周辺では４層下に炭化物（Carbon）層が平面半円形に堆積することから５Ｃ層と命名したと思われる。

６号堀南付近に堆積する５Ｃ層から土器類・金属製品・炭化椀・焼土壁が出土した。

６号堀は延長が長くベルトにより分割されたためイ～ニに分けて遺物を取り上げた。イ～ハとニの層位は一致しないので遺物出土層位の対比は注意を要する。

排土置場が確保できたため、ほぼ全面を同時に調査した。降雨による滞水・湧水などが調査の支障となるため、Ｂ区南側・Ｃ区西側に側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。

遺物の取り上げ・遺構の図化については調査区全体を平板測量により、各遺構を任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。遺物分布図を作成したものは、堀は１・６・７堀のみ、他に５Ｃ層である。

調査区全体の写真撮影は、調査区が広くセスナ機により行い、その後脚立により完掘写真を撮影した。基準点は平成３年９月に隣接する中央公民館に所在する遺跡原点より測量し、グリット杭を設置した。

周辺の調査（第52図）

東に騎９・10・12次、KB14・15区、西に騎13・15次がある。騎９・10・12次、KB14・15区は五ノ丸とその東及び南の堀で、障子堀である。14・15区の障子堀はローム確認面より１ｍ程低いレベルに平面方形・長方形等の掘り込み（『堀』）が整然となされる。14区では武家屋敷との堀幅南北48ｍのもの、15区では東西40ｍの堀幅で橋脚跡を検出した。五ノ丸際の『堀』からは兜・轡・薙鎌の武器武具や漆椀・桶・陶磁器類など生活用具、炭化籾米などが出土した。10次では、19区９号堀につながる障子堀が確認されている。城内の施設は不明だが９・12次、15区で井戸状遺構が所在した。15次では当調査区の堀につながる堀底が、13次では天神曲輪造成前の障子堀が確認されている。

Ｃ区南半分に西接するエリアを試掘した際、天神曲輪東縁を確認し、五ノ丸との間の堀幅東西約25ｍを想定できる。

Ｂ区西端に北接する市指定史跡騎西城土塁跡は、

唯一遺る城の地上構築物で、B区に沿って東西に構築された土塁の一部である。騎西町史編さんに伴う試掘調査で、ローム層と暗灰褐色土を互層に積み上げた状況を確認し、下幅10m以上高さ３m以上と想定した。

第２節　遺構と遺物

接合した土器類で17集では他遺構に図を掲載したもののうち重要と思われるものは当該遺構にも記述した。（アンダーライン）

【堀状遺構】

本遺構は、道路分調査区ほぼ全体を占め、東西方向87mに亘る22号堀以外は１基ずつ30まで命名したが、欠番・分割により総数27である。堀という名称の適否や、命名順、命名法が不規則であるが、遺物の取り扱いなどの混乱を防ぐため本報告では、調査時のままとする。堀はおよそ北から順に命名した。

エレベーション図は、必要に応じて平面図及びレベルより推定復元した。断面形や名称については堀凡例（第56図）参照。階段を想定できる堀底面から確認面までの平坦面の各段の高さを段高とし、下位の段より順に＋○cmとする。

セクション・エレベーション図の遺物分布は、平面図およびレベル計算により落とした。ただし、遺構より外れるものは平面上場からの距離とした。本文・既報告の遺物出土層位は遺物取上台帳によるが、レベル計算のものとほぼ齟齬はない。

埋土は、平場を造成するため杭列に板などを立て埋め立てた際の埋めた土と思われ、堀の覆土上層及び確認面より上位の層である。

平面形は長方形（幅狭・幅広）・方形など多様な形態を呈する。19区の『堀』４隅には谷線が表現されていないが、写真で確認すると丸みのあるものもあるが14・15区とほぼ同様に谷線を想定できる。

１号堀　D区に位置する。平面長方形としたが長い溝状か。南北方向に走行する。屈曲し６号堀と接続するか。規模は1,400cm（残存）×550cm、深さ☆155cm、断面は箱薬研形である。底面南寄りに上幅80～100cm下幅170cm高さ45cmの畝状遺構を掘り残す。東西法面にピット２基、小ピット３基が検出された。調査者は５層（粘質層。６堀４層に相当か）以下を１号堀覆土とする。１層は表土で、１～４層はD区包含層として取り上げた。遺物分布図は土器類・木製品を図化した。

遺物は、５層で龍泉窯系青磁碗（土１）・中国白磁皿（土２＝16c末～17c・３＝15c～16c）・常滑ヵ甕（土４）・瀬戸美濃織部黒沓形茶碗（土５＝17c初＊90％遺存）・同志野丸皿（土６＝17c初＊95％遺存／D区４層と接合・土７＝17c初＊85％遺存／C区１層＋KB15と接合）・同菊皿（土８＝17c初＊100％遺存・D区４層と接合）・同織部皿（土９＝17c初）・同青織部汁注（土10＝17c初／D区１～５層と接合）・唐津向付（土11）・初山天目（土12＝16c後／D区２層と接合）・かわらけ（土13～18＊13＝100％・14～18＝70％以上遺存）・ほうろく（土19）・土製円盤（土779）・漆椀（木31～33）・丸棒材（木120）・粉挽臼（石１・２・４・５・７）・茶臼（石３・６）・石製円盤（石130～144）・円形石製品（石226）・方形石製品（石234）・砥石（石250・289）・火打石（石401）・板碑（石411・412）・宝篋印塔（石508／６堀４層と接合）・ウマの歯が出土した。

６層で瀬戸美濃天目（土20＝16c）・同小皿（土21）・同徳利（土22）・かわらけ（土23～26＊23＝85％・26＝60％遺存）・ほうろく（土27・28）・弾丸（金95）・銭貨（金110～114）・粉挽臼（石８～12）・三角形石製品（石230）・打割礫（石247・248）・板碑（石410）が出土した。

７層で龍泉窯系青磁碗（土29＝13c末～14c初）・同青磁盤（土30）・常滑甕（土31）・かわらけ（土32～37＊32＝80％・33＝50％・34＝60％遺存）・ほうろく（土38）・土壁片（壁１）・桶側板（木８～12）・漆椀（木34～38）・将棋の駒（木99）・木槌（木101）・磨石（石331）が出土した。

８層で在地擂鉢（土39＊60％残存・40）・桶底板（木13）・白木皿（木39）・漆椀片（木40）・位牌の台座（木102）・成形礫（石243）・砥石（石290）が出土した。

下層で炭化籾米が32.5g出土した。

１号堀一括で中国白磁皿（土41＝15c～16c）・同

染付皿（土42＝16c中）・瀬戸美濃碗形鉢ヵ（土43）・同擂鉢（土44＝16c後）・同ひょうそく（土45＝19c後＊50％遺存）・煙管（金59）・銭貨（金115）・硯（石112）・石製円盤（石145～147）・火打石（石402）・鞴の羽口（補羽２）・土壁片168g・モモの種子３点・炭化物3.7gが出土した。

☆セクション図によるレベル分布では、取り上げ時の層名のとおりほぼ収まる。ただし、土２は台帳５層・レベル分布は６層、土28は台帳６層・レベル分布は８層と不一致で台帳記入の誤りか。木101は台帳７層だが平面分布から８層が適切。また、５層出土漆器３点はレベル分布ではおよそ５′層に入る。

２号堀　Ｃ区北端に位置し４号堀と並ぶ。平面長方形ヵ。北側は調査区外。規模は445㎝×202㎝（残存）、深さ32㎝と非常に浅く３・４・５号堀も同様。浅すぎて掘りづらいと思われ上位より（新規に表土から）掘り下げたかものか。断面は緩やかに立ち上がる。

遺物は、土器類は何れも小破片である。中国染付碗（土46＝17c初）・瀬戸美濃天目（土47）・同織部徳利（土48＝17c初／Ｃ区１層＋Ｄ区１層＋２層と接合）・かわらけ（土49）・石製円盤（石148）・モモの種子１点が出土した。

３号堀　Ｃ区北に位置する。平面長方形、西・北側は調査区外。規模は664㎝（残存）×270㎝（残存）、深さ21㎝と浅い。断面は緩やかに立ち上がる。

遺物はかわらけ（調査時メモ）が出土した。

４号堀　Ｃ区北に位置し２号堀と並ぶ。平面長方形としたが、南西部は攪乱され南の５号堀の形状から弧状の可能性がある。規模は654㎝×406cm、深さ23㎝と浅い。断面は緩やかに立ち上がる。

遺物は、中国白磁皿（土50）・常滑片口鉢（土51＝1350～1400）・肥前刷毛目碗（土52＝17c後／３壙と接合）・かわらけ（土53＊80％遺存）・土鍋（土54）・在地捏鉢（土55＝14c後）・石製円盤（石149）が出土した。

５号堀　Ｃ区北に位置する。平面不整長方形、北東部は弧状に窪む。西側は調査区外。規模は875㎝（残存）×524㎝、深さ15㎝と浅い。断面は緩やかに立ち上がる。

遺物は、瀬戸美濃丸皿（土56＝16c中・後）・同鉄絵皿（土57＝17c初）・同黄瀬戸大皿（土58＝17c初～後）・同擂鉢（土59・60＝共に17c初）・唐津鉄絵皿（土61＝16c末～17c前＊70％遺存）・かわらけ（土62＊90％遺存）・石製円盤（石150～155）・砥石（石291）・磨石（石332）・板碑（石413・414）・金属加工滓42.1g・炭化物0.6gが出土した。。

６号堀　Ｃ区北～中央北に位置する。溝状で平面Ｌ字形と屈曲し１号堀と接続するか。規模は2,100㎝×460㎝、深さ114㎝で、幅は１号堀と比べやや狭いが深さはほぼ同じ。断面は箱薬研形である。東西方向堀の底面に上幅70㎝下幅175㎝高さ55㎝の畝状遺構を掘り残す。調査者は当初２層も６堀として取り上げたが、後に４層以下を６号堀とする。また、６号堀は長いためイ～ニに分割して遺物を取り上げたものが多い。遺物分布図は土器類・木製品を図化し、レベル分布はイロハをセクション図Ｃラインに、ニをＢラインに落とした。

レベル分布図で土67と木18は外れるため削除した。

○層位の対応関係

イ～ハとニは５層以下では取り上げ層位がずれるものがある。順にイ～ハ５層、イ～ハ６層＝ニ５層、イ～ハ７層＝ニ６層、イ～ハ８層＝ニ７層、イ～ハ９層、ニ８層となる。

遺物は、２層（６堀外）で瀬戸美濃擂鉢（土63＝15c末～16c前）・同天目（土70＝16c後）・唐津鉄絵鉢（土71＝16c末～17c前／KB15と接合）・同沓型碗（土73＝16c末～17c前）・在地擂鉢（土64／４層＋５層＋６層と接合）・石製円盤（石156）・成形礫（石244）が出土した。

○ハ４層で中国染付皿（土74）・瀬戸美濃織部向付ヵ（土75）・唐津鉄絵皿（土76＝16c末～17c前＊50％遺存）が出土した。いずれもセクションから離れているためか☆レベル分布図では３層に入る。

○４層で宝篋印塔（石508／１堀と接合）が出土した。

○イ～ハ５層で龍泉窯系青磁碗（土65）・中国白磁皿（土77）・瀬戸美濃端反皿（土78・79＝共に15c末～16c前）・同擂鉢（土80＝16c後）・同尊式花瓶（土81）・かわらけ（土82～87＊82＝60％・85＝50％・

87＝100％遺存）・ほうろく（土88～91／88＝７層と接合、89＝５ＣＩ層と接合、91＝９・10堀＋13堀と接合）・在地擂鉢（土64・92／６層ニと接合・93／６層ニ＋７層と接合）・桶側板（木14～16）・漆椀（木41）・銭貨（金116・117）・粉挽臼（石13・14）・硯（石113）・磨石（石333）・板碑（石415～417）が出土した。☆レベル分布図では土80・82・83・85・87・91は４層に、木16は７層に入る。

○イ～ハ６層でかわらけ（土94～97＊95・96＝100％・97＝95％遺存）・在地擂鉢（土64）・板材片（木121）・粉挽臼（石15）・石製円盤（石157・158）・砥石（石251）が出土した。☆レベル分布図では土64・94・95は４層に入る。

○イ～ハ７層で瀬戸美濃擂鉢（土98＝15c後）・かわらけ（土66）・ほうろく（土88・99）・在地擂鉢（土100）・漆椀（木42・44・45）・白木高盤ヵ（木43）・角材（木122）・板材片（木123）・粉挽臼（石20・21）・硯（石115）・磨石（石334）が出土した。☆レベル分布図では土66・88・98～100・木44・45は８層である。木44は台帳８層。

＝ニ６層で中国染付皿（土105＝16c中）・瀬戸美濃丸皿（土106・107＝共に16c中・後）・かわらけ（土108～111＊109＝70％・111＝60％遺存）・在地擂鉢（土92・93・112～114／113・114＝７層と接合）・粉挽臼（石16・18・19／16＝９堀と接合、19＝10堀と接合）・茶臼（石17）・硯（石114）・砥石（石252）・板碑（石419）が出土した。

☆土105・108・109はレベル分布図では２・４層に入る。平面分布位置から支持できる。土93・110・111・113・114はニ５層に入る。

○イ～ハ８層でかわらけ（土67＊95％遺存・土101＊50％遺存）・鍋敷板ヵ（木７）・樽側板（木17）・桶側板（木18）・漆椀（木46～51）・漆器（木90）・脚付円形板（木97）・柄ヵ（木105）・板状製品（木106）・薙鎌ヵ（金41）が出土した。☆レベル分布図では木51・97は９層に入る。

＝ニ７層でかわらけ（土115＊60％遺存）・ほうろく（土116）・桶側板（木21）・漆椀（木54～59）・板状製品（木96）・羽子板（木98）・呪符（木103）・角材状製品（木109）・角材片（木125）・板材片（木126）・粉挽臼（石22）が出土した。

○７層で瀬戸美濃入子（土117）・唐津向付（土118）・かわらけ（土119）・ほうろく（土120＊50％遺存）・在地擂鉢（土93・113・114）・下駄（木１）・漆塗容器ヵ（木91）・板状製品（木117）・板材片（木127）・粉挽臼（石23）・搗臼（石24）・磨石（石335）が出土した。木117は台帳８層。木１・９はニ７層ヵ。Ｂラインのセクションレベルを崩した際に出土したものを含む。

○ニ８層で白木皿（木60）・漆椀（木61～64）が出土。

○イ～ハ９層でかわらけ（土68＊100％遺存・102）・桶板（木19・20）・漆椀（木52・53）・小角材（木107）・板材片（木124）が出土した。

下層で円形状製品（木108）が出土した。（台帳では５層）。

上部（１～４層ヵ）で瀬戸美濃平碗（土121）・同丸皿（土122）・同梅文皿ヵ（土123）・唐津向付（土124）・煙管（金63）が出土した。

６号堀一括で中国白磁皿（土103）・同白磁壺（土125）・同染付碗（土126）・常滑甕（土104）・瀬戸美濃天目（土69）・同煙硝擂（土72）・同青織部向付（土127）・唐津向付（土128）・志戸呂皿（土129）・板状製品（金97）・硯（石116）・石製円盤（石159・160）・磨石（石336）・板碑（石418）・モモの種子３点・炭化物0.7gが出土した。炭化種子は詳細を第３節で記述したが、５～９層で籾米、ヒエアワ、ムギが総量709.8g出土した。

７号堀　Ｃ区中央北に位置し８号堀と並ぶ。平面南北に長い長方形、規模は512㎝×314㎝、深さ120㎝、断面は下突箱薬研形である。南東谷に楕円形土壙を設ける。２号井戸・１号土壙と重複する。７号堀と８号堀の間は周囲確認面より10cm程度低い平坦面（落込）となっている。また、東側は北側より50cmほど高いテラスとなっている。

遺物は、１層でかわらけ（土130・131＊95％遺存）・ほうろく（土132）・粉挽臼（石25）が出土した。

２層で瀬戸美濃擂鉢（土133）・かわらけ（土134～156＊136～138・143・144・147・148・150・

153・154＝100％、134・135・139～142・145・146・152＝90％以上、149・151・156＝70％以上、155＝50％遺存）・ほうろく（土157）が出土した。

3層でかわらけ（土158・159＊50％遺存）が出土した。

5層で砥石（石253）が出土した。

7層ヵで唐津向付（土160）が出土した。

下層で籠状製品（木151）が出土した。

7号堀一括で土壁片5gが出土した。

8号堀　C区中央北に位置し7号堀と並ぶ。平面長方形ヵ。西側は調査区外。上部は用水により削平される。規模は442cm×106cm（残存）、深さは不明である。断面図作成不能。

遺物は、かわらけ（土161）・ほうろく（土162＊90％遺存）が出土した。南東谷に楕円形土壙を設ける。

9号堀　C区中央南に位置し10号堀と対を成す。平面東西に長い長方形、東側は調査区外。規模は550cm（残存）×190cm、深さ110cm、断面は箱薬研形である。騎西城跡10次調査の1号堀とつながる。推定全長1,130cm。底面東に杭4本が南北方向に打ち込まれ、10号堀の杭と列を成す。9・10号堀を一括するように西側に直線的で緩やかな傾斜の落込みを有する。

遺物は、上・中・下層で取り上げられた。調査時のメモにより上層はBライン1・2・3・4層、中層は5・5′・7・11層、下層は6・8・9・10・12層あたりと思われる。

上層では瀬戸美濃天目（土163＝16c後）・同縁釉小皿（土164＝15c中）・備前平鉢（土165＝17c前／19堀＋1壙＋3C層と接合）・かわらけ（土166＊50％遺存）・有穴球状土製品（土784）・磨石（石337・338）が出土した。

中層ではかわらけ（土167～169＊167・169＝100％遺存）・下駄（木2）・桶側板（木22）・宝篋印塔（石509）が出土した。

下層では瀬戸美濃端反皿（土170＝15c末～16c前＊90％遺存）・常滑甕（土171）・瀬戸美濃徳利（土172＝15c後）・かわらけ（土173＊50％遺存／中層と接合・土174）・曲物底板（木23）・漆合子蓋（木65）・漆椀（木66）・刳り込み状製品（木110）・火打金（金2）が出土した。

9号堀一括でヘラ状製品（木93）・板状製品（木111）・角材状製品（木112）・角材片（木128）が出土した。

10号堀　C区中央南に位置し9号堀と対を成す。平面東西に長い長方形、東側は調査区外。規模は556cm（残存）×170cm、深さ105cm、断面は箱薬研形である。底面東に杭5本が南北方向に打ち込まれる。延長にあるピットも杭の痕跡か。3・4号井戸と重複する。

遺物は、9号堀同様上・中・下層で取り上げられた。上層では常滑甕（土175＝1550～1600／13堀と接合）・かわらけ（土176・177＊95％遺存）・ほうろく（土178）が出土した。

中層では瀬戸美濃擂鉢（土179＝16c後）・かわらけ（土180＊100％遺存・181＊60％遺存・182／上層と接合・183＊75％遺存／上層と接合）・成形礫（石245）・磨石（石339）・土壁片（補壁1）が出土した。

下層でかわらけ（土184＊95％遺存・185）・在地香炉（土186＊75％遺存／9・10堀と接合）・粉挽臼（石26）・磨石（石340・341）・板碑（石420）が出土した。

10号堀一括で板状製品（木118）・土壁片120g・モモの種子1点・炭化23.8gが出土した。

10b号堀　Cラインセクションで確認された19・20層を10b堀とした。平面南北に長い長方形、規模は190cm（残存）×145cm（残存）、深さ62cm、断面はほぼ直上。

遺物は、常滑瓶子（土187）が出土し、瀬戸美濃擂鉢（土188）は埋土（2～11層）出土である。

○9・10号堀埋土　2～11層を埋土とし、10号堀埋土でほうろく（土189）、9・10号堀埋土でかわらけ（土190＊60％遺存・191）・ほうろく（土91）・在地片口鉢（土192）・搗臼（石27）・茶臼（石28）・打割礫（石249）・磨石（石342）が出土した。

11号堀　C区中央南に位置し9・10堀と並ぶ。平面長方形ヵ。西側は調査区外。規模は415cm×144cm（残存）、深さは不明で、断面は平面図より上部は緩やかで下部は直上に近いものと思われる。東辺に－10

cmのテラスがあり、南東法面に楕円形土壙、北東谷に楕円形掘り込みを設ける。

遺物は、中国染付皿（土193＊50％遺存＝16c後／５CⅡ層＋３C層＋一括と接合）・常滑広口壺（土194＝1500～1550／12堀＋４溝＋２溝＋一括と接合）・唐津鉄絵皿（土195＝16c末～17c初）・かわらけ（土196・197＝共に90％以上遺存）が出土した。

12号堀　C区中央南に位置し13号堀と対を成す。平面南北に長い長方形、西側は用水により掘削される。規模は838㎝×200㎝、深さ125㎝、断面は下突箱薬研形である。底面はやや北寄り段に近いところでで10cmほど高い箇所がある。東辺に楕円形段を設ける。段高は堀底面より確認面までで＋15cm・＋34cm・＋71cmである。幅70cm深さ22.4cmの溝、６号井戸と重複する。

遺物は、常滑広口壺（土194）・志戸呂徳利（土198）・在地擂鉢（土199／13堀と接合）・筒状漆製品（木113）・板状製品（金98）が出土した。

13号堀　C区中央南に位置し12号堀と対を成す。平面南北に長い長方形、北東隅が膨らむ。規模は788㎝×226㎝、深さ99㎝、断面は下突箱薬研形である。底面は北寄り土壙に近い所で20cmほど高い個所がある。東辺に楕円形土壙を設ける。６・７号井戸と重複する。東側は40cm程高いテラスとなっている。

遺物は、中国染付碗（土200＝15c後～16c後／３C層＋一括と接合）・常滑甕（土175）・かわらけ（土201＊80％遺存）・ほうろく（土91・202＊70％遺存・203）・在地擂鉢（土199）・搗臼（石29）・砥石（石292）・磨石（石343）・石造物（石513）・不明種子１点が出土した。

14号堀　C区中央南に位置する。平面方形、規模は332㎝×278㎝、深さ290㎝、断面は箱薬研形である。

北東谷に楕円形掘り込みが設けられる。東側は60cm程高いテラスとなっている。

遺物は、ほうろく（土204）が出土した。

15号堀　C区南に位置し16号堀と対を成す。平面東西に長い長方形、東側は調査区外。規模は720㎝（残存）×175㎝、深さ116㎝、断面は箱薬研形である。底面東に杭４本が南北方向に打ち込まれ、16号堀の杭と列を成す。17号堀と重複する。15・16号堀の間は東側が20cm程高くなっている。

遺物は、常滑甕（土205＝1500～1550）・瀬戸美濃志野丸皿（石206＝17c初＊90％遺存）・唐津壺（土207＝16c末～17c前／５C層＋１層＋一括と接合）・桶板（木24～27）・漆椀（木67・68・70～72）・白木皿（木69）・炭化碗片（木80）・折敷底板ヵ（木94）・編具（木100）・材（木129～131）・銭貨（金118～124）・砥石（石254）・磨石（石344・345）・板碑（石421）・鞴の羽口（補羽３）・モモの種子１点・炭化ヒエアワ・炭化物2.5gが出土した。

16号堀　C区南に位置し15号堀と対を成す。平面東西に長い長方形、東側は調査区外。規模は680㎝（残存）×150㎝、深さ128㎝、断面は箱薬研形。底面東に杭３本が南北方向に打ち込まれ、15号堀の杭と列を成す。17号堀と重複する。

遺物は、中国白磁皿（土208）・かわらけ（土209＊75％遺存）・下駄（木３・４）・桶側板（木28）・漆椀（木73～75）・折敷底板（木95）・彩色板（木104）・部材ヵ（木114）・板状製品（木115）・二股木製品（木116）・板状製品ヵ（木119）・材（木132・133）・石臼（石30・31）・磨石（石346）が出土した。

17号堀　C区南に位置する。平面不整長方形ヵ。西側は調査区外。南端が東方に膨らむ。規模は700㎝×252㎝（残存）、深さは76cmとやや浅い、断面は下突箱薬研形ヵである。15・16・18堀と重複するが、最後に追加で掘り下げたものか。当遺跡では他に並んだ堀の重複例なし。

遺物は、板碑（石422～425）が出土した。

18号堀　C区南に位置する。平面方形ヵ、西側は調査区外。規模は400㎝（残存）×142㎝（残存）、深さ142㎝、断面は下突箱薬研形である。底面・法面に杭７本、19号堀との境に２本が東西方向に打ち込まれ、19号堀の杭と列を成す。参考セクション図によると、調査者は杭を打ち込み土塁（ロームブロック多量）を崩した２～６層を埋め立てた（埋土）とする。覆土（16～19層）の堆積が薄く早い段階（16c末ヵ）の埋め立てか。17号堀・９号井戸と重複する。

遺物は、瀬戸美濃丸皿（土210＝15c末～16c前＊75％遺存）が埋土より出土した。

19号堀　C区南に位置する。平面方形としたが南西

隅と北東隅が膨らむ。規模は504㎝×470㎝、深さ118㎝、断面は下突箱薬研形である。南西谷に楕円形段、南東谷に溝、ピットを設ける。法面に杭12本が東西方向に打ち込まれ、18号堀の杭と列を成す。

遺物は、龍泉窯系青磁菊皿(土211)・備前平鉢(土165)・かわらけ(土212)・在地擂鉢(土213・214)・同火鉢(土215・216／3C層と接合)・砥石(石293)・磨石(石347)・板碑(石426)・五輪塔(石503)・土壁片55gが出土した。

20号堀　C区南に位置し21号堀と並ぶ。平面東西に長い長方形、西側は調査区外。規模は294㎝(残存)×236㎝、深さ124㎝(K-170㎝)、断面は中突箱薬研形である。覆土上層は18号堀同様埋土か。11号井戸より新しい。

21号堀　C区南に位置し、20号堀と並ぶ。平面は東西に長い長方形だが、北辺は19号堀により膨らむ。東側は調査区外。規模は374㎝(残存)×200㎝、深さ140㎝(K-185㎝)、断面は下突箱薬研形である。北東谷に楕円形段を設ける。段高は堀底面より＋19.5cm・＋21.5cm・＋11.5cmである。

遺物は、埋土(18堀と同様か)からほうろく(土217＊80％遺存・218)・板碑(石427)が出土した。

22号堀　A区道路分・B区に位置する。ローム面まで掘り下げ後にさらに掘り下げたC区の『堀』とは違い表土からの掘り下げ。確認面は標高11.90mと高い。平面は東西に溝状で直線であるが西端でやや北に振れる。規模は8,700㎝(残存)×370㎝(残存)、深さ115㎝、断面の下部はほぼ直上し上部は緩やかに立ち上がる。堀が長いためイ～リの9地点に分割し、遺物の取上などの便宜とした。底面の標高は東側で10.8m・中央・西側で10.6m。東側ハでは橋跡とされる遺構検出されている。KB15区26号堀とつながる。東側29・30号堀より新しい。西側では用水の掘り込みなどにより底面が複雑な段となる。第75図Dラインセクション2～4層が22号堀の覆土か。

遺物は、龍泉窯系青磁碗(土219＝14c・220＝13c末～14c初)・中国白磁皿(土221)・同染付皿(土222＝16c中)・渥美甕(土223)・常滑片口鉢(土224＝1500～1550・225)・瀬戸美濃平碗(土226＝14c末～15c初)・同志野皿(土227)・同輪禿皿(土228＝17c前)・同端反皿(土618＝15c末)・同灯明具(土229＝17c中)・同擂鉢(土230・231＝共に16c中)・同硝煙擂(土232)・同柄付片口(土233＝14c末～15c初)・同青織部向付(土234)・肥前刷毛目碗(土235＝17c後～18c末)・丹波.信楽擂鉢(土236)・かわらけ(土237～244＊237・240＝95％、242＝70％、238・243・244＝50％以上遺存)・ほうろく(土245・246)・在地擂鉢(土247・248)・下駄(木5・6)・刀子ヵ(金35)・柄頭(金71)・銭貨(金125～130)・粉挽臼(石32・33)・碁石(石91)・硯(石117)・石製円盤(石161)・半円形石製品(石228)・方形石製品(石235)・砥石(石255・294)・磨石(石348・349)・板碑(石428)・石造物(石514)・土壁片10g・金属加工滓422.1gが出土した。このうち埋土出土は土220・221・225・237～239・241・245・248、金35・71・126～129、石117・348・349・428である。

23号堀　B区中央に位置する。平面方形ヵ、規模は312㎝(残存)×68㎝(残存)、深さ100㎝、断面は箱薬研形である。

24号堀　B区中央に位置する。平面不整形ヵ。規模は155㎝(残存)×100㎝(残存)、深さ82㎝、断面はゆるやかである。23号堀に設けられた土壙の可能性あり。

29号堀　B区中央に位置する。平面方形ヵ。南側は調査区外。30号堀と並ぶ。規模は370㎝×220㎝(残存)、深さ31㎝、断面はほぼ直上する。30号堀との間に上幅30cm下幅80cm高さ35cmの畝状遺構を設ける。22号堀より古い。

遺物は、在地擂鉢(土249)・かわらけ(土250＊75％遺存／30堀と接合)・漆椀(木76)が出土した。

30号堀　B区中央に位置する。平面方形ヵ。北側は調査区外。29号堀と並ぶ。23・24号堀と並ぶか。規模は510㎝×235㎝(残存)、深さ33㎝、断面はほぼ直上である。底面に13本が東西方向に打ち込まれ列を成す。覆土6層の南端に位置し20号堀同様5・6層は土塁を崩し埋め立てた層(埋土)とする。22号堀より古い。

遺物は、中国青磁碗(土251)・瀬戸美濃縁釉はさみ皿(土252)・丹波.信楽擂鉢(土253＝17c)・かわらけ(土250)・ほうろく(土254)・漆椀(木77)・

弾丸（金78）・銭貨（金131）・モモの種子５点・マツの球果１点が出土した。このうち土251～253、金131が埋土出土。

【橋跡】

Ａ区道路西端に位置する。22号堀の南側に100cmほど急に落ち込む箇所に、２基のピットが中心で230cmの間隔で並んで検出された。東ピット径50×70cm深さ100cm、西ピット径70cm深さ90cm。ピット下部の径より径20cmの杭を打ち込んだものか。KB15区の同様の規模。ピット列の外側には畝中心での間隔460cmの２基の畝状遺構がある。東側のものは上幅60cm下幅80cm高さ25cm、西側のものは上幅10cm下幅120cm高さ60cmを計る。調査時橋跡ヵとされ、本報告でもその可能性を考えておく。

【溝状遺構】

17まで命名したが欠番により総数16条を数える。ほぼＡ区に位置する。３・４号溝はＣ区、５号溝はＢ区に所在する。２号溝は浅く広い。殆ど南北・東西方向に走行し、９号溝は弧状に、15号溝は屈曲する。

１号溝　Ａ１区北に位置し東西方向に走行する。断面形はゆるやか、幅85cmで、深さ25cmと浅い。図面では９号溝より新しく10号土壙より古い。調査時のメモでは10号溝より古く、南北土畳（79p解説）より新しい。

遺物は、中国染付碗（土255＝16c中）・瀬戸美濃天目（土256＝16c中）・同卸皿（土257＝16c中・後）・同大皿（土258＝16c末～17c初）・同擂鉢（土259＝16c中）・かわらけ（土260～264＊262＝50％遺存／264＝１建と接合）・在地甕（土265／１建と接合）・釘（金６～８）・紡錘車（金27）・刀子ヵ（金34）・円盤状製品（金47）・銭貨（金132）・石臼（石34・35）・砥石（石295）・五輪塔（石504）・土壁片（補壁２・３）・金属加工滓24.5gが出土した。

２号溝　Ａ１区南に位置し東西方向に１号溝と並行して走行する。断面形はゆるやか、幅169cm、深さ16cmと１号溝より浅い。７・９号溝、24号井戸４・５・14号土壙より新しく10号溝より古い。調査時のメモでは23号井戸・南北土畳より新しい。

遺物は、瀬戸美濃端反皿（土266＝16c前）・同志野丸皿（土267＝17c初）・同志野向付（土268＝17c初／KB15と接合）・常滑広口壺（土194）・火打金状製品（金43）・粉挽臼（石36）・碁石（石92）が出土した。

３号溝　Ｃ区中央北に位置し６号堀の東に並行して南北方向に走行する。断面形は不明、幅63cm(残存)、深さ21cmである。図はなく調査時のメモに位置が記載されるのみ。５Ｃ層より古い。

遺物は、中国染付端反皿（土269＊75％遺存／５ＣⅡ層と接合）・肥前系色絵碗（土270＊75％遺存＝18c後～19c前）・かわらけ（土271）・人形の足ヵ（土782）・環状製品（金49）・粉挽臼（石37）・磨石（石350）・金属加工滓5.4gが出土した。土270・782は新旧関係から混入の可能性。

４号溝　Ｃ区中央南に位置し東西方向に走行する。断面形はほぼ直上、幅150cm、深さ58cmである。調査時のメモでは14号堀より新しい。

遺物は、瀬戸美濃擂鉢（土272）・常滑広口壺（土194）・肥前染付碗（土273＊90％遺存）・板碑（石429・430）が出土した。

５号溝　Ｂ区東に位置し南北方向に走行する。断面形は箱薬研、幅136cm、深さ57cmである。22号堀埋土（出丸79p解説参照）より古い。

６号溝　Ａ区道路分に位置し南北方向に走行する。断面形は箱薬研、幅44cm、深さ15cmである。遺物は、磨石（石351）が出土した。

７号溝　Ａ１区西に位置し南北方向に走行する。９号溝と交差する。９号溝より新しく、１・２号溝、４号土壙より古い。調査時のメモでは10号溝より古い。断面形は箱薬研、幅60cm、深さ38cmである。遺物は、磨石（石352）が出土した。

８号溝　７・９号溝交差部分を８号溝としたが欠番とする。遺物は、産地不明の甕（土274）・金属加工滓52.9gが出土した。

９号溝　Ａ１区西に位置し、南北方向に弱いＳ字状を描き走行する。２・７号溝、４号土壙より古い。調査時のメモでは１・10号溝より古い。断面形は箱薬研、幅82cm、深さ47cmである。遺物は、瀬戸美濃

縁釉小皿（土275＝15c前・中）・同古瀬戸四耳壺（土679＝13c前※写真による）・火打石（石404）が出土した。

10号溝　A１区西に位置し南北方向に走行する。調査区内南で止まり、南端は直線である。断面形は箱薬研、幅44cm、深さ30cmで南はさらに30cmほど深い。２・７号溝より新しく、20号井戸・２号土壙より古い。調査時のメモでは１・９号溝より新しい。遺物は、志戸呂擂鉢（土276＝16c）・在地捏鉢（土277）・砥石（石256・296）が出土した。

11号溝　A１区中央南に位置し南北方向に走行する。位置・規模・形態から12号溝と対を成すか。断面形は箱薬研、幅113cm、深さ60cmである。13号溝より古い。

12号溝　A１区中央に位置し南北方向に走行する。断面形は箱薬研、幅96cm、深さ56cmである。底面レベルは北が20cmほど深く11号溝と同じで本来の12号溝か。11号溝との間隔は5.2m。13号溝より古い。

13号溝　A１区中央に位置し南北に走行する。11・12号溝のそれぞれのセクションで確認でき長さ８m以上。断面形はほぼ直上、幅65cm、深さ26cmと浅い。11・12号溝より新しい。遺物は、平瓦（土278）が出土した。瓦は上位の１号建物跡のものか。

14号溝　A１区中央南端に位置し、走行方向は11号溝より西に振れる。断面形は不明、幅35cm、深さ13cmである。

15号溝　A２区東に位置し、L字状に屈曲する。断面形は箱薬研、幅110cm、深さ48cmである。17号溝より新しく15号土壙より古い。A１区につながる溝はない。断面・規模が近いのは11・12号溝。遺物は、産地不明の甕（土279）が出土した。

16号溝　A２区に位置し、断面形は箱薬研、幅46cm（残存）、深さ28cmである。７・９号溝のいずれかにつながるか。

17号溝　A２区に位置し、断面形はほぼ直上、幅40cm（残存）、深さ15cmである。15号溝より古い。

【井戸状遺構】

25まで命名したが１号井戸を25号井戸に振替、総数24を数える。A・B区曲輪南に10基、C区障子堀内に11基・南の曲輪縁に３基所在する。底面の標高は概算で、４号井戸の9.85mが特に低い。他は10.32～11.02mと幅があるが、形態・分布等に傾向は確認できない。※（K-○cm）は曲輪（C区南端）の確認面（標高11.50m）からの深さ。20号井戸は直径210cmと大型。

２号井戸　C区中央北に位置し、直径76cm、深さ118cmを計る。調査時メモでは７号堀より古い。遺物は、瀬戸美濃皿（土280）・土壁片５gが出土したが新旧関係から混入か。

３号井戸　C区中央南に位置し、直径84cm、深さ84cm（K-112cm）を計る。遺物は、板碑（石431）が出土した。９・10号堀と重複する。調査時のメモでは10号堀より古く、覆土上層は９・10号堀の埋土、漆椀が出土。

４号井戸　C区中央南に位置し、直径84cm、深さ134cm（K-175cm）を計る。底面の標高9.85mと低い。調査時のメモでは10号堀より古い。遺物は、桶（木30）が一式出土した。

５号井戸　C区中央北に位置し、直径74cm、深さ24cm（K-64cm）を計る。浅いが底面標高11.82m。堀と重複しない。遺物は、板碑（石432）が出土した。

６号井戸　C区中央南に位置し、直径78cm、深さ39cm（K-63cm）を計る。浅いが底面標高11.87。12・13号堀と重複する。

７号井戸　C区中央南に位置し、直径76cm、深さ58cm（K-78cm）を計る。調査時のメモでは13号堀より古い。遺物は、常滑甕（土281）が出土した。

８号井戸　C区南に位置し、直径69cm、深さ70cm（K-95cm）を計る。堀と重複しない。遺物は、唐津徳利（土282＊70％遺 存＝16c末～17c初／３C層＋一括と接合）が出土した。

９号井戸　C区南に位置し、断面は上方に向かって広がる。直径86cm、深さ73cm（K-150cm）を計る。調査時のメモでは18号堀より古い。遺物は、板碑（石433）が出土した。

10号井戸　C区南に位置し、断面はロート形。直径120cm、深さ131cm（K-150cm）を計る。壁にピットを有する。

11号井戸　C区南に位置し、南壁に段を有する。直

径65㎝、深さ78㎝（K-82cm）を計る。20号堀埋土より古い。

12号井戸　C区南に位置し、平面南東に膨らむ楕円形で断面ロート形。150㎝×107㎝、深さ127㎝を計る。調査時のメモでは20号堀埋土より古い。遺物は、上位でウマの臼歯11本・骨、かわらけ(土284＊50％遺存)、下位でかわらけ（土283＊95％遺存・284＊50％遺存)・ほうろく（土285)・茶臼（石38・39)・板碑(石435)、底面で板碑(石434)・五輪塔(石505)、一括で火打石（石405）が出土した。レベル分布図では五輪塔（石505）は計測不備と思われ15cm下げた。

13号井戸　B区東に位置し、直径108㎝、深さ176㎝を計る。遺物は、かわらけ（土286＊75％遺存)・板碑（石436～438）が出土した。

14号井戸　C区南に位置し、平面長方形で64㎝（残存）×60㎝、深さ55㎝（K-122cm）を計る。調査時のメモでは19号堀より古い。井戸ヵ。

15号井戸　A区道路分に位置し、断面はロート形で、直径84㎝（残存)、深さ132㎝を計る。

16号井戸　A区道路分に位置し、断面はロート形で、直径119㎝、深さ126㎝を計る。遺物は、板碑(石439)が出土した。

17号井戸　C区北に位置し、直径70㎝、深さ52㎝(K-101cm）を計る。堀と重複しない。遺物は、砥石（石257）が出土した。

18号井戸　C区北に位置し、直径76㎝、深さ108㎝（K-156cm）を計る。

19号井戸　A１区南西に位置し、直径113㎝、深さ156㎝を計る。調査時のメモでは土塁下層（灰褐色堅緻層）より古い。

20号井戸　A１区南西に位置し、断面は上部で広がる。直径210㎝、深さ166㎝を計る。10号溝より新しい。大型。

遺物は、中国白磁碗ヵ（土287＝15c～16c)・肥前広東碗（土288＊50％遺存＝18c末～19c前)・瓦（土289～293、289＝18c後＊100％遺存）が出土した。

21号井戸　A１区北東に位置し、断面ロート形。直径140㎝、深さ180㎝を計る。遺物は、かわらけ（土294＊95％遺存)・在地擂鉢（土295＊50％遺存・296)・粉挽臼（石40／１建＋一括と接合・41）が出土した。

調査時のメモに「端反皿（土351)・かわらけ（土753）が確認面上位の焼土混じり層から出土したが井戸に伴うものか不明」とあるが、写真（図版35）や井戸覆土上層に炭化物が多く含まれることから井戸に伴うものと思われる。

22号井戸　A１区北東に位置し、直径104㎝、深さ154㎝を計る。遺物は、瀬戸美濃碗（土297)・瓦（土298～300、298＝19c)・材（木134～147）が出土した。材は加工途中のものや端材などが大量に出土したがサンプル的に14点のみ図化した。当遺跡では希な例である。瓦は確認面で多量に出土したが、瓦地業基礎の下位に当たることから、本遺構に伴うものではないと思われる。

23号井戸　A１区南東に位置し、平面不整円形で、160㎝×140㎝、深さ176㎝を計る。調査時のメモでは２号溝より古い。遺物は、在地片口鉢（土301)・曲物底板（木29)・粉挽臼（石42)・敲石（石324）が出土した。

24号井戸　A１区南東に位置し、平面楕円形・断面ロート形で、166㎝×140㎝、深さ155㎝を計る。２号溝より新しい。

遺物は、中国白磁皿（土302)・瀬戸美濃擂鉢（土303＝16c中)・かわらけ（土304＊60％遺存)・在地片口鉢(土305)・碁石(石93)・砥石(石297・298)・板碑（石440)・金属加工滓138.1gが出土した。

25号井戸　１号井戸の振替。A２区に位置し、直径110㎝、深さ140㎝を計る。焼土ブロックが中位で、土壁片（補壁４）100gが出土した。17世紀に開口していたか。

【土壙】

18まで命名したが、枝番により総数21を数える。A区曲輪南に17基、C区障子堀内に１基所在する。

１号土壙　C区中央南に位置し、平面隅丸長方形で394㎝（残存)×122㎝（残存)、深さ62㎝を計る。

遺物は、備前平鉢（土165)・かわらけ（土306)・ほうろく（土307・308)・粉挽臼（石43・44)・駒石ヵ(石105)・石製円盤(石162～165)・板碑(石441)・

モモの種子１点が出土した。調査時のメモでは石が多く出土した。

３号土壙　Ａ１区中央北に位置し、平面隅不整円形で230㎝×194㎝、深さ16㎝を計る。10号土壙中に収まり10号土壙覆土上層部を３号土壙としたか。

遺物は、瀬戸美濃折縁中皿(土309＝15c前・中)・同皿（土310＝16c中・後)・志野丸皿（土311＝17c初)・志戸呂灯明皿（土312＊75％遺存＝17c以降)・信楽擂鉢(土313)・肥前碗(土314＝17c末～18c後)・砥石（石258)・火打石（石406)・金属加工滓18.9gが出土した。１号溝より新しく、１号建物より古い。

４号土壙　Ａ１区南西に位置し、平面長方形で364㎝×86㎝、深さ18㎝を計り、断面はほぼ直上する。７・９号溝より新しく、２・10号溝より古い。炭化籾米2.9gが出土した。

５号土壙　Ａ１区中央南に位置し、平面円形で直径170㎝、深さ28㎝を計り、２号溝より古い。

７号土壙　Ａ１区南東に位置し、平面円形（環状）で直径220㎝、深さ32㎝を計る。遺物は、板碑（石442）が出土した。２号溝より新しい。

８号土壙　Ａ１区北東に位置し、平面円形で直径144㎝、深さ14㎝を計る。遺物は壙底面で、瀬戸美濃皿（土315＝15c末～16c中)・五輪塔（石506）が出土した。

９号土壙　Ａ１区中央北に位置し、平面楕円形ヵで79㎝（残存）×43㎝、深さ25㎝を計る。13号土壙と重複する。焼土ブロック・炭化物・焼けた人骨が混在し荼毘の後と思われる。調査時のメモでは１号溝より古い。

10号土壙　Ａ１区中央北に位置し、平面不整円形で265㎝×265㎝（残存)、深さ28㎝を計る。３号土壙の下位で、１号溝より新しいか。遺物は、龍泉窯系青磁花瓶ヵ（土316）が出土した。

11号土壙　Ａ１区中央北端に位置し、平面円形で直径50㎝、深さ14㎝を計る。モモの種子１点が出土した。

12号土壙　Ａ１区南東に位置し、平面円形で直径90㎝、深さ57㎝を計る。しっかりした掘り込み。

15号土壙　Ａ２区東に位置し、覆土等により分割した。15号溝より新しい。15c→b→aの順でaが新しい。

15a号土壙　15b壙の１・２層は骨粉を多く含み平面形が異なることからａ壙とした。短軸37㎝、深さ22㎝を計る。調査時のメモでは平面円形。

15b号土壙　平面長方形で64㎝×48㎝、深さ28㎝を計る。

15c号土壙　平面楕円形で114㎝×88㎝、深さ20㎝を計る。遺物は、三角形石製品（石231)・磨石（石353）が出土した。

16号土壙　Ａ２区東に位置し、平面長方形で72㎝(残存）×66㎝、深さ13㎝を計る。

17号土壙　Ａ２区西に位置し、平面隅丸長方形で220㎝（残存）×91㎝、深さ30㎝を計る。遺物は、方形石製品（石236)・板碑（石443～445）が出土した。

【建物跡】

１号建物跡　Ａ１区上層の暗灰褐色土層中で検出した。瓦を破砕し、50㎝前後の幅で長方形に敷き詰める。その範囲は980㎝×620㎝を計る。基礎地業の跡である。瓦の切れる箇所もあるが他遺構との重複によるものではない。３・10号土壙より新しい。トレンチにより堀方を確認したが検出できなかった。

遺物は、瀬戸美濃志野向付（土317＝17c初)・かわらけ（土318)・在地火鉢（土319)・瓦（土320～350)・土壁片（壁７・補壁５・６)・石製円盤（石166)・磨石(石354)・石造物ヵ（石515)・土壁片219g・金属加工滓134.7g・炭化物2.2gが出土した。瓦やかわらけは高熱を受け発泡しているものがある。

21号井戸の項で既述したが土351・735が１号建物エリア内焼土混じり層中で出土したが、時代不一致のため本遺構に伴わないものと思われる。

【準遺構】

接合した土器類で、17集では他遺構に図を掲載したもののうち重要と思われるものは、本遺構にも記述した。（アンダーライン）

Ｃ区３Ｃ層　１・２Ｔ（Ｃ区南）掘り下げ時、炭化物・焼土混じりの層を検出する。16号堀東端・19号堀北東隅の上位で堆積し、東へ続く。南北５ｍほどの範囲で広がる。朝鮮瓶（土412)・中国染付碗（土

200)・同染付皿(土193)・同染付芙蓉手鉢(土361)・常滑甕(土352＝1550～1600)・瀬戸美濃総織部皿(土353＝17c初＊90％遺存)・唐津向付(土354～356)・同徳利(土282)・備前平鉢(土165)・ほうろく(土357・358)・在地火鉢(土216)・炭化椀片(木81・82)・炭化皿片(83)・釘(金10)・錘(金69)・小柄(金75)・塊状品(金102～104)・銭貨(金133～186)・成形礫(石246)・炭化物2.1gが出土した。

C区5C層　C区中央で焼土・炭化物混じりの層が検出された。6号堀の南側・7号堀北端の上位に堆積し、その厚さは16T(6号堀セクション参照)でおよそ60cm、規模は南北11m、東西5m(残存)である。ここでは大量の土器類・炭化椀・金属製品・石製品・土壁片が出土した。これを調査者は、Ⅰ・Ⅱ層に分けて取り上げた。平面分布ではⅠ層はやや上部・西側寄りに多い傾向があるが、レベル分布では両者は明確に分割されない(第82図右上)。その為、土器類・金属製品についてⅠ・Ⅱ層一括して分布図を作成した。ただし総量が多いため接合資料と単独資料とに分けた。

5CⅠ層　中国六角坏(土359＝15c前～中)・同染付皿(土360＝16c後／5C層と接合)・同染付芙蓉手鉢(土361＝16c末～17c初＊50％遺存／5CⅡ層＋5C層＋3C層と接合)・瀬戸美濃志野丸皿(土362)・同皿(土363)・同志野鐎皿(土364＝17c初)・同青織部向付(土365＝17c初)・同擂鉢(土366～368＝17c初)・唐津筒形碗(土369)・同向付(土370)・同鉄絵皿(土61)・備前徳利(土371＝16c／5CⅡ層＋5C層と接合)・かわらけ(土372～377＊372＝90％遺存)・ほうろく(土89・378)・在地火鉢ヵ(土379／5CⅡ層と接合)・釘(金11・12)・煙管(金58)・金属加工滓(滓1)・碁石(石94)・石製円盤(石167～170)・砥石(石259・301・302)・磨石(石355)・土壁片(補壁9)が出土した。

5CⅡ層　龍泉窯系青磁碗(土380＝13c末～14c初)・中国白磁皿(土381＝15c～16c)・同染付碗(土382～384＝全て16c中＊384＝80％遺存)・同染付皿(土193・385～389＝全て16c後＊385＝100％・386＝50％遺存／389＝5C層と接合)・同染付端反皿(土269／3溝と接合)・瀬戸美濃天目(土390＝17c初＝60％遺存)・同総織部碗(土391＝17c初)・同志野織部碗(土392＝17c初／5C層と接合)・同丸皿(土393＝16c後＊90％遺存)・同志野丸皿(土394～397＝全て17c初＊394・395＝75％・396＝50％遺存／394＝5CⅠ層と、395＝5C層と接合)・同擂鉢(土398＝17c初＊80％遺存／5CⅠ層と接合・399＝16c中・400＝17c初)・同志野鉢(土401＝17c初＊75％遺存)・同茶入(土402＝17c初・前)・同青織部向付(土403・404＝共に17c初)・唐津鉄絵皿(土405・406＝共に16c末～17c前)・同鉄絵鉢(土407＝16c末～17c前)・同向付(土408～410)・朝鮮瓶(土411・412＝15c～16c、413・414＝16c後／全て5C層と接合)・志戸呂水滴(土415)・同徳利(土416／5C層と接合)・かわらけ(土417～434＊419～422・432＝100％、417・423・428・429＝80％以上、418・424～427・430＝60％遺　存／425＝5CⅠ層と,434＝5C層と接合)・土製円盤(土776)・釘等(金13～18)・刀子ヵ(金36)・薙刀ヵ(金42)・煙管(金57)・鋺状製品(金66)・目貫ヵ(金72)・小柄(金76)・銭貨(金187～203)・石臼(石45～48)・硯(石118)・石製円盤(石171～174)・砥石(石260～262・303)・礎石ヵ(石520)・土壁片(補壁10・11)が出土した。

5C層一括　瀬戸美濃志野丸碗(土435＝17c前＊100％遺存)・同皿(土436＝15c末～16c中)・同志野丸皿(土437・438＝共に17c初)・唐津碗(土439＝16c末～17c前)・同鉄絵皿(土440～442＝16c末～17c前)・同向付(土443・444)・同壺(土207)・かわらけ(土445～453＊445・447＝100％、446・448＝90％、449＝75％遺存)・火鉢(土454・455)・土壁片(壁2～6・8～32・補壁7・8)・炭化椀片(木84～86)・蓋(金1)・釘等(金19～23)・樋受(金26)・小札(金29)・角棒状製品(金45)・切羽(金73)・銭貨(金204～206)・硯(石119)・石製円盤(石175)・モモの種子1点・炭化物30.6g・石炭ヵ40.3gが出土した。

訂正・解説

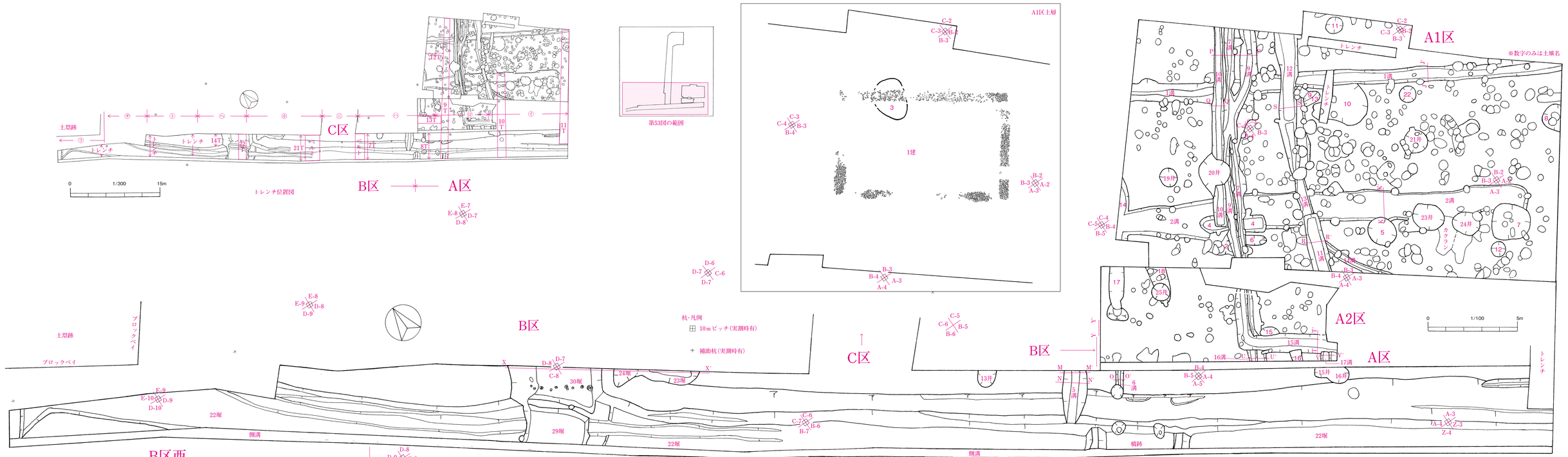
○17集第40図の456～462はC区1層出土土器。

○C区南土塁出土遺物(土466・467)は、土塁を崩

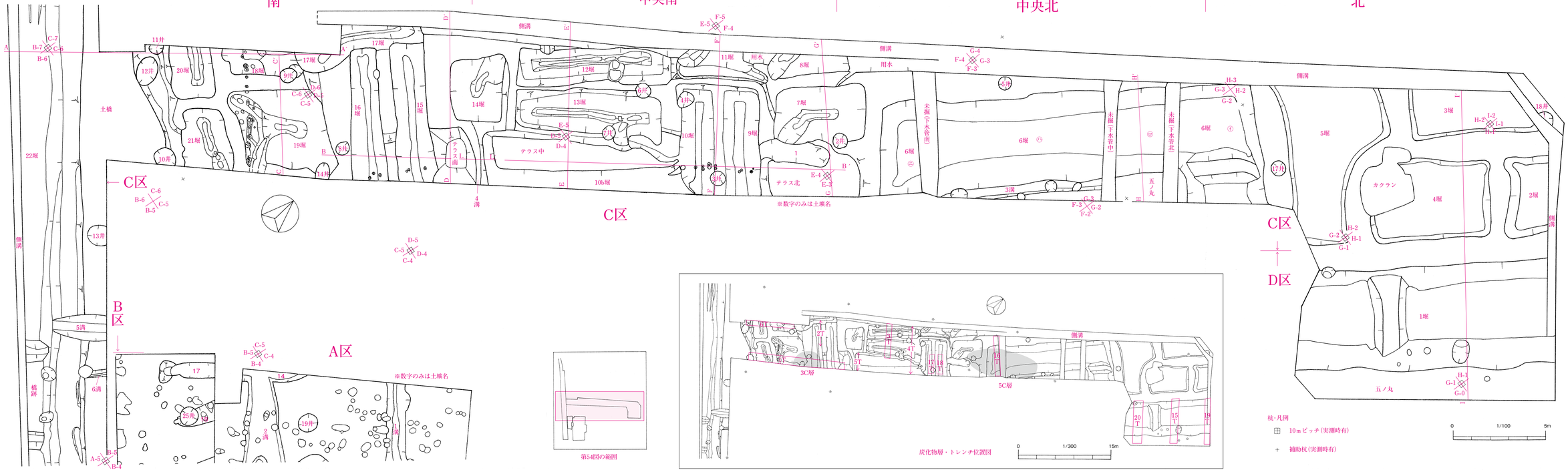
→88ページに続く

私2
私15
KB19D区
私9
KB19C区
私13
私10
私12
KB19A区
KB15
KB19B区
KB14
18次
13次
31次
42次
5次
KB13
KB10
32次
県
38次
0
1/1,000
50m

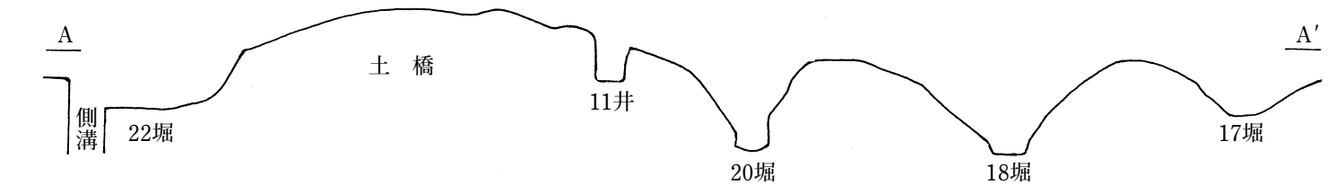
第52図　周辺の調査

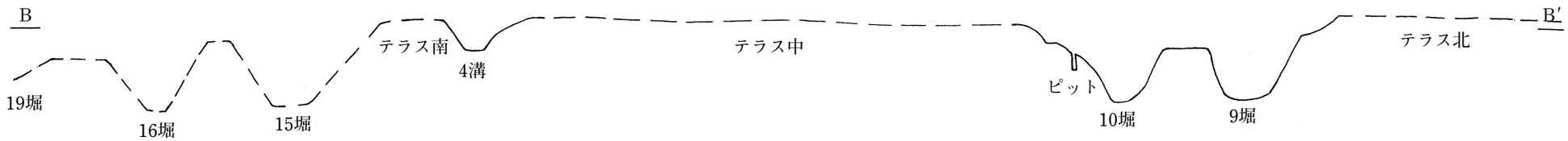


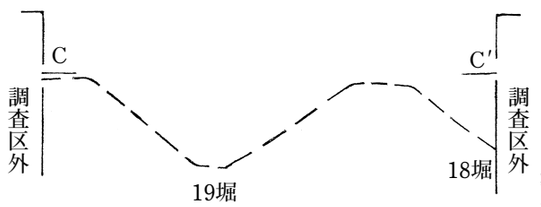
第53図　遺構位置図（A・B区）

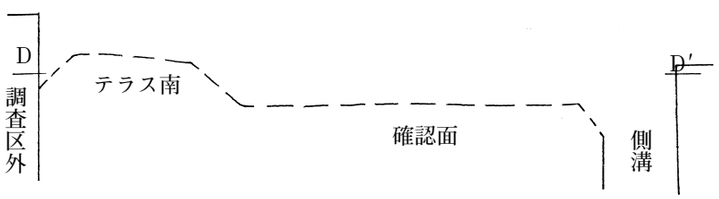


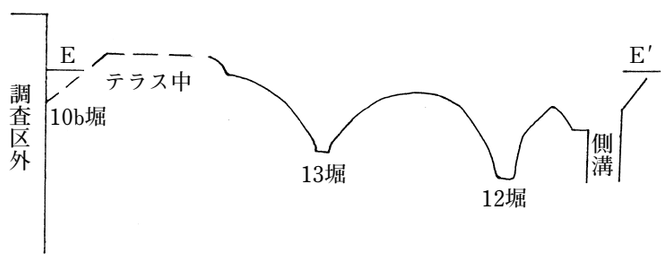
第54図　遺構位置図（C・D区）

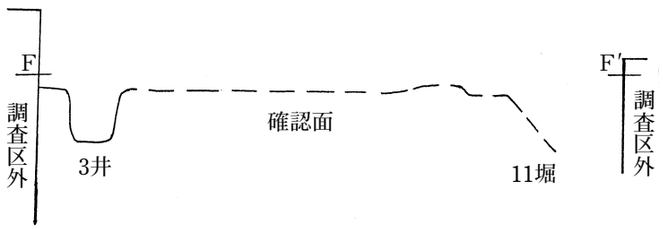


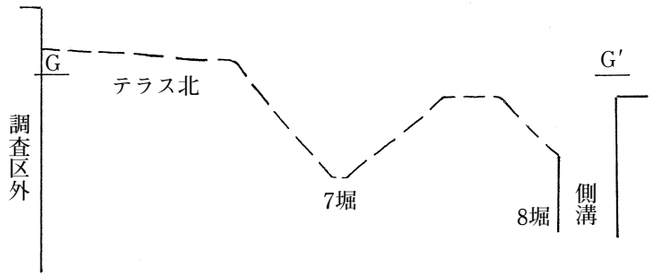


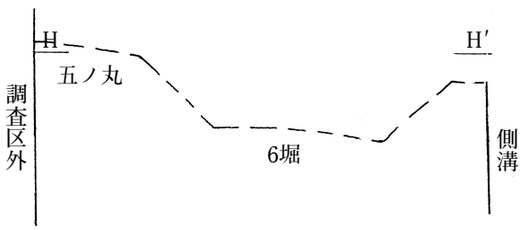


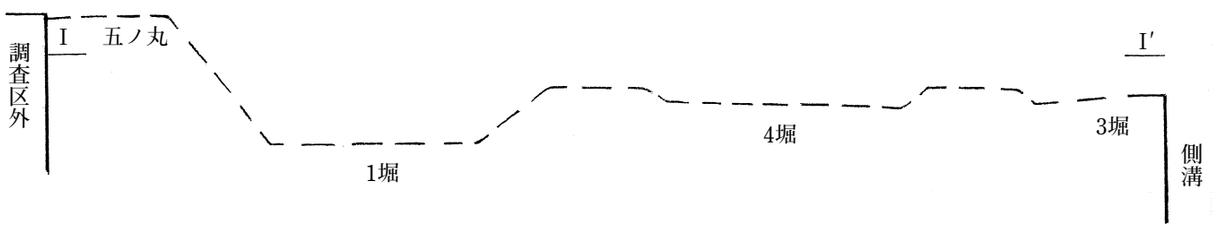












※破線エレベーションはレベルにより推定復元

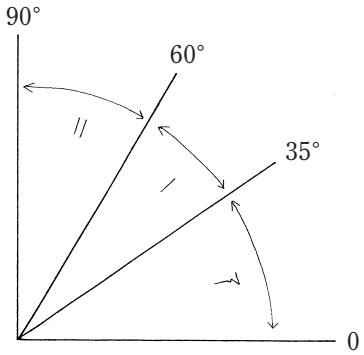
L＝11.40ｍ

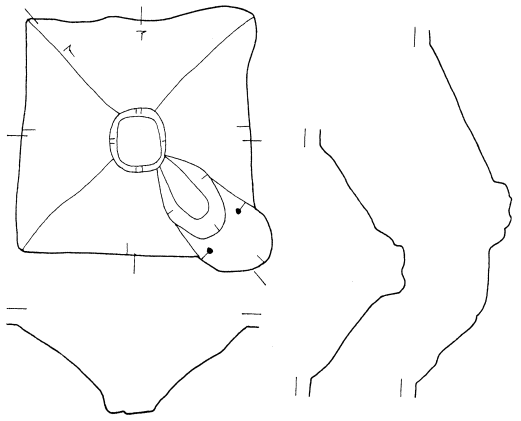
0　1/100　5m

第55図　C・D区エレベーション図

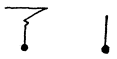
堀　凡例

【傾斜記号】

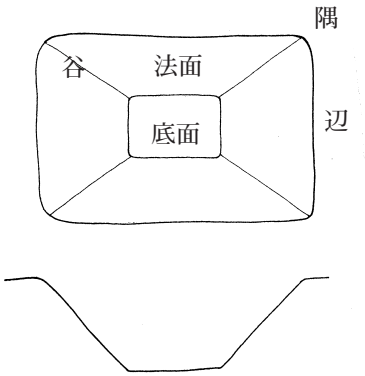




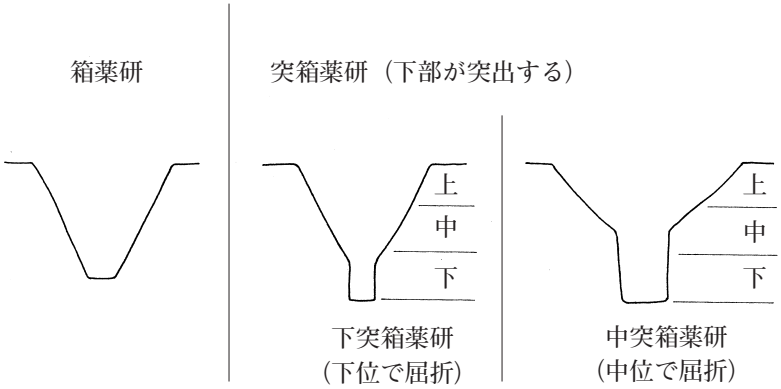
記号について、エレベーションにかかるものは、整理時見直した。かからないものは、検証不可能なため、調査時の記号に・を付けた。



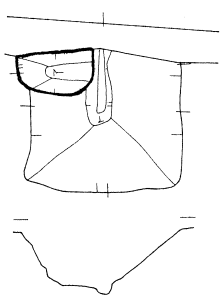
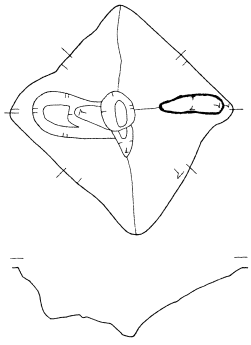
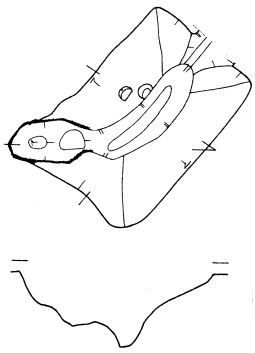
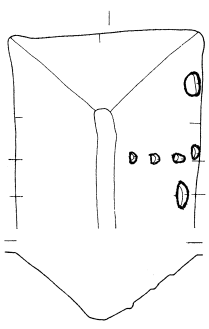
【名称】



【断面形】

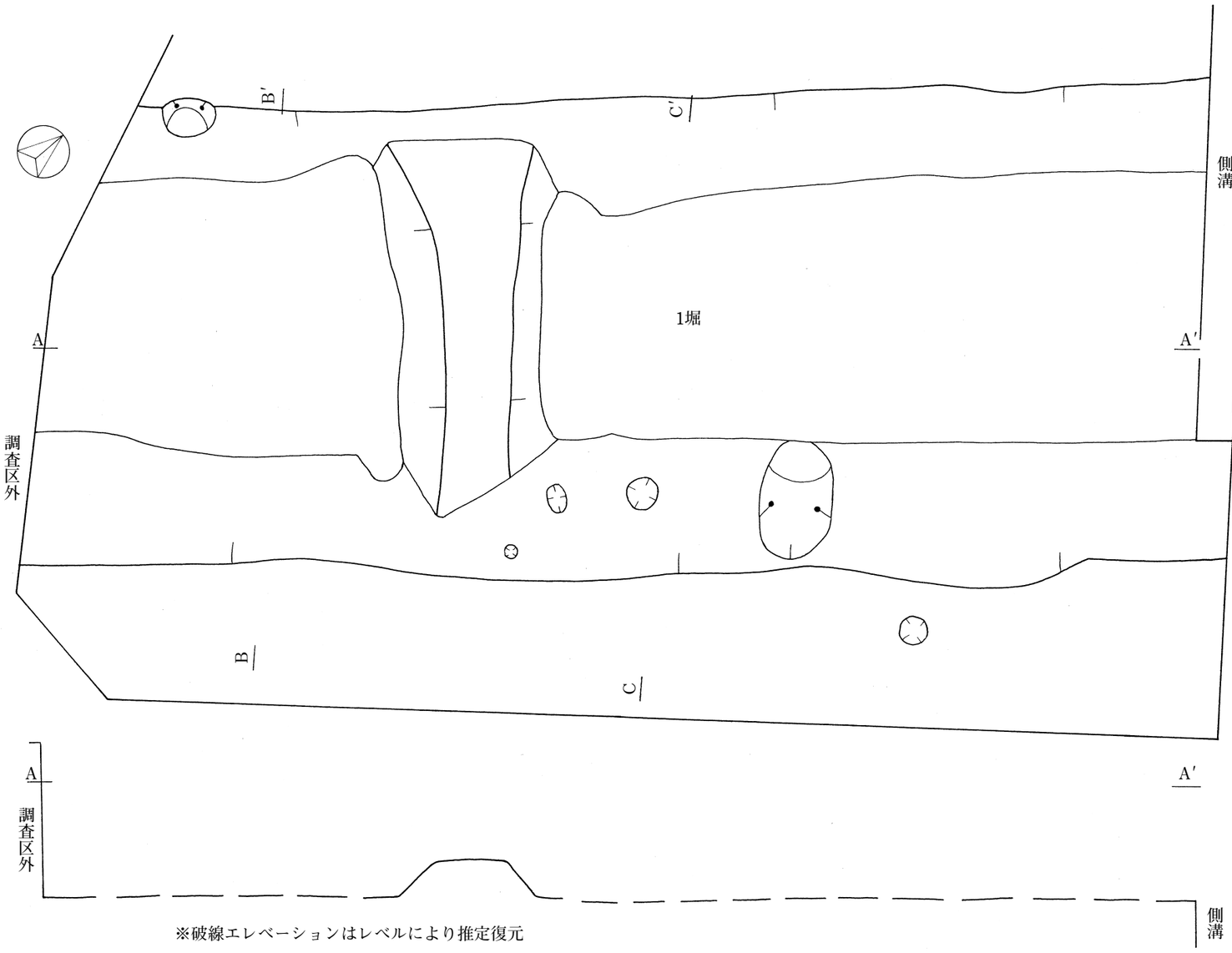


【施設】

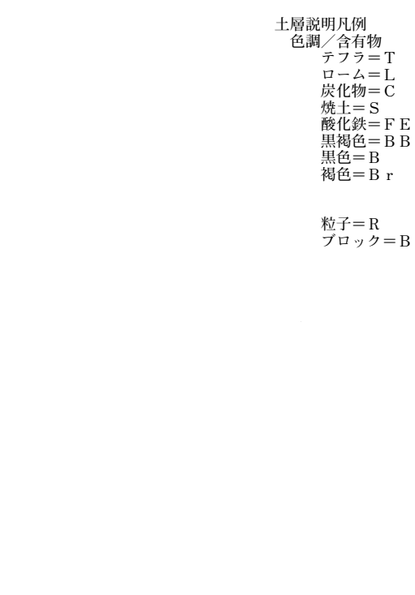
名称		土　壙	掘　込	段	ピット
位置	平面	辺～法面・屈折面	谷	辺～法面・屈折面	法面、谷
	断面	確認面～下位・屈折面	上～下位	確認面～下位	上～下位
実例					

第56図　堀凡例

したものとする18・20号堀セクション図（第71図）の２・３層出土ヵ。
○Ｃ区南堀埋土は18・20号堀セクション図の４・６層（調査メモ）。Ｃ区堀埋土はその省略ヵ。
○Ｄ区１～４層出土遺物は、層位ごとに取り上げ報告したが、調査者は１号堀上位とし、また準遺構としての時期的な一括性は認められない。
○出丸はＢ区22号堀ハで堀を埋めて張り出した部分を指したようである。
○発掘調査日誌に土塁の記述がある。東西方向はＢ区ハ周辺で、暗灰色の堅い部分を土塁の最下層とする。南北方向はＡ１区西端の９Ｔ西側全域で灰褐色の硬質層が５～15cmの厚さで堆積し土塁の地底かとする。
○ピットはＡ１区でほぼ全面に検出された。掘立柱建物跡を想定し、今回整理作業時に深さ・規模により検出を試みたが、建物跡を確認することはできなかった。
○１号ピットは21井戸内に位置する。２号ピットは７・９号溝を切る。



※破線エレベーションはレベルにより推定復元

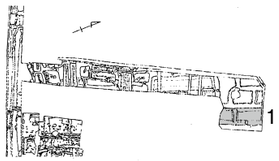


○1堀セクション（5層以下が1堀）
1 暗灰褐色／表土 LR、T△、C▲ 軟質 締悪
2 暗灰褐色／LR、FER、C△ 締良
3 暗灰褐色／LR◎、C▲ 締良
4 暗灰褐色／FER◎、LR、LB△ 締良 軟質
5 暗灰褐色（灰色味強、暗）／FER◎ 粘強 軟質
5′ 暗灰褐色（灰色味強、暗）／FER△ 粘強 軟質
6 暗灰褐色／FER、LB◎、LR△ 締悪
7 暗灰褐色／粘質層 灰白色粘土B△、LB◎（下層） 軟度高 粘強
8 暗灰褐色／粘土層 砂△ LR△ LB△ 軟度高 粘強
9 暗灰褐色／T◎ 耕作土
10 暗灰褐色／T◎ 耕作土
11 暗灰褐色（12層より明）／粘質層
12 暗灰褐色／粘土層 砂△ LR△ LB△ 軟度高 粘強

土層説明凡例

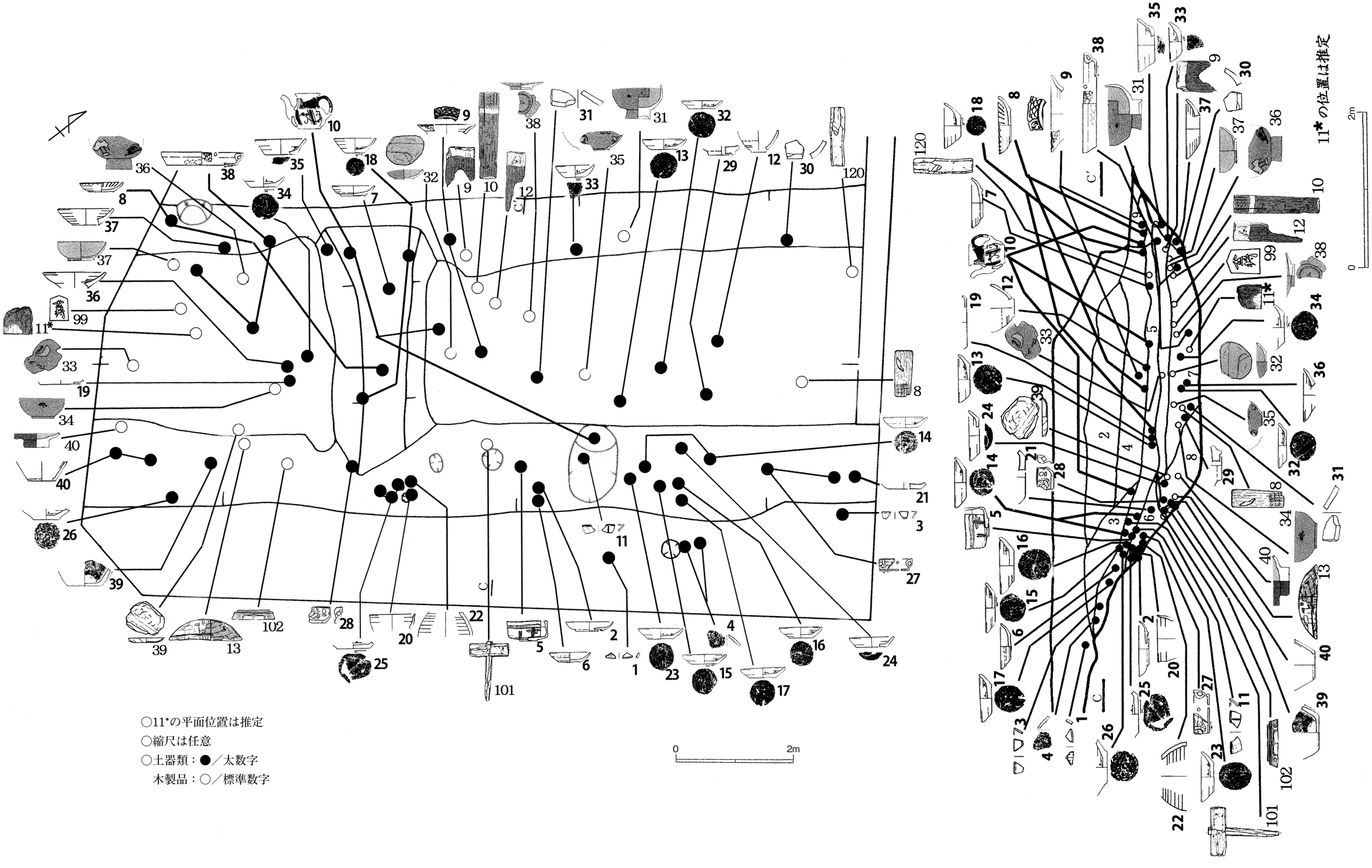
色調／含有物	
テフラ＝T	非常に多い＝☆
ローム＝L	多量＝◎
炭化物＝C	少量＝△
焼土＝S	微量＝▲
酸化鉄＝FE	万遍なく＝万
黒褐色＝BBr	やや明るい＝やや明
黒色＝B	やや暗い＝やや暗
褐色＝Br	非常に柔らかい＝軟度高
	柔らかい＝軟質
	やや柔らかい＝軟度低
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	締まり悪し＝締悪
	粘性強し＝粘強
	粘性有り＝粘有

0 1/60 2m

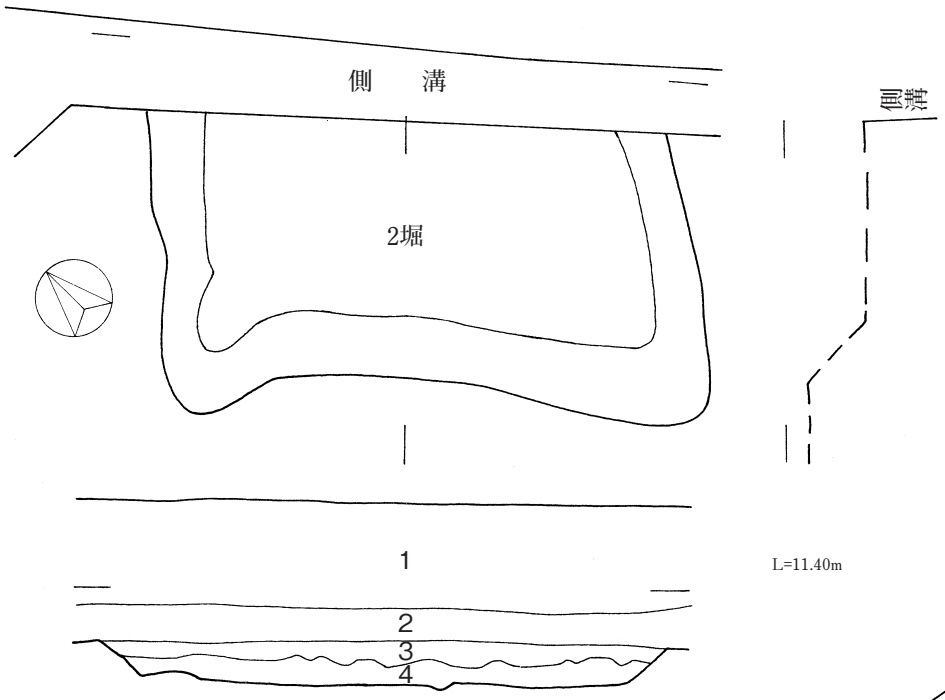


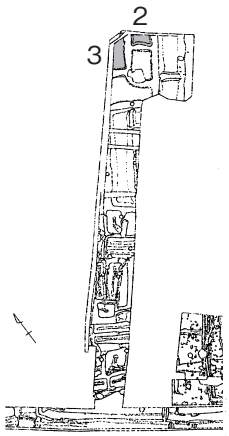
堀の位置

第57図　遺構1　1号堀



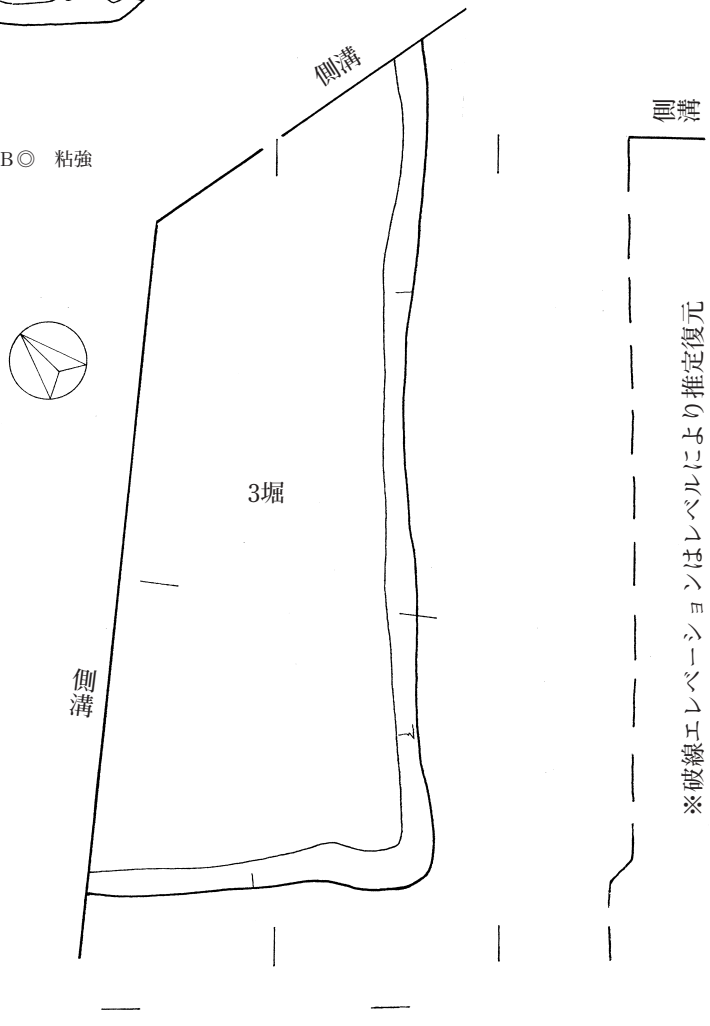
第58図　遺構２　１号堀遺物分布図





堀の位置

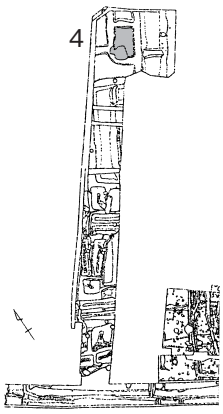
○2堀セクション
1　盛土
2　旧耕作土　T◎　FER
3　暗灰褐色／LR、FER△　締良
4　暗灰褐色（灰色味強、暗）／LR△、暗灰褐色粘土B◎　粘強
（4堀2層と同じ）



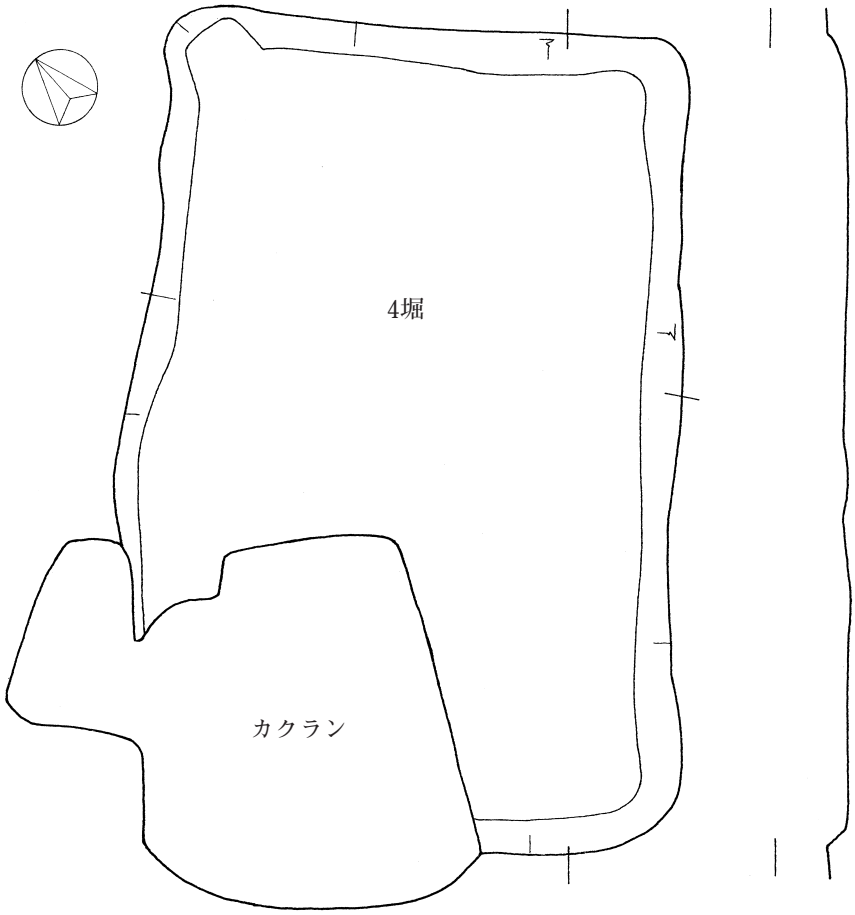
○3堀セクション
1　暗灰褐色／LR、LB△　締良　粘有
2　暗灰褐色／LR▲　締良　粘有

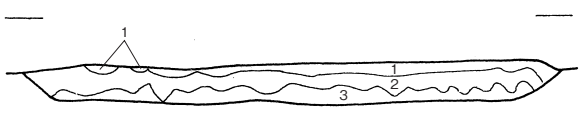
0　1/60　2m

第59図　遺構3　2・3号堀



堀の位置

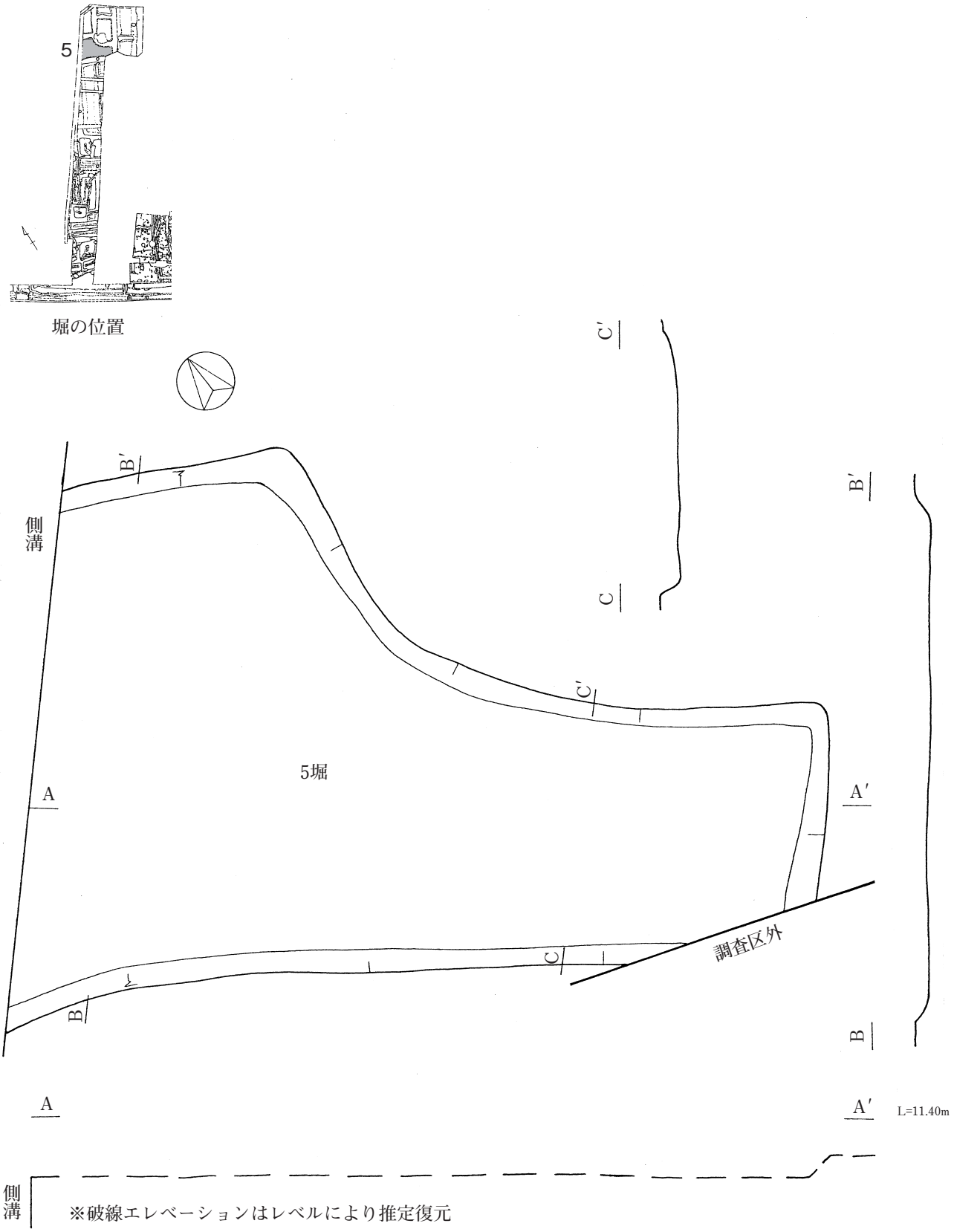




○4堀セクション
1　旧耕作土　T◎　FER△　締良
2　暗灰褐色／LR、LB△、暗灰褐色粘土B◎　粘有
3　暗灰褐色／粘質層　FER◎、LR、LB△　粘有

0　1/60　2m

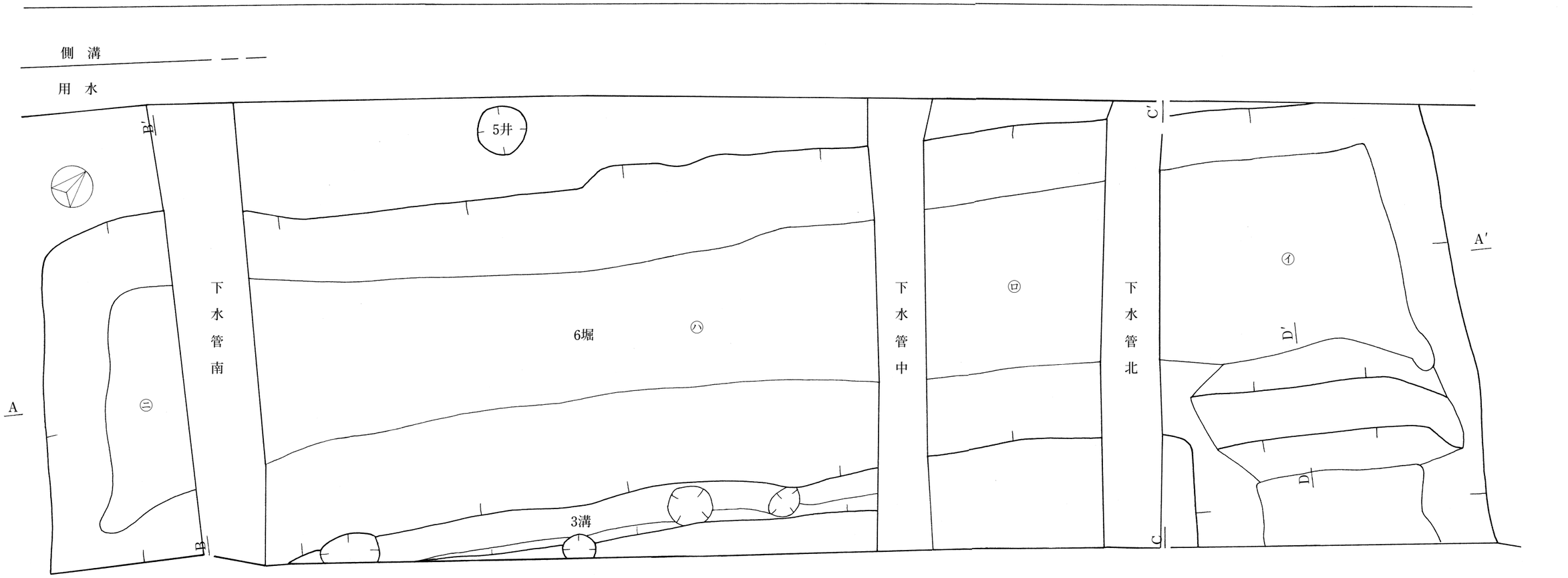
第60図　遺構4　4号堀

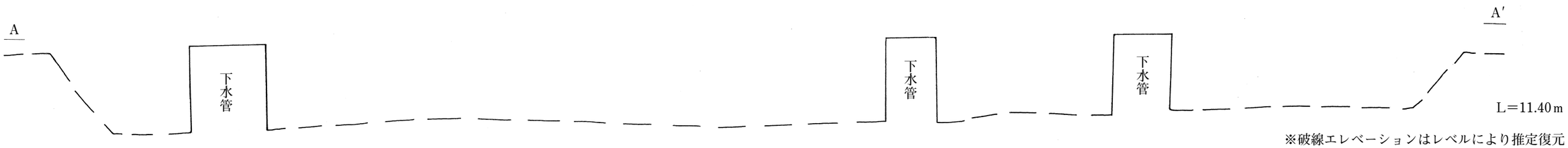

5
堀の位置
B′
側溝
C′
C
B′
C′
5堀
A
A′
調査区外
C
B
B
A
A′
L=11.40m
側溝
※破線エレベーションはレベルにより推定復元
0
1/60
2m

第61図　遺構 5　 5 号堀

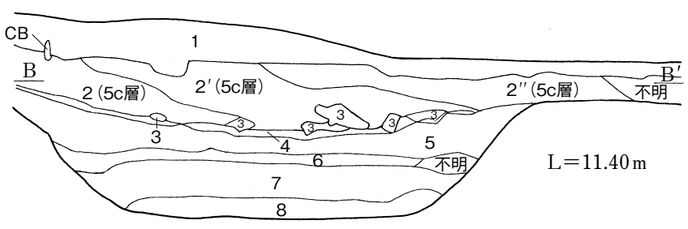
16号堀　調査風景

1号建物跡　調査風景

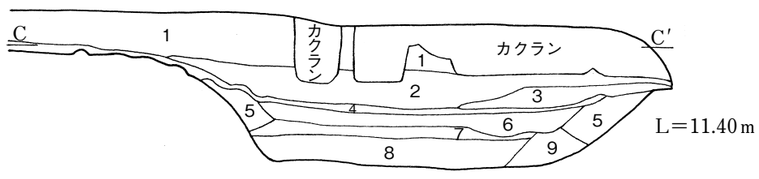




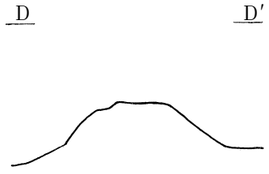
※破線エレベーションはレベルにより推定復元

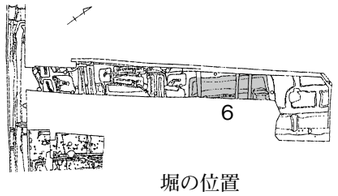


○6堀セクション（B－B′ライン）
1　暗灰褐色／ＦＥ△、C、S▲　締良（C－C′1層と同じ）
2　C層　炭主体　ＳＢ△　軟度低（5C層）
2′暗灰褐色／ＳＢ◎（土壁片を含）　C△　締良（5C層）
2″暗灰褐色／S、C△（2′層より少）（5C層）
3　暗灰褐色粘土B
4　暗灰褐色／粘質層　FE△　軟質（C－C′4層と同じ）
5　暗灰褐色／粘質層　FE◎　軟質（C－C′6層と同じ）
6　暗灰褐色（5層より暗）／粘質層　ＦＥ▲　軟度高（C－C′7層と同じ）
7　暗灰褐色（さらに暗）／粘質層　粘強　軟度高（C－C′8層と同じ）
8　ＬＢ層　ＬＢ主体　粘強　軟質



○6堀セクション（C－C′ライン）
1　暗灰褐色／ＦＥ△、C、S▲　締良
2　暗灰褐色／ＦＥ◎、C、S▲　締良
3　暗灰褐色／ＦＥ△、ＬＲ、C▲　締良
4　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ△　軟質（4層以下が6堀）
5　暗灰褐色／ＬＲ、FE◎　軟質
6　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ◎　軟質
7　暗灰褐色（6層より暗）／粘質層　ＦＥ▲　軟度高
8　暗灰褐色（さらに暗）／粘質層　粘強　軟度高
9　暗灰褐色／粘質層　8層に似る　ＬＲ、ＬＢ、ＦＥ◎　軟質

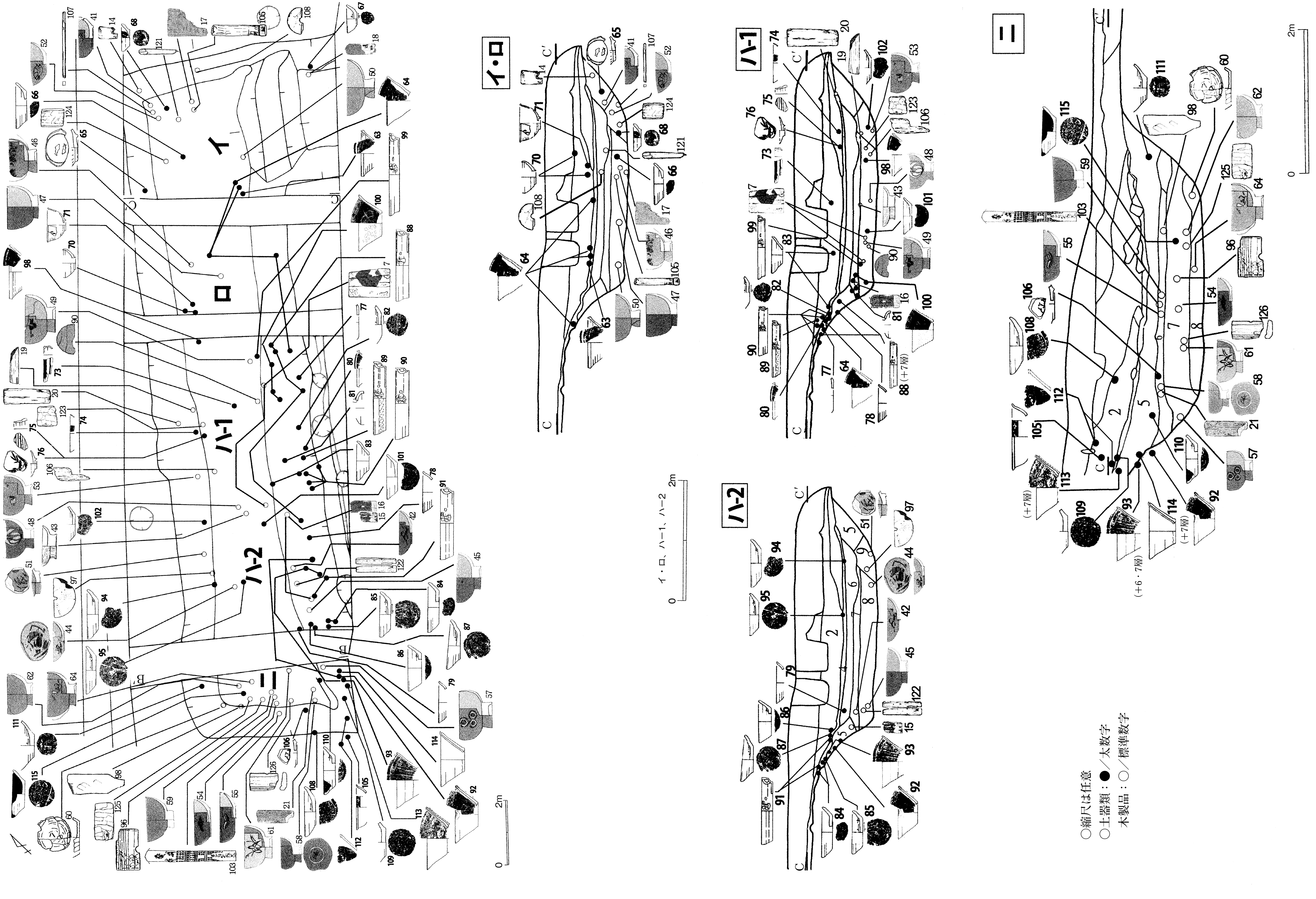




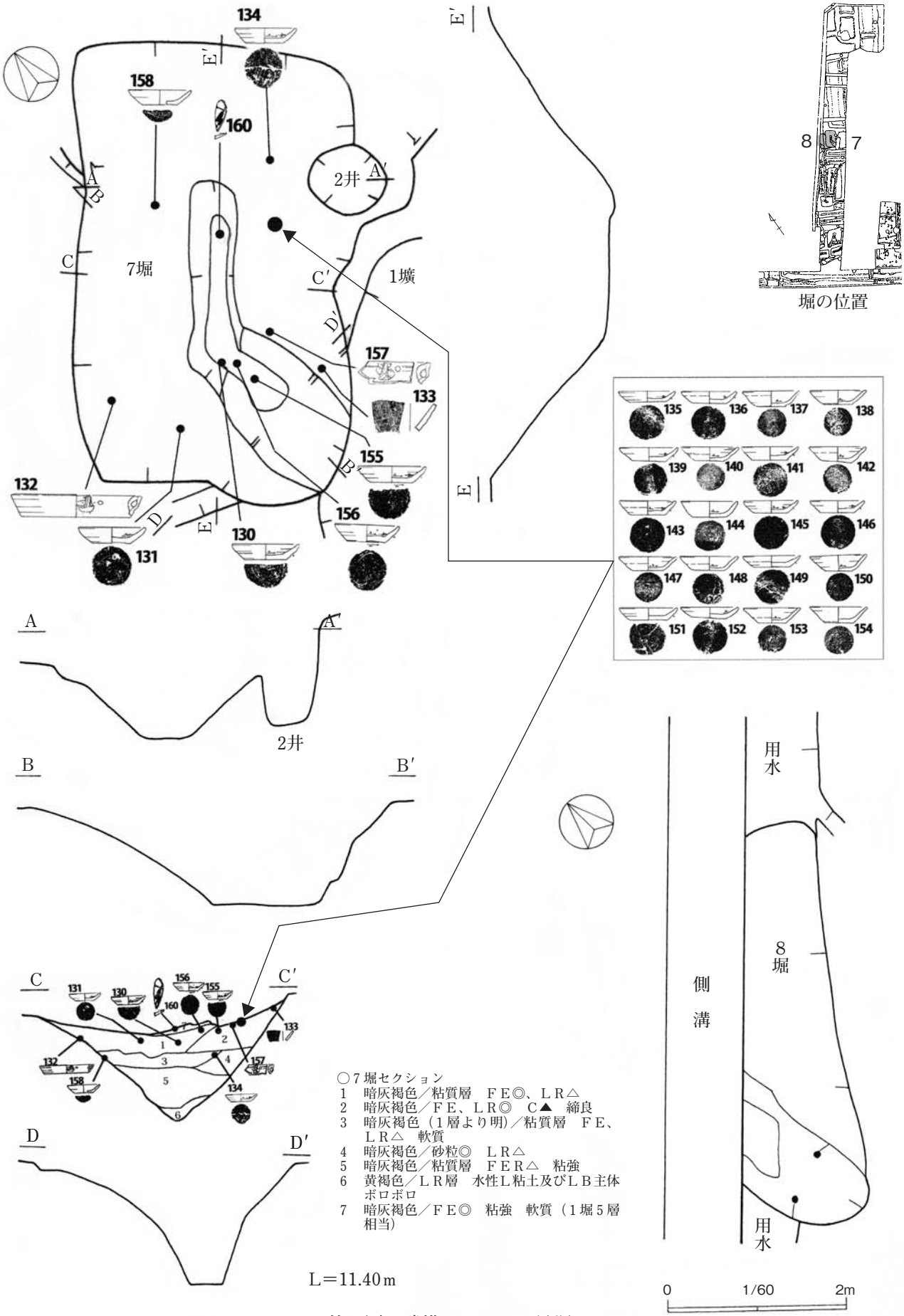
堀の位置

0　1/60　2m

第62図　遺構6　6号堀

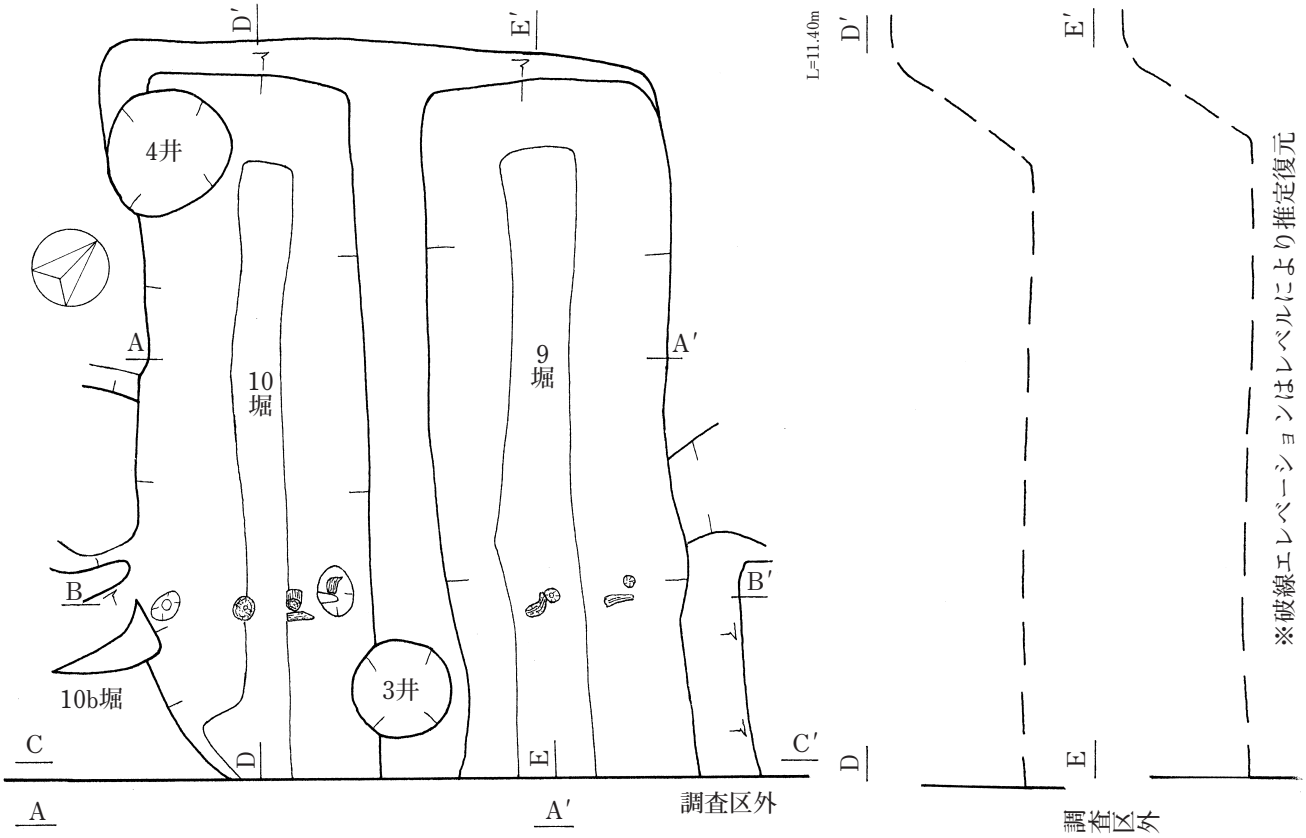


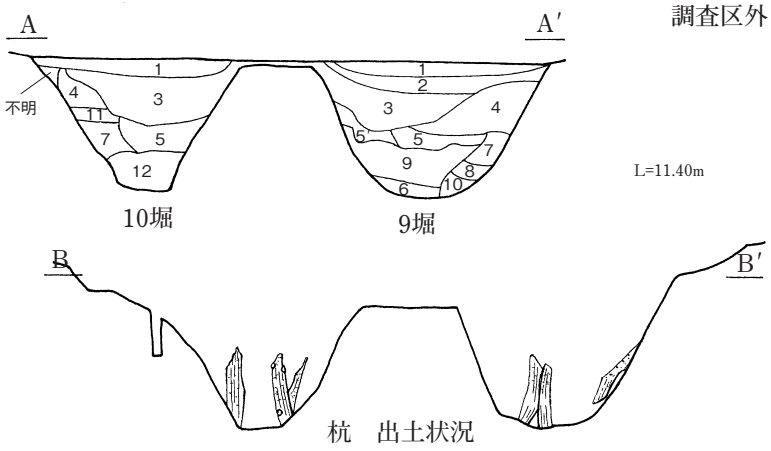
第63図　遺構7　6号堀遺物分布図



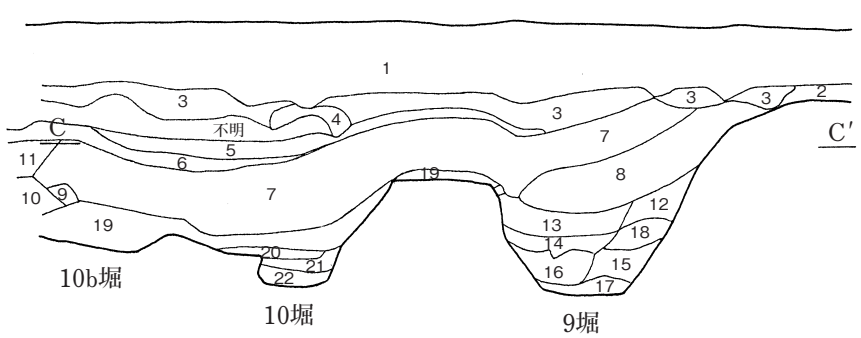
○7堀セクション
1　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ◎、ＬＲ△
2　暗灰褐色／ＦＥ、ＬＲ◎　C▲　締良
3　暗灰褐色（1層より明）／粘質層　ＦＥ、ＬＲ△　軟質
4　暗灰褐色／砂粒◎　ＬＲ△
5　暗灰褐色／粘質層　ＦＥＲ△　粘強
6　黄褐色／ＬＲ層　水性Ｌ粘土及びＬＢ主体ボロボロ
7　暗灰褐色／ＦＥ◎　粘強　軟質（1堀5層相当）

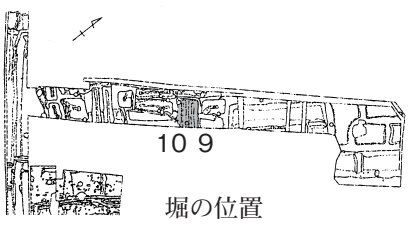
第64図　遺構8　7・8号堀





○9・10堀セクション（A－A′ライン）
1　暗灰褐色／ＬＲ◎　Ｃ△　締良　（1堀5層相当）
2　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ△　ＬＲ△　粘強
3　暗灰褐色／ＦＥ◎　ＬＲ、ＬＢ△　軟質
4　暗灰褐色／ＦＥＲ◎　Ｃ▲　軟質
5　暗灰褐色(上層より暗)／粘質層　ＬＲ、ＦＥ▲　軟度高　粘強
5′　暗灰褐色／粘質層　5層に似るがよりざらつく
6　黄灰褐色／ＬＲ層　水性Ｌヵ　軟度高
7　暗灰褐色／ＦＥ、ＬＲ◎　軟質
8　暗灰褐色(7層より暗)／灰黒色土Ｂ△　ＬＲ△　軟質
9　暗灰褐色／粘質層　ＬＲ△　植物根　軟質
10　6層に似る　粘弱
11　暗灰褐色／粘質層　Ｃ◎　ＬＲ△　粘強
12　暗灰褐色(上層より暗)／粘質層　ＬＲ、ＦＥ▲　軟度高

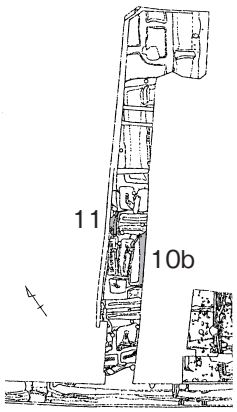




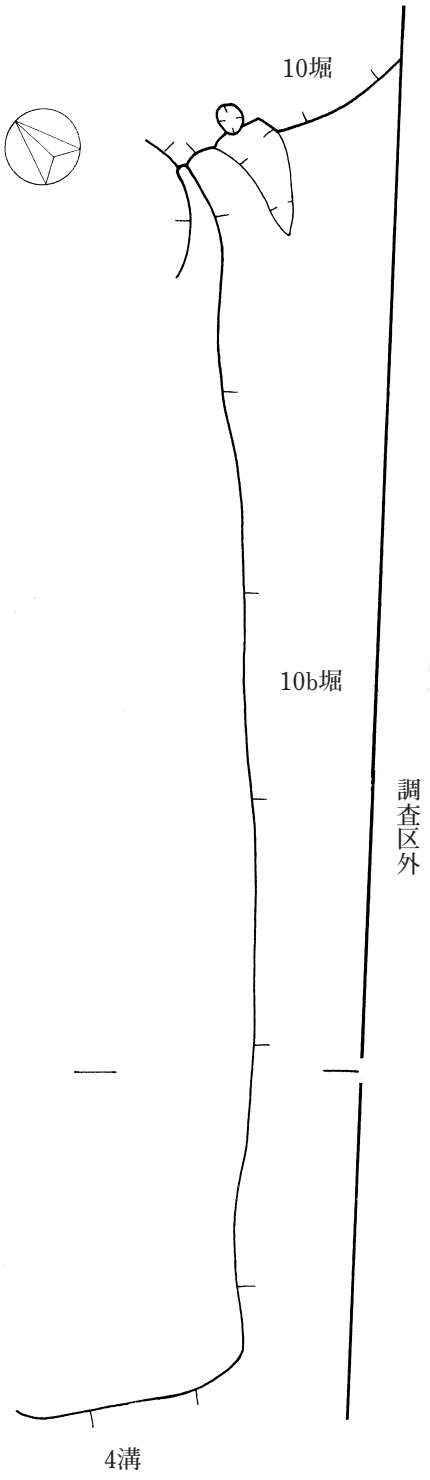
○9・10・10b堀セクション（C－C′ライン）
1　表土・耕作土　ＬＲ、Ｓ　Ｃ、Ｔ　軟質
2　暗灰褐色／黒色土Ｂ△　Ｓ▲
3　暗灰褐色／灰色土Ｂ、ＬＢ、黒色土Ｂ◎　締良
4　暗灰褐色／暗灰褐色土Ｂ（堅い）△　軟質
5　暗灰褐色（灰色味強、暗）／ＦＥ、ＬＢ、黒色土Ｂ△　締良
6　暗灰褐色（灰色味強、暗）／ＦＥ、ＬＲ▲　締良　下位にＦＥ層
7　暗灰褐色／ＬＢ、暗灰褐色土Ｂ（堅い）　ＦＥ,灰白色粘土Ｂ主体　締良　堅緻
8　暗灰褐色（7層より灰色味強、暗）／ＦＥ◎、暗灰褐色土Ｂ（堅い）△　締良
9　暗灰褐色Ｂ（堅い）
10　暗灰褐色／ＦＥ◎　ＬＢ△　ＬＲ△　白色粘土Ｂ△　軟度低
11　暗灰褐色／灰白色粘土Ｂ◎　ＦＥ△　締良
12　暗灰褐色／ＦＥ　ＬＲ◎　やや粘有　締良
13　暗灰褐色（12層よりやや明）／粘質層　ＦＥ◎　ＬＲ　ＬＢ△　粘強　14層との間に灰色粘土
14　暗灰褐色（12、13層より暗）／粘質層　ＬＲ　ＦＥ△　粘強
15　暗灰褐色（暗）／粘質層　ＦＥ　ＬＲ△　粘強
16　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ　ＬＲ△　粘強
17　黄褐色／ＬＢ層　水性Ｌ粘土主体　非常に粘強
18　暗灰褐色（12層より暗）／ＦＥ△　ＬＲ△
19　暗灰褐色（下層よりやや明）／粘質層　ＦＥ、ＬＲ▲　粘強
20　暗灰褐色／粘質層　ＬＢ、ＬＲ◎　ＦＥ△　粘強
21　暗灰褐色（さらに暗）／ＬＢ△　軟質　粘強
22　暗灰褐色／粘質層　ＬＢ◎　軟質　粘強
＊2～11層→埋 土/12～18層→9堀/19･20層→10b堀

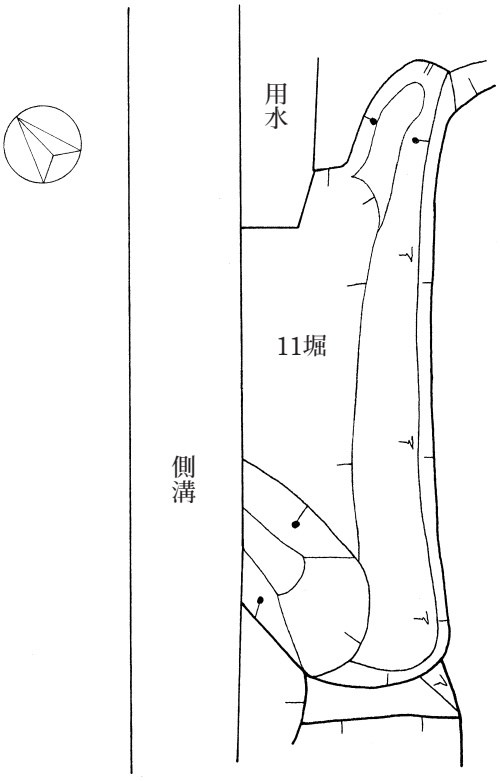
0　1/60　2m

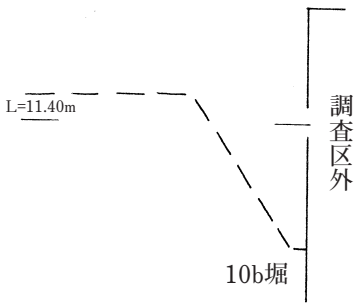
第65図　遺構9　9・10号堀

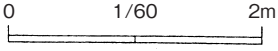


堀の位置

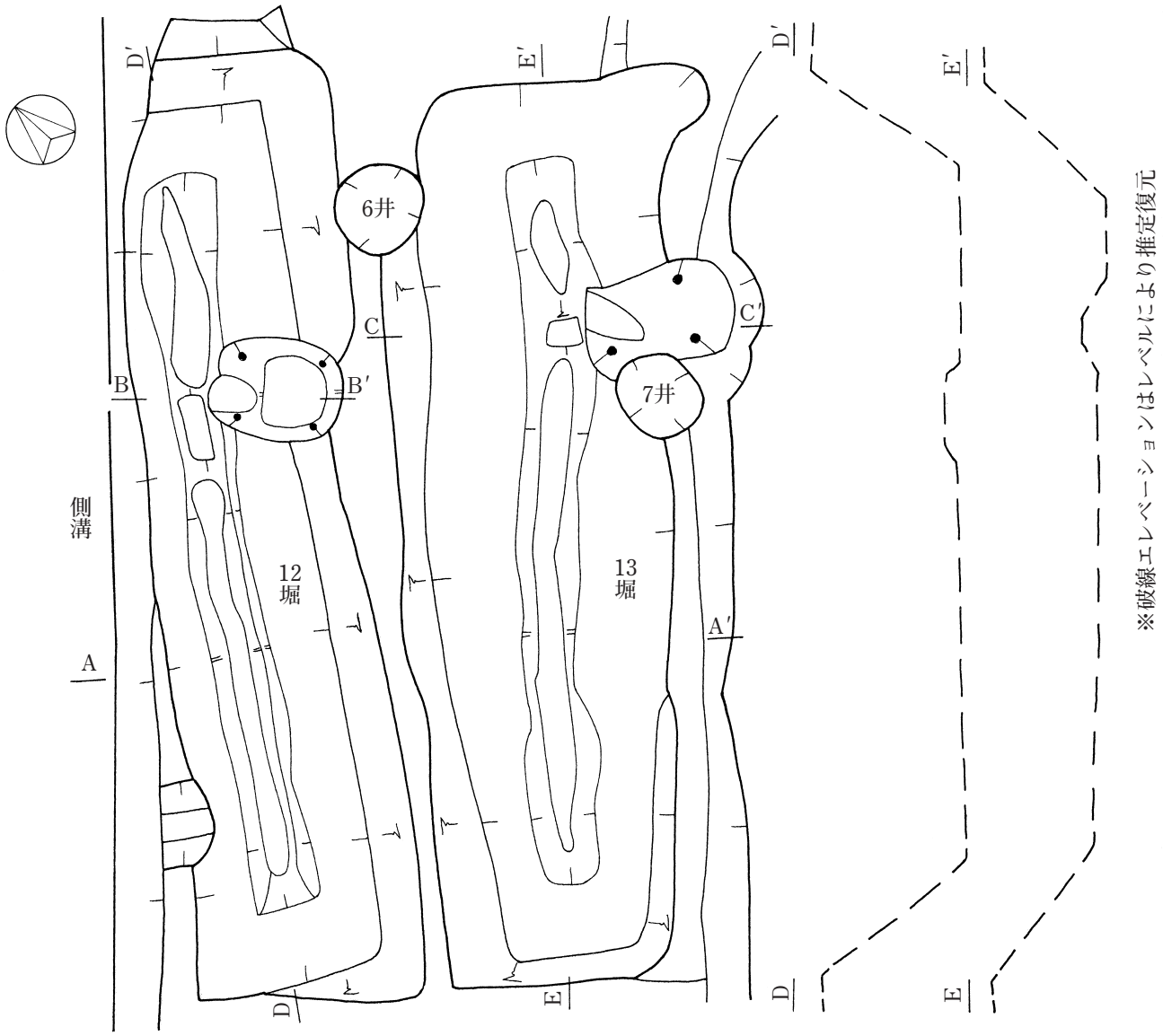


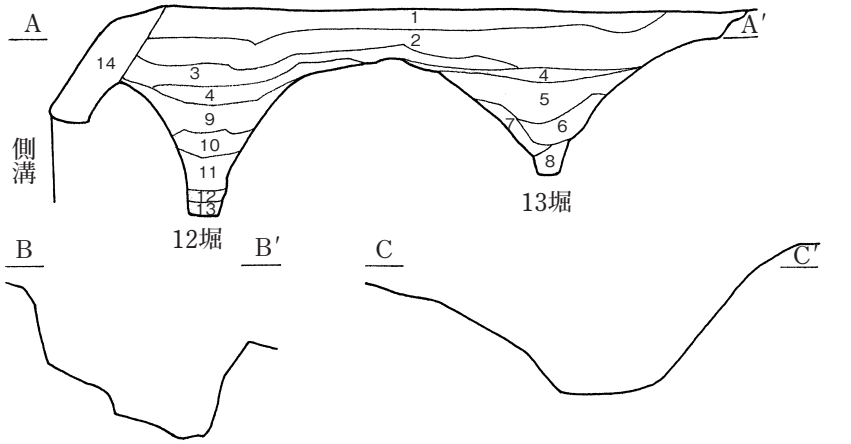


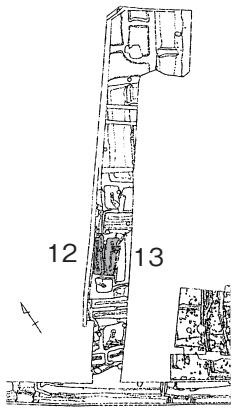




第66図　遺構10　10b・11号堀







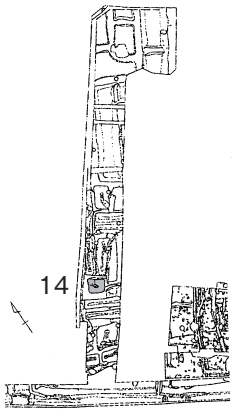
堀の位置

○12・13堀セクション
1　暗灰褐色／T◎、LR◎　締良
2　暗灰褐色／LR△万　C▲　締良
3　暗灰褐色（灰色味強、暗）／FE△、LB、LR△　軟度低
4　暗灰褐色（さらに灰色味強）／FE◎、LR、C△　軟質　粘強　（1堀5層相当）
5　暗灰褐色／粘質層　白色粘土B◎　FE◎　LR△　軟質　粘強
6　暗灰褐色／粘質層　FE◎　LR△　ザラつく
8　黄褐色LR層　LR、LB主体　やや粘有　ボロボロ
9　暗灰褐色（上層より暗）／FE◎、LR、C△
10　5層と同じ
11　暗灰褐色（上層より暗）／粘質層　FE△　LR△　軟度高
12　暗灰褐色（さらに暗）／粘質層　軟度高
13　黄褐色LR層　L粘土　LB　軟質　ボロボロ
14　用水

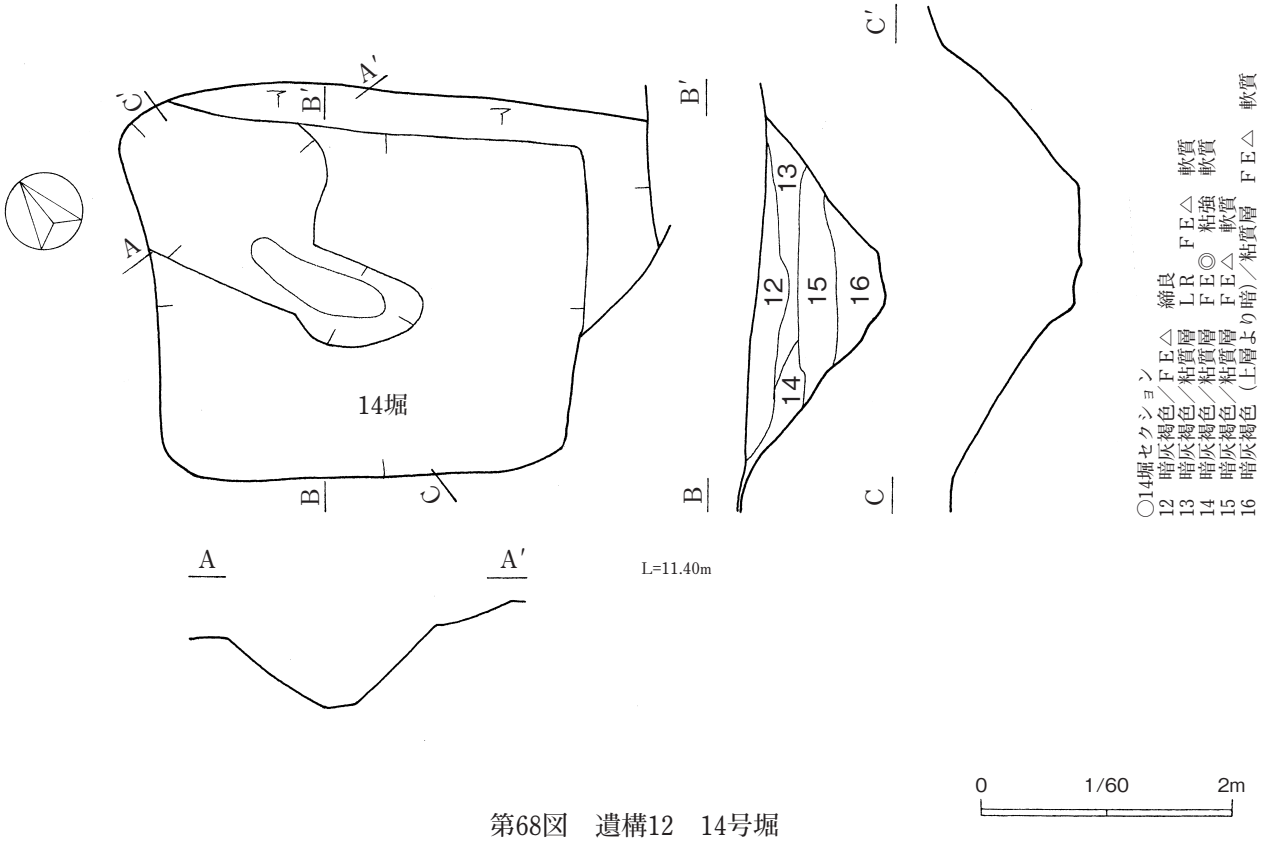
0　1/60　2m

第67図　遺構11　12・13号堀

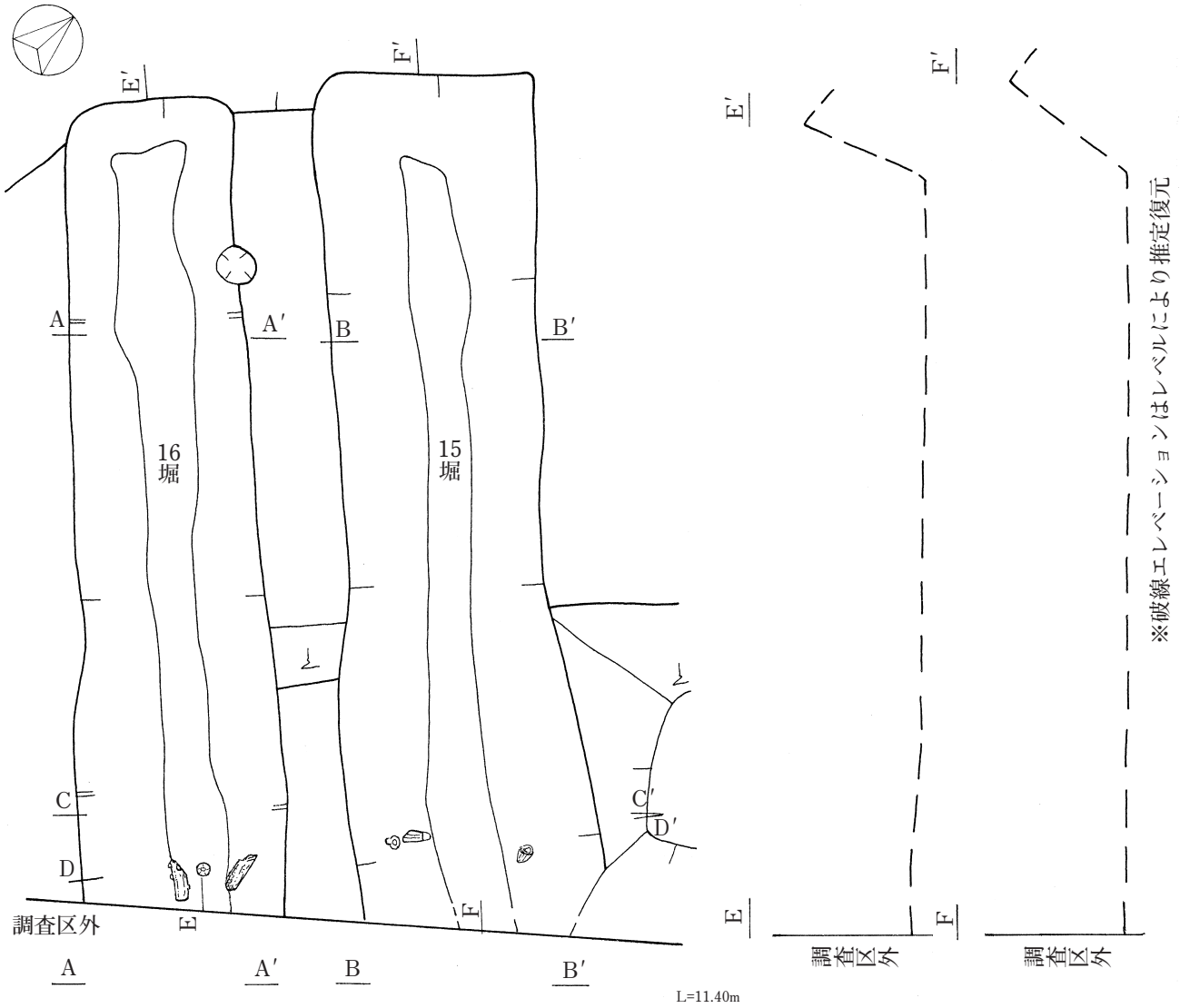
14号堀周辺調査風景

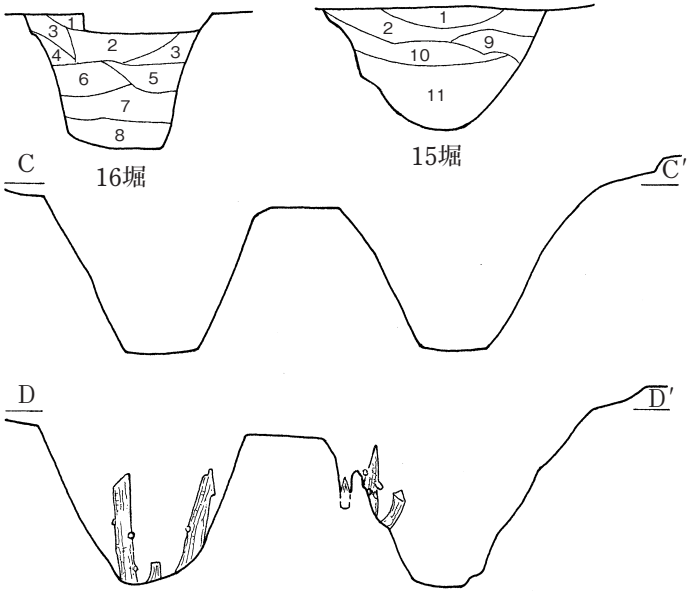


堀の位置



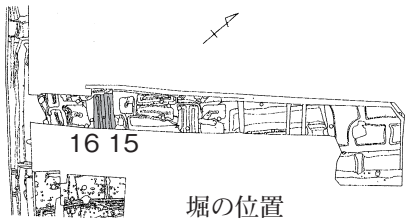
第68図　遺構12　14号堀





杭　出土状況

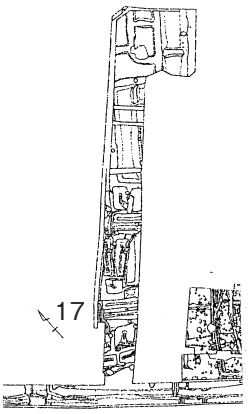
○15・16堀セクション
1　暗灰褐色／ＬＢ、ＬＲ◎　やや粘有　堅緻
2　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ△　やや粘有　軟度低
3　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ◎、ＦＥ△
4　ＬＢ層　ＬＢ主体　暗灰褐色粘土Ｂ△
5　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ　灰白色粘土Ｂ△　軟質
6　暗灰褐色／粘質層　ＬＢ、ＬＲ　灰白色粘土Ｂ△　軟質
7　暗灰褐色（６層より暗）／ＬＢ△　軟度高
8　暗灰褐色（７層よりやや明）／粘質層
9　暗灰褐色（１層より暗）／粘質層　灰色粘土Ｂ◎　ＬＢ△　軟質　粘有
10　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ△　軟度高
11　暗灰褐色（９層より暗）／灰色粘土Ｂ◎　ＬＢ△　軟度高



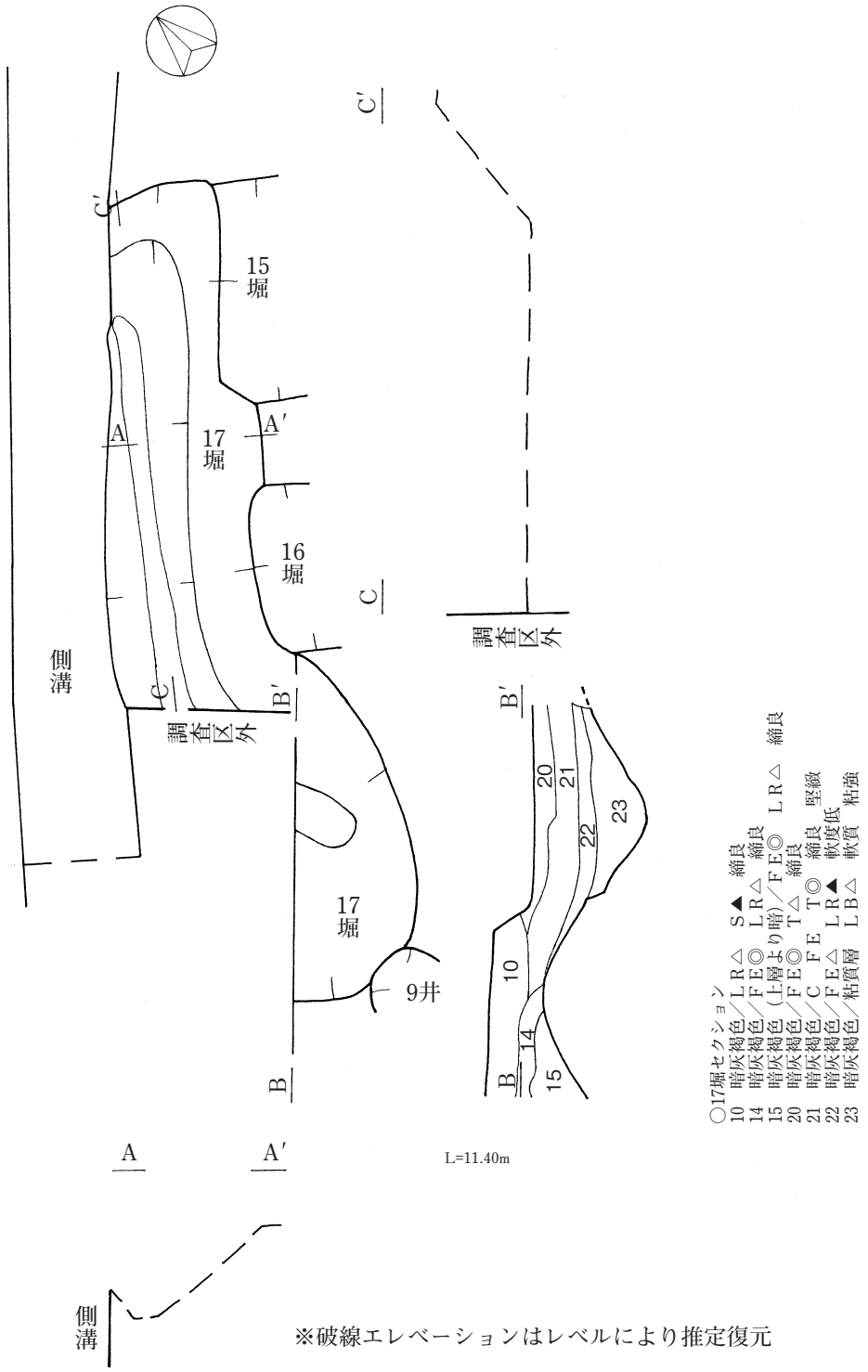
堀の位置

0　1/60　2m

第69図　遺構13　15・16号堀



堀の位置



○17堀セクション
10 暗灰褐色／ＬＲ△　Ｓ◀　締良
14 暗灰褐色／ＦＥ◎　ＬＲ△　締良
15 暗灰褐色（上層より暗）／ＦＥ◎　ＬＲ△　締良
20 暗灰褐色／ＦＥ◎　Ｔ△　締良
21 暗灰褐色／Ｃ　ＦＥ　Ｔ◎　締良　堅緻
22 暗灰褐色／ＦＥ△　ＬＲ◀　軟度低
23 暗灰褐色／粘質層　ＬＢ△　軟質　粘強

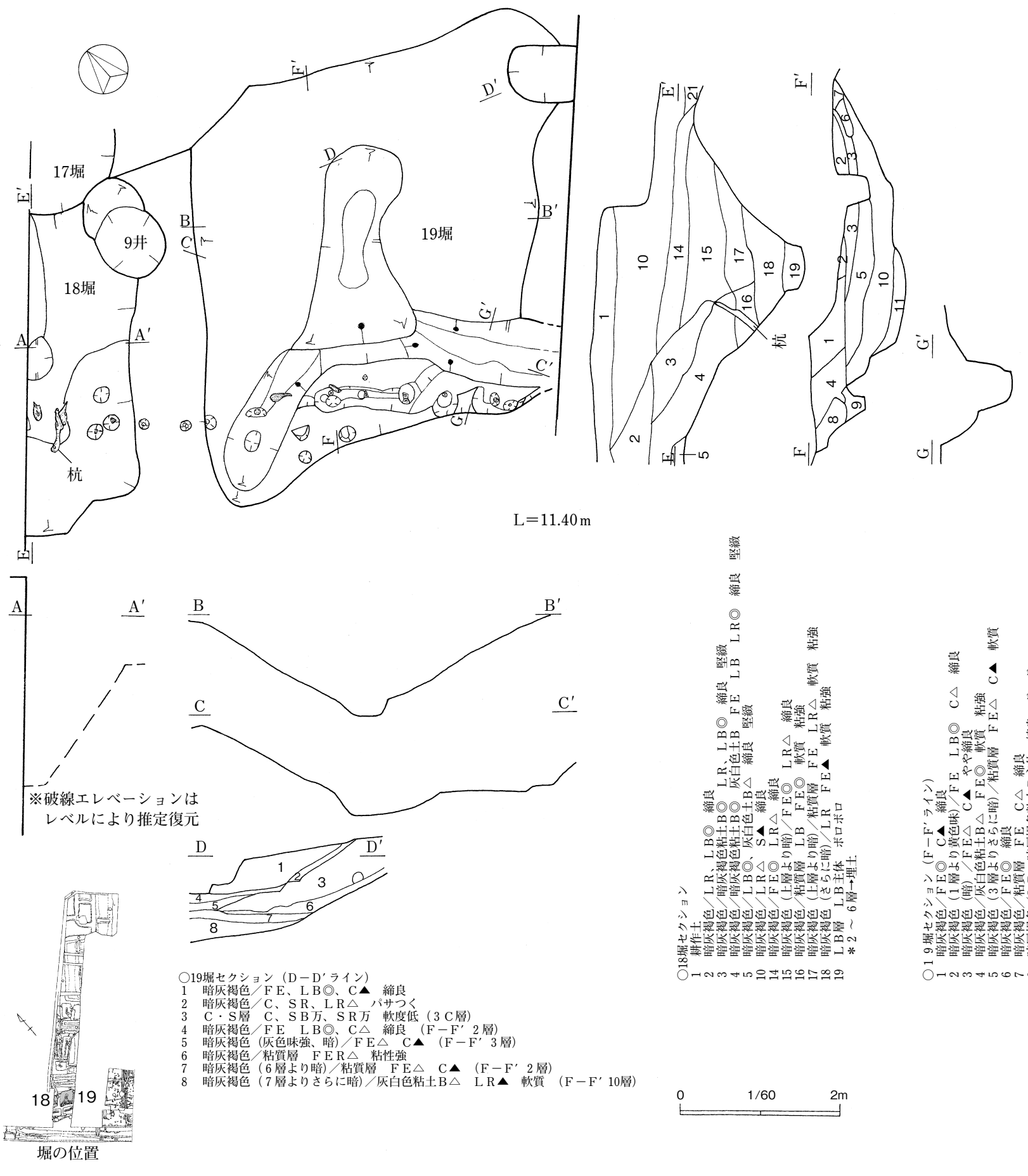
※破線エレベーションはレベルにより推定復元

0　1/60　2m

第70図　遺構14　17号堀

2号井戸　調査風景

19号堀　調査風景

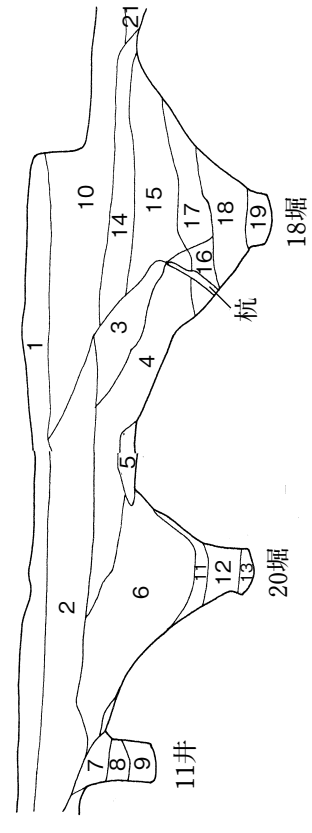


○19堀セクション（D－D′ライン）
1　暗灰褐色／ＦＥ、ＬＢ◎、Ｃ▲　締良
2　暗灰褐色／Ｃ、ＳＲ、ＬＲ△　パサつく
3　Ｃ・Ｓ層　Ｃ、ＳＢ万、ＳＲ万　軟度低（３Ｃ層）
4　暗灰褐色／ＦＥ　ＬＢ◎、Ｃ△　締良　（Ｆ－Ｆ′２層）
5　暗灰褐色（灰色味強、暗）／ＦＥ△　Ｃ▲　（Ｆ－Ｆ′３層）
6　暗灰褐色／粘質層　ＦＥＲ△　粘性強
7　暗灰褐色（６層より暗）／粘質層　ＦＥ△　Ｃ▲　（Ｆ－Ｆ′２層）
8　暗灰褐色（７層よりさらに暗）／灰白色粘土Ｂ△　ＬＲ▲　軟質　（Ｆ－Ｆ′10層）

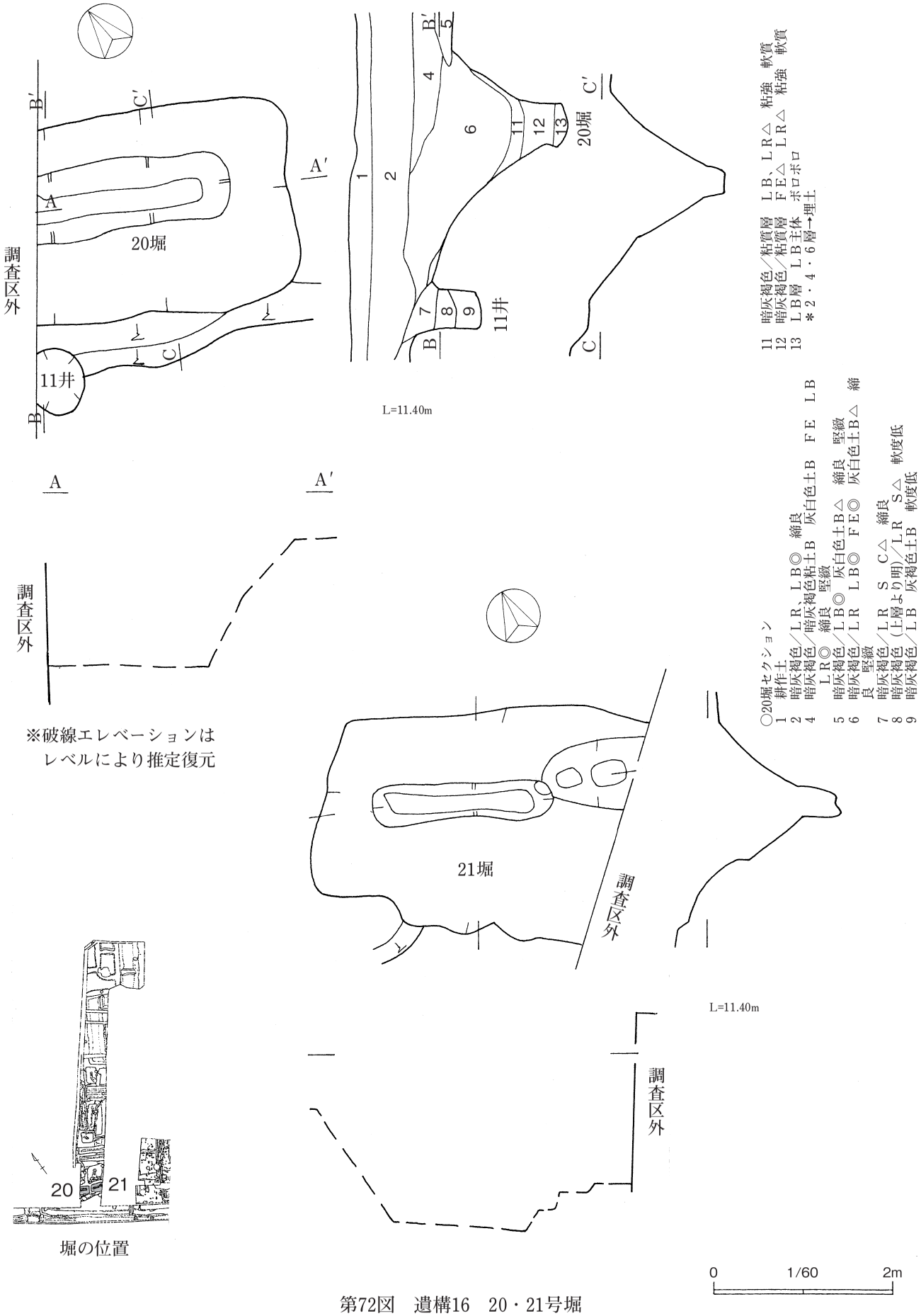
○18堀セクション
1　耕作土
2　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ◎　締良
3　暗灰褐色／暗灰褐色粘土Ｂ◎　ＬＲ、ＬＢ◎　締良　堅緻
4　暗灰褐色／暗灰褐色粘土Ｂ◎　灰白色土Ｂ　ＦＥ　ＬＢ　ＬＲ◎　締良
5　暗灰褐色／ＬＢ◎、灰白色土Ｂ△　締良　堅緻
10　暗灰褐色／ＬＲ△　Ｓ◀　締良
14　暗灰褐色／ＦＥ◎　ＬＲ△　締良
15　暗灰褐色（上層より暗）／ＦＥ◎　ＬＲ△　締良
16　暗灰褐色／粘質層　ＬＢ　ＦＥ◎　軟質　粘強
17　暗灰褐色（上層より暗）／粘質層　ＦＥ　ＬＲ△　軟質　粘強
18　暗灰褐色（さらに暗）／ＬＲ　ＦＥ◀　軟質　粘強
19　ＬＢ層　ＬＢ主体　ボロボロ
＊２～６層→埋土

○１９堀セクション（Ｆ－Ｆ′ライン）
1　暗灰褐色／ＦＥ◎、Ｃ◀　締良
2　暗灰褐色（１層より黄色味）／ＦＥ　ＬＢ◎　Ｃ△　締良
3　暗灰褐色（暗）／ＦＥ△　Ｃ◀　やや締良
4　暗灰褐色／灰白色粘土Ｂ△　ＦＥ◎　軟質　粘強
5　暗灰褐色（３層よりさらに暗）／粘質層　ＦＥ△　Ｃ◀　軟質
6　暗灰褐色／ＦＥ◎　締良
7　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ　Ｃ△　締良
8　暗灰褐色／ＬＢ、暗灰褐色粘土Ｂ主体　締良　ボロボロ
9　ＬＢ層　ＬＢ（ハード）主体　締悪　ボロボロ
10　暗灰褐色／粘質層　灰白色粘土Ｂ△、ＬＲ◀　軟度高
11　黄灰色／ＬＢ主体　粘有

参　考



第71図　遺構15　18・19号堀

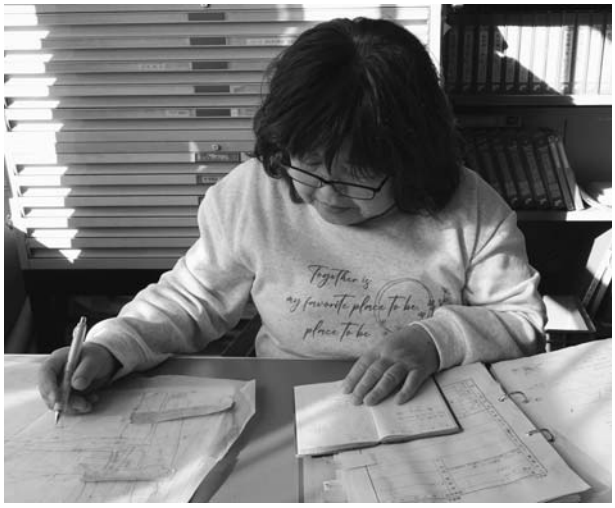


第72図　遺構16　20・21号堀

木製品実測

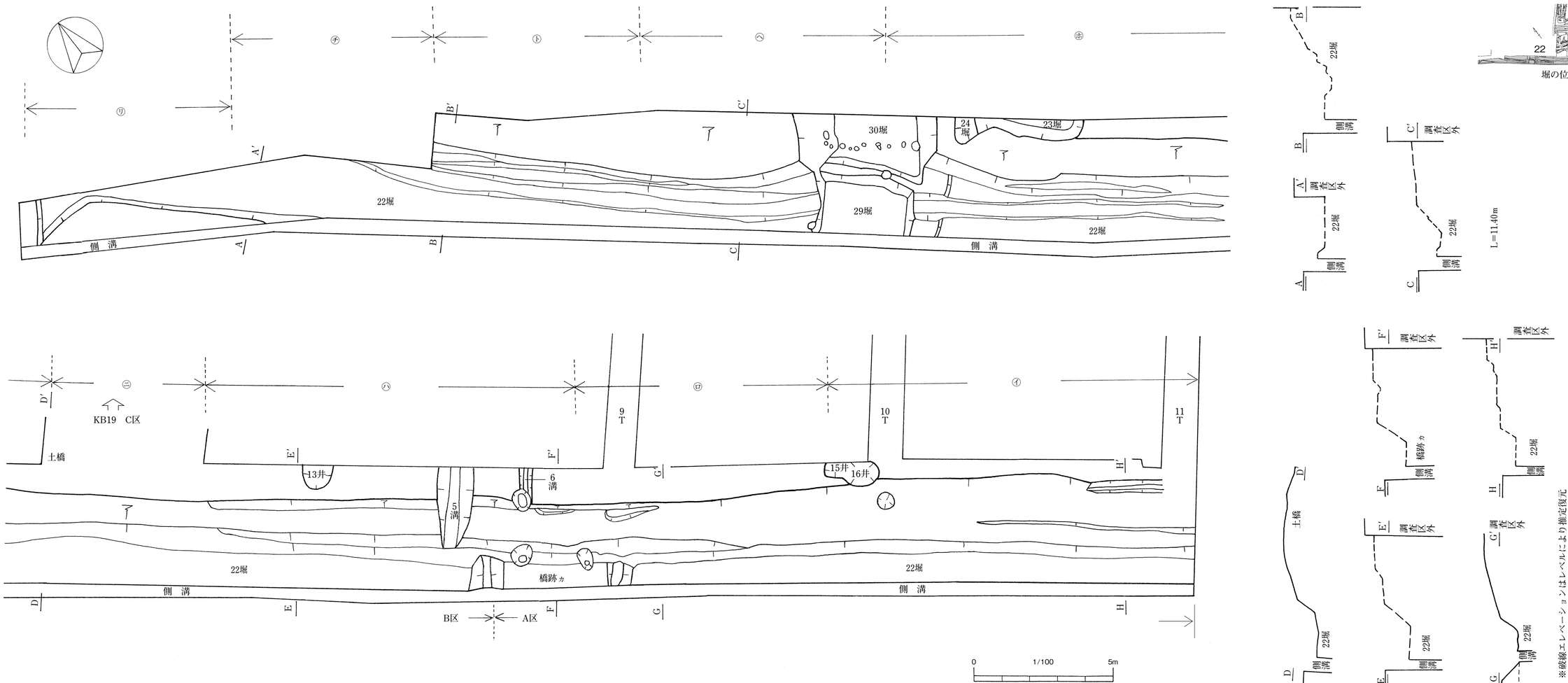
遺物データ入力

石製品実測

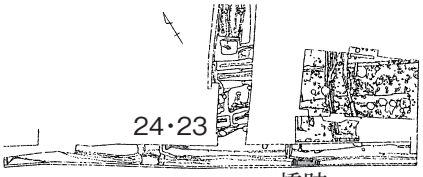


遺構カード作成

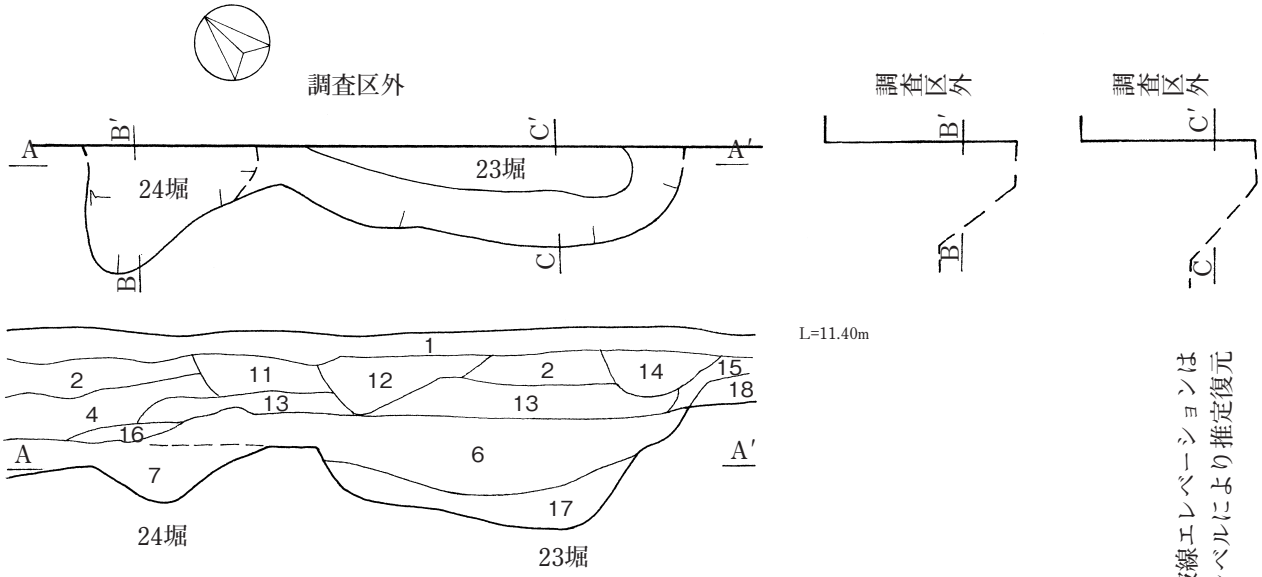
校　正



第73図　遺構17　22号堀

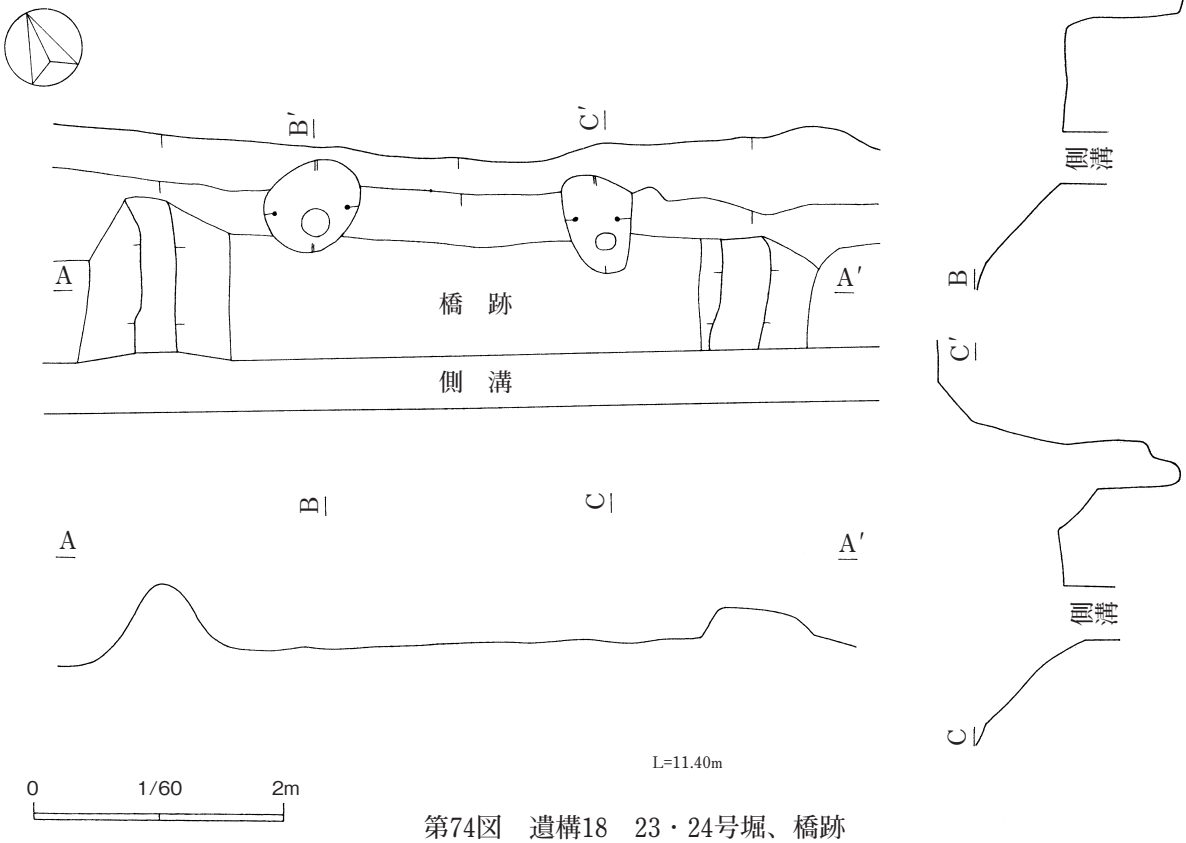


堀の位置

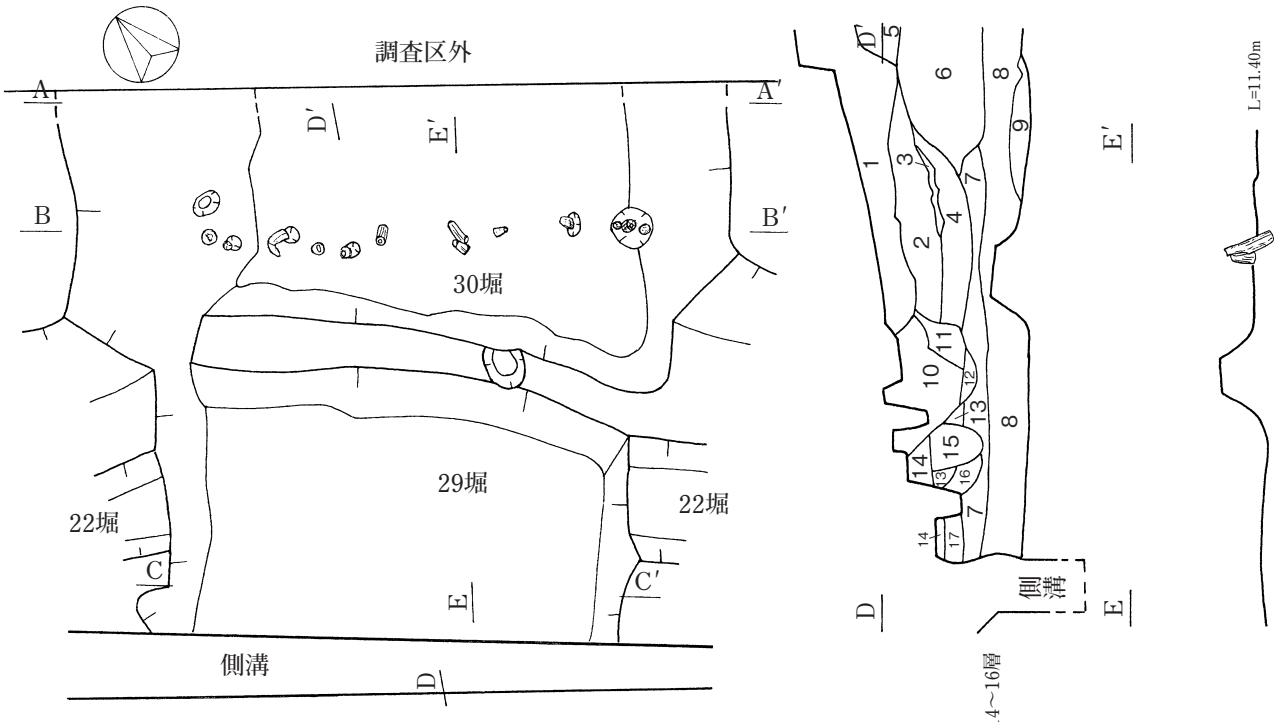


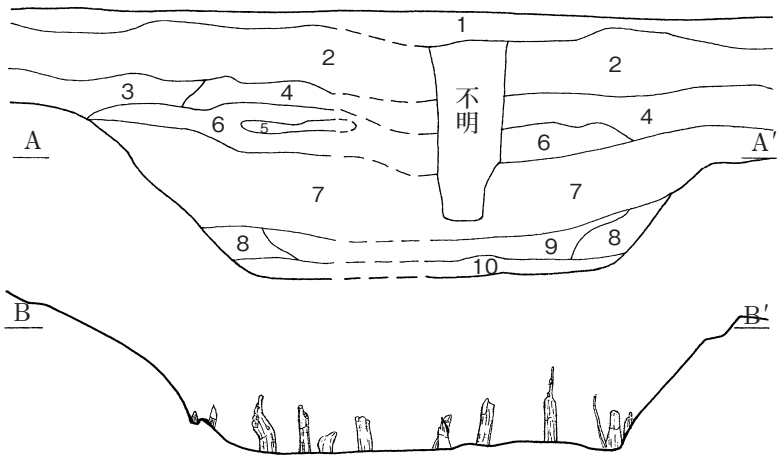
※破線エレベーションはレベルにより推定復元

○23・24堀セクション
1　耕作土　T　SC　締悪
2　暗灰褐色／LB、LR△　パサつく
4　暗灰褐色（2層より暗3層より明）／LB　LR△　締良
6　暗灰褐色／暗灰褐色土B主体　LB　LR　FE◎　締良　堅緻
7　暗灰褐色／LB　FE　暗灰褐色土B主体　締良　堅緻
11　暗灰褐色／黒色土B、LB、LR◎　ボロボロ
12　11層と同じ
13　暗灰褐色／LR、LB◎　黒色土B◎　締良　堅緻
14　暗灰褐色／黒色土B　LB　LR◎　ボロボロ
15　暗灰褐色／LR△　締良
16　暗灰褐色／LR　FE△　締良
17　黄褐色土層　LR　LB主体　粘有
18　暗灰褐色／LR、S▲　締良



第74図　遺構18　23・24号堀、橋跡



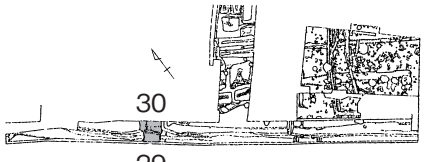


30堀　杭出土状況

※破線エレベーションはレベルにより推定復元

○30堀セクション
1　耕作土　T、S、C　締悪
2　暗灰褐色ＬＢ、ＬＲ△　パサつく
3　暗灰褐色（２層より暗）／黒色土Ｂ　ＬＢ△　締良
4　暗灰褐色（２層より暗３層より明）／ＬＢ、ＬＲ△　締良
5　暗灰褐色／暗灰褐色土Ｂ主体　非常に締良　堅緻
6　暗灰褐色／暗灰褐色土Ｂ主体　ＬＢ　ＬＲ　ＦＥ◎　締良　堅緻
7　暗灰褐色／ＬＢ　ＦＥ　暗灰褐色土Ｂ主体　締良　堅緻
8　暗灰褐色／粘質層　ＬＢ　ＦＥ△　粘強　軟質
9　暗灰褐色／粘質層　ＬＲ、ＦＥ▲　粘強　軟質
10　暗灰褐色（上層より明）／粘質層　ＬＢ△　軟質

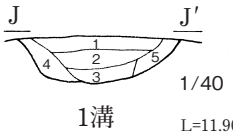
○29・30堀セクション
1　暗灰褐色／Ｔ◎　Ｒ△万　締良
2　暗灰褐色／ＦＥ◎　ＬＢ　灰白色粘土Ｂ△　締良
3　灰色粘土層／ＦＥ、ＬＲ△　粘強
4　暗灰褐色／２層に似る　ＦＥ２層より◎　ＬＲ△　締良
5　暗灰褐色／灰黒色Ｂ主体、ＬＢ◎　ＬＲ◎　締良
6　暗灰褐色／ＦＥ、ＬＲ、ＬＢ◎　灰黒色土Ｂ締良
7　暗灰褐色／粘質層　ＦＥ◎　粘強
8　暗灰褐色（暗）／粘質層　ＬＲ、ＬＢ、ＦＥ△　粘強
9　黄灰色粘土層　ＬＲ主体　粘有　締良
10　暗灰褐色（灰色味強）／ＦＥ△　締良
11　暗灰褐色（灰色味強）／ＦＥ◎　締良
12　暗灰褐色／ＦＥ◎　非常に堅緻
13　暗灰褐色／ＦＥ△　締良
14　暗灰褐色／Ｔ◎　Ｃ、ＬＲ△　締良
15　暗灰褐色／ＦＥ◎　Ｃ◀　堅緻
16　暗灰褐色／ＬＲ、ＦＥ△　締良
＊５・６層→埋土／10～12層→用水／14～16層→溝



堀の位置

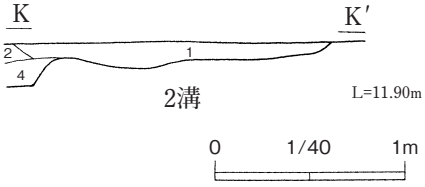
0　1/60　2m

第75図　遺構19　29・30号堀



1溝　L=11.90m

○1溝セクション
1　暗灰褐色／ＬＲ、ＦＥ、Ｓ、Ｃ▲　締良
2　暗灰褐色／ＦＥ◎　Ｃ　Ｓ▲　締良
3　暗灰褐色／ＬＲ、ＦＥ▲　締良
4　暗灰褐色／ＦＥ、Ｓ△　締良
5　暗灰褐色／ＬＢ（ソフト）△

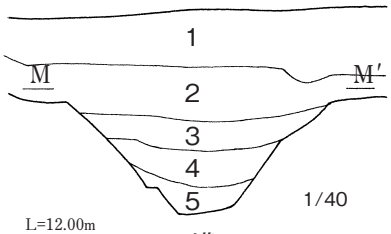


2溝　L=11.90m

○2溝セクション
1　暗灰褐色／灰褐色B△　ＬＢ（ソフト）△　Ｃ▲　締良
2　暗灰褐色／灰褐色粘土B、ＦＥ△　ＬＲ▲　締良
4　暗灰褐色（暗）／ＬＢ△　軟度低

L=11.70m
4溝

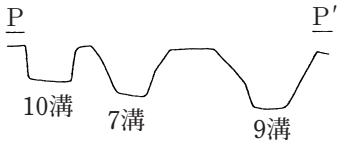
L=11.90m
6溝



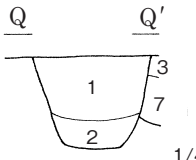
L=12.00m
5溝

○5溝セクション
1　埋土
2　暗灰褐色／ＬＲ　ＬＢ▲　締良
3　暗灰褐色（上層より灰色味強）／ＦＥ　ＬＲ▲　締良
4　暗灰褐色／ＦＥ◎　ＬＲ△　締良
5　暗灰褐色／ＦＥ△　ＬＢ　ＬＲ◎　締良

5溝　L=12.00m

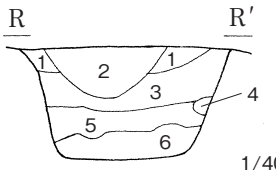


L=12.00m



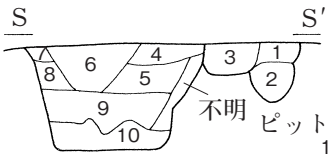
10溝　L=12.00m

○10溝セクション
1　ＬＢ層　ＬＢ（ハード・ソフト）主体　締良　堅緻
2　暗灰褐色／ＬＢ（ソフト）◎　締良
3　暗灰褐色／ＬＲ、Ｔ、Ｃ▲　締良
7　暗灰褐色（明）／ＬＢ（ソフト）△　締良



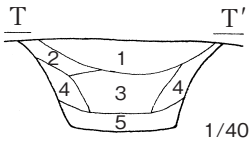
11･13溝　L=11.90m

○11・13溝セクション
1　暗灰褐色／Ｔ▲　ＬＲ△　締良　堅緻
2　暗灰褐色／ＬＲ△万　Ｔ▲　締良　→13溝
3　暗灰褐色（上層より暗）／ＬＲ△　ＦＥ△　締良
4　ＬＢ（ソフト）
5　暗灰褐色（さらに暗）／ＦＥ◎　ＬＲ△　締良
6　ＬＢ層　ハードＬ（ブラック）及びソフトＬ主体　締良　堅緻



12溝　L=11.90m

○12溝セクション
1　暗灰褐色／ＬＢ、ＬＲ△　締良
2　暗灰褐色／ＬＢ、ＬＲ◎　締良
3　暗灰褐色／ＬＢ（ソフト）△　締良
4　暗灰褐色／ＬＲ、Ｔ△　Ｓ▲　締良
5　暗灰褐色（上層より暗）／ＬＲ△
6　暗灰褐色／Ｔ、ＬＲ、ＬＢ△　締良　堅緻　→13溝
7　暗灰褐色／ＬＲ、Ｔ△、Ｓ▲　締良
8　暗灰褐色（上層より暗）／ＬＲ△
9　暗灰褐色（５層より暗）／ＬＲ△　ＦＥ△　締良
10　ＬＢ層　Ｌ（ハード）主体　締良　堅緻

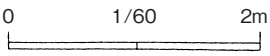


L=11.80m
15溝

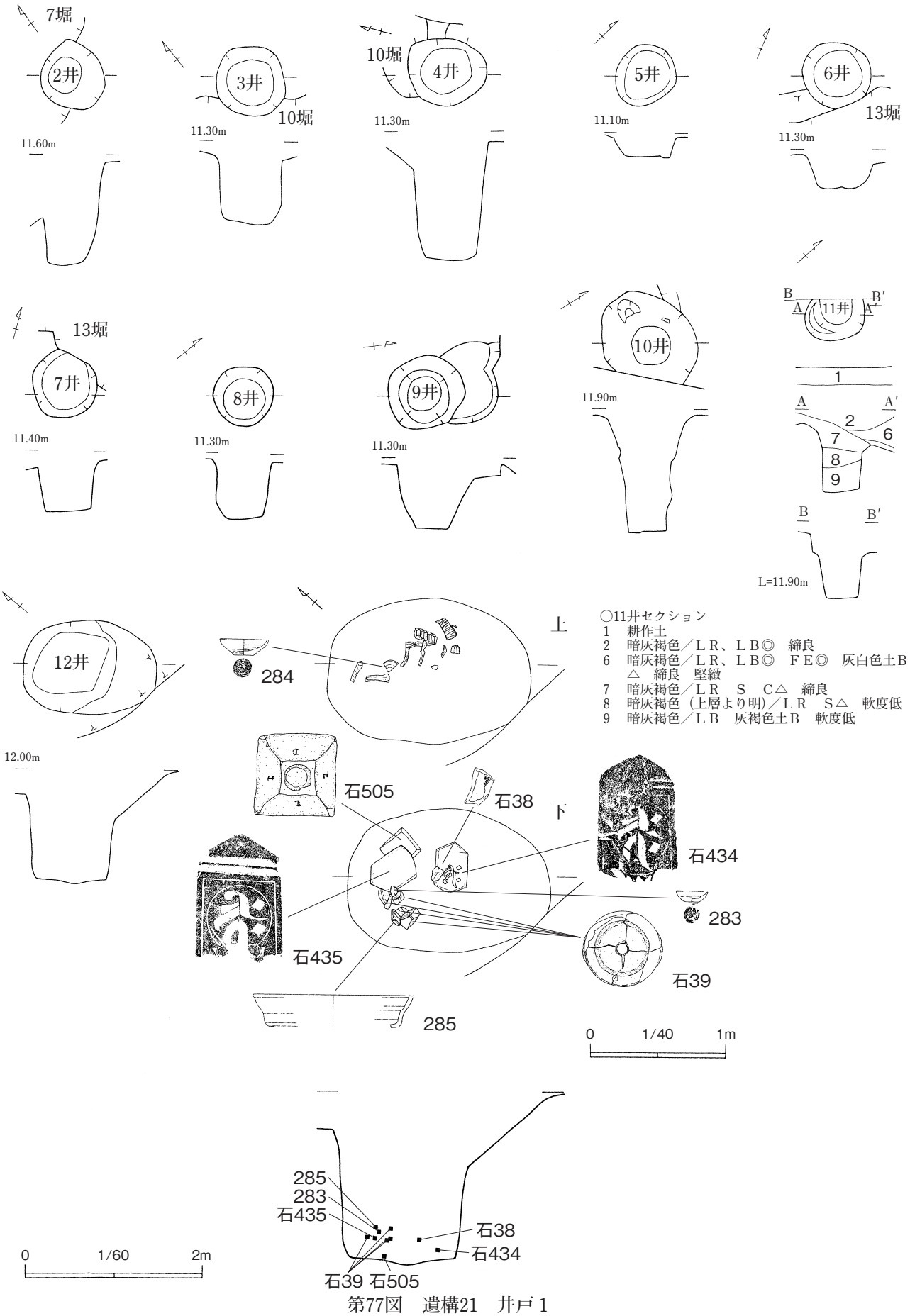
○15溝セクション
1　暗灰褐色／Ｔ、ＬＲ、ＣＲ△　締良
2　暗灰褐色／ＬＲ
3　暗灰褐色／ＬＲ△、ＣＲ▲　締良
4　暗灰褐色／ＬＢ◎　ＬＲ　締良
5　暗灰褐色（灰色味強）／ＬＢ　ＬＲ　締良

16溝　L=11.90m

17溝　L=11.90m

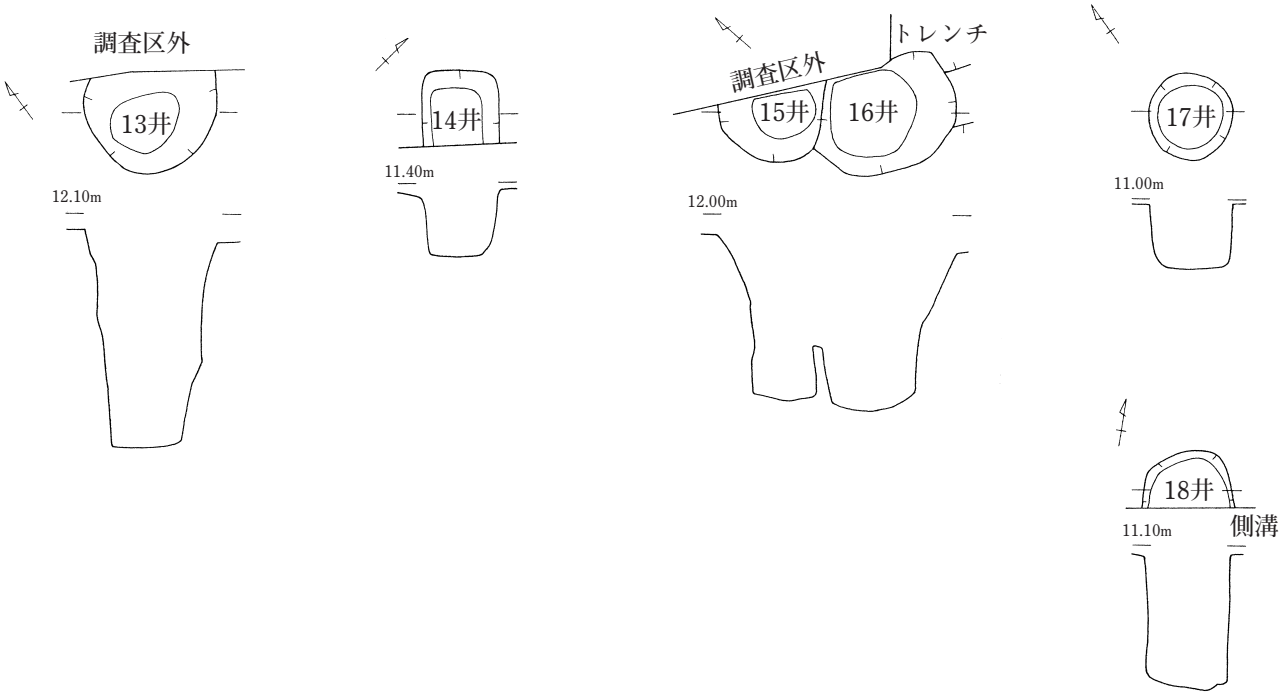


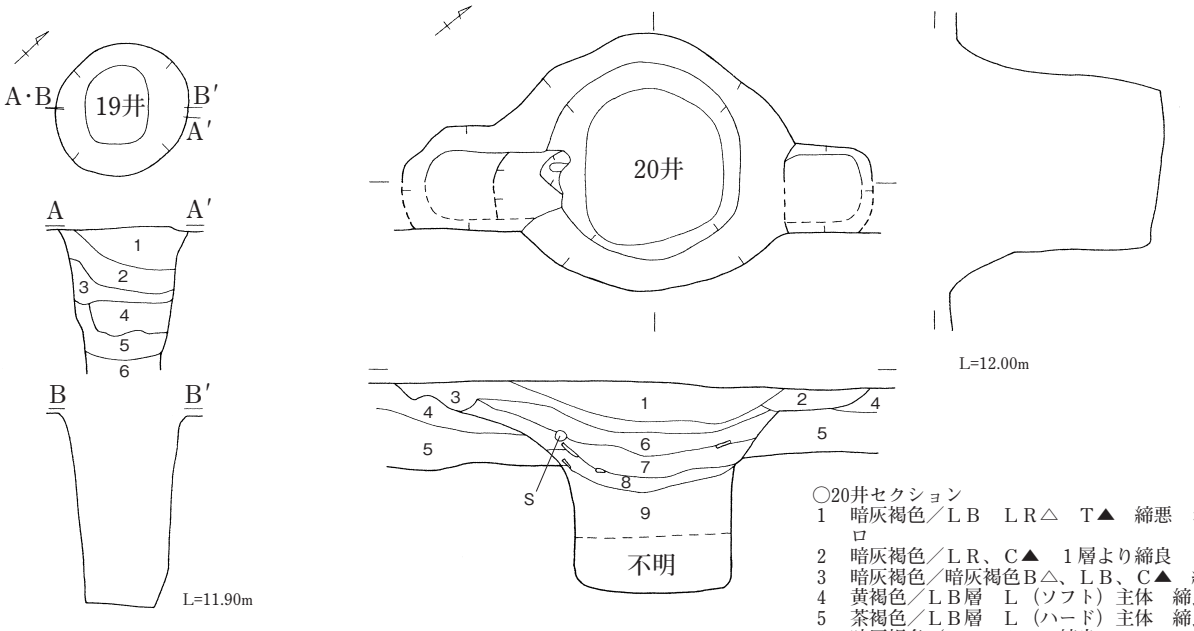
第76図　遺構20　溝



○11井セクション
1　耕作土
2　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ◎　締良
6　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ◎　ＦＥ◎　灰白色土Ｂ△　締良　堅緻
7　暗灰褐色／ＬＲ　Ｓ　Ｃ△　締良
8　暗灰褐色（上層より明）／ＬＲ　Ｓ△　軟度低
9　暗灰褐色／ＬＢ　灰褐色土Ｂ　軟度低

第77図　遺構21　井戸１



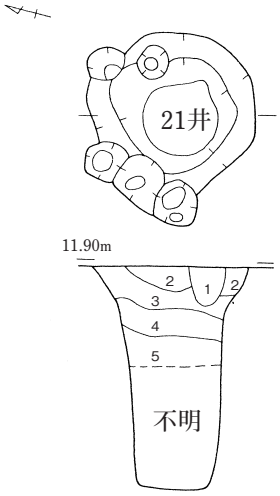


○19井セクション
1　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ◎　褐色土Ｂ△　締良
2　暗灰褐色／ＬＢ▲　黒色土Ｂ▲　締良
3　暗灰褐色（２層よりやや暗）／ＬＢ、黒色土Ｂ▲　締良
4　暗灰褐色／ＬＲ、ＬＢ、黒色土Ｂ◎　締良
5　暗灰褐色（３層より暗）／ＬＲ△、ＦＥ▲　締悪　ボロボロ
6　暗灰褐色／ＬＲ△　軟質

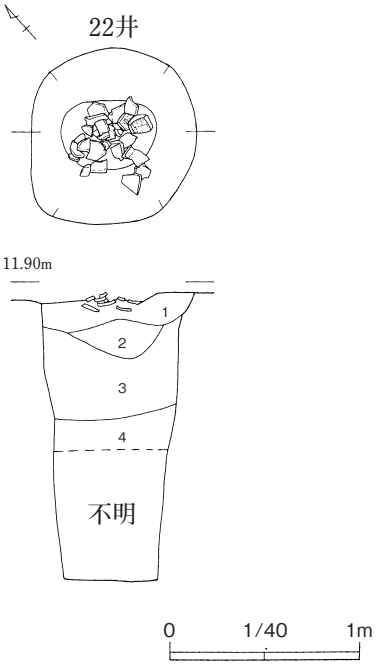
○20井セクション
1　暗灰褐色／ＬＢ　ＬＲ△　Ｔ▲　締悪　ボロボロ
2　暗灰褐色／ＬＲ、Ｃ▲　１層より締良
3　暗灰褐色／暗灰褐色Ｂ△、ＬＢ、Ｃ▲　締良
4　黄褐色／ＬＢ層　Ｌ（ソフト）主体　締良
5　茶褐色／ＬＢ層　Ｌ（ハード）主体　締良
6　暗灰褐色／ＬＲ、Ｓ▲　締良
7　暗灰褐色／ＦＥ◎、Ｃ、ＬＲ▲　締良
8　暗灰褐色（７層より明）／Ｃ△、ＦＥ◎　締良
9　暗灰褐色／ＬＢ◎、暗灰褐色粘土Ｂ◎万　やや締悪
＊４・５層→10溝

0　1/60　2m

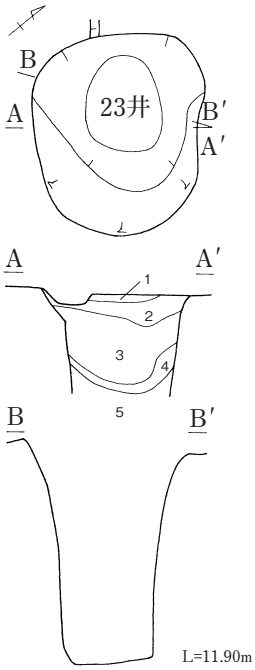
第78図　遺構22　井戸２



○21井セクション
1　暗灰褐色／S　C◎　締良　　→ピット
2　暗灰褐色／LR、C△万　締良
3　暗灰褐色／LB（ソフト）△　LR△　締良
4　暗灰褐色／FE△　LR△　軟度低
5　暗灰褐色（さらに暗）／FE△　LR△　軟質

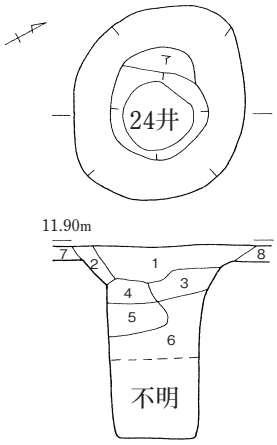


○22井セクション
1　暗灰褐色／砂粒◎　サラサラ
2　暗灰褐色／C◎　S▲　締悪　ボロボロ
3　暗灰褐色／C、LR▲　締悪　ボロボロ
4　暗灰褐色／LR、LB◎　締悪　ボロボロ

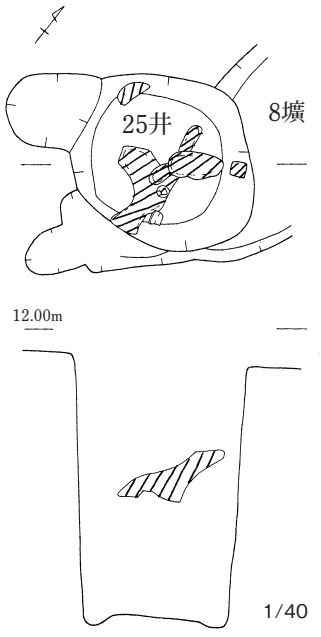


○23井セクション
1　暗灰褐色／T▲　LR▲　締良
2　暗灰褐色（上層より暗）／LR、S▲　締良
3　暗灰褐色／FE◎、LB、LR△　締良
4　暗灰褐色／LB、LR◎　軟質
5　暗灰褐色（灰色味強暗）／FE△　軟質

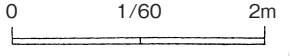
24号井戸　調査風景



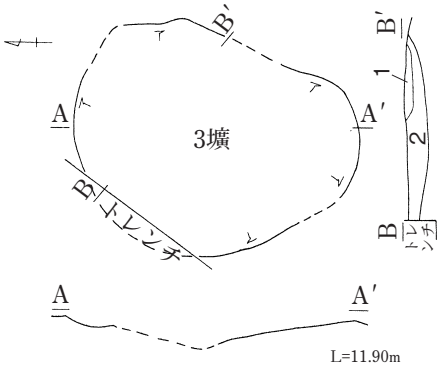
○24井セクション
1　暗灰褐色／LR△　C▲　締良
2　暗灰褐色／LB◎　締良
3　暗灰褐色（上層より灰色味強）／C、S、FE△　締良
4　暗灰褐色／C、LR▲　軟度低
5　暗灰褐色／灰色粘土R△　軟質
6　暗灰褐色／C◎、LR、FE△　軟質
7　黄褐色土層　暗灰褐色B△　締良　　→ピット
8　暗灰褐色／LR△、C▲　締良　　→2溝



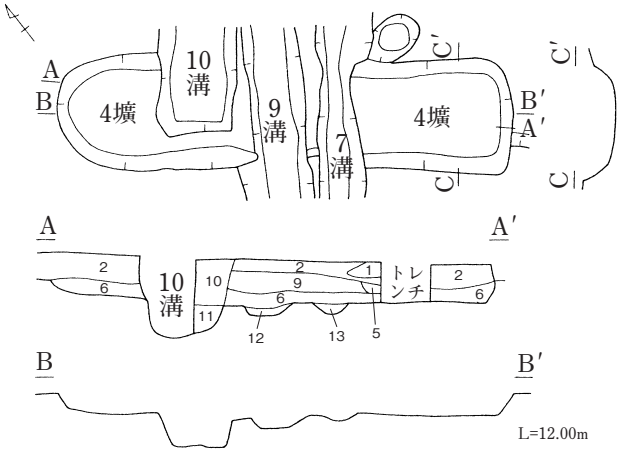
※斜線は焼土



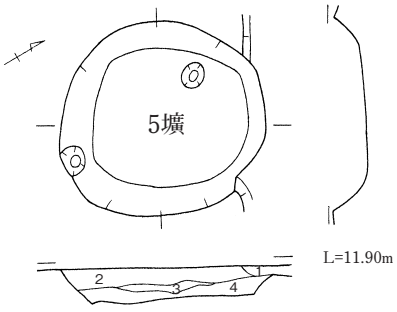
第79図　遺構23　井戸3



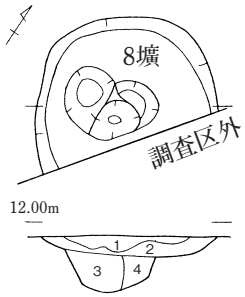
○3壙セクション
1　暗灰褐色／C◎　やや締悪
2　暗灰褐色／C◀　ＦＥ△万　締良



10溝

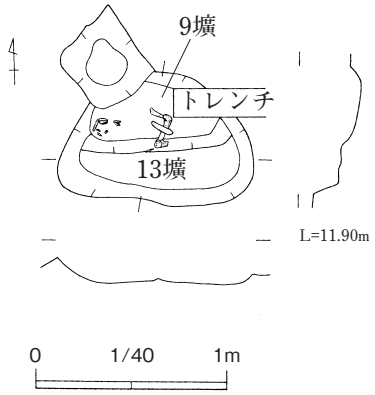


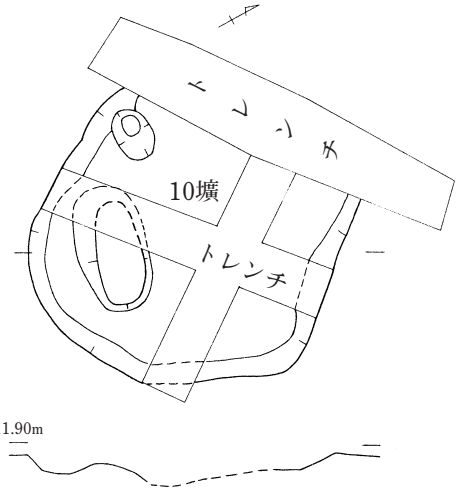
○5壙セクション
1　暗灰褐色／灰褐色B△　ＬＢ（ソフト）△　C▲　締良
2　暗灰褐色／灰褐色粘土B、ＦＥ△　ＬR▲　締良
3　暗灰褐色／ＬR、ＦＥ▲　締良
4　暗灰褐色（上層より暗）／ＬB△　やや軟質

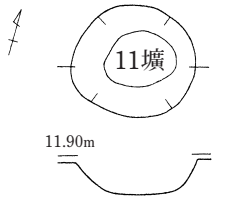


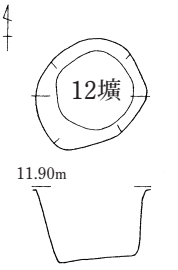
○8壙セクション
1　暗灰褐色／ＦＥ◎　締良
2　暗灰褐色（上層より灰色強）　締良
3　暗灰褐色／ＬB　ＬR◎　C△　締良　ピット
4　暗灰褐色／ＬR、ＦＥ▲　締良

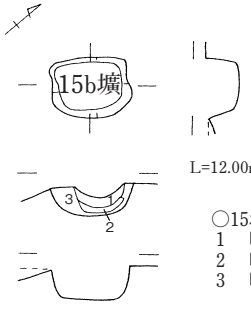
○4壙セクション
1　灰褐色／C▲　締良
2　暗灰褐色／灰褐色土B△、C△、R　S▲　締良
5　灰褐色／ＦＥ◎　ＬR、C△　締良
6　暗灰褐色（2層より暗）／ＦＥ◎　C、S△　締良
9　暗灰褐色／灰褐色B◎　ＦＥ◎、C△、ＬR、S▲　締良
10　暗灰褐色／ＬR、ＬB◎　T▲　ボロボロ
11　暗灰褐色／灰褐色土B◎　ＦＥ◎　締良
12　ＬB層　暗灰褐色B　締良
13　ＬB層　暗灰褐色B　締良
＊1・2層→2溝／10・11層→10溝



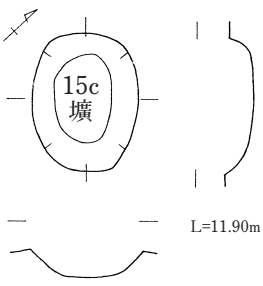


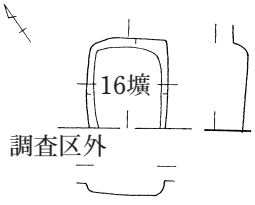






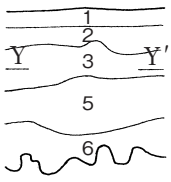
○15壙セクション
1　暗灰褐色／C、骨粉、ＬB、ＬR　締悪
2　暗灰褐色／C◎、骨粉◎　締悪
3　暗灰褐色／C　ＬB、灰褐色土B　締良
＊1、2層→15a壙



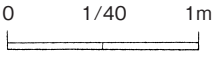


0　1/60　2m

第80図　遺構24　土壙



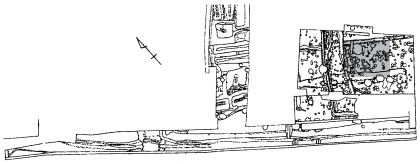
L=11.80m



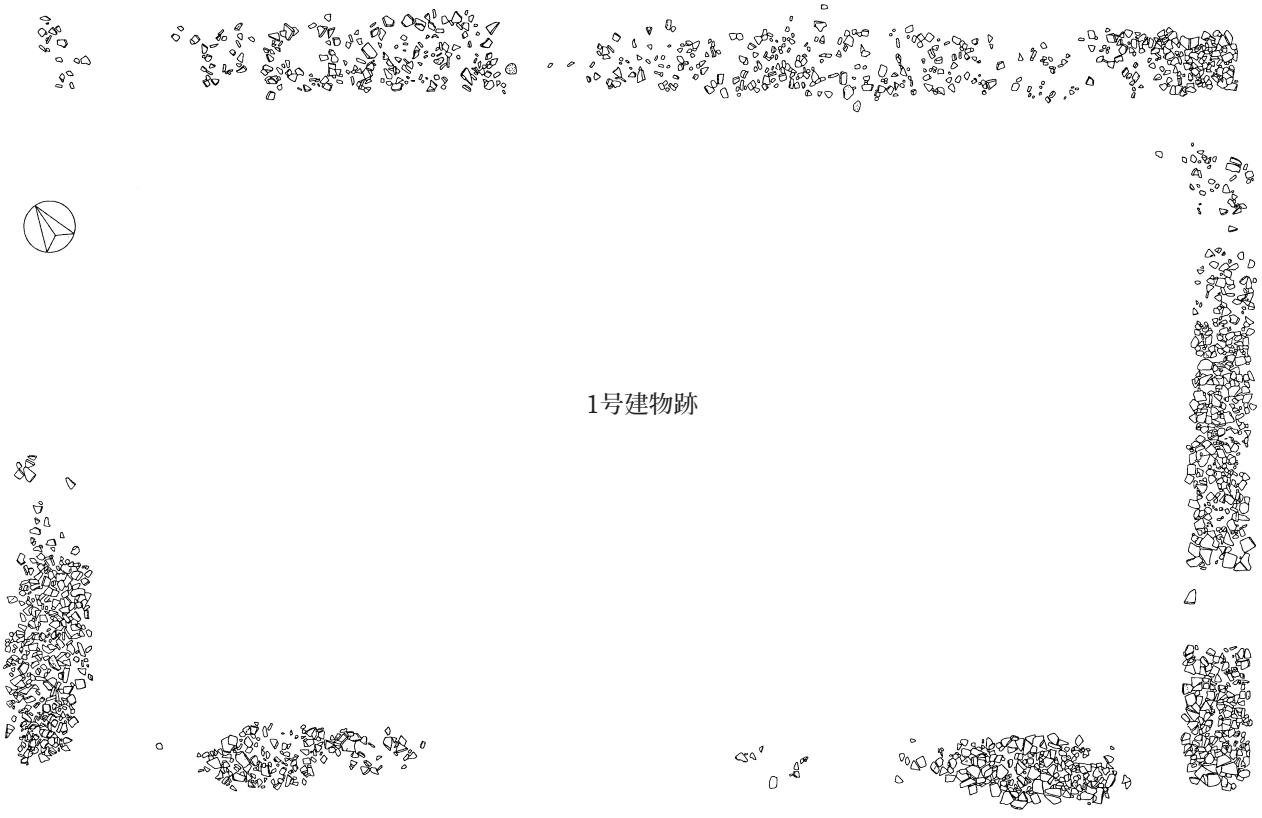
○A２区セクション
1　暗灰褐色／耕作土　T、ＬR△　堅緻
2　暗灰褐色（暗）／T△　、ＬR、ＦＥR▲　締良
3　茶褐色／ＦＥ（根）　ＬR▲　やや軟質
4　黄褐色／Ｌ（ソフト）　ＦＥR△　締良
5　黄褐色（上層よりやや暗）／ハードＬＢ（ブラック）△　締良
6　ブラックバンド

A2区セクション

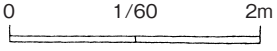
１号建物　調査風景



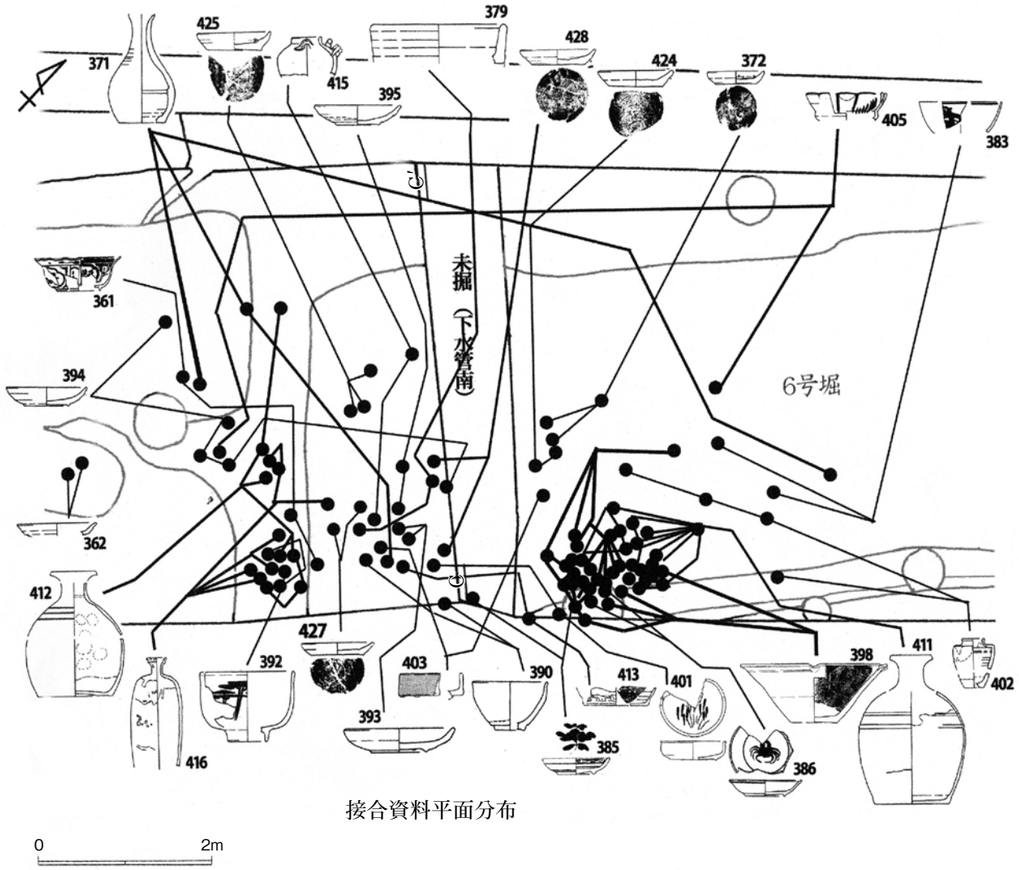
1号建物跡の位置



1号建物跡

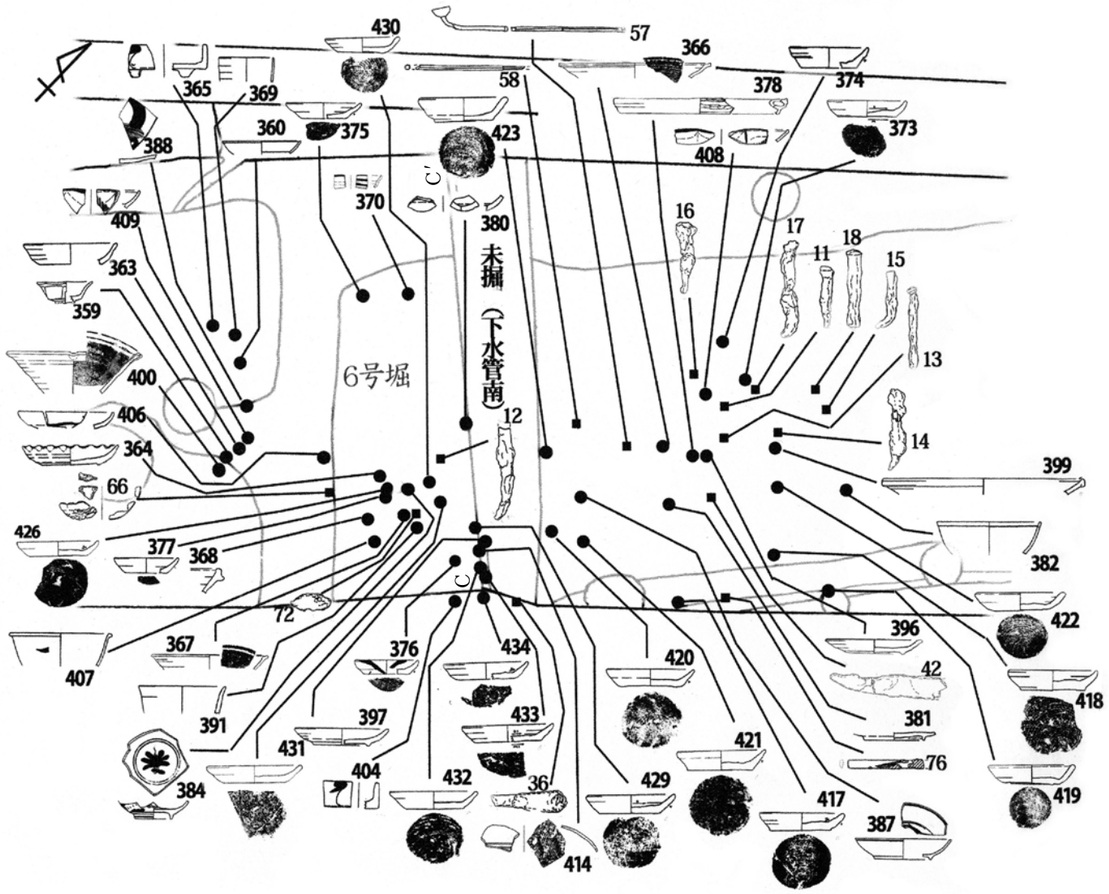


第81図　遺構25　A２区セクション・１号建物跡

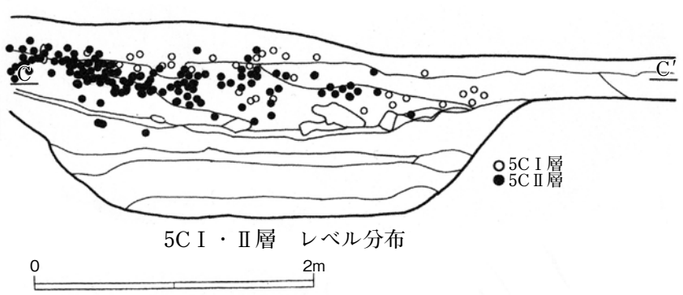


接合資料平面分布

平面分布図

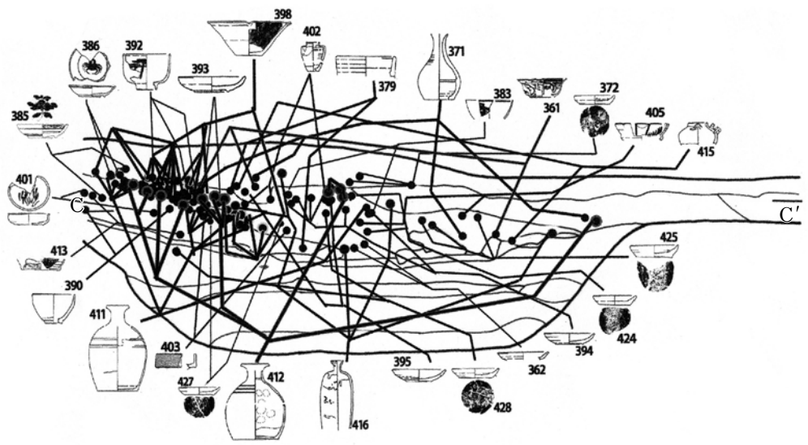


単独出土資料平面分布

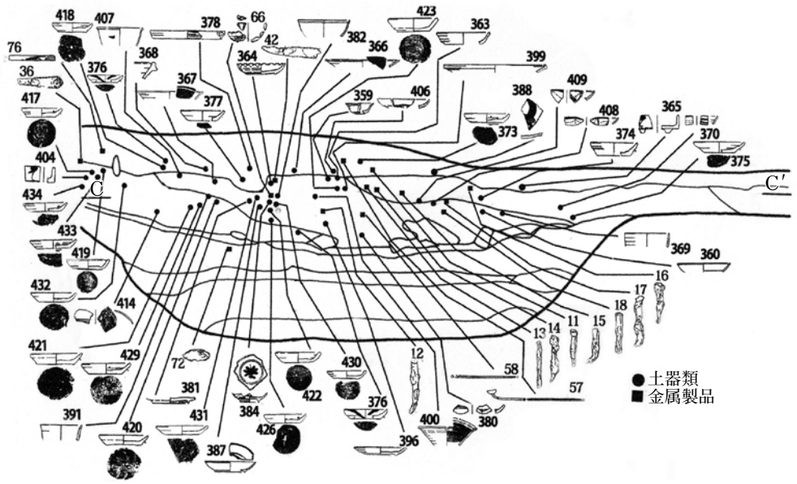


5CⅠ・Ⅱ層　レベル分布

レベル分布図



接合資料レベル分布



単独出土資料レベル分布

第82図　遺構26　5C層遺物分布図

○当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

	位置	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ（cm）	覆土	施設	出土遺物	年代（埋没）	備考
1号堀	D区（G-1G、H-0・1G）	なし	長方形	箱薬研	（1400）×550	☆155	暗灰褐色/含LR、FER、C△締良	畝状遺構1円形ピット2	龍泉（碗・盤）/中国（白磁皿・染付皿）/常滑甕/肥前陶器向付/初山天目碗/瀬美（志野丸皿・菊皿・天目・織部碗・織部皿・鉢・擂鉢・徳利・青織部汁注・ひょうそく）/かわらけ/焙烙/在地擂鉢/土製円盤/桶（側・底）/板材/漆（椀・片）/加工材/木槌/将棋の駒/位牌の台座/瓢箪/竹/角材片/丸棒材/白木皿/煙管/弾丸/銭貨/粉挽臼/茶臼/硯/石製円盤/円形石製品/砥石/三角形石製品/方形石製品/成形礫/打製礫/磨石/火打石/板碑/宝篋印塔/土壁片168g/鞴の羽口/ウマの臼歯１本/モモの種子３点/炭化籾米32.5g/炭化物3.7g	16c後～17c初	
2号堀	C区（H・I-1G）	なし	長方形ヵ	ゆるやかに立ち上がる	445×（202）	☆32	暗灰褐色/含LR、FER△締良	なし	中国染付碗/瀬美（天目・織部徳利）/かわらけ/石製円盤/モモの種子１点	16c後～17c初	
3号堀	C区（H-2G、I-1・2G）	なし	長方形	ゆるやかに立ち上がる	（664）×（270）	☆21	暗灰褐色/含LR▲　締良　粘有	なし	〈かわらけ〉	16c後～17c初	
4号堀	C区（H-1・2G）	なし	長方形（南西部弧状ヵ）	ゆるやか	654×406	☆23	暗灰褐色/含LR、LB△、暗灰褐色粘土B◎、T◎　粘有	なし	中国白磁皿/常滑片口鉢/肥前陶器碗/在地（土鍋・捏鉢）/かわらけ/石製円盤	16c後～17c初	
5号堀	C区（G・H-2G	なし	不整長方形	ゆるやか	（875）×524	15		なし	瀬美（丸皿・鉄絵皿・大皿・擂鉢）/肥前陶器鉄絵皿/かわらけ/石製円盤/砥石/磨石/板碑/金属加工滓42.1g/炭化物0.6g	16c後～17c初	
6号堀	C区（F-3・4G、G-2・3G）	○→5C層/〈3溝〉	L字形	箱薬研	2100×460	☆114	暗灰褐色/含FE◎、C、S▲締良	畝状遺構1	龍泉青磁碗/中国（白磁皿・白磁壺・染付碗・染付皿/常滑甕/肥前陶器（鉄絵鉢・碗・皿・向付）/瀬美（平碗・竹片・天目・端反皿・丸皿・梅文皿ヵ・擂鉢・煙硝擂・花瓶・入子・織部向付/志都呂皿/かわらけ/焙烙/在地擂鉢/鍋敷板/下駄/桶側板/漆（椀・片）/漆器/白木高盤ヵ/羽子板/角材状製品/円形状製品/薙鎌ヵ/脚付円形板/柄ヵ/丸棒材/呪符/板材片/煙管/板状銅製品/銭貨/粉挽臼/瓢箪/宝篋印塔/茶臼/擂臼/硯/石製円盤/成形礫/砥石/磨石/板碑〈土垂〉/モモの種子３点/炭化籾米482.1g/ヒエアワ74.9g/ムギ/炭化物0.7g/動物頭骨	16c後～17c初	
7号堀	C区（E・F-4G）	〈2井→○〉/1壙	長方形	下突箱薬研	512×314	120	暗灰褐色/含FE◎　粘強軟質	楕円形土壙1	瀬美擂鉢/肥前陶器向付/かわらけ/焙烙/籠状製品/漆碗/粉挽臼/砥石/土壁片5g	16c後～17c初	
8号堀	C区（F-4G）	なし	長方形ヵ	不明	442×（106）	不明	不明	楕円形土壙1	かわらけ/〈焙烙（8堀ヵ）〉	16c後～17c初	
9号堀	C区（E-4G）	○→埋土	長方形	箱薬研	（550）×190	☆110	暗灰褐色/含LR◎、C△締良	杭列（4本）	常滑甕/瀬美（天目・縁釉皿・端反皿・徳利）/備前平鉢/かわらけ/下駄/桶側板/曲物底板/漆（椀・片・合子蓋）/刻り込み状製品/へら状製品/角材状製品/板材片/瓢箪/火打金/粉挽臼/磨石/宝篋印塔/有穴球状土製品	16c後～17c初	埋土
10号堀	C区（E-4G）	3・4井→○→埋土	長方形	箱薬研	（556）×170	☆105	暗灰褐色/含LR◎、C△締良	杭列（5本）西法面ピット（杭穴ヵ）	常滑甕/瀬美擂鉢/かわらけ/焙烙/在地香炉/板材/板状製品/漆片/円形板材/磨石/板碑/粉挽臼/成形礫/杭/土壁片120g/モモの種子１点/炭化物23.8g	16c後～17c初	埋土（9堀同様）
10b号堀	C区（D・E-4G）	10堀→○→埋土	長方形	ほぼ直上	（190）×（145）	62	暗灰褐色（下層より明）/含粘質層　FE、LR▲粘強	なし	常滑瓶子/瀬美擂鉢	16c後～17c初	
11号堀	C区（E-4G）	なし	長方形ヵ	不明	415×（144）	不明	不明	楕円形土壙1、楕円形堀込1	中国染付皿/常滑壺/肥前陶器鉄絵皿/かわらけ	16c後～17c初	
12号堀	C区（E-5G）	6井/溝	長方形	下突箱薬研	838×200	☆125	暗灰褐色（灰色味　強）/含FE◎、LR、C△粘強　軟質	楕円形段1	志戸呂徳利/在地擂鉢/常滑壺/筒状漆製品/板状銅製品	16c後～17c初	
13号堀	C区（D-5G、E-4G）	6・7井	長方形	下突箱薬研	788×226	☆99	暗灰褐色/含粘土層　白色粘土B◎　FE◎　LR△　軟質　粘強	楕円形土壙1	中国染付碗/かわらけ/焙烙/常滑甕/在地擂鉢/擂臼/砥石/磨石/石造物/不明種子１点	16c後～17c初	
14号堀	C区（D-5G）	なし	方形	箱薬研	332×278	☆290	暗灰褐色/含FE△　締良	楕円形堀込1	焙烙	16c後～17c初	
15号堀	C区（D-5G）	17堀	長方形	箱薬研	（720）×175	116	暗灰褐色/含LR、LB◎　やや粘有　堅緻	杭列（4本）	瀬美（志野丸皿）/肥前陶器壺/折敷/加工材/桶（側・底）/漆（椀・片）/炭化碗片/白木皿/板材片/銭貨/砥石/磨石/板碑/杭/鞴の羽口/モモの種子１点/炭化ヒエアワ20g/炭化物3.1g	16c後～17c初	

第17表　遺構一覧表１

○当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

	位置	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ（cm）	覆土	施設	出土遺物	年代（埋没）	備考
16号堀	C区（D-5G）	17堀	長方形	箱薬研	（680）×150	128	暗灰褐色/含LR、LB◎　やや粘有　堅緻	杭列（3本）	中国白磁皿/かわらけ/漆椀/下駄/桶側板/二股木製品/加工材/角材片/杭/部材ヵ/折敷（底）/彩色板/粉挽臼/茶臼/磨石	16c後～17c初	
17号堀	C区（D-5・6G）	15・16・18堀	不整長方形ヵ	下突箱薬研ヵ	700×（252）	76	暗灰褐色/含FE◎、T△　締良　堅緻	なし	板碑	16c後～17c初	異例堀の重複
18号堀	C区（C-6G）	17堀・9井	方形ヵ	下突箱薬研	（400）×（142）	☆142	暗灰褐色/含FE◎、LR△締良	杭列（7本）・ピット1	瀬美丸皿/板材	16c後～17c初	堆積は浅いため早い段階の埋立16c後～末ヵ
19号堀	C区（C-5・6G）	14井	方形	下突箱薬研	504×470	118	暗灰褐色（色調暗）/含粘質層　FE△、C▲　軟質	楕円形段1・溝1・ピット3・杭列（12本）	龍泉青磁菊皿/備前平鉢/かわらけ/在地（擂鉢・火鉢）/砥石/板碑/磨石/五輪塔/土壁片55g	16c後～17c初	
20号堀	C区（C-6G）	11井→20堀埋土	長方形	中突箱薬研	（294）×236	124　K-170	暗灰褐色/LR、LB◎、灰白色土B△　締良　堅緻	なし		16c後～17c初	
21号堀	C区（C-6G）	なし	長方形	下突箱薬研	（374）×200	140　K-185	不明	楕円形段1	焙烙/板碑	16c後～17c初	
22号堀	A・B区（A-3・4・5G、B-5・6・7G、C-6・7・8G、D-7・8・9・10G、E-10G）	29・30堀→○/5・6溝、橋跡	直線	ゆるやかに立ち上がる	（8700）×（370）	115	不明	なし	龍泉青磁碗/中国（白磁皿・染付皿）/渥美甕/常滑片口鉢/瀬美（平碗・端反皿・志野皿・擂鉢・煙硝擂鉢・輪禿皿・灯明皿・柄付片口鉢・織部向付）/肥前碗/丹波擂鉢/かわらけ/焙烙/在地擂鉢/瓦/下駄/刀子ヵ/柄頭/銭貨/粉挽臼/碁石/硯/石製円盤/半円形石製品/方形石製品/砥石/磨石/石造物/土壁片10g/金属加工滓422.1g	16c後～17c初	
23号堀	B区（C-7G）	なし	方形ヵ	箱薬研	（312）×（68）	☆100	暗灰褐色/含LB、FE、暗灰褐色土B主体　締良　堅緻	なし		16c後～17c初	
24号堀	B区（C-7G）	なし	不整形ヵ	ゆるやか	（155）×（100）	☆82	暗灰褐色/含暗灰褐色土B主体、LB、FE　締良　堅緻	なし	瓦	16c後～17c初	
25号堀	欠番										
26号堀	欠番										
27号堀	欠番										
28号堀	欠番										
29号堀	B区（C-8G）	○→22堀	方形ヵ	ほぼ直上	370×（220）	☆31	暗灰褐色（暗）/含粘質層、LR、LB、FE△　粘強	なし	かわらけ/在地擂鉢/漆（碗・片）	16c後ヵ	
30号堀	B区（C-7・8G、D-8G）	○→22堀	方形ヵ	ほぼ直上	510×（235）	☆33	暗灰褐色（暗）/粘質層　LR、LB、FE△　軟質	杭列（13本）・ピット	中国青磁碗/瀬美縁釉皿/丹波信楽擂鉢/焙烙/かわらけ/瓦/漆碗/弾丸/銭貨/モモの種子5点/マツ球果1点	16c後ヵ	
橋跡	A区（A・B-5G）	22堀	—	—	ピット間230	不明	不明	橋脚ピット2		16c後ヵ	

第18表　遺構一覧表2

○当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ（cm）	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
1溝	A1区（B-2・3G、C-3・4G）	7・9溝→○→（10溝）、10壙/12溝	直線	ゆるやか	幅☆85	☆25	暗灰褐色/含LR、FE、S、C▲　締良	なし	中国染付碗/瀬美（天目・卸皿・大皿・擂鉢）/かわらけ/在地甕/釘/紡錘車/刀子ヵ/円盤状製品/銭貨/粉挽臼/搗臼/砥石/五輪塔/土壁片25g/金属加工滓24.5g/〈焙烙〉/炭化物2.5g	16c後ヵ	
2溝	A1区（A-2・3G、B-3・4G）	7・9溝、24井、4・5・14壙→○→10溝/11・13溝、7壙〈23井→○〉	直線	ゆるやか	幅☆169	☆16	暗灰褐色/含灰褐色B△、LB（ソフト）△　C▲　締良	なし	瀬美（端反皿・志野丸皿・向付）/常滑壺/火打金状製品/粉挽臼/碁石	17c初	
3溝	C区（F・G-3G）	〈○→5C層〉	直線	不明	幅（63）	21	不明	なし	中国染付端反皿/肥前京焼風色絵碗/かわらけ/在地人形の足ヵ/環状製品/粉挽臼/磨石/金属加工滓5.4g	16c後	調査時の記録では6堀と重複しない
4溝	C区（D-5G）	〈14堀→○〉	直線	ほぼ直上	幅150	58	〈T混〉	なし	瀬美擂鉢/肥前染付碗/常滑壺/板碑	18c～19c	
5溝	B区（B-5G）	〈○→22堀埋土〉	直線	箱薬研	幅☆136	☆57	暗灰褐色（灰色味強）/含FE、LR◎締良	なし		～16c後	
6溝	A区道路分（B-5G）	22堀	直線	箱薬研	幅44	15	不明	なし			
7溝	A1区（B-4G、C-3G）	9溝→○→1・2・10溝、4壙/6壙	直線	箱薬研	幅60	38	暗灰褐色/含C△　締良	なし	磨石		
8溝	A1区（C-3・4G）	—	—	—	—	—	—	—	甕/金属加工滓52.9g		7・9溝へ振替
9溝	A1区（B-4G、C-3G）	○→2・7溝、4壙〈○→1・10溝〉	湾曲する	箱薬研	幅82	47	暗灰褐色/含LR、T、C▲締良	なし	瀬美縁釉小皿/古瀬戸四耳壺	15c前～	
10溝	A1区（B-4G、C-3・4G）	2・7溝→○→20井、2壙/4壙〈1・9溝→○〉	直線	箱薬研	幅44	30	黄褐色/含LB層　ハード・ソフトL主体　締良	なし	志戸呂擂鉢/在地捏鉢/砥石	16c～	
11溝	A1区（B-3・4）	○→13溝/2・14溝	直線	箱薬研	幅☆113	☆60	暗灰褐色/含T▲、LR△　締良　堅緻	なし	砥石		
12溝	A1区（B-3G、C-3G）	○→13溝/1溝	直線	箱薬研	幅☆96	☆56	暗灰褐色/含LR、T△S▲　締良	なし			
13溝	A1区（B-3G）	11・12溝→○/2溝	直線	ほぼ直上	幅☆65	☆26	暗灰褐色/含LR△万T▲　締良	なし	瓦		
14溝	A1区（A・B-3G）	11溝	直線	不明	幅35	13	不明	なし			
15溝	A2区（A・B-4G）	17溝→○→15壙/16溝、16壙	L字形に屈曲	箱薬研	幅☆110	☆48	暗灰褐色/T、LR、CR△　締良	なし	甕		
16溝	A2区（A-4G）	15溝	直線	箱薬研	幅（46）	28	不明	なし			
17溝	A2区（A-4G）	○→15溝	直線	ほぼ直上	幅（40）	15	暗灰褐色/含LR◎、C、CR、灰色R　締良	なし			

第19表　遺構一覧表3

○当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ（cm）	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
1号井戸	欠番										25井ヵ
2号井戸	C区（F-4G）	〈○→7堀〉	円形	ほぼ直上	径76	118	暗灰褐色/含灰色粘土B△	なし	瀬美皿/土壁片5g	～16c後ヵ	
3号井戸	C区（E-4G）	〈○→10堀〉	円形	直上	径84	84	不明	なし	板碑/〈漆碗〉	～16c後ヵ	
4号井戸	C区（E-4G）	○→10堀	円形	ほぼ直上	径84	134	不明	なし	桶（側・底・タガ）	～16c後	
5号井戸	C区（G-3G）	なし	円形	ほぼ直上	径74	24	不明	なし	板碑		
6号井戸	C区（E-4G）	12・13堀	円形	ほぼ直上	径78	39	不明	なし			
7号井戸	C区（E-4G）	〈○→13堀〉	円形	ほぼ直上	径76	58	不明	なし	常滑甕	～16c後ヵ	
8号井戸	C区（C-5G）	なし	円形	ほぼ直上	径69	70	不明	なし	肥前徳利	16c末～	
9号井戸	C区（C-6G）	〈○→18堀〉/17堀	円形	ほぼ直上	径86	73	不明	なし	板碑	～16c後ヵ	
10号井戸	C区（C-6G）	なし	円形	ロート形	径120	131	不明	半円形ピット			
11号井戸	C区（C-6G）	○→20堀埋土	円形	ほぼ直上	径65	☆78	暗灰褐色/含LR、S、C△　締良	なし		～16c後ヵ	
12号井戸	C区（C-6G）	〈○→20堀埋土〉	楕円形	ロート形	150×107	127	不明	なし	かわらけ/焙烙/茶臼/火打石/板碑/五輪塔/ウマ（歯・骨）	～16c後ヵ	
13号井戸	B区（B-5・6G）	なし	円形	ほぼ直上	径108	176	不明	なし	かわらけ/板碑	16c後ヵ	
14号井戸	C区（C-5G）	〈○→19堀〉	長方形	ほぼ直上	（64）×60	55	不明	なし		～16c後ヵ	井戸ヵ
15号井戸	A区道路分（A-4G）	17溝、16井	円形	ロート形	径（84）	132	不明	なし			
16号井戸	A区道路分（A-4G）	22堀、15井	円形	ロート形	径119	126	不明	なし	板碑		
17号井戸	C区（G-2G）	なし	円形	直上	径70	52	不明	なし	砥石		
18号井戸	C区（I-1G）	なし	円形	直上	径76	108	不明	なし			
19号井戸	A1区（B・C-4G）	なし	円形	ほぼ直上	径113	156	暗灰褐色/LR、LB◎、褐色土B△　締良	なし			
20号井戸	A1区（B-4G）	〈10溝→○〉	円形	ロート形	径210	166	暗灰褐色/含LB、LR△、T▲　締悪　ボロボロ	なし	中国白磁碗/肥前広東碗/瓦（桟瓦ほか）	18c末	
21号井戸	A1区（B-3G）	〈○→ピット〉	円形	ロート形	径140	180	暗灰褐色/含LR△、C△万締良	なし	かわらけ/在地擂鉢/瓦/粉挽臼※上位より瀬美皿・かわらけ	～16c前	
22号井戸	A1区（B-3G）	なし	円形	ほぼ直上	径104	154	暗灰褐色/含砂粒◎　サラサラ	なし	瀬美碗/角材/板材片/板状製品/割材/瓦（桟瓦他）		瓦は上位地業のもの
23号井戸	A1区（A・B-3G）	〈○→2溝〉	不整円形	ロート形	160×140	176	暗灰褐色/含T▲、LR▲　締良	なし	在地片口鉢/曲物底板/粉挽臼/敲石/割材		
24号井戸	A1区（A-3G）	2溝→○	楕円形	ロート形	166×140	☆155	暗灰褐色/LR△、C▲　締良	なし	中国白磁皿/瀬美擂鉢/かわらけ/片口鉢/碁石/砥石/板碑/金属加工滓138.1g	16c後～17c初	
25号井戸	A2区（B-4G）	18壙/〈南北土塁→○〉	円形	直上	径110	140	SB◎	なし	土壁片100g	17c初ヵ	1井の振替
1号土壙	C区（E-4G）	7・9堀	隅丸長方形	ゆるやか	（394）×（122）	62	不明	なし	備前平鉢/かわらけ/焙烙/粉挽臼/駒石ヵ/板碑/石製円盤/モモの種子1点	～16c後	
2号土壙	A1区（B-4G）	10溝→○	不整形	ゆるやか	154×136	☆12	暗灰褐色/含T◎LR△　締悪	なし			
3号土壙	A1区（B-3G）	1溝→○（10壙）→1建	不整円形	ゆるやか	230×194	☆16	暗灰褐色/含C▲FE△万　締良	なし	瀬美（折縁中皿・志野丸皿・皿）/志戸呂灯明皿/信楽擂鉢/肥前碗/砥石/火打石/金属加工滓18.9g	17c末～19c	10壙覆土の上層ヵ
4号土壙	A1区（B-4G）	7・9溝→○→2溝/10溝	長方形	ほぼ直上	364×86	18	暗灰褐色/含FE◎、C、S△　締良	なし	炭化籾米2.9g	16c後～17c初	
5号土壙	A1区（B-3G）	○→2溝/ピット	円形	ゆるやか	径170	☆28	暗灰褐色/含灰褐色粘土B、FE△、LR▲　締良	なし		～17c初	

第20表　遺構一覧表4

○当該遺構　〈　〉は調査時のメモより　（　）は残存値、☆はセクション図計測値　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物/B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ（cm）	覆土	施設	出土遺物	年代	備考
6号土壙	A1区（B-4G）	〈○→7溝〉	長方形	ゆるやか	（120）×66	☆22	暗灰褐色/含ソフトLB▲　やや締悪	なし			
7号土壙	A1区（A-3G）	2溝→○/ピット	円形（環状）	ほぼ直上	径220	☆32	暗灰褐色/含LB（ハード・ソフト）◎、LR、C、T▲　軟度低	なし	板碑	17c初～	
8号土壙	A1区（B-2G）	ピット→○	円形	ゆるやか	径144	☆14	暗灰褐色/含FE◎　締良	なし	瀬美皿/五輪塔	15c末～	
9号土壙	A1区（B-3G）	〈○→1溝〉/13壙、ピット	楕円形ヵ	ゆるやか	（79）×43	25	SB◎　炭化物◎	なし	人骨	～16c後ヵ	茶毘跡
10号土壙	A1区（B-3G）	1溝→○（3壙）→1建	不整円形	不明	265×（265）	28	不明	なし	龍泉青磁花瓶ヵ/焙烙	17c末～19c	
11号土壙	A1区（C-3G）	なし	円形	ほぼ直上	径50	14	不明	なし	モモの種子1点		
12号土壙	A1区（A-3G）	なし	円形	ほぼ直上	径90	57	不明	なし			
13号土壙	A1区（B-3G）	9壙	楕円形ヵ	ゆるやか	105×（36）	18	不明	なし	焙烙		9壙より古いヵ
14号土壙	A1区（B・C-4G）	○→2溝	円形ヵ	ゆるやか	☆（212）×（48）	☆10	暗灰褐色（灰色味強）/含FE△　締良　堅緻	なし			
15号土壙	A2区（A-4G）	15溝→○	－	－	－	－	－	－	－	〈近世～現代〉	茶毘跡ヵ
15号a土壙	A2区（A-5G）	15b壙→○	〈円形〉	ほぼ直上	短軸37	22	〈暗灰褐色/含LB、C◎、骨　粉◎　締悪〉	なし			
15b号土壙	A2区（A-4G）	15c壙→○→15a壙	長方形	直上	64×48	28	暗灰褐色/含暗灰褐色土B、C、LB　締良	なし			
15c号土壙	A2区（A-4G）	○→15b壙	楕円形	ほぼ直上	114×88	20	暗灰褐色/含LR、CR◎、FER◎　締良	なし	三角形石製品/磨石		
16号土壙	A2区（A-4G）	15溝	長方形	ほぼ直上	（72）×66	13	不明	なし	茶臼		
17号土壙	A2区（B-5G）	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	（220）×91	☆30	暗灰褐色/LB、T△、酸化物、CR▲　締良　堅緻	なし	敲石/板碑/方形石製品		
18号土壙	A2区（B-4G）	25井	楕円形	ほぼ直上	（170）×100	12	LR、黒褐色B	なし			
1号建物跡	A1区（B-3G）	10壙（3壙）→○	長方形	－	範囲980×620		T◎	なし	瀬美志野向付/かわらけ/在地（火鉢・瓦）/石製円盤/石造物/粉挽臼/土壁片219g/金属加工滓134.7g/炭化物2.5g	19c～	地業瓦跡あり
3C層	C区（C-5・6G）	16・19堀→○	円形ヵ		500×（200）（推定）	不明	暗灰褐色土/炭化物・焼土を含む。	なし	朝鮮瓶/中国染付皿/常滑甕・瀬戸美濃総織部皿・唐津向付・同徳利・ほうろく・在地火鉢・炭化椀片・炭化皿片・釘・錘・小柄・塊状品・銭貨・成形礫・炭化物2.1g	17c初	
5C層	C区（F-3・4G）	6・7堀→○	楕円形ヵ		1100×（500）	厚さ60	暗灰褐色土/炭化物・焼土を含む。	なし	朝鮮瓶・龍泉窯系青磁碗・中国（六角坏・白磁皿・染付碗・染付皿・染付芙蓉手鉢）・瀬戸美濃（天目・丸皿・志野丸碗・志野丸皿・皿・志野筒皿・志野鉢・青織部向付・総織部碗・志野織部碗・茶入・擂鉢）・唐津（碗・筒形碗・鉄絵皿・向付・鉄絵鉢・壺）・備前徳利・志戸呂（水滴・徳利）かわらけ・ほうろく・在地火鉢ヵ・火鉢・土製円盤・炭化椀片・蓋・釘・樋受・小札・角棒状製品・切羽・釘等・刀子ヵ・薙刀ヵ・煙管・鋺状製品・目貫ヵ・小柄・銭貨　・煙管・金属加工滓・石臼・硯・碁石・石製円盤・砥石・磨石・礎石ヵ・土壁片15kg/モモの種子1点/炭化物30.6g/石炭ヵ40.3g	17c前	

第21表　遺構一覧表5

第Ⅶ章　検討・まとめ

第１節　遺跡における調査区の位置

本調査区は、騎西城城郭跡に位置する。『武州騎西之絵図』（17世紀初頭の製作。以下絵図）では、２つの「丸」のうち西側の丸（仮称五ノ丸）の西南部とその西側の堀（天神曲輪東堀）、城郭部と御蔵屋舗の間の堀（仮称五ノ丸南堀）に相当する（第83図）。以下「仮称」省略。

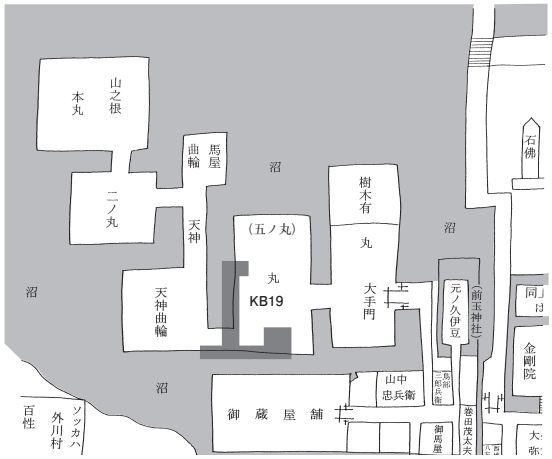
第２節　遺構

１　堀（第84図）

平面及び断面形態・深さからABCの３タイプに分ける。Aタイプは１・６堀で、長さは長く、畝を設ける。断面形態は箱薬研で、深さは『堀』確認面（ローム層）－90～114cmと深い。両者は接続する同一の堀と思われる。22堀も同タイプ。Bタイプは２～５堀で、平面長方形であるが『堀』確認面－15～32cmと浅い。その要因は水田耕作による確認面の削平による可能性もあるが、堀の掘削の際、表土から掘ったことが推定できる。Cタイプは７～21・29・30堀で、平面方形・長方形を呈し断面形態は逆四角錐で、凸箱薬研もあり底面は狭い。KB14区６堀以南の堀と同様で同時期に掘削されたものか。

配置は、A・BタイプはC区北側とB・D区に、CタイプはC区南側とB区西に配置される。またCタイプは平面長方形を対にして方形と組み合わせるなどKB14区のパターンに似る。防御の効果と堀掘削の効率の結果であると思われるが、いずれ他地区（14・15・18区）を併せて考えたい。

堀の底面レベルは、標高でC区北の浅い２～５堀は10.46～10.77mと高く、D区１堀とC区のほぼ全体を占める６～16堀は10.00～10.10mとやや低く、南端の18～21堀は9.50mと約50cm低い。B区29・30堀は10.36～10.40mで、22堀は10.6～10.8mとC区の高い２～５堀に近い標高である。以上のようにレベルはC区の南端、中央・北が他と比べて低い。



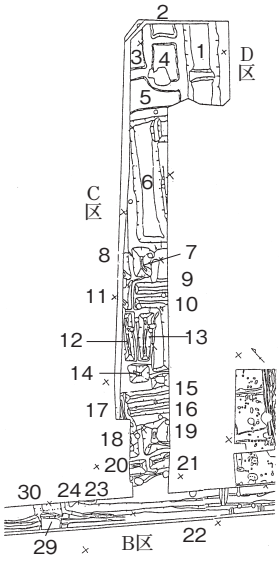
第83図　絵図との対照図

２　各『堀』における層位的な出土傾向

第85～91図に掲載したものは、陶磁器は層位の年代を比定できるもの・在地土器は復元可能なもの、木製品は、漆椀・白木皿・下駄・桶の側板等の製品である。

『１号堀』

５～12層出土の土器・木製品について遺物分布図（第58図）を作成した。



第84図　堀の位置

○平面分布を、層位別に見ると（図未掲載）５層出土は中央から北に広がり曲輪に近いものが多く、６層は曲輪近く、７層は中央から西に広がり、８層は南東隅にまとまり、各土層堆積位置を反映している。その影響を避けるため上層・下層の別で見ると、上層（５・６層）はやや北寄り曲輪近くに多く、下層（７・８層）はやや南寄りに分布する。

○層位ごとの遺物と年代（第85図）

５層では織部黒沓形茶碗、志野・織部皿、織部汁注、唐津向付等茶陶が出土する。かわらけ（土13～17）がまとまって出土し、底部内面指頭ナデあるいは内面底体部境弱いナデ・底部外面板ナデを施している。漆椀は大型で高台の厚いもの（木31）、高台

が低く器高が低いもの（木32）が離れて出土する。いずれも5′層との境出土でやや古いものか。16世紀末～17世紀初め。

6層では16世紀末～17世紀初めの白磁皿（土2）、登窯ヵの瀬戸美濃徳利（土22）と5層出土かわらけに近似するもの（土23）が出土する。土23は5層との境で出土。5層底面は確認面－50cm。5層同様16世紀末～17世紀初め。

7層ではかわらけは口縁部が外反する口径11cm器高2.2cmのもの（土32／一部内湾）、器高3.5cmのもの（土35）が、漆椀は器高の低いもの（木34・37）、大型で高台の厚いもの（木36）、将棋の駒が出土する。土33・35は11層に入るか。かわらけは16世紀後半の所産か。炭化した桶の側板（木9～12）は該期の戦闘の際のものか。※木35の漆椀は断面図不明瞭だが底部一部遺存。

8層では在地の擂鉢、面取りのある白木皿（木39）、漆椀（木40）、木槌、位牌の台が出土する。

○年代を上・下層で見ると、上層（5・6層）は16世紀末から17世紀初め、下層（7・8層）は16世紀後半におさまるか。

○用途別分類では、上層（5・6層）は調理（石臼）・食膳・灯り（火打石）・喫茶・いくさ（石製円盤）・弔い（板碑・宝篋印塔）、下層（7・8層）は貯蔵（桶）・食膳（土器類・漆器類・炭化籾米）、耕作?（砥石・磨石）・加工（木槌）・遊び（金将）・弔い（位牌）が出土する。上層の天目茶碗（土20）は被熱し、下層の漆椀・桶・石臼・石製円盤類・板碑は炭化・黒化する。3・4・6層被熱土器は3C・5C層と同時期の可能性を有する。

○D区2～4層を包含層としたが、2層は廃城（1632年）後の遺物を含み、3・4層は土器類の年代から廃城時及びそれ以前に堆積した可能性がある。

『6号堀』

イ～ハの2・4～9層、ニ6～8層出土の土器・木製品類について遺物分布図（第63図）を作成した。

○平面分布を層位別に見ると（図未掲載）、イ～ハ2層は中央のやや北寄りと曲輪際、4層は中央に散漫、5層は曲輪際南寄り、6層は1点が離れて北西隅、7層（＝ニ6層）は曲輪際南寄り、8層（＝ニ7層）は堀底にまんべんなく、9層は北東隅と中央東端、ニ8層は底面に4点分布する。上・中・下層にまとめると、上層（2・4層）は中央曲輪寄りから北西に広がり5C層遺物分布と重なるものがある。中層（イ～ハ5・6層、ニ6層）は中央から南曲輪寄り、下層（イ～ハ8・9層、ニ7・8層）はやや南に多いがまんべんなく出土する。土層堆積位置を反映している。※層位はレベル分布図により補正した。

○層位ごとの遺物と年代（第86～88図）

レベル分布図と対照すると台帳層位と異なるものが多い。わかりにくいが操作の経緯をのこすため、第86図の遺物図の下にレベルによる層位を記入しそのまま遺物図を貼り付けた。この項の記述はそれに従った。

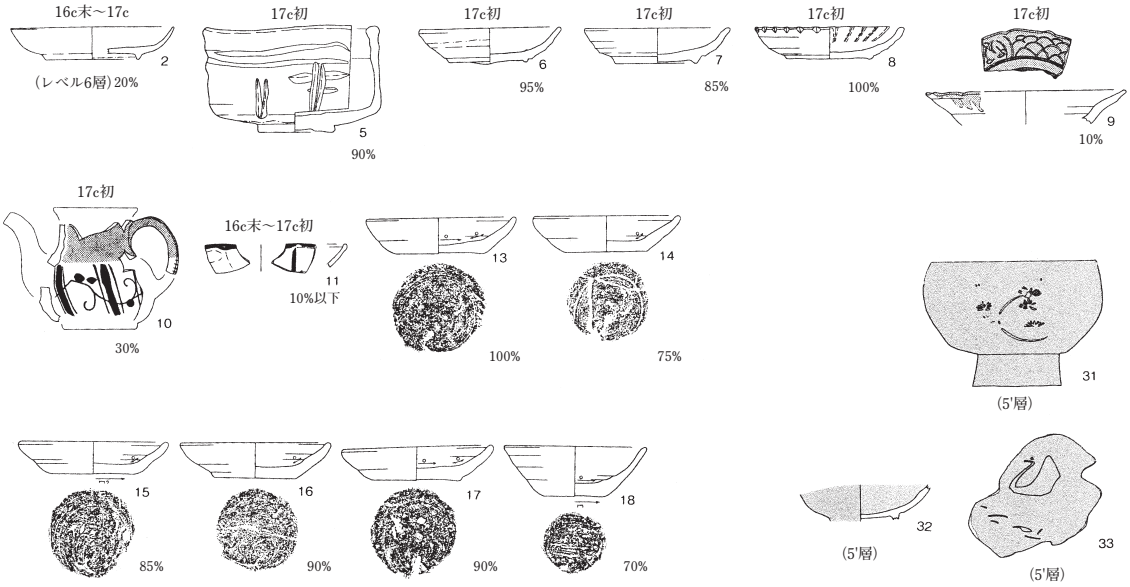
イロハ2～4層は唐津（肥前陶器・土71・73・75・76）、瀬戸美濃擂鉢（土80）、中国染付（土105）・かわらけ・石製円盤が出土する。16世紀末～17世紀初め。かわらけ（土85・87・94・95）は底部内面指頭ナデあるいは内面底体部境強いナデ・底部外面板ナデを施している。1堀5層のものより体部がやや立ち上がり底部内面の整形が丁寧。

イ～ハ5・6層とニ5層はかわらけ4点（土96・97・110・111）と在地擂鉢（土93・113・114）、木製品は漆椀（木41）・炭化した側板（木14・15）が出土する16世紀後半か。

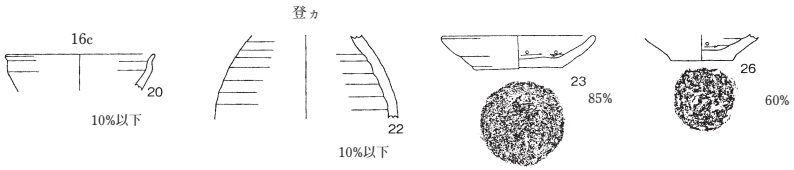
イ～ハ7・8層とニ6・7層は16世紀中・後期の瀬戸美濃皿（106・107）や、かわらけ（土66・67・101・115）、ほうろく（88・99・116）・在地の擂鉢（92・100）が出土する。105・108・109・112・113はレベル分布が高く、平面分布図によると、堀の確認面及び法面上部出土で既報告の層位は台帳の錯誤。木製品は白木の盤（木43）、漆椀（木42・44～51・54～59、深く高台の厚いもの・浅いもの）が15点、下駄（木1）・側板（木16）、層羽子板・呪符が出土する。瀬戸美濃皿・在地土器から16世紀後半か。

7層（ニヵ）で唐津（土118）細片1点が出土しているが下層が新しくなってしまう。混入・錯誤か。年代をまとめると、上層（イ～ハ2～4層、ニ2～5層）は16世紀末から17世紀初めに堆積したもの、

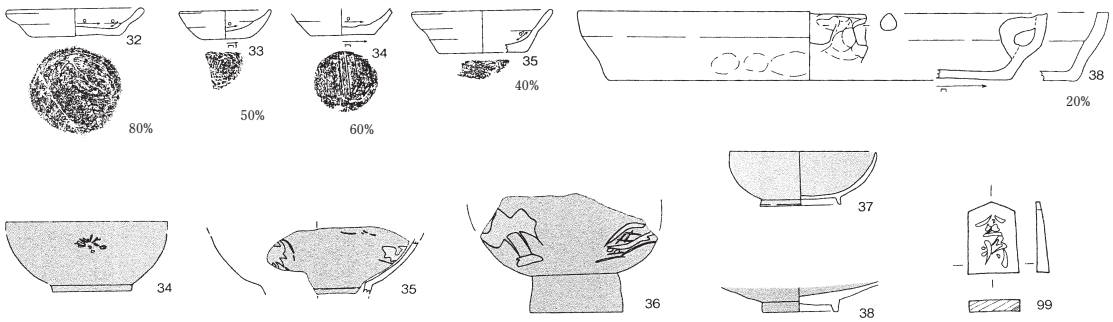
1堀
5層



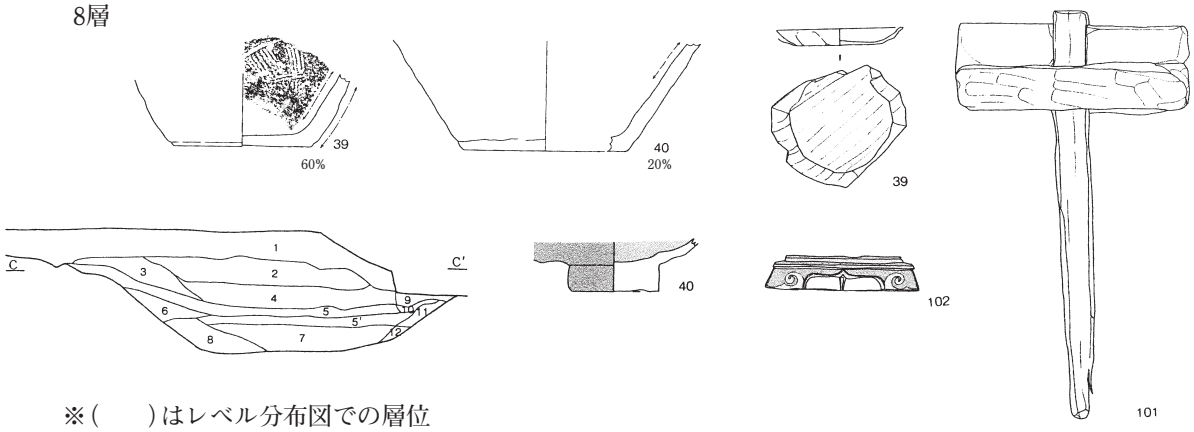
6層



7層

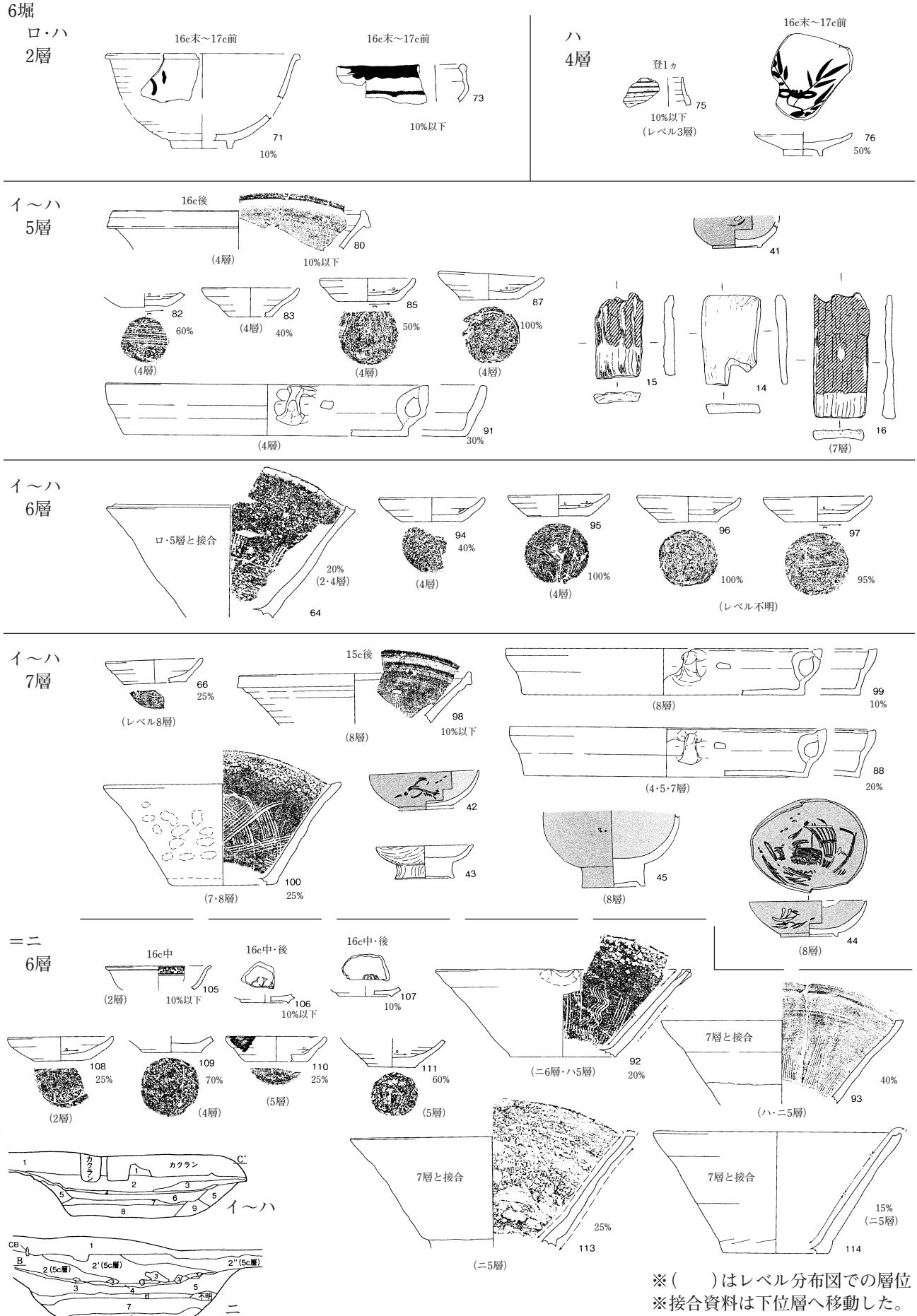


8層



※(　　)はレベル分布図での層位

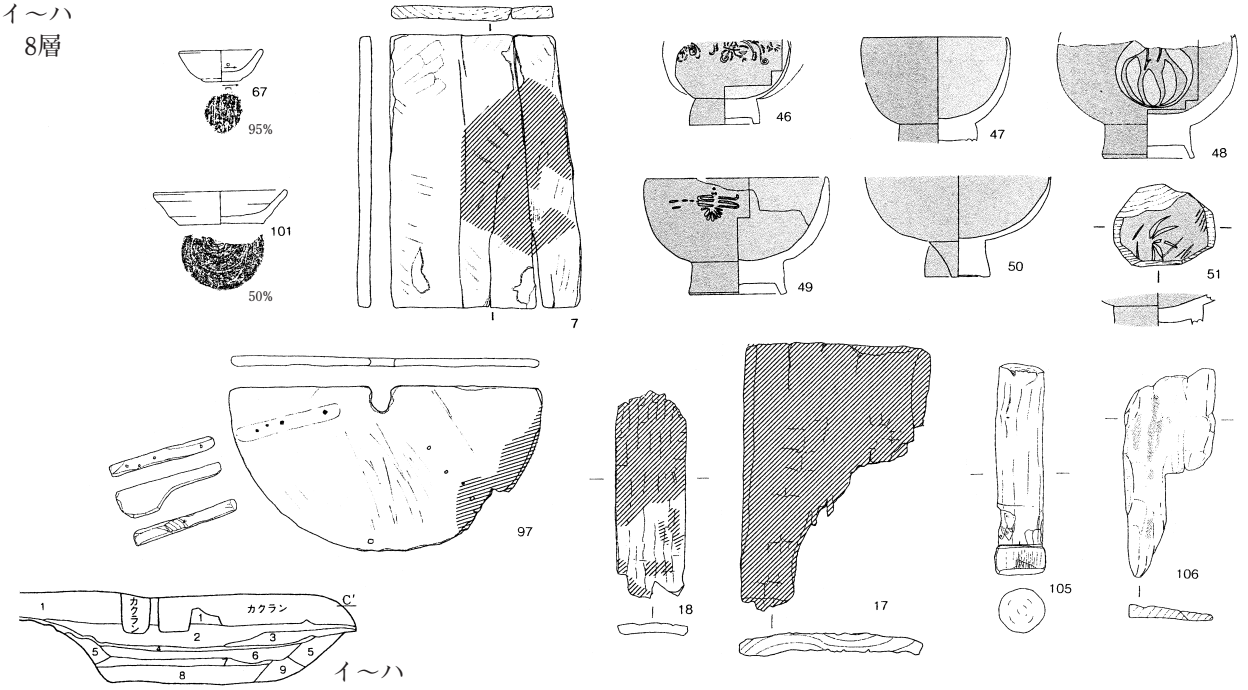
第85図　層位別土器類・木製品類出土1



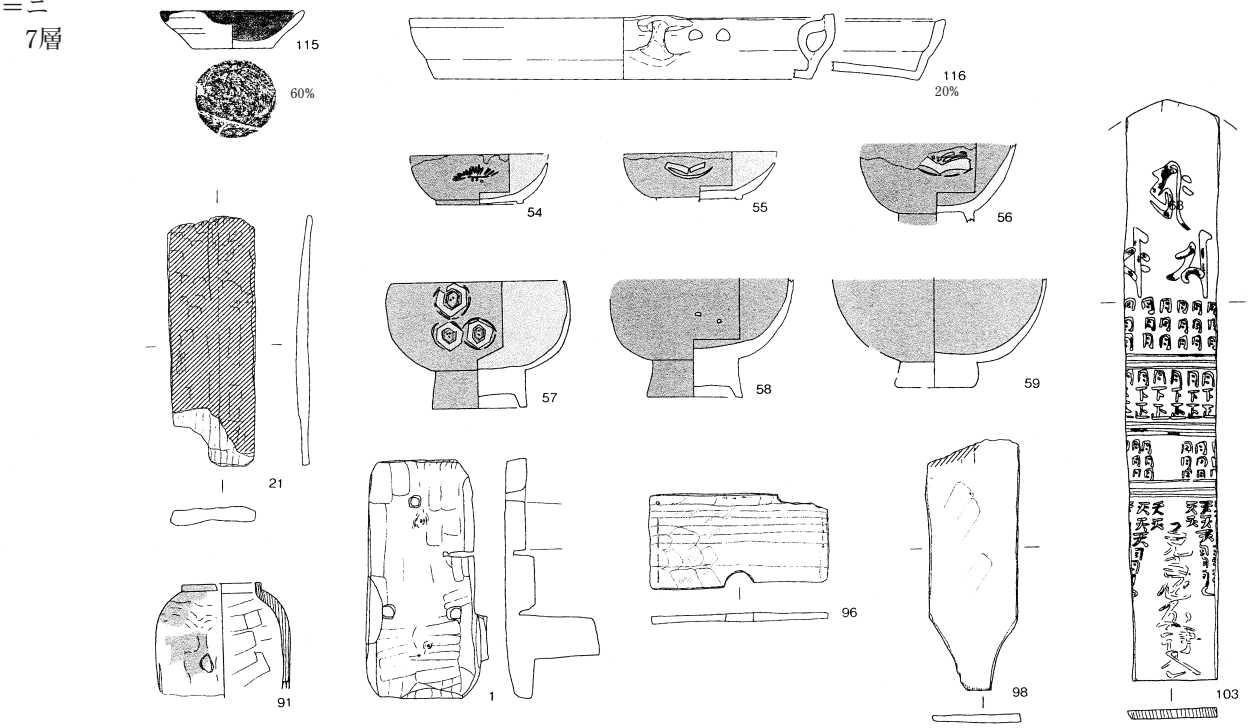
※（　　）はレベル分布図での層位
※接合資料は下位層へ移動した。

第86図　層位別土器類・木製品類出土 2

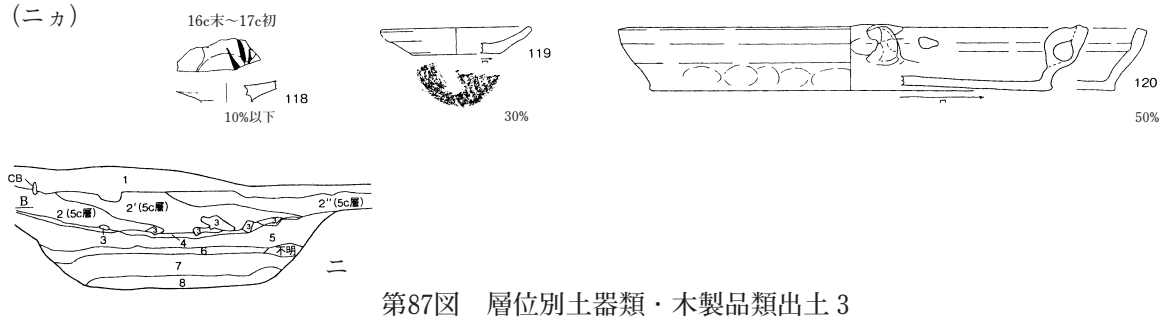
6堀
イ～ハ
8層



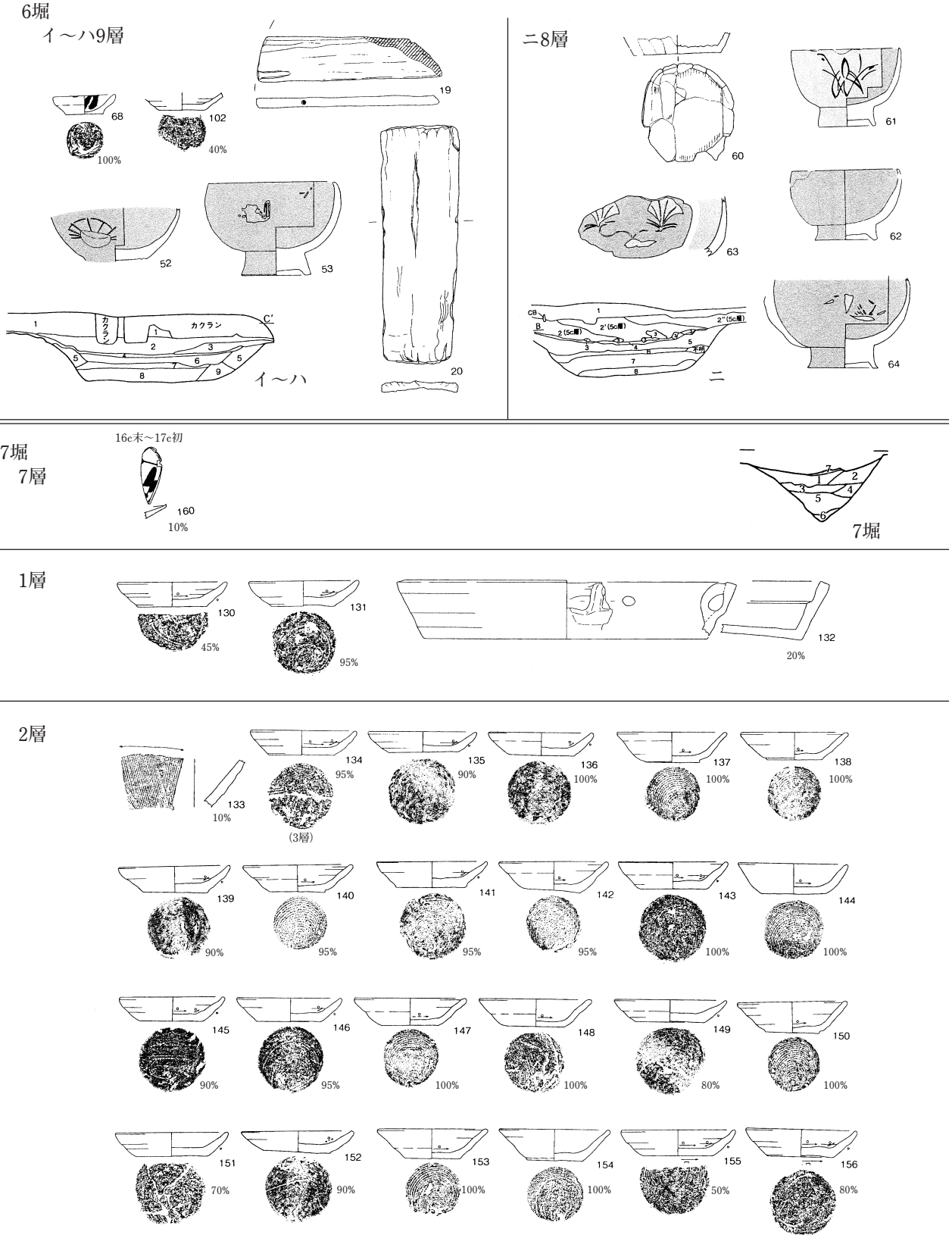
ニ
7層



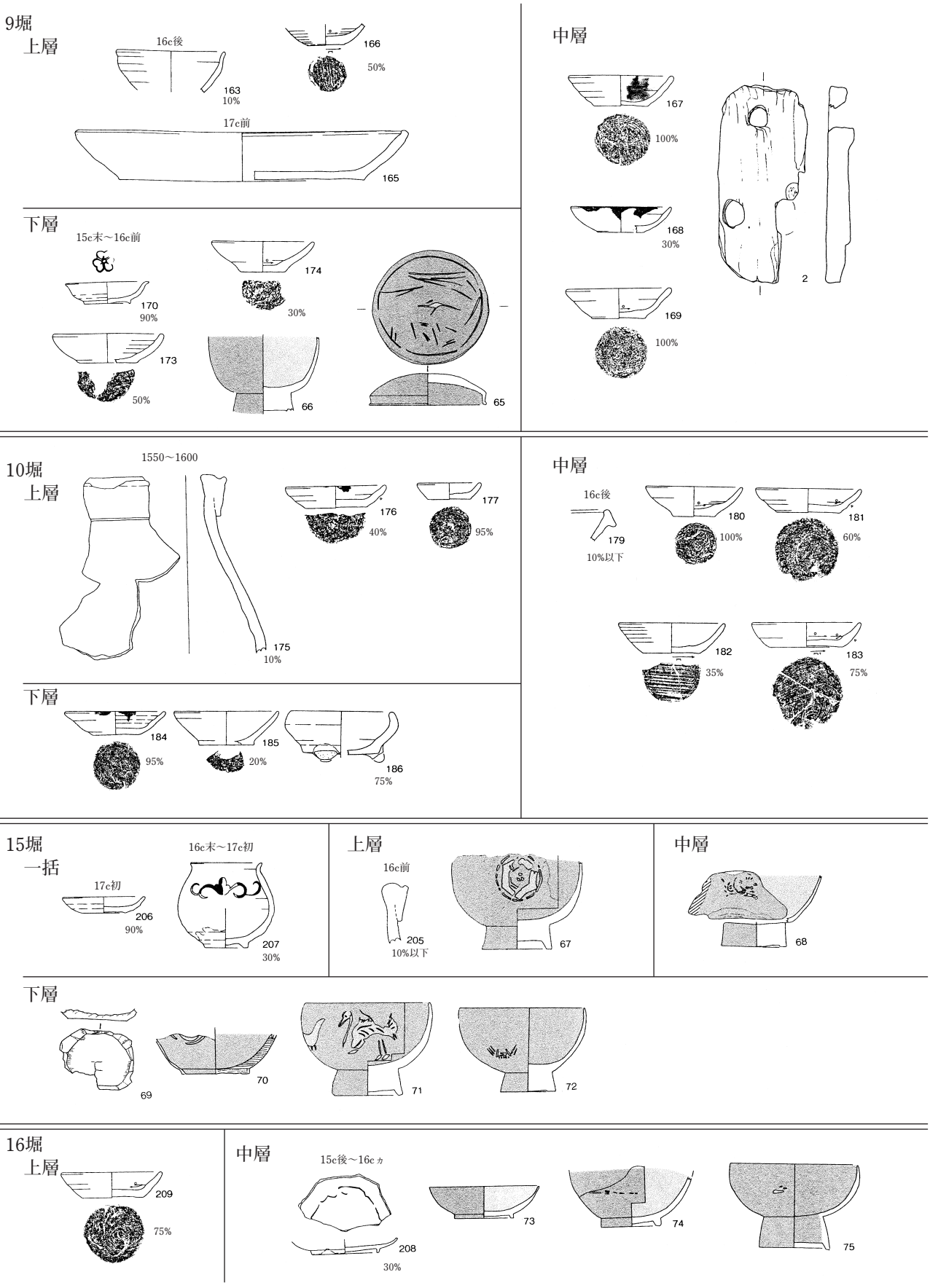
7層
（ニカ）



第87図　層位別土器類・木製品類出土３

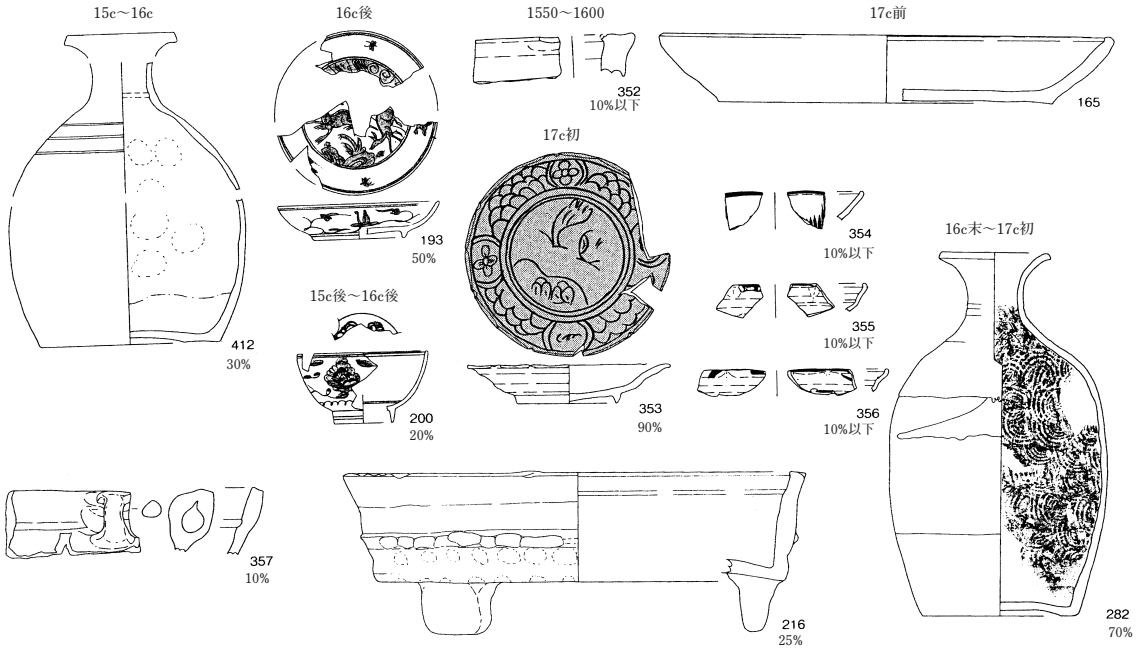


第88図　層位別土器類・木製品類出土 4

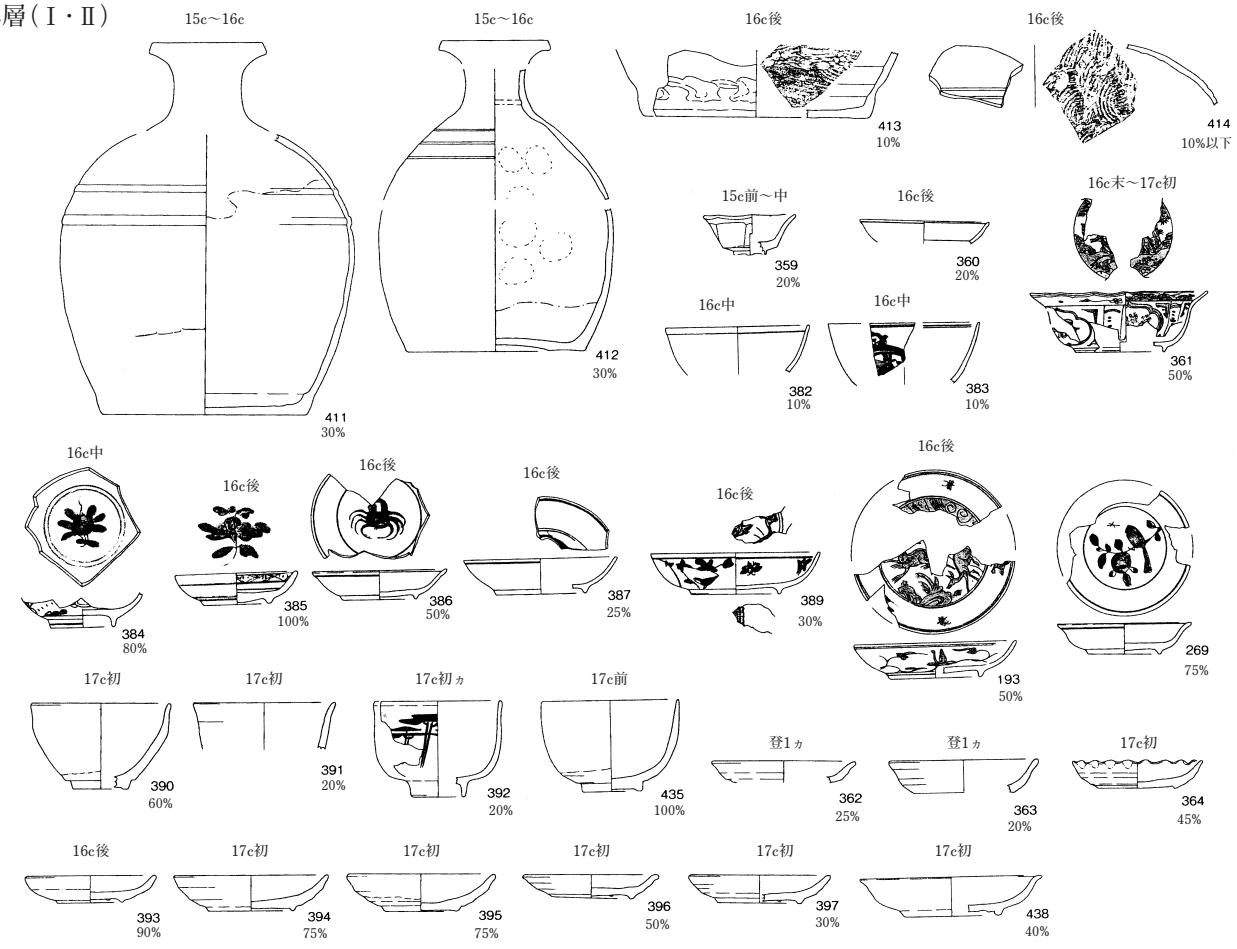


第89図　層位別土器類・木製品類出土 5

3C層

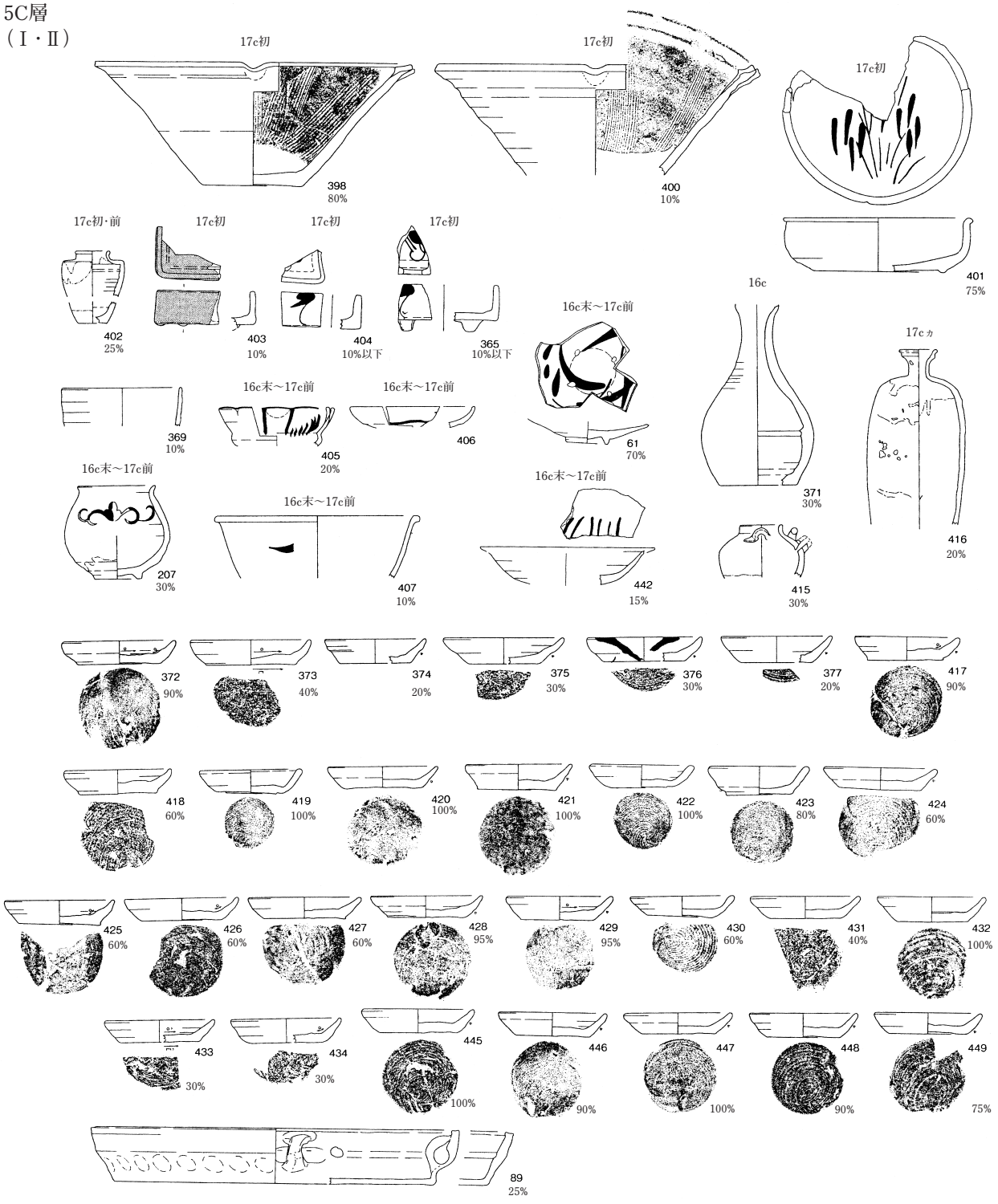


5C層（Ⅰ・Ⅱ）

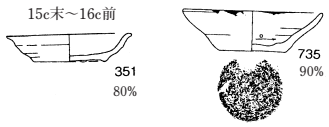


第90図　３Ｃ層・５Ｃ層出土土器類

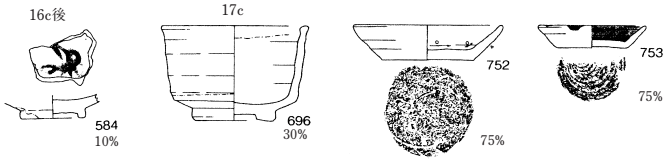
5C層
（Ⅰ・Ⅱ）



遺構外　A区　焼土混り



C区　堀埋土（18･20堀4･6層カ）



第91図　５Ｃ層他出土土器類

下層（イ～ハ５～９層、ニ６～８層）は16世紀後半に堆積したものと思われる。

○用途別分類では、上層は食膳・調理・貯蔵・いくさ（石製円盤）、下層は調理（擂鉢・ほうろく、鍋敷き板・石臼）・貯蔵（桶）・食膳（漆椀・漆皿・舶載陶磁・陶器皿・かわらけ・炭化籾米）・灯り（灯明皿）・耕作（砥石・磨石）・遊び（羽子板）・信仰（呪符）・弔い（板碑）・いくさ（薙鎌・石製円盤）が出土し、多岐にわたる。なかでも掲載した66点中在地のかわらけ21点・ほうろく７点・擂鉢６点計34点と50％を超え、多い。また漆椀は21点と１遺構の出土点数としては『騎西城』内最多を数える。

○炭化・黒化しているものは２層で天目茶碗、５層以下で皿・下駄・桶・羽子板・石臼・硯・磨石・板碑である。

『７号堀』（第88図）

２層出土かわらけは２タイプある（第３節３参照）。器高が高く深く内湾するものと浅く段を有するもので、後者は１堀５層出土かわらけと同タイプであるが、底部内面径は小さくやや内湾する。伴出遺物はないが７層（１堀５層相当）の下位出土であることから16世紀後半か。

『９・10・15・16号堀』（第89図）

上・中・下層で取り上げているが、およそ上層は16世紀末から17世紀初めに相当しそうである。中・下層はかわらけから16世紀後半と思われる。10・16堀上層出土のかわらけ（土176・177・209）はタイプが異なり今後検討したい。

遺構外（第91図）だが、21号井戸上位出土の瀬戸美濃丸皿（土351）・かわらけ（土735）の伴出はKB10区出土かわらけが15世紀末～16世紀初めであることの傍証となり、同井戸出土のかわらけ（土294）が同時期かやや古い可能性がある。

３　炭化物層－３C・５C層－（第90・91図）

３C・５C層出土土器（土193・361・412）は、接合関係にあり、他土器類も年代・器種が同様であることから炭化物層は同一時期に南（３C層）・北（５C層）に分かれて堆積したものであろう。また、５C層の範囲内では接合したもの（土371・405・412）は広く分布し、炭化物が西寄りでは疎になる（第82図）ことから、曲輪側から廃棄されたものが広がったものと思われる。６堀上層の遺物分布と重なるものがある。かわらけ・茶陶の別では平面・レベル分布に偏りは見られないが、釘のみ西寄り上層にまとまる。遺物のレベル幅は１ｍである。また最下層で17世紀前期の完形志野丸碗が出土した。

３・５C層一括して用途別分類を見ると、調理（擂鉢・石臼）、食膳具（かわらけ）、暖房（火鉢）、住（土壁・釘・樋受け）、喫茶（朝鮮・志野・総織部・唐津・茶入・舶載磁器・鉄瓶蓋）、遊び（煙管・碁石）、文具（硯）、耕作?（砥石・磨石）・加工（炭化椀・加工滓）、貨幣（銭貨）、流通（錘）、いくさ（小札・切羽・目貫・小柄・石製円盤・砥石）がある。被熱・炭化しているものは、土器類・木製椀・石臼・石製円盤・礫である。種別は多岐にわたるが、炭化椀、多くの茶陶・土壁片の出土が特徴的である。また、かわらけは、５C層では掲載した96点中31点と32％を占める。

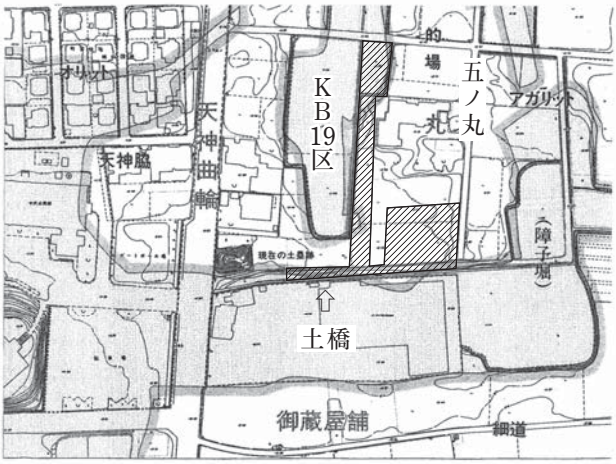
これらのことから、堀が中位まで埋まった17世紀前期、不時の火災や城の破却などで建物やその収蔵物などが火を受け廃棄されたものであろう。寛永９年（1632）廃城あるいはそれに近い時期のことと思われる。

４　杭列（第53・54図）

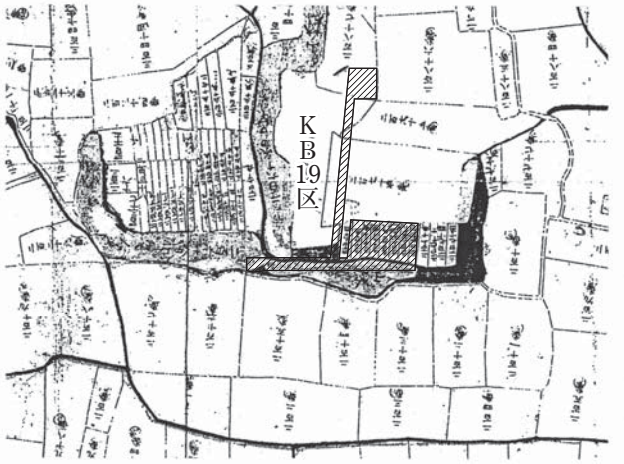
C区南の９・10堀、15・16堀では東寄りに打ち込まれた杭は南北に連なり埋土土留め材を支え、五ノ丸西端を拡張した。C区南端の18・19堀南法面では杭は東西方向に連なり、20・21堀を埋め土橋を９ｍに拡幅した。また、B区中央の30堀南で杭が東西方向に連なり30堀を埋め西への通路あるいは空間を確保した。

５　テラス（第55図B・D・E・Gライン）

テラスは五ノ丸寄りの『堀』確認面より30～40cm高い部分を指す。戦国期の曲輪造成等に掘り残され南・中・北に分断されたが、五ノ丸造成時に９・10・15・16堀の杭列により旧曲輪を拡張し張西縁部を整えたものであろう。（第92図）



第92図　騎西城の範囲想定図（下図昭和62年）



第93図　改正地引番号全図（明治９年）

H・Iラインの五ノ丸はテラスより低いが、地山が北に向かって低くなっているものによるか。

6　橋

土橋　C区南端20堀と22堀の間は幅2.7～4.7mの掘り残し（第55図Aライン）があり、土橋と思われる。この土橋は障子堀掘削時（16世紀後半）幅狭の通路だったが、18・19号堀の杭列による土留め造成により幅９ｍを確保した。幅広となった土橋が『絵図』に描かれている五ノ丸から天神曲輪に向かう土橋と想定される（第92図）。明治９年作成の改正地引番号全図では当該地点は土手並びに土揚場（黒塗り）・山林（薄塗り）で、土塁かやや高い土地で道が巡る。（第93図）

橋跡　22堀の掘削に伴い設けられたものと思われ、南方向に架けられる。

7　五ノ丸内建物

柱穴群　A１区で深さ６～170cmのピットが多数検出された。今回の整理時の規模・深さによる検討では、掘立柱建物跡を確認できなかった。

8　１号建物跡

A１区で検出された瓦地業跡は東西５間半・南北３間半の基礎で、本田遺跡（注１）などの事例により蔵の基礎として瓦地業上部に礎石を備えたものと思われる。地業内の瓦は桟瓦（土325他＝江戸中期以降）、軒瓦（土332＝18世紀後半以降）、被熱発泡した瓦（土341～350）などから、火災に遭った18世紀後半以降の瓦葺き建物の瓦を地業に使用し、同時期後半以降に蔵を建築したものであろう。

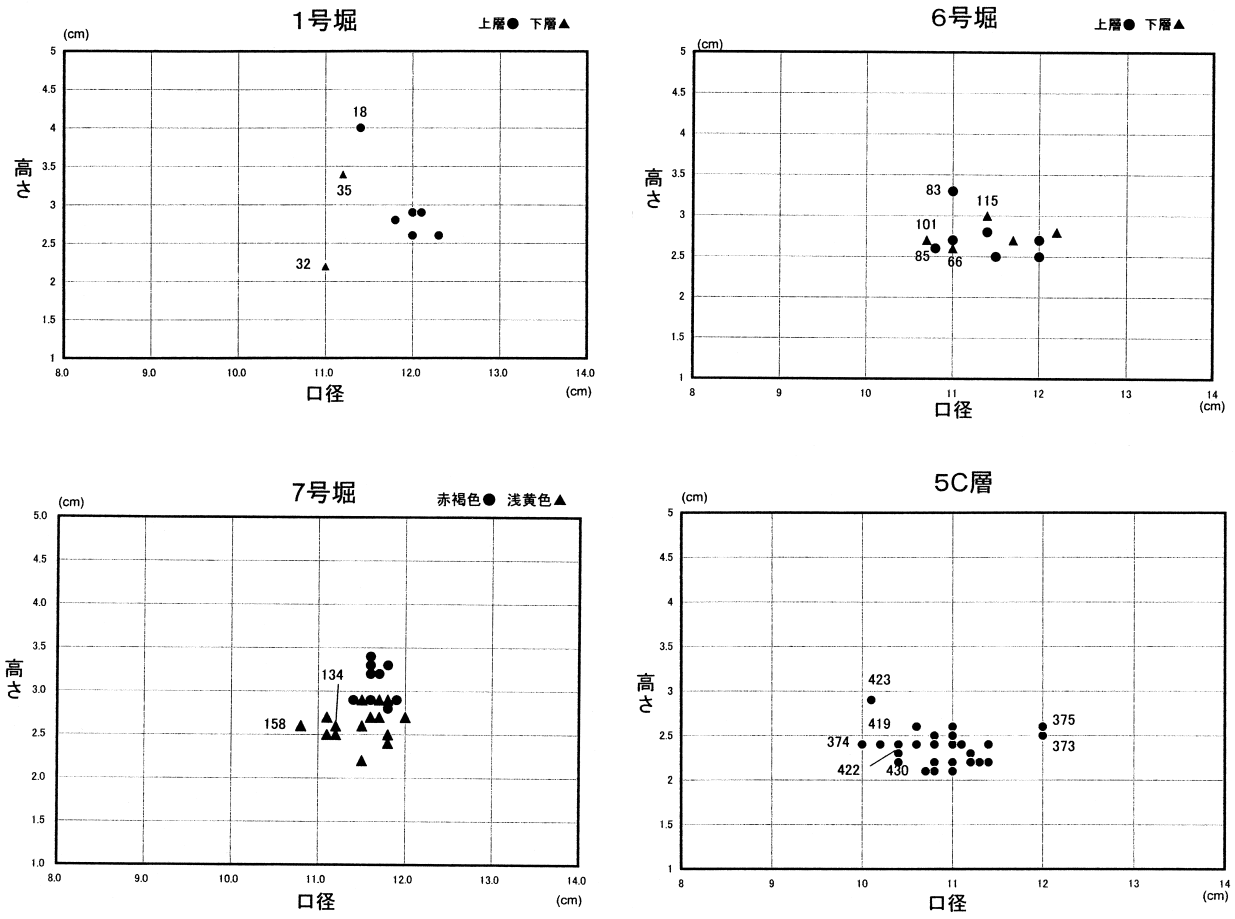
※注１　2021　本田遺跡　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第471集

第３節　出土遺物

1　土器全般

当調査区（調査面積1995㎡）では掲載した土器は693点とKB10区（同2,050㎡）の900点に次ぐ。掲載基準の異同があるが２番目の多さである。また、在地産土器が多い他地区に比べ陶磁器の出土量・割合も高い。陶磁器は朝鮮陶器瓶・中国染付・織部・志野・唐津の皿・碗類の遺存率の良いものが、１・６号堀、３・５C層でまとまって出土している。いわゆる茶陶で、喫茶など饗応に使用されたものであろう。そのなかでほぼ完形の織部黒沓形茶碗や志野丸碗は、廃棄の契機が通常のものではなかったことを考えさせる。

碗・皿以外では、破片ではあるが中国青磁（盤・花瓶）、白磁（壺・六角杯・香炉）、中国染付（芙蓉手鉢・小杯）、朝鮮（瓶）、常滑（甕・広口壺・瓶子）、瀬戸美濃（古瀬戸～登窯２期/水滴・入子・徳利・尊式花瓶・茶入）・織部（汁注）・志野（鉢）、唐津（壺・徳利・香炉・火入れ）、志戸呂（徳利）・備前（徳利・壺）、丹波信楽（壺）などと多様な器種を有する。伝世品を含めて食膳や床を飾ったものであろう。



第94図　かわらけ法量分布図

2　朝鮮陶器

陶磁器の中では、５C層から出土した朝鮮の瓶が特筆される。騎西城では初出である。関東では朝鮮陶器は小田原城・八王子城で出土例があるという（片山まび氏教示）。411・412は15～16世紀の瓶、413・414は16世紀後半の黒釉の瓶である。411・412の出土状況は一括取り上げも多く不明なものもあるが、破片点数は20点を超え細片化したものが東寄りに流れ込むように中国染付・志野・織部・唐津皿などと投棄されている。（第82図）

3　かわらけ（第94図/第85～91図）

数量がまとまり年代を推定できそうなかわらけが１・６・７号堀、５C層で出土しているので検討を行う。特に体部に段を有し体底部境ナデを施すものに注意する。

１号堀は９点扱う。上層（５・６層）のもの（13～18・23）の18は別タイプ。口径12cm前後・高さ2.6～2.9cmにまとまる。16世紀末から17世紀初のものと伴出するが、口径が大きめで古いものかあるいは大きめで古いものが当代へ残るものか？１堀下層（７層）のもの（32・35）は別タイプである。

６号堀では12点扱う。上層（イハ２～４・ニ２～５層）のもの（83～85・87・94・95・108・110）は、83は椀形で除外、85は別タイプか。口径11～12cm・高さ2.5～2.8cmと中～大きめで漸移的な法量。下層（イハ５～９・ニ６～８層）のもの（66・96・97・101・115）は、66・101・115は別タイプ。口径11.7～12.2・高さ2.7・2.8cmと大きめ。

７号堀は、１～３層でかわらけ36点（130・131・135～156・158）が出土しており、赤褐色を呈し底部内面指頭ナデを施すもの（137・138・140・142・144・147・148・150・153・154）と浅黄色を呈し体部に段を有し体底部境ナデを施すもの（130・131・135・139・141・143・145・146・149・151・152・156）の２つのタイプがある。赤褐色のものは口径11.4～11.9cm・高さ2.9～3.4cmと器高が高い。浅黄色のものは口径11.1～12cm・高さ2.2～2.9cmと段を

有するタイプでは中・大型で、6堀同様小型に至る漸移的な法量である。158は有段のものであるが遺存25％と復元径錯誤か。直上7層で唐津（16世紀末～17世紀初）が出土し、1～3層は6堀下層に相当する。134・158は4層の下位出土。

5C層は33点（372～377・417～434・445～454）扱う。分布域はやや広がる。373～375遺存率小さく口径11cm中程の可能性あり。419・422・423・430は口唇部が丸く体部段なしで別タイプ。主に口径10.4～11.3cm、高さ2.1～2.6cmで他遺構に比べ小さい。伴出遺物より16世紀末から17世紀初の所産と思われる。

4　漆椀（第85～89図・第17集）

KB19区では多くの漆椀等の漆器類が出土している。特に1・6・9・15・16号堀から多く出土し、遺存状態も良い。その中で器形や塗りが明確な32点の漆椀を中心に取り上げた。これらの一部は樹種・塗膜分析済みである。（塗膜分析については今後詳細を報告する予定）

1号堀：漆椀9点が出土し、その中の5点を観察した。

大型椀は2点で、塗りは2点とも内面赤色・外面黒色で赤色の施文を施している。樹種はアサダ（木31）・クリ（木36）。

中型椀は2点、これも大型椀同様の塗りである。樹種はブナ（木32）・カツラ（木34）である。

浅型椀（三の椀相当）は皆朱（木37）で、漆分析の結果下地は渋下地、赤色は朱と判明。

6号堀：KB19区で一番漆製品が多く出土し、漆椀は23点出土、この中から20点を観察した。

大型椀は8点（木45・48・49・53・57・58・59・64）、塗りは内外面黒色が5点、内面赤色・外面黒色が3点である。いずれも赤色で施文。そのうちクリ（クリの可能性があるものを含む）が3点（木53・64）、ブナ、トチノキが各1点である。

中型椀は6点（木41・46・47・56・61・62）。塗りは内外面黒色が2点で1点は無文。外面赤色・内面黒色、赤色で施文が1点、内面赤色・外面黒色が3点でその中で赤色施文は2点。樹種は2点のみ判明。ケヤキ・カツラ（木61）各1点。ケヤキ材の椀は、渋下地に漆膜が3層で赤色には朱を使用している。カツラ材の椀は外面赤色・内面黒色塗りで、外面の赤の上にさらに朱で沢瀉を描いている。この色の取り合わせは、騎西城全体でもこの1点のみで珍しい。渋下地であるが漆膜は3層で赤色には朱を使用。このケヤキ・カツラ材2点は他の漆椀より丁寧に製作されている。

浅型椀は4点（木42・44・54・55）。塗りは内外面黒色1点、内面赤色・外面黒色が3点で、4点とも赤色で施文。樹種はケヤキの可能性（木42）・ハンノキ・スギ。この中でケヤキ材の椀は漆膜3層で赤色に朱を使用し、他の3点よりも丁寧に製作されている。

なお、ケヤキ（ケヤキ材の可能性があるものを含む）はKB19区ではこの2点のみである。また、スギはロクロ加工に不向きな為、この時期に椀に使用されているのは珍しい。

6号堀南の「ニ地点」は、大きく2層（6・7層）に分かれるが、出土した漆椀からは器形等の違いが確認できなかった。

9号堀：合子1点（木65）、中型椀1点（木66）出土。合子は器種として珍しいが、塗りは内外面黒色。渋下地で上塗りの漆は薄い。施文の赤色はベンガラを使用し、簡素な作りである。

中型椀は内面赤色・外面黒色で高台裏のみ赤色で文字を描く。こちらも肉眼での観察であるが、漆は薄い。

15号堀：大型椀4点（木67・68・71・72）、中型椀1点（木70）出土。

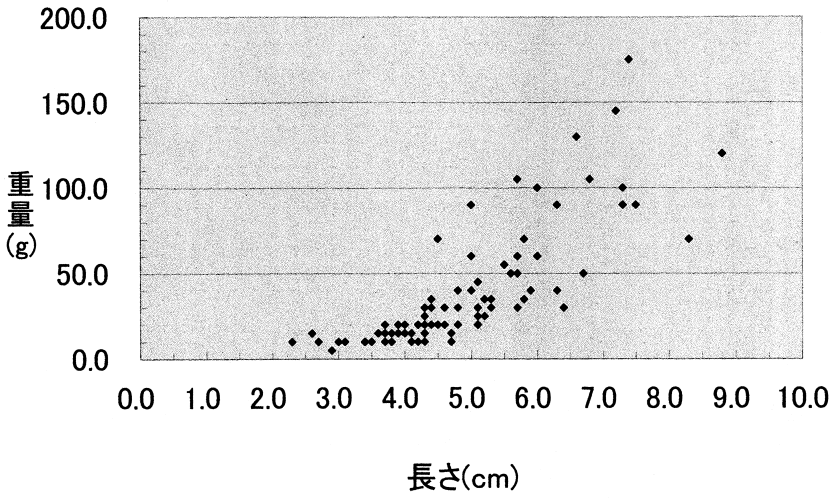
大型椀3点の塗りは内外面黒色、残り1点が内面赤色外面黒色。樹種はクリが1点（木67）、ブナ属の可能性があるものが1点（木71）。

中型椀は内外面黒色。

大型・中型椀ともに赤色で施文。

15号堀では、上層、中層、下層で漆椀が出土しているが、層位による器形等の違いは確認できなかった。また、肉眼観察ではあるが、全て漆が薄い。

16号堀：3点出土。いずれも中層出土。大型椀（木75）、中型椀（木74）、浅型椀（木73）各1点。



第95図　石製円盤の重量・長さ分布図

大型椀は内外面黒色、赤で施文。肉眼観察だが漆は薄い。

中型椀は内面赤色・外面黒色、赤で施文。

浅型椀は三の椀もしくは盃と考えられる。内面赤色・外面黒色。下地は渋下地であるが赤色は朱を使用。

以上がKB19区出土の漆椀の概要である。器形は、大・中・小（浅型）に分けることができる。大型椀は飯椀に、浅型椀は、汁椀や汁椀の蓋に相当するのだろう。椀の下地は、すべて柿渋を使用した渋下地である。このことから普及品のみと考えることもできるが、少数ではあるが上塗りを２層・３層と重ねたものがある。また、内面や施文の赤色はベンガラではなく朱を使用したものがほとんどである。

一方樹種は、同時代の他遺跡同様に広葉樹が多く使用され、ケヤキは２点のみで他はクリやブナ属、トチノキなどの広葉樹である。一般に漆椀では、ケヤキは高級食器に、トチノキ・ブナ属・クリなどは普及品に使用されていると考えられている。このことから、KB19区の漆椀はほとんどが普及品であると思われるが、渋下地でのケヤキ材使用や、他の渋下地の椀にも朱を用いるなど、一見しただけでは高級な漆椀と見分けがつかない。このような漆椀が確認されたことは、従来の“渋下地＋ベンガラ”は普及品、“漆下地＋朱＋ケヤキ材”は高級品と言い切ることはできないようである。この時代は、元来一部の人々しか手にすることのできなかった高級食器としての“赤色”が庶民にも拡大する時期でもあり（四柳嘉章2018）、漆椀の製作・使用の過渡期にあたると思われる。渋下地でありながら朱を使用するKB19区の漆椀は、中世的な様相から近世的な様相への移行を示しているのであろう。

5　炭化椀

３・５Ｃ層から出土したもので、高台内に削り残しと思われる稜やロクロ目、底部にロクロの爪痕が認められ製作途中と考えられる。このことは、17世紀前半に城内・城下で白木椀あるいは漆器木地を製作していた可能性を提示する。隣接する13次調査で漆が付着したかわらけ（未報告）が出土し、漆を修理や製作に使用していたことを補強する資料である。

6　石製円盤

当調査区での出土点数は95点と、KB15区の99点に次いで多く、その法量及び分布状況を確認し、傾向・用途を考える。

法量は、欠損しているものが多いが、重量・長さについて観る（第95図）。重量については、５～175gで、特に10～30gに多く、長さ（直径）は2.3～8.8cmで特に3.5～5.3cmに多い。掌に収まるもので遠くに飛ばすことが想定される。

分布状況は出土遺構が不明なものが多く図を作成しなかったが、１号堀とその上層（D区取り上げ）で42点と半数近い。６号堀では遺物出土量の割に５

遺構	重量(g)	遺構	重量(g)	遺構	重量(g)	遺構	重量(g)
1堀	3,900	1溝	120	1壙	295	A区	9,777
5堀	1,606	2溝	500	3壙	180	A区西	3,110
6堀	10,757	3溝	300	4壙	5	A区東	4,355
7堀	60	4溝	1,180	5壙	760	A区㋑	965
8堀	30	7溝	5	6壙	10	A区㋺	50
9堀	510	9溝	5	7壙	105	A区㋩	120
10堀	150	2井	40	8壙	30	B区	6,960
10b堀	5	3井	780	17壙	1,882	B区㋩	150
12堀	120	5井	2,600	1堀	250	B区㋥	1,310
13堀	70	6井	20	1堀	120	B区㋭	820
14堀	20	7井	10	3T	30	B区㋬	600
15堀	790	9井	670	4T	10	B区㋣	795
16堀	420	10井	60	6T	390	B区㋮	1,190
17堀	2,515	11井	30	7T	10	B区�²⁰	100
18堀	50	12井	9,500	8T	70	C区	11,446
19堀	725	13井	5,660	9T	455	C区3C層	60
21堀	215	16井	10,040	10T	300	C区5C層	255
22堀	2,370	20井	20	11T	380	C区5CⅠ層	1,410
23堀	100	21井	120	19T	10	C区5CⅡ層	250
30堀	150	23井	700	20T	210	D区	5,371
						合計	127,074

第22表　緑泥石片岩出土地点ごとの重量

点と少なく下層の出土量に比例しないようである。出土層位は、1号堀5層とその上層、6号堀2層で、石158は6層だがレベルでは4層より上、石157のみ6層以下で、殆どが上層である。前述のとおり、1・6号堀上層では16世紀末から17世紀初めの遺物が多く出土し、石製円盤の埋没年代も当該期と思われる。

制作については、薄い円盤成形が容易な緑泥石片岩を素材としている。板碑が素材であるため、板碑として報告したものと、緑泥石片岩の細片をあわせた重量を見る。総重量127kgで、遺構ごとにみると重量計1kgを超えるのは1・5・6・17・22号堀、4溝、5・12・13・16・24井、17壙である(第22表)。

また、陶器・かわらけを成形した土製円盤も同様な法量であるが、石製円盤が15・19区（城郭内）で約200点と大量に出土していることから別に用途を考えたい。

7　成形礫・打割礫・礫類

成形礫・打割礫として掲載したものは15区の29点に比べ7点と少ない。そのうち堀出土のものは、1・6・10号堀である。

礫類は大型のものを含め、KB15区を超える多量の礫が、城郭内で出土することから、構造物に伴うものや戦闘用が想定できる。第11・12表の礫出土層位は、堀の44点中、上層は22点（1堀5・6層11点、6堀4層・上部2点、7堀1層・9堀上層2点、9・10・18堀埋土3点、19堀上層2点・30堀埋土2点)、下層は10点（1堀7層1点、6堀5～7層6点、10堀下層2点、19堀中層1点）と上層が多い。一覧表（第11・12表）の71点は全て同一の用途とはしがたいが、15区同様戦闘用のものが含まれているものとしたい。

8　礎石

礎石ヵとしたものは5C層に加えC・D区の上層出土である。小型で黒化の範囲から多数の礫で基礎としたと考えられ、大型礫の入手困難あるいは適切な工法選択に起因すると思われる。土壁を伴う建物の礎石としても使用され、不時の火災や廃城時の焼却などにより火を受けたものか。また、礫類とした中にもC区出土は多く、礎石を含むものと思われる。

第4節　遺構の変遷（第96図）

堀・溝については流れ込みや確認できなかった遺構に伴う遺物があり、掘り返し、長い埋没時期がある。井戸・土壙についても遺存率50％以下の遺物により時期を決定したものもある。そのため時期決定に不確実な部分を伴うが今後の叩き台としてあえて年代的変遷を追う。

【第1段階】(16世紀中頃以前)

障子堀と重複する井戸・土壙はそれ以前に所在したものとして、2・3・4・6・7・9・11・12・14・21号井戸、1壙を置く。

【第2段階】(16世紀後半)

29・30号堀と22号堀の前後関係から、2-1段階に障子堀（1・6～21・23・24・29・30堀）を置く。2-2段階に22号堀、2～5堀。22堀は15区26堀と接続し14区2・3・4堀とともに、堀の拡張をしたものか。出土遺物・重複関係から1溝・13井・4・5・9壙もこの段階か。

【第3段階】(16世紀末～17世紀初め)

9・10・15・16堀の杭土留めによる曲輪拡張、18・19堀の杭土留めによる土橋拡張、30堀の杭土留めによる土橋造成が行われた。松平康重あるいは大久保忠常・忠職が藩主の時。『堀』（1・6・7・9・10・15・16・19堀）の下層は埋まっており、上

層の堆積が始まる。下層の堆積は障子堀のメンテナンスが困難であることに加え、平時に至り不要であったことによるものであろう。2溝、8・24・25井もこの段階か。

【第4段階】(17世紀前期)

炭化物層(3・5C層)が堆積した。廃城時(1632年)かその直前か。

【第5段階】(19世紀)

1建(瓦地業跡)が相当し、江戸末期に土蔵が所在したものと思われる。4溝もこの段階か。

第5節　まとめと課題

曲輪に近いなど地点にもよるが、16世紀後半に『堀』の下・中層まで埋没が進み、上層は16世紀末から17世紀初めの間に埋没している。1堀出土土器には15区との接合関係を有するものがあり、15区と同様な経過をたどったものであろう。

16世紀後半の城内(五ノ丸周辺)は生活の場として活用され、また、平時となった松平康重の代以降内外の諸氏を饗応する場も設定されたものであろう。同時に曲輪・土橋の拡張により、城郭エリアを戦闘から統治優先の拠点としての再構成が行われたことが推定される。

今後の整理・報告により、永禄・天正の戦闘期、文禄・慶長から寛永9年の廃城までの城郭利用の変遷を明らかにしていきたい。

引用参考文献

安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹　1999　東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)　『東京大学構内遺跡調査研究年報』2　別冊

岩田明広　2022　「戦国の忍器を追う－忍器認定過程と忍器から見た忍びの正体」『埼玉史跡の博物館紀要第15号』

浅野晴樹　1991　「東国における中世在地系土器について－主に関東を中心に－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁椀の分類」　『貿易陶磁研究』　№2貿易陶磁研究会

大成可乃　2011　「東京大学構内遺跡出土陶磁器･土器の分類(2)」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7『東京大学構内遺跡調査研究年報』7

小野正敏　1982　「15、16世紀の染付碗、Ⅲの分類とその年代」『貿易陶磁研究』№2貿易陶磁研究会

笹間良彦　1981　『図録　日本の甲冑武具事典』柏書房

九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』　九州陶磁学会

永井久美男編　1994　『中世の出土銭』

1998　『近世の出土銭Ⅱ』

中野晴久　1994　「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集

2005　「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

藤澤良祐　1987　「本業焼の研究(1)」『研究紀要Ⅵ』　瀬戸市歴史民俗資料館

1988　「本業焼の研究(2)」『研究紀要Ⅶ』　瀬戸市歴史民俗資料館

1989　「本業焼の研究(3)」『研究紀要Ⅷ』　瀬戸市歴史民俗資料館

1993　『瀬戸市史　陶磁史篇四』瀬戸市

2002　「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯

2008　『中世瀬戸窯の編年』

堀内秀樹　1992　「『備前系焼締め擂鉢』の系譜」『東京考古』10

1997　「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1『東京大学構内遺跡調査研究年報』1

松井章　2006　『動物考古学の手引き』　独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財センター

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

塩野博編　2001　『騎西町史』考古資料編1　騎西町教育委員会

塩野博編　1999　『騎西町史』考古資料編2　騎西町教育委員会

塩野博編　2005　『騎西町史』通史編　騎西町教育委員会

嶋村英之(16集)・嶋村英之・嶋村薫(14・15・17集)・沓名貴彦(14集)・豊田勝彦(15集)

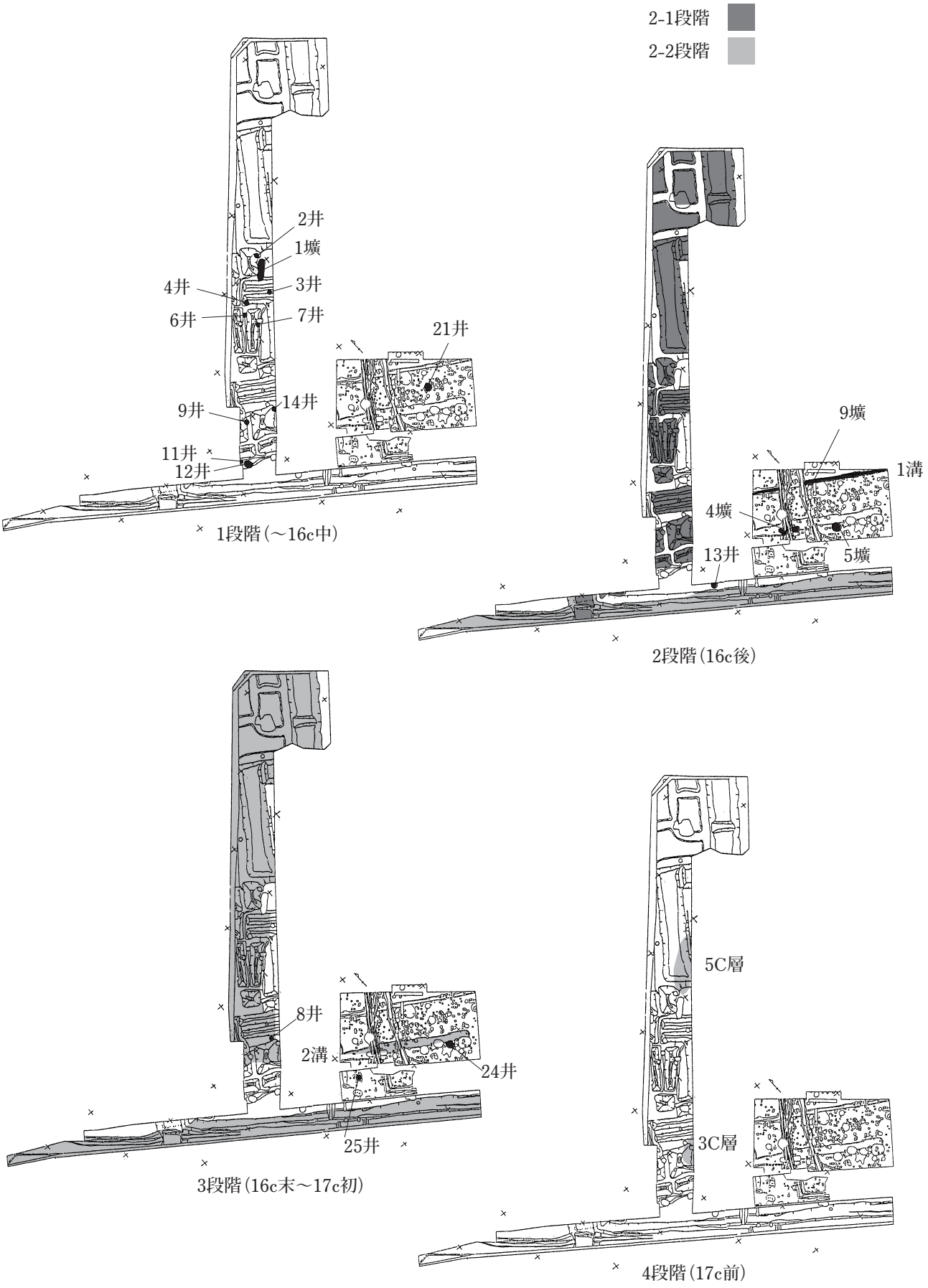
2021　『騎西城跡・騎西城武家屋敷跡　KB14区調査－中近世編－　『騎西城跡』遺物概観(ほうろく)』　加須市埋蔵文化財調査報告書第14集　加須市教育委員会

2022　『騎西城跡　KB15区調査－中近世編－　遺物1』加須市埋蔵文化財調査報告書第15集　加須市教育委員会

2023　『騎西城跡　KB15区調査－中近世編－　遺物2　遺構』加須市埋蔵文化財調査報告書第16集　加須市教育委員会

2024　『騎西城跡　KB19区調査－中近世編－　遺物1』加須市埋蔵文化財調査報告書第17集　加須市教育委員会

四柳嘉章　2018　「中世漆器の技術転換と社会の動向」『国立歴史民俗博物館研究』第210集

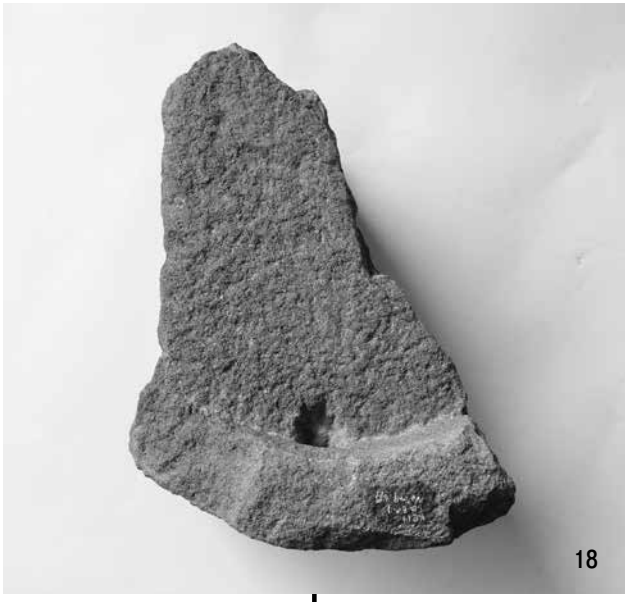

2-1段階
2-2段階
2井
1壙
4井
3井
6井
7井
21井
9井
14井
11井
12井
1段階（～16c中）
9壙
1溝
4壙
13井
5壙
2段階（16c後）
8井
2溝
24井
25井
3段階（16c末～17c初）
5C層
3C層
4段階（17c前）

第96図　遺構の変遷

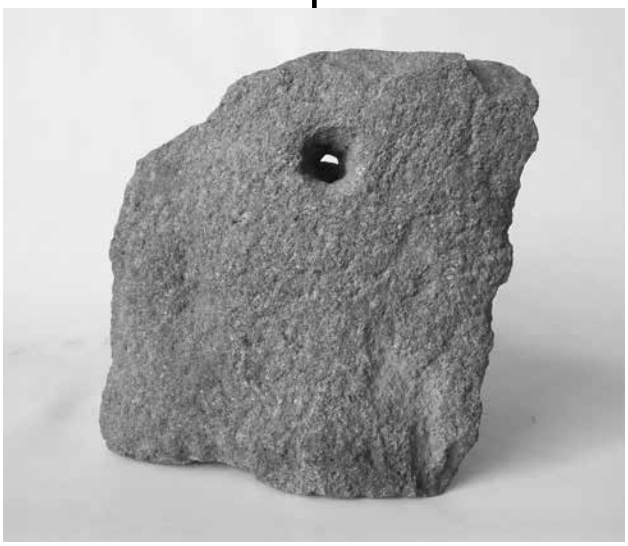
図　　版

2

16

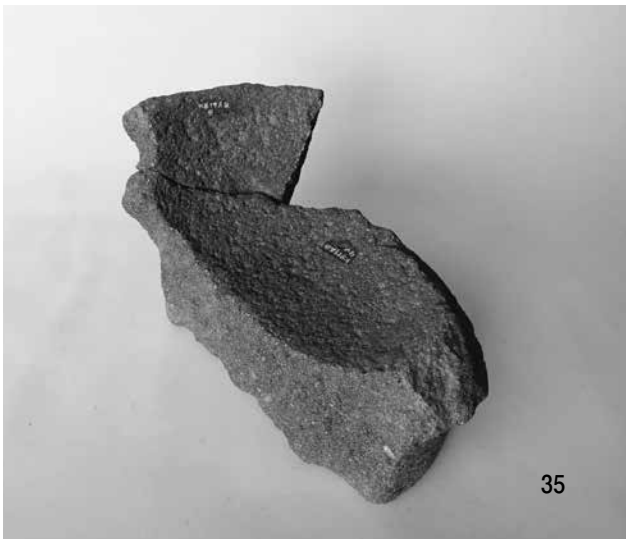

18

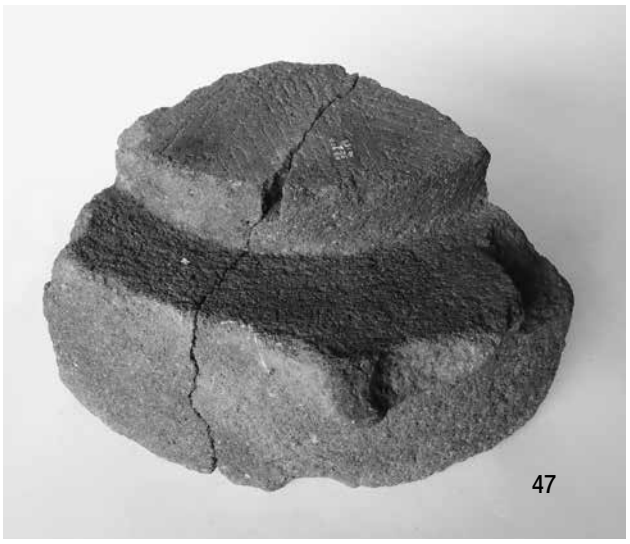
19



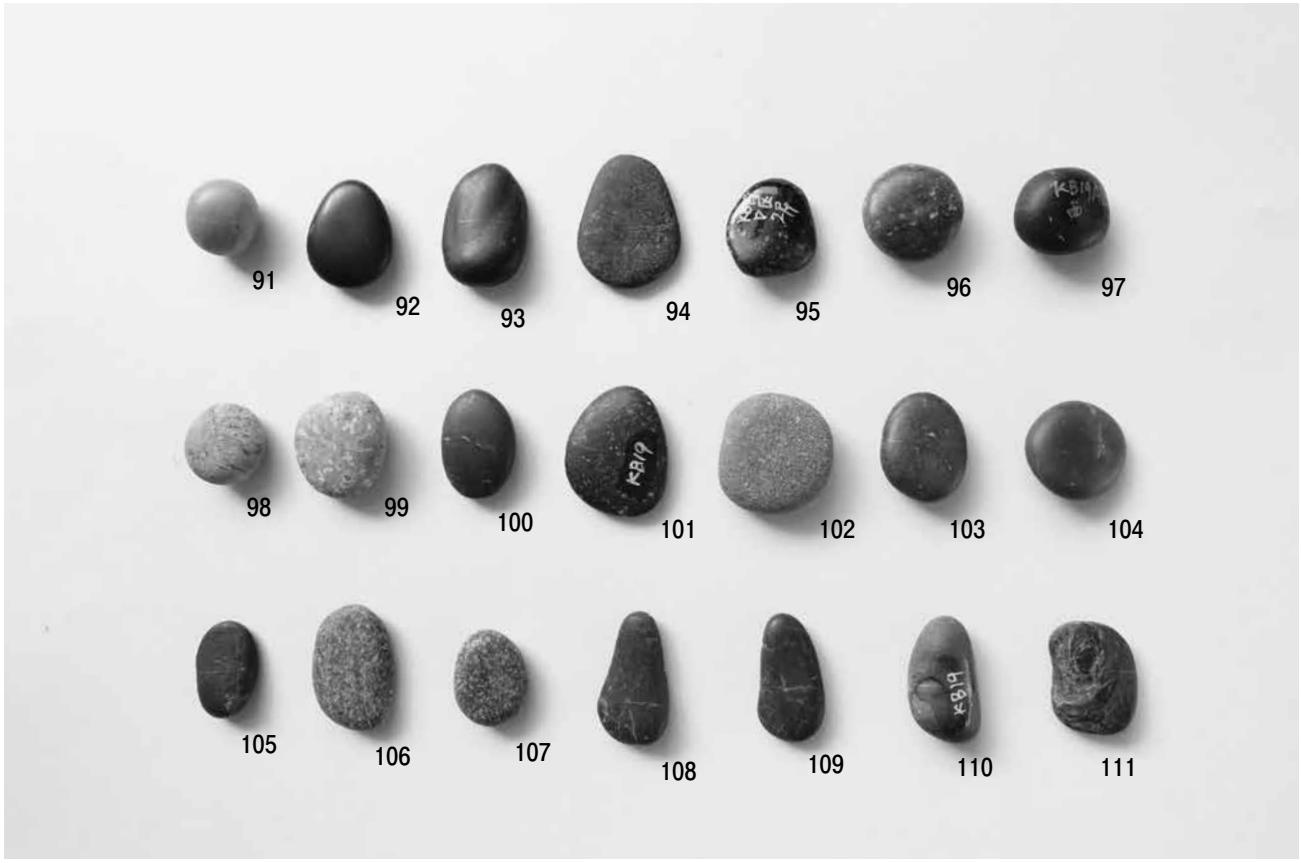
21

図版 2　　出土遺物　石製品類 2





石臼 2

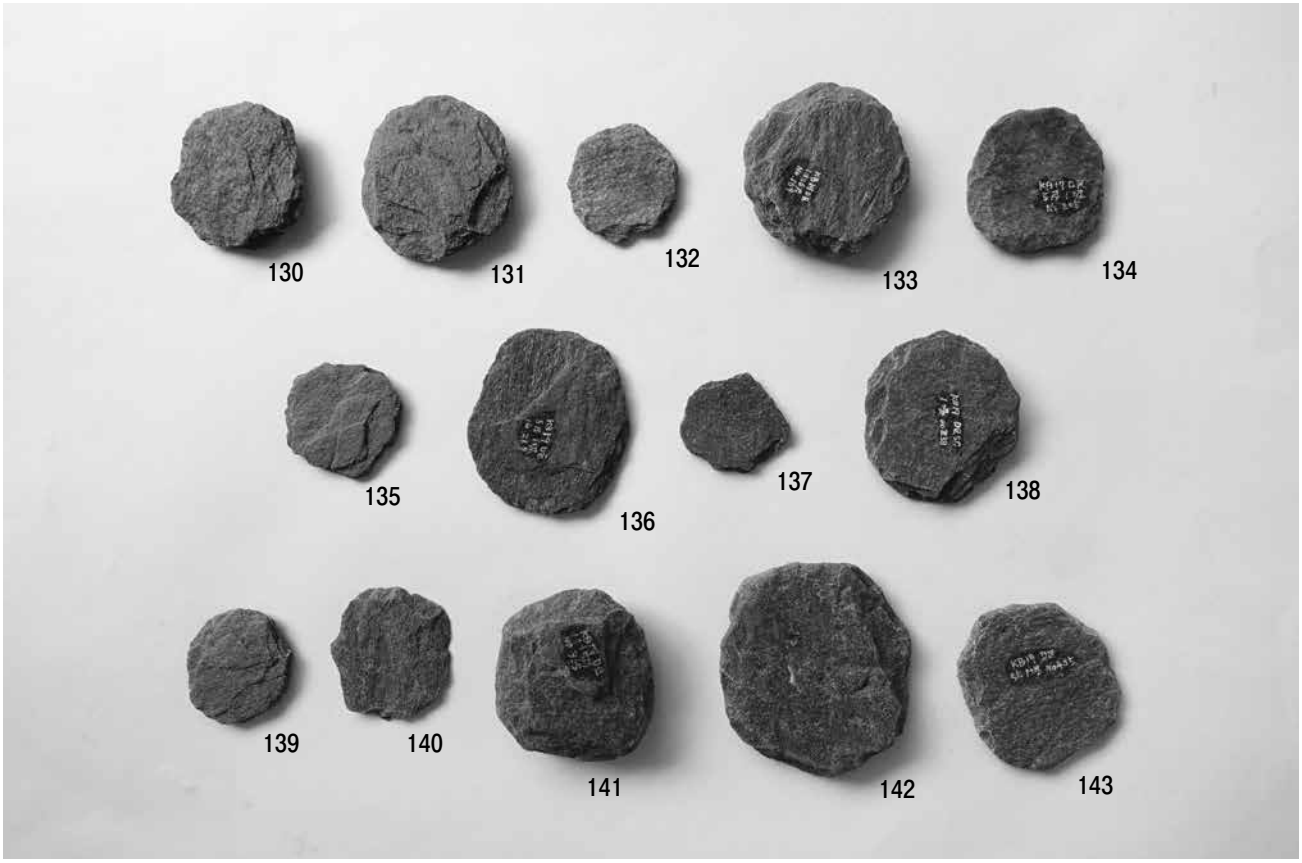

91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111

碁石

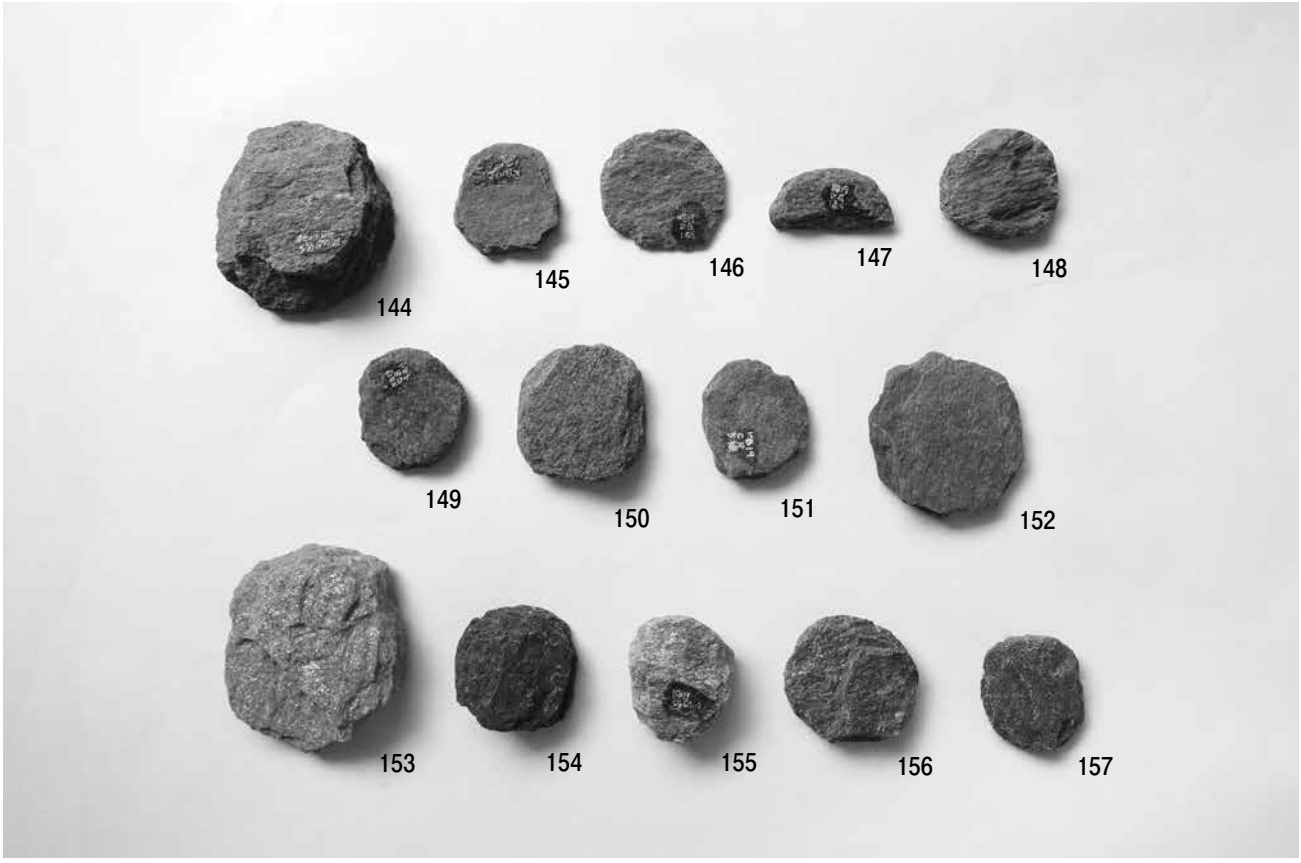
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128

硯

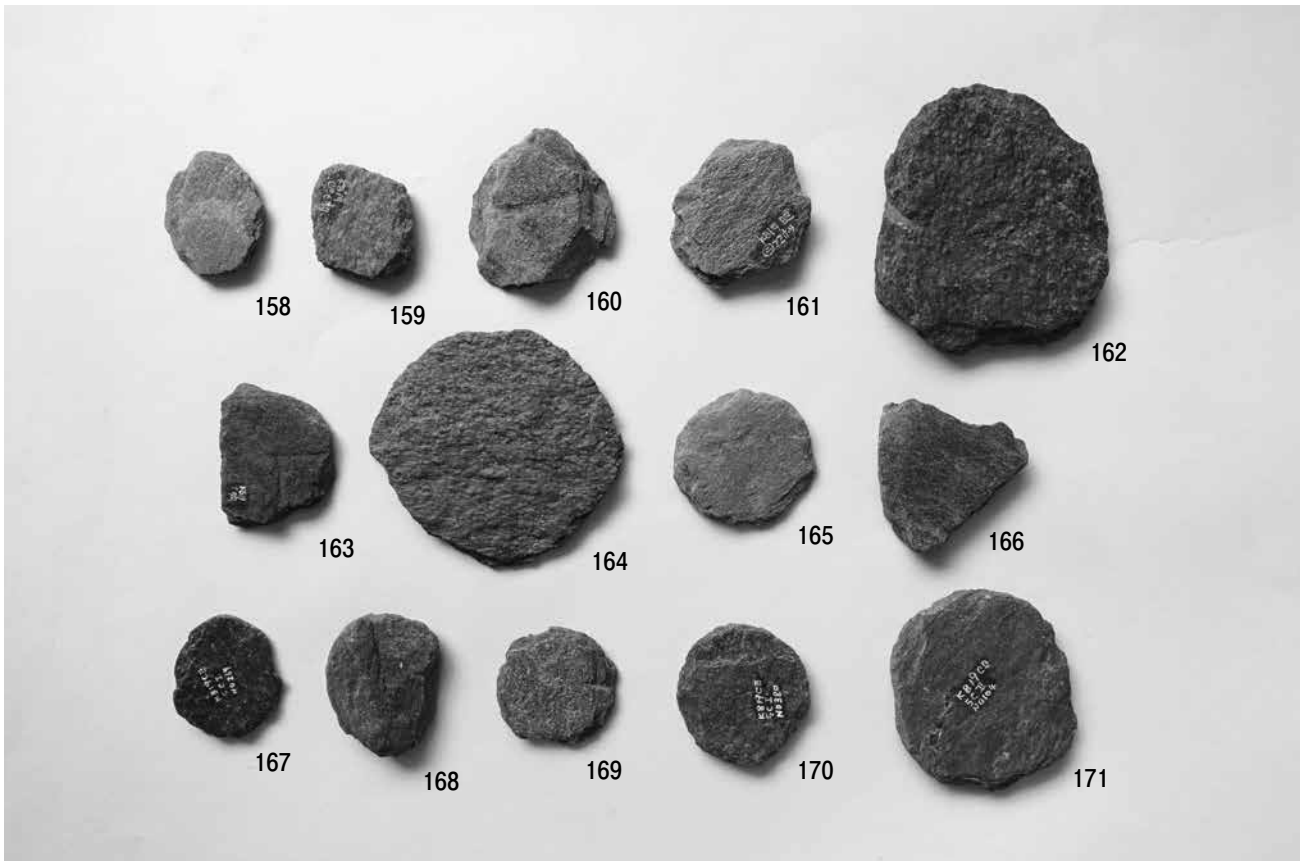
図版 4　　出土遺物　石製品類 4



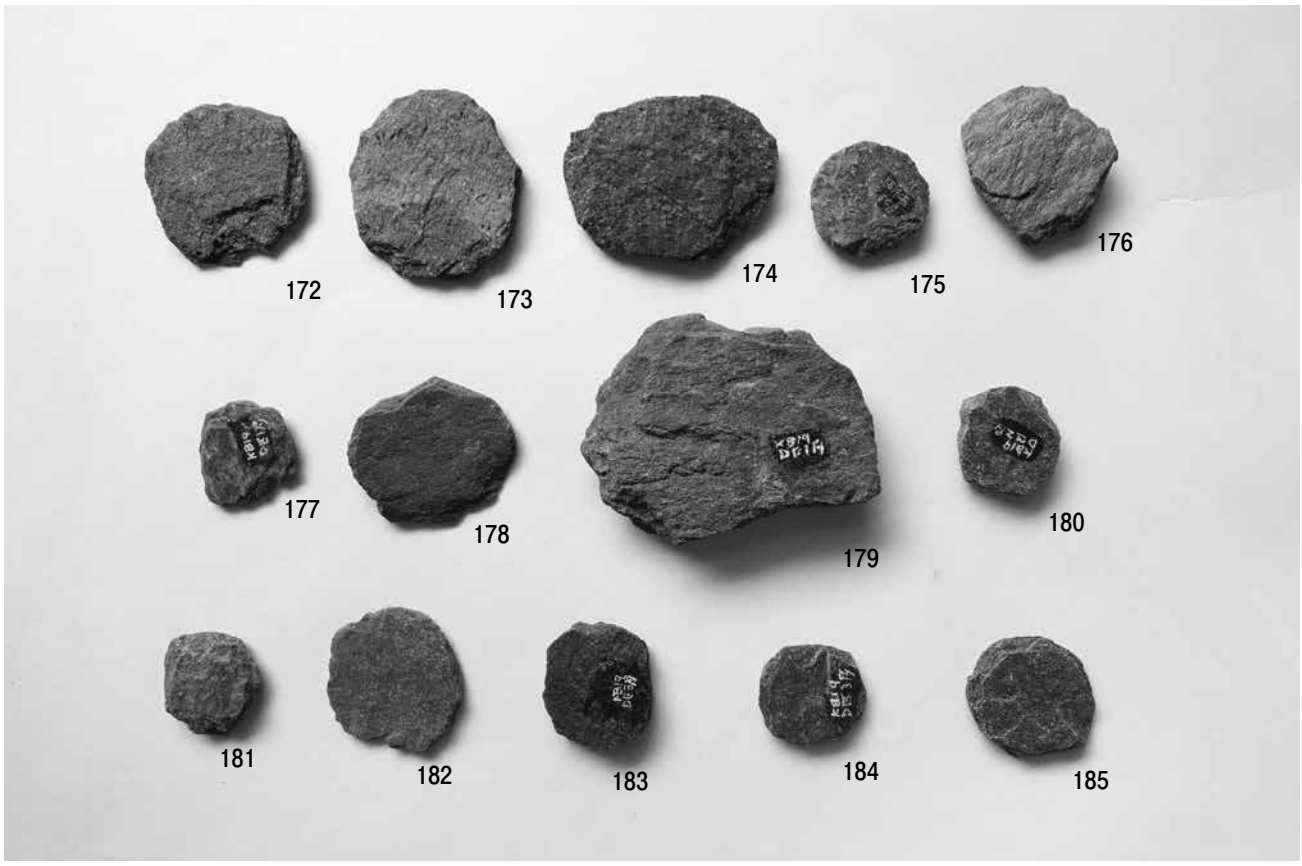
石製円盤 1



石製円盤 2

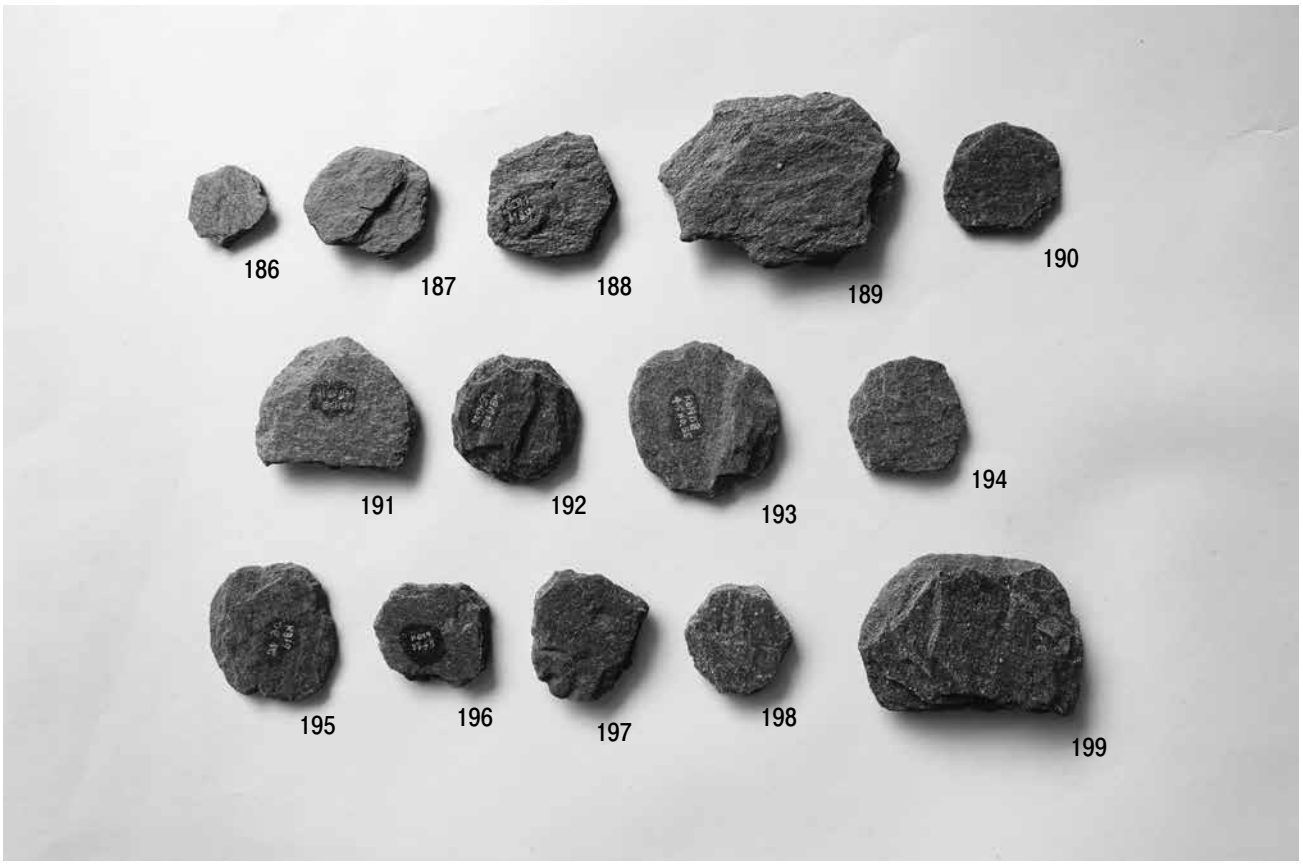

158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171

石製円盤 3

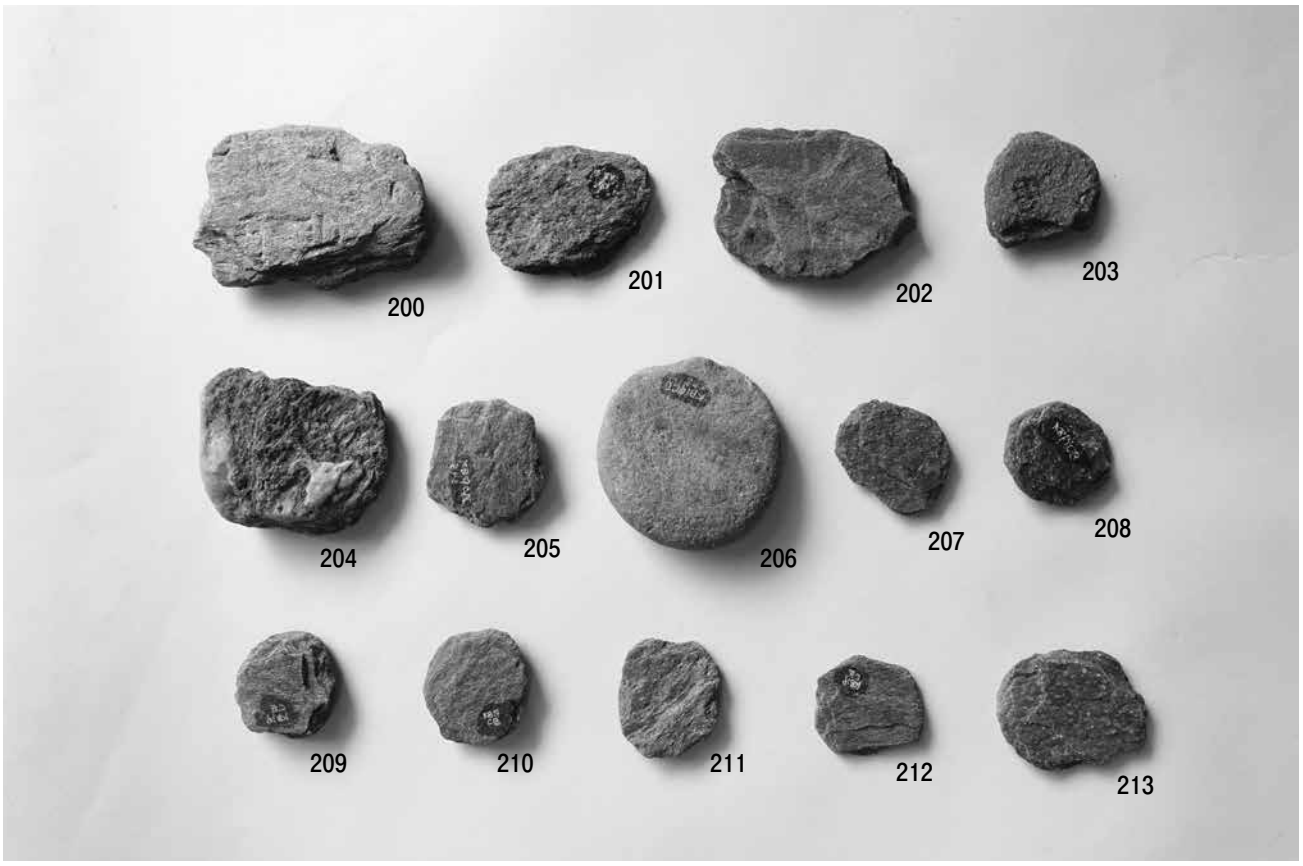

172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185

石製円盤 4

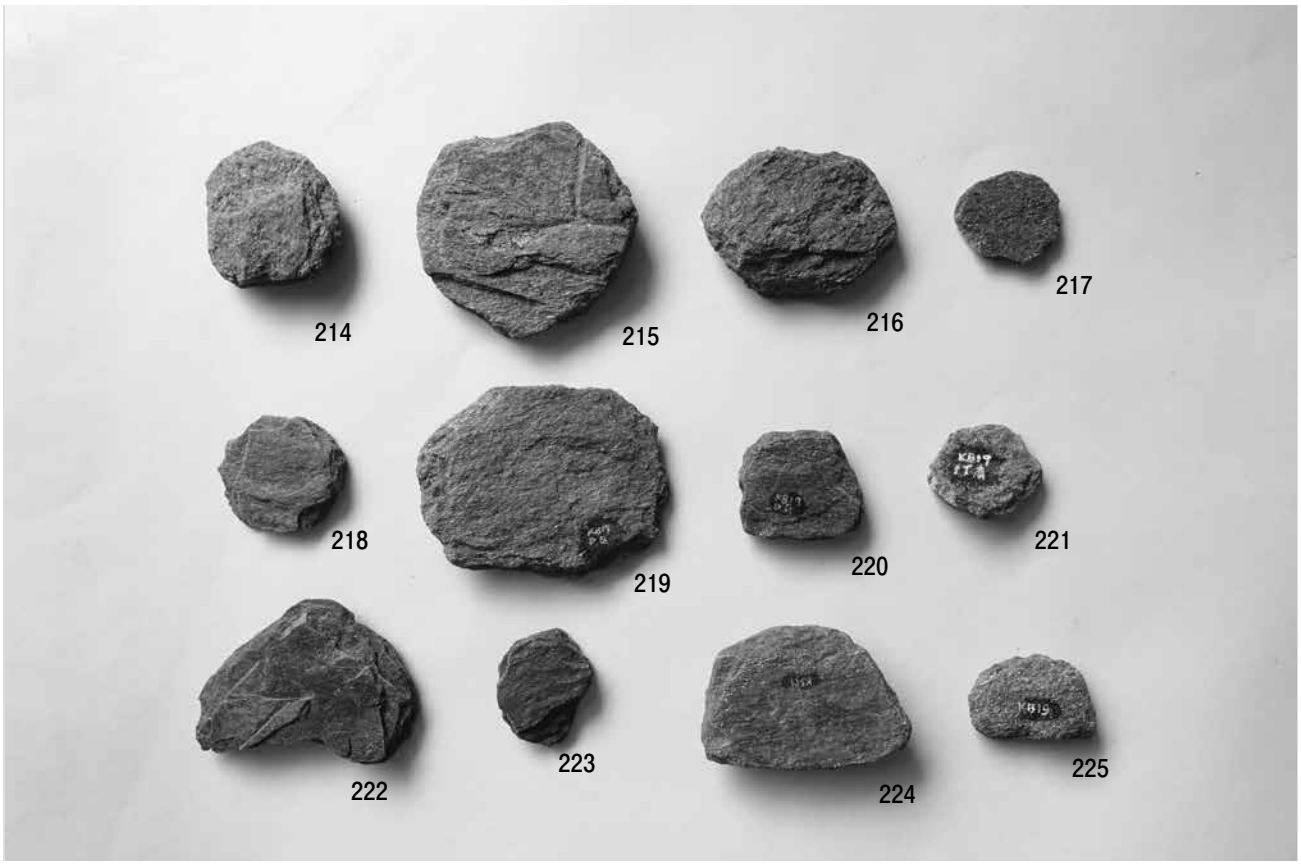
図版 6　　出土遺物　石製品類 6



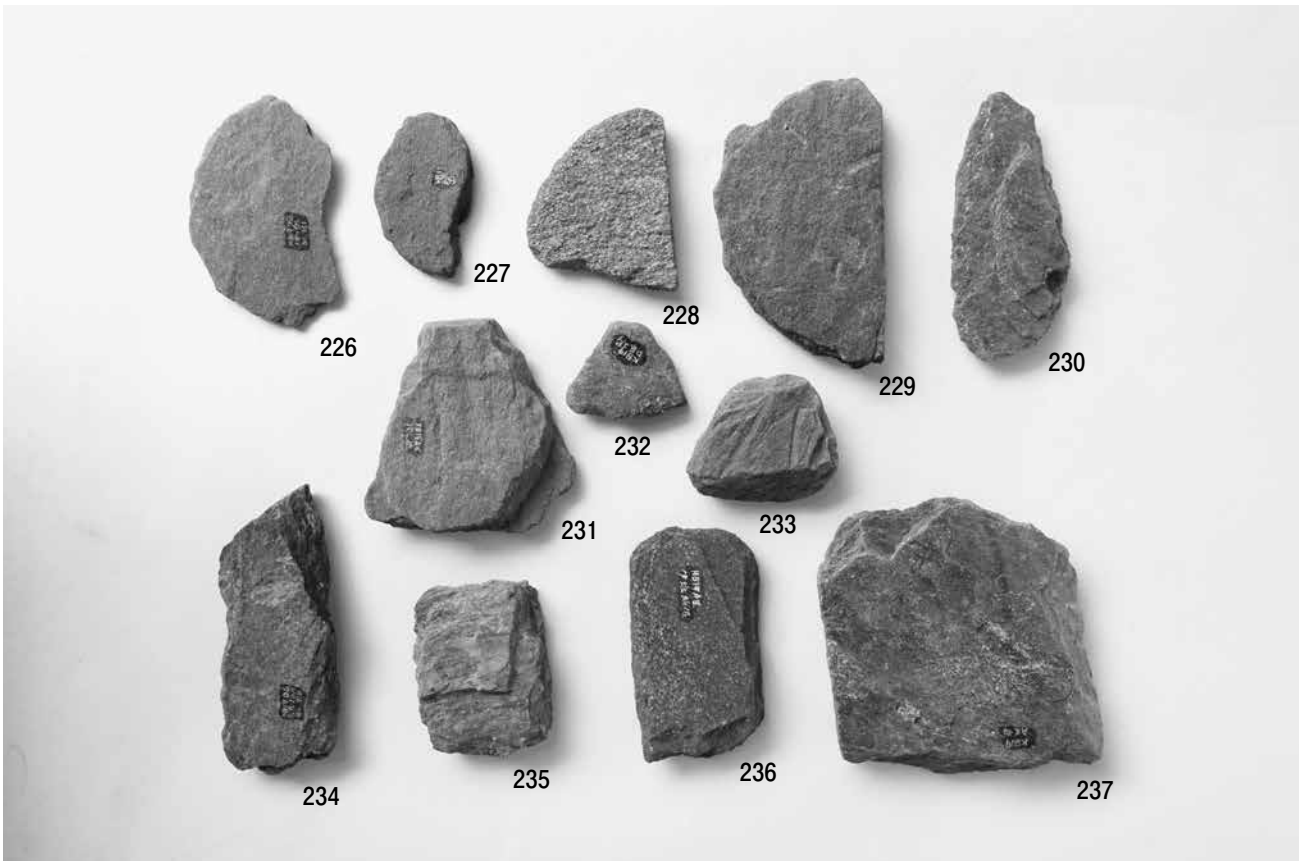
石製円盤 5



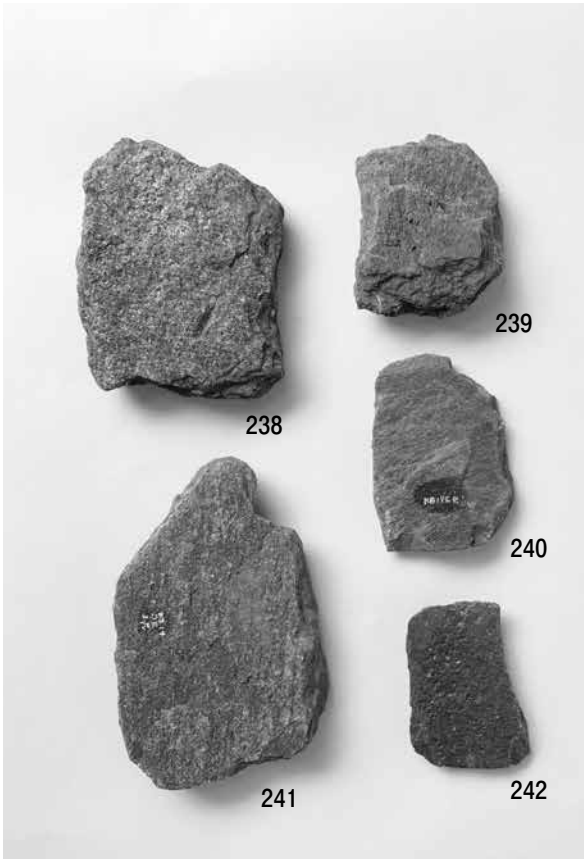
石製円盤 6


214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225

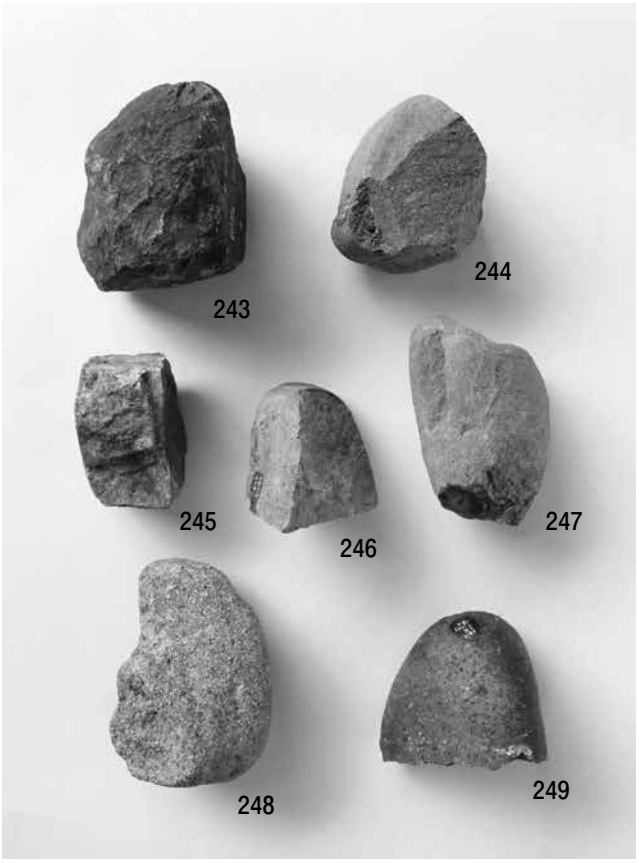
石製円盤 7


226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237

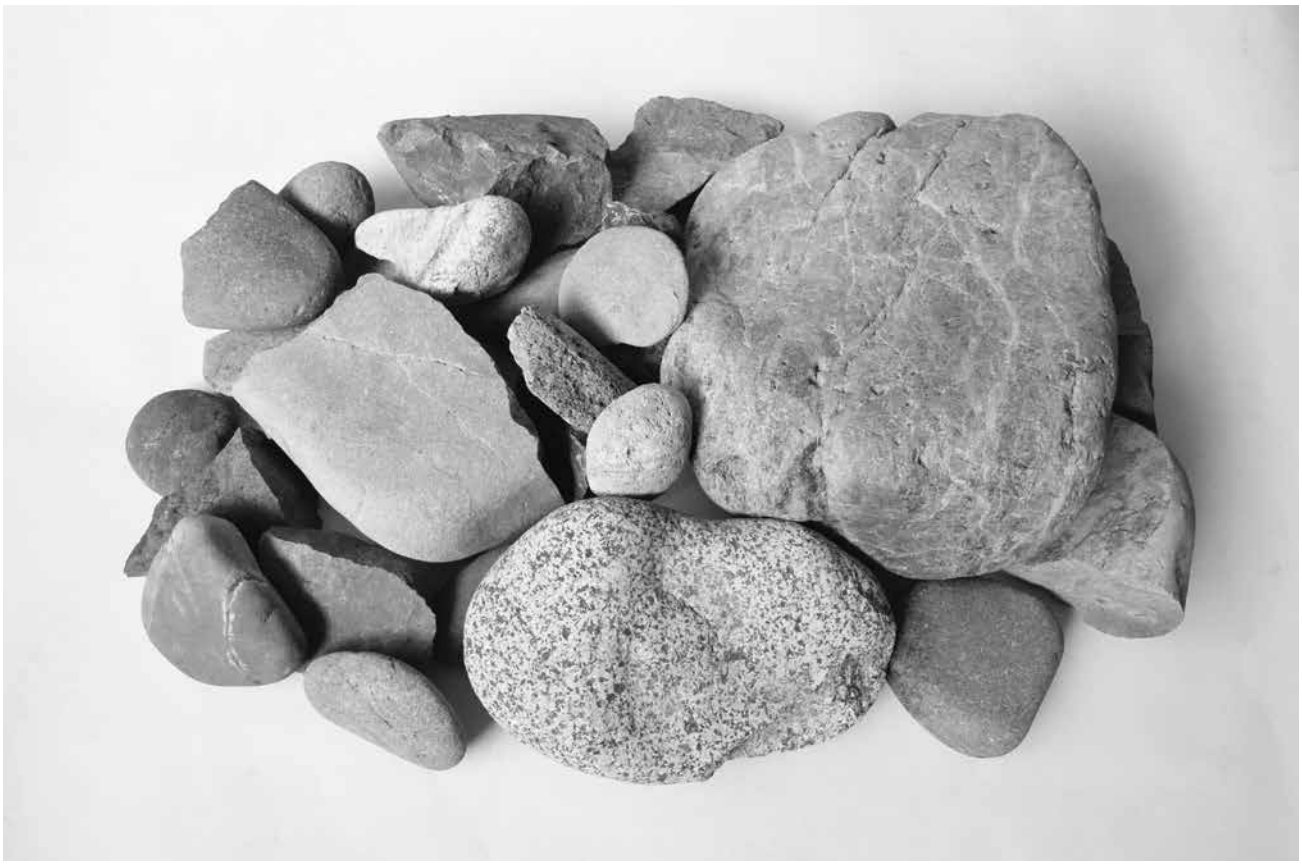
成形石製品



成形石製品（方形）



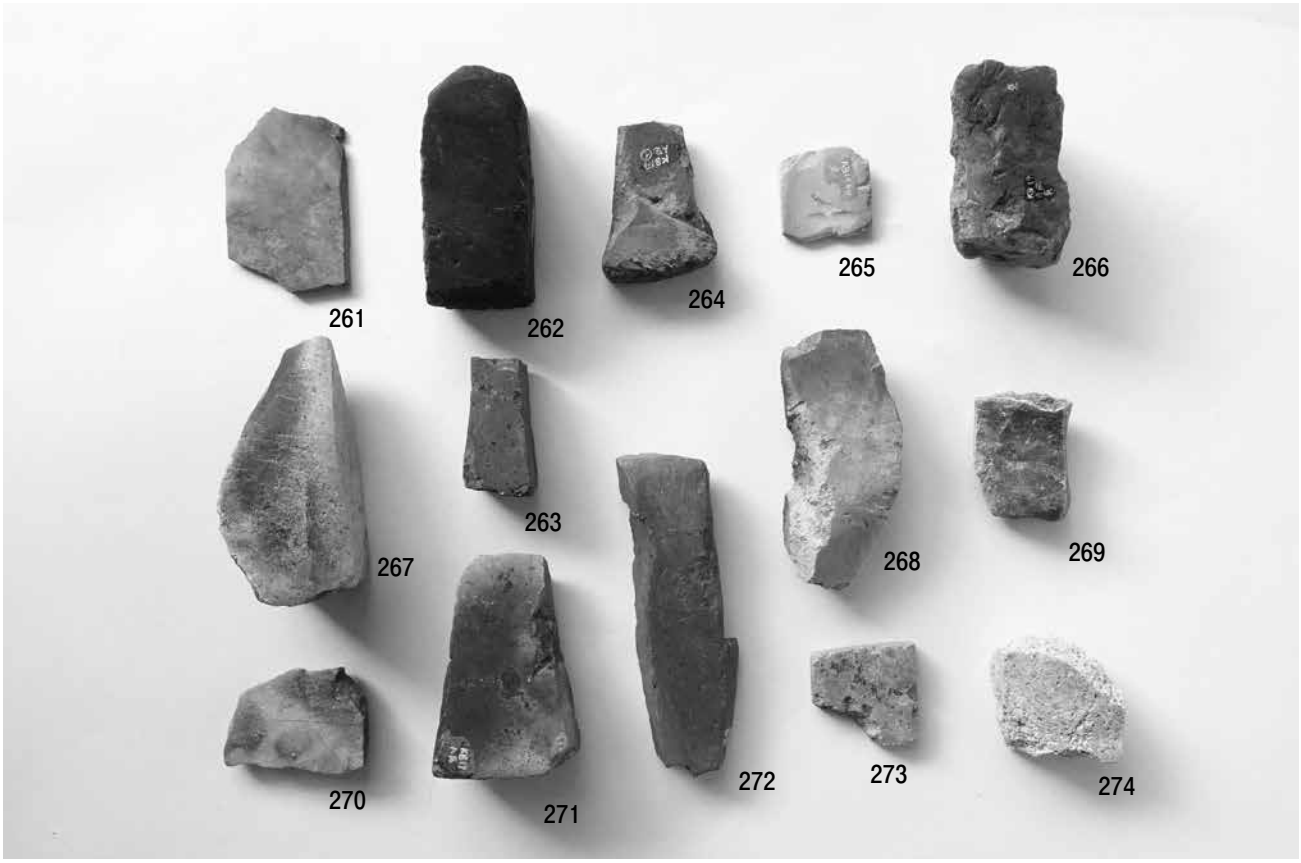
成形礫・打割礫



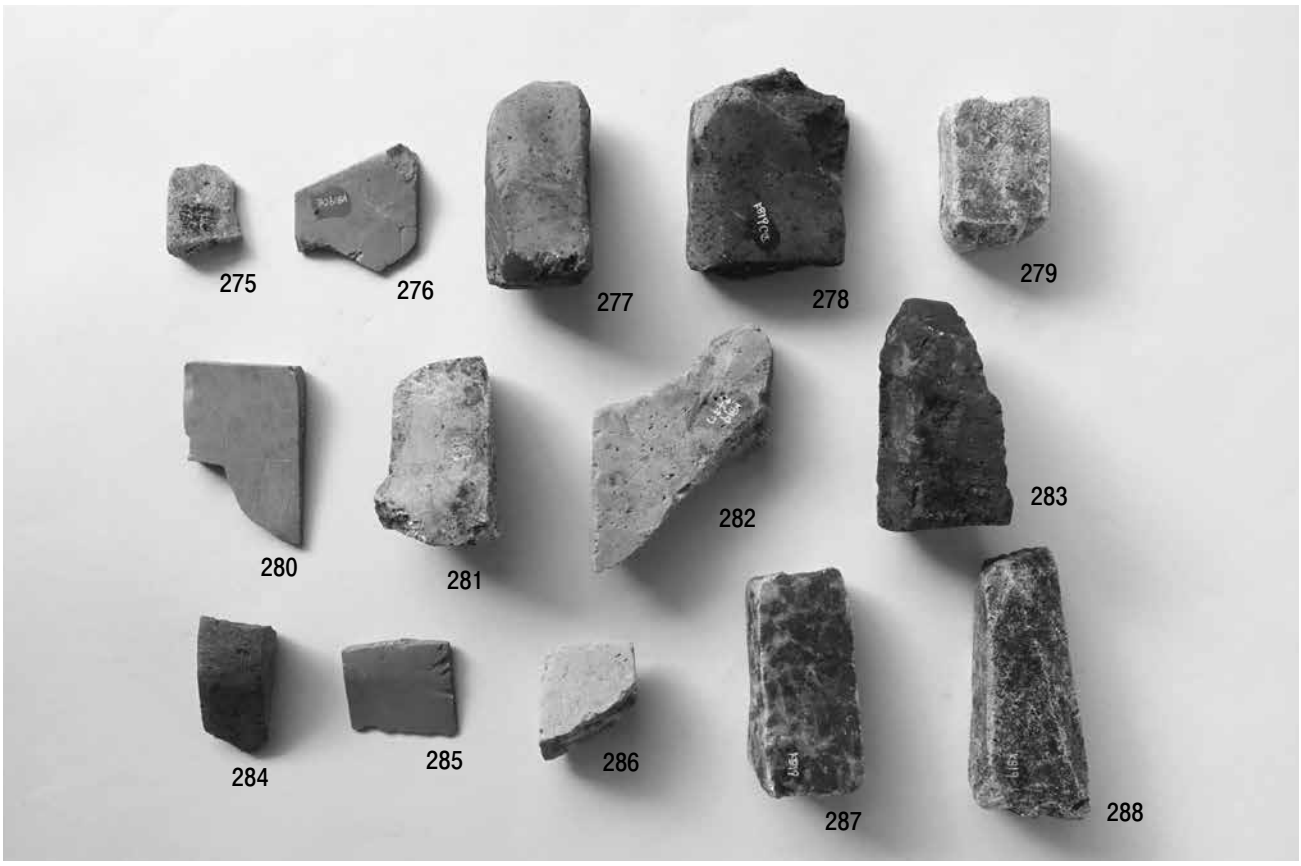
礫集合（右上　幅24cm）

板碑集合（前列中央　幅15.5㎝）

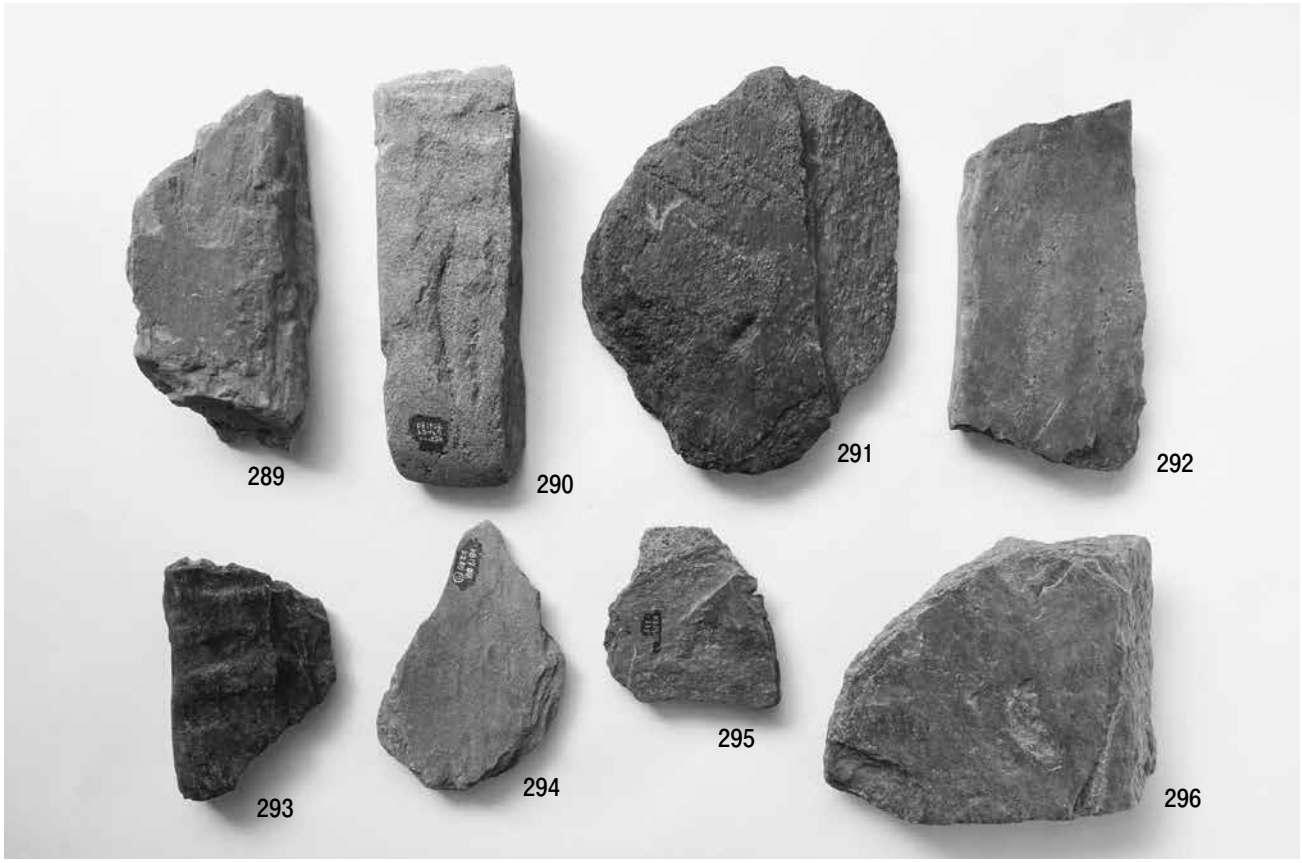
砥石 1


261
262
264
265
266
267
263
268
269
270
271
272
273
274

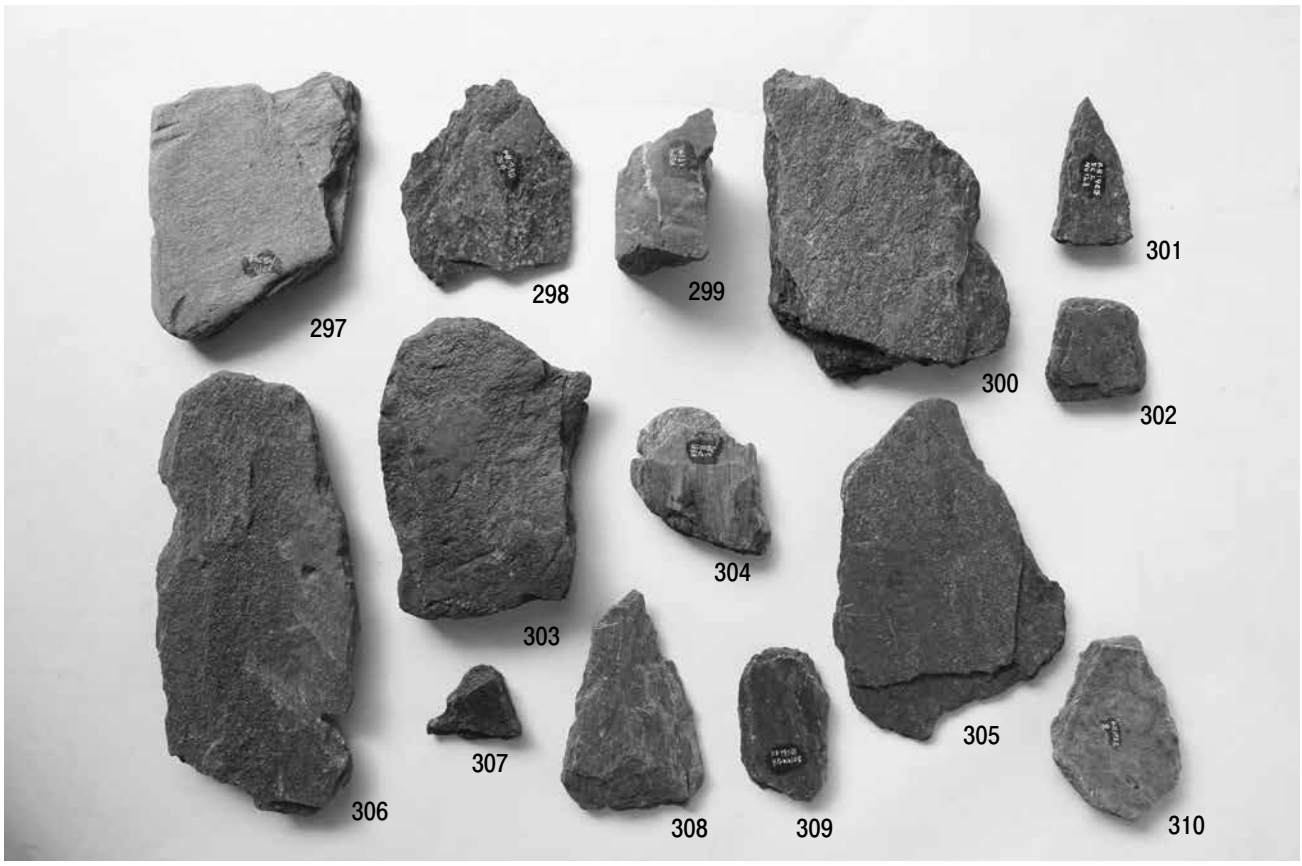
砥石 2


275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288

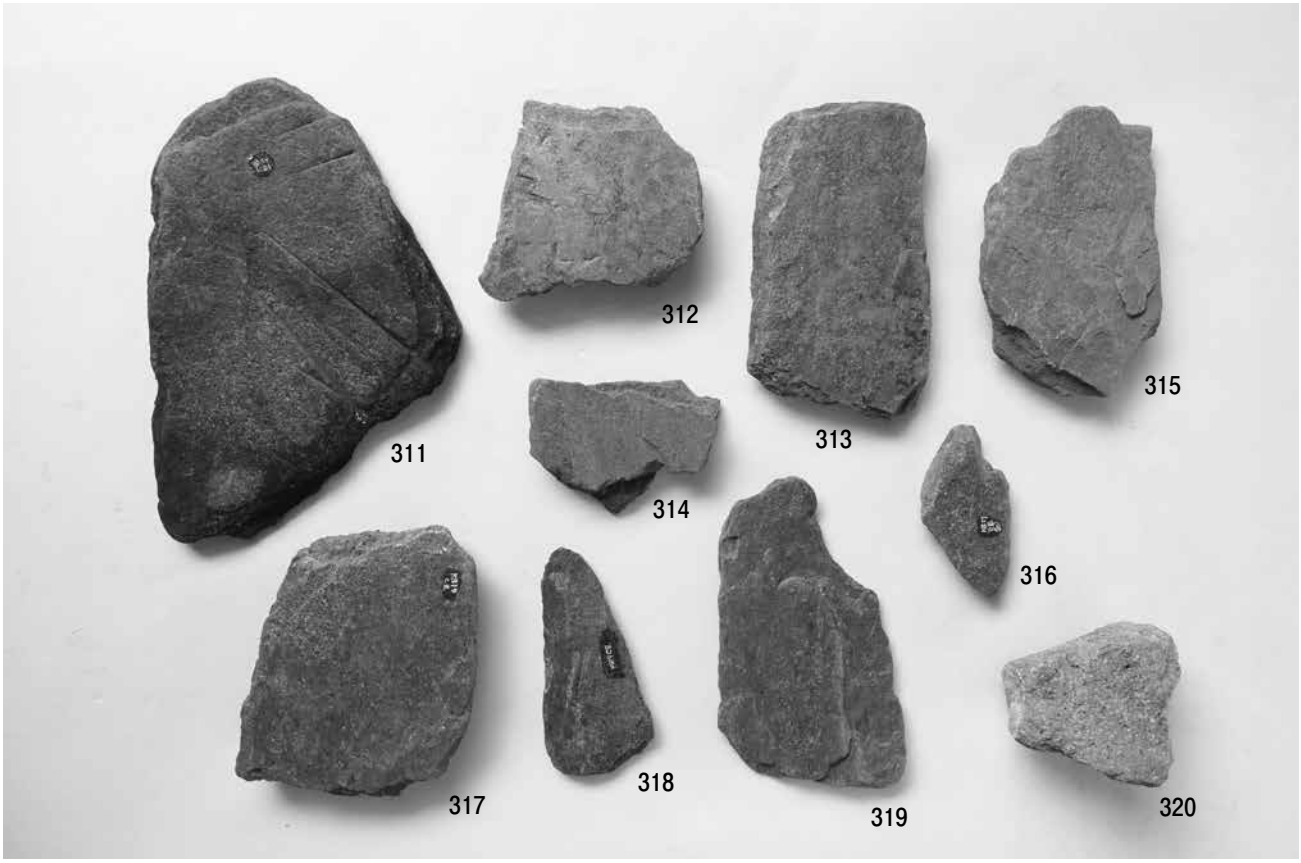
砥石 3


289
290
291
292
293
294
295
296

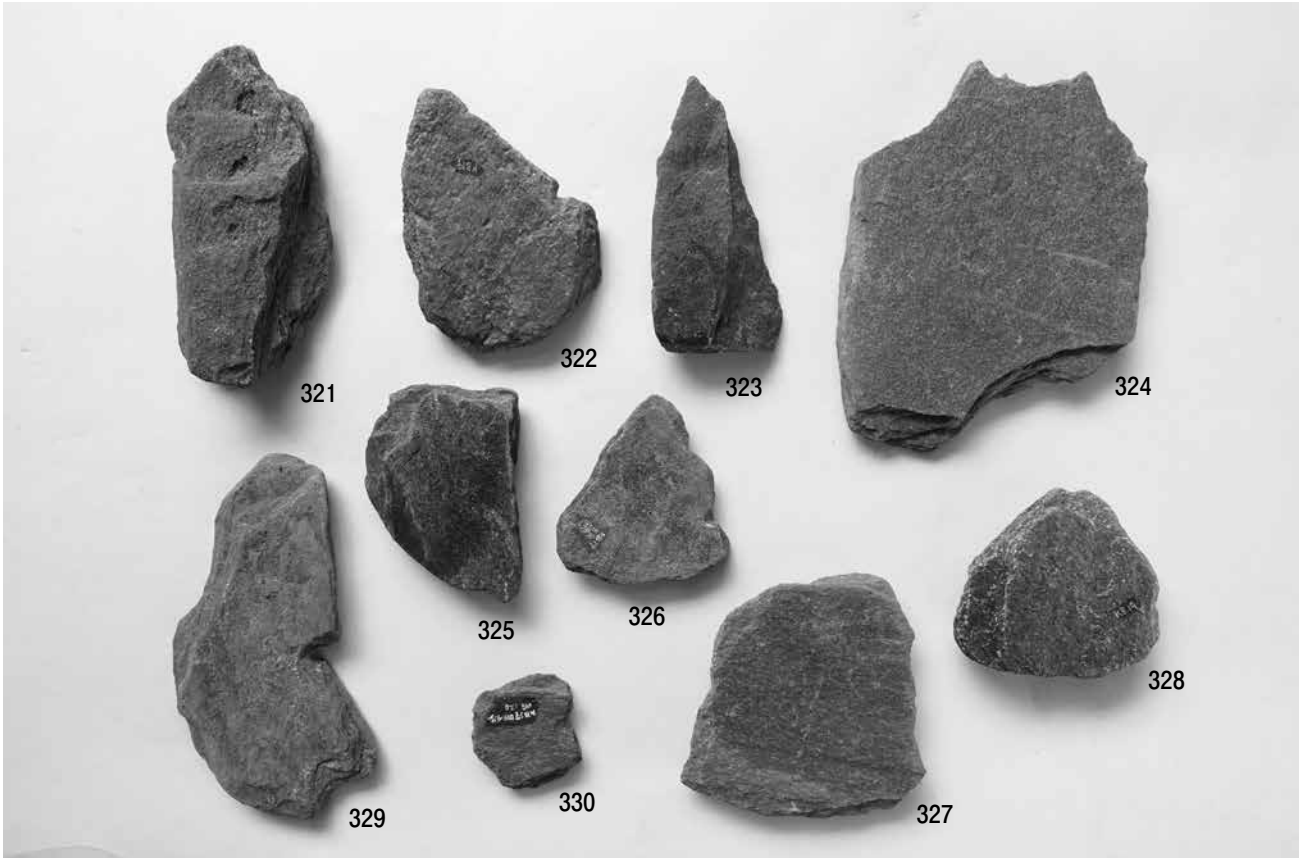
砥石 4


297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310

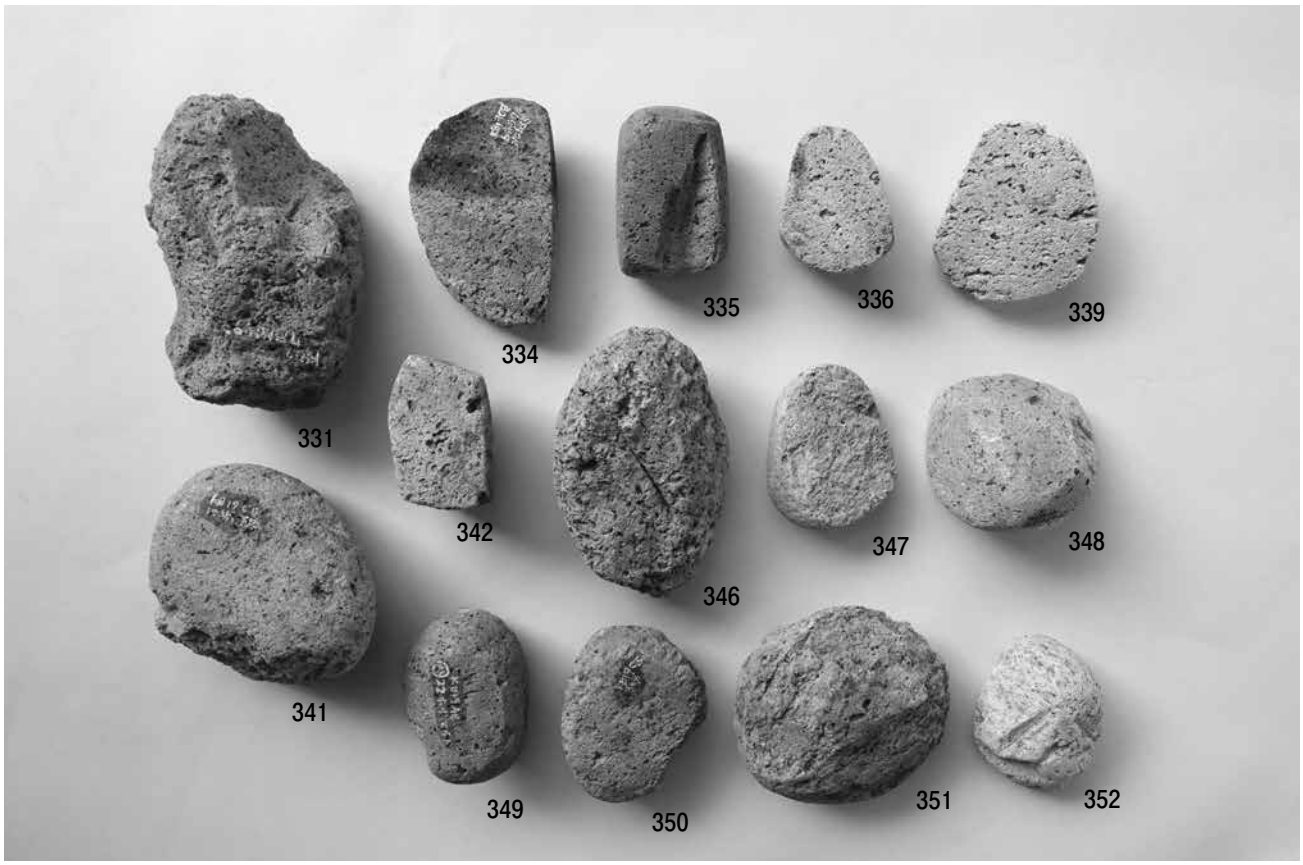
砥石 5



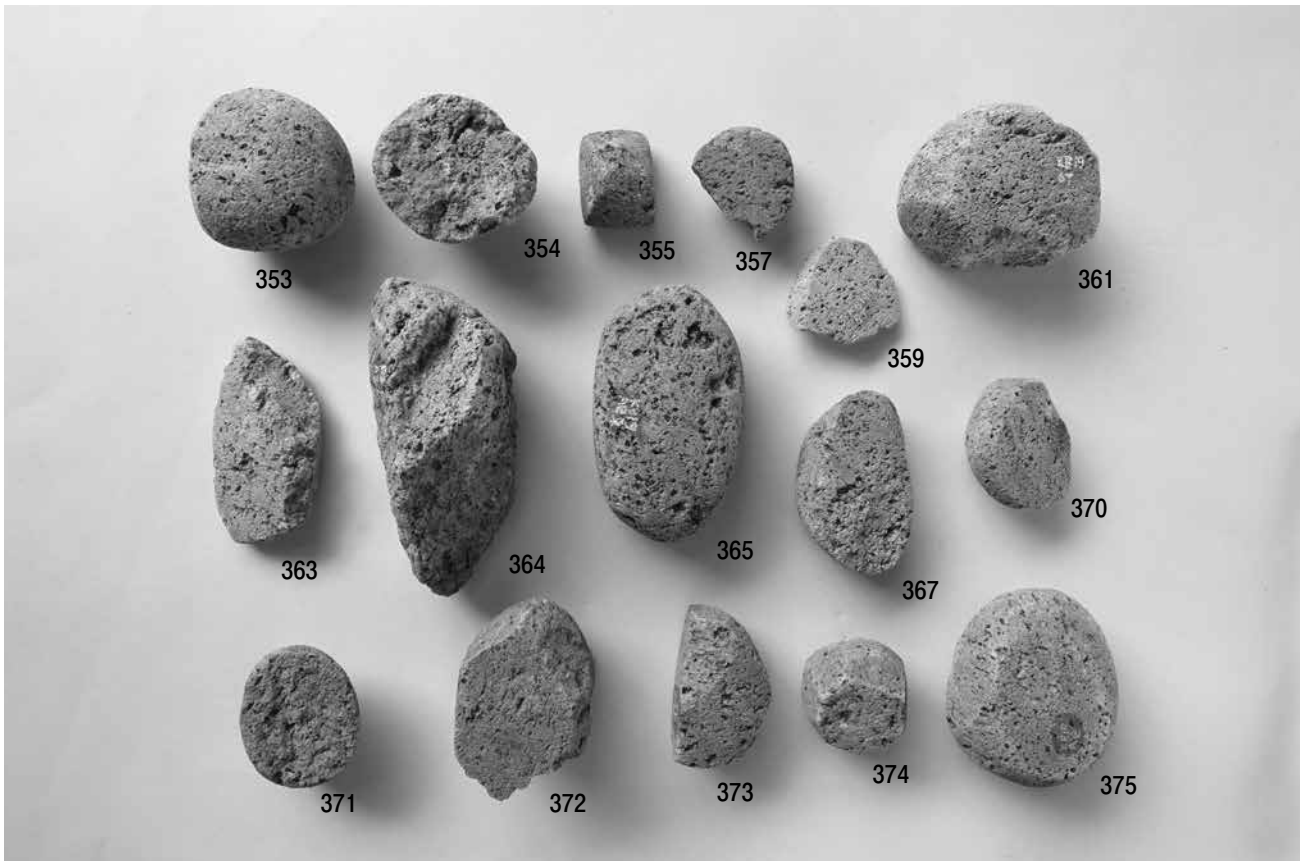
砥石 6



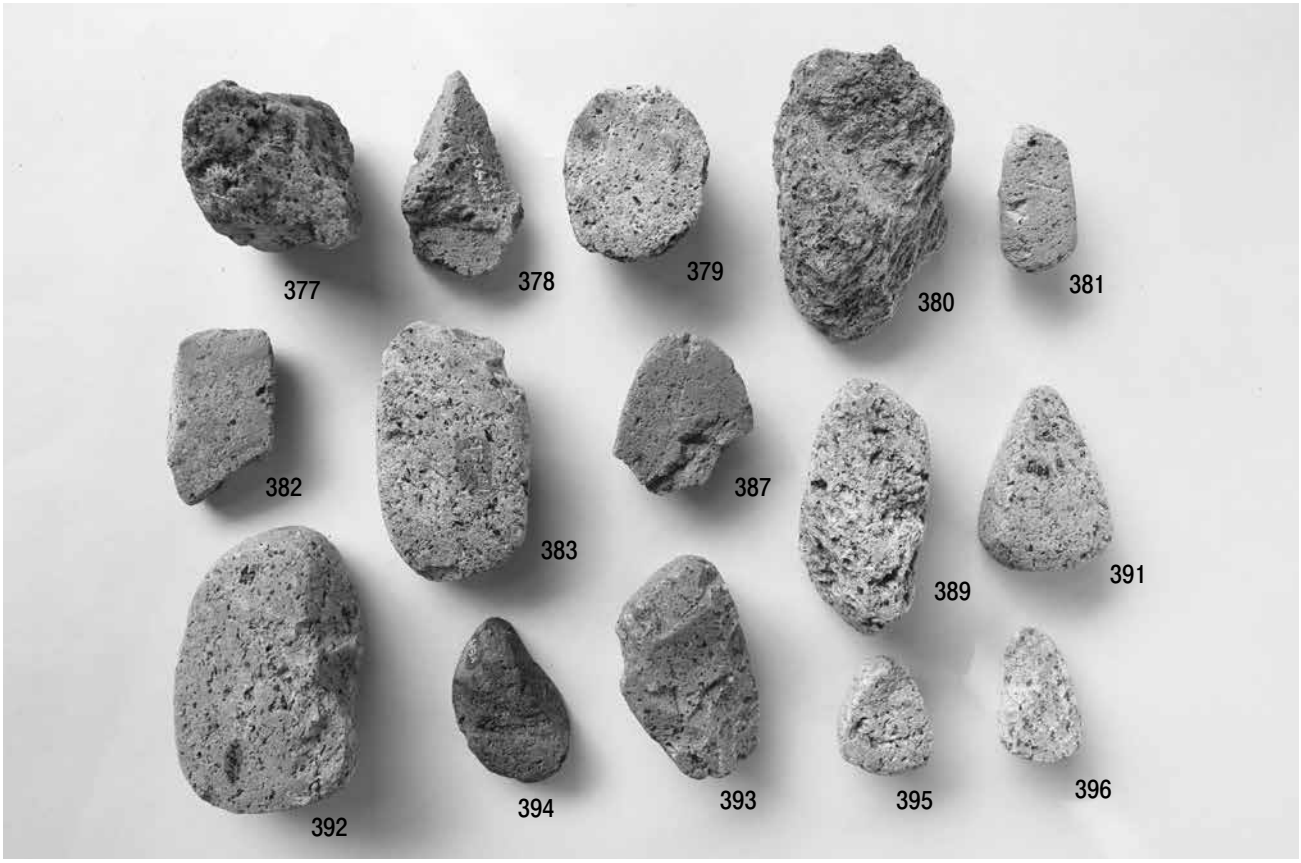
砥石 7 ・敲石・抉り石


331
334
335
336
339
341
342
346
347
348
349
350
351
352

磨石 1


353
354
355
357
359
361
363
364
365
367
370
371
372
373
374
375

磨石 2

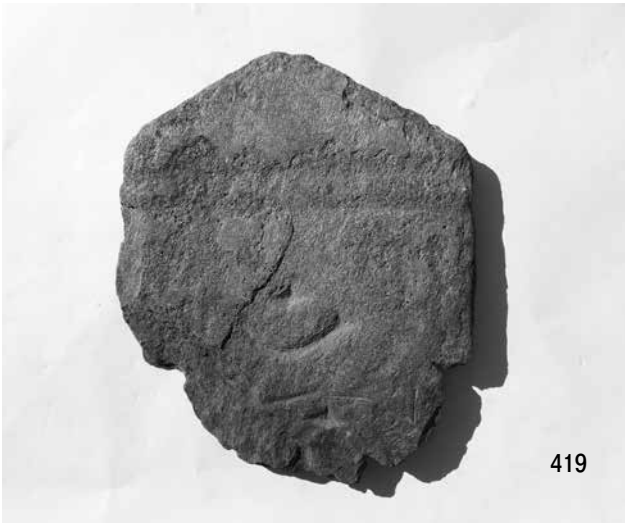

377
378
379
380
381
382
383
387
389
391
392
393
394
395
396

磨石 3

401
402
403
404
405
406
407
408
409

火打石

415


419

431

434

435

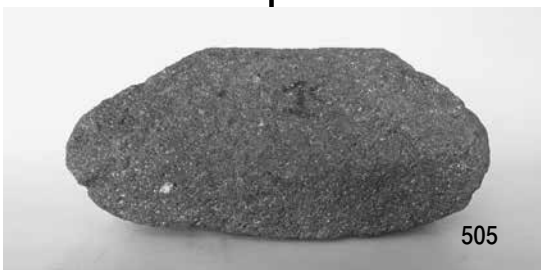
板碑 1

439

440

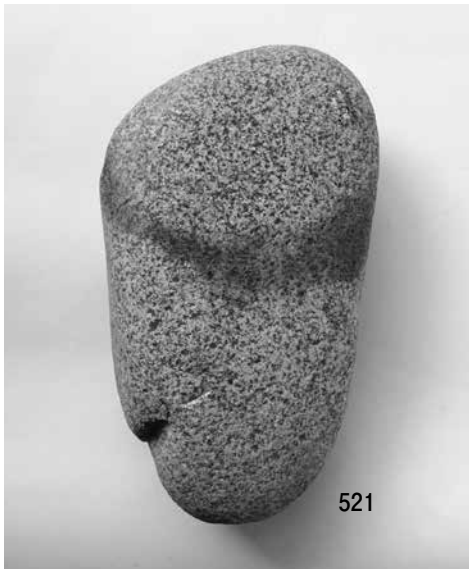
448

板碑 2

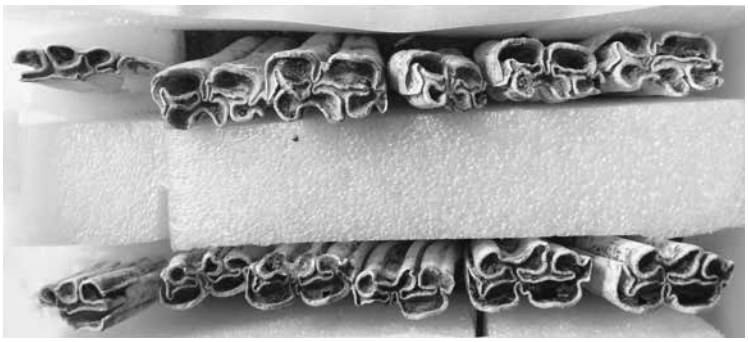


五輪塔

宝篋印塔



礎石ヵ



ウマ　歯（12号井戸）

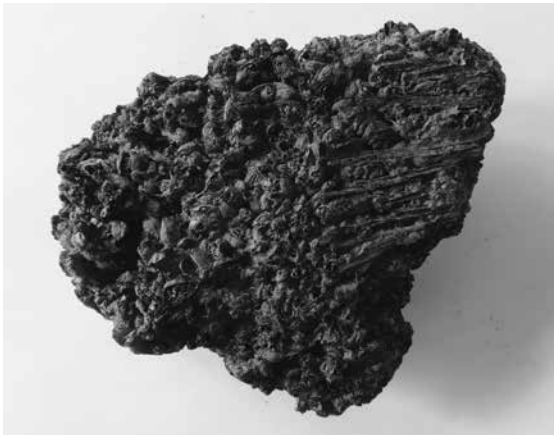
二枚貝（C区）

モモ　種子（C区）

マツ　球果（30号堀）

クルミ　種子（B区二）

ウメ　種子（一括）



炭化籾米　ワラ付着（6号堀8'層№541）

炭化ヒエアワ　ワラ付着（25号堀）

石炭（C区5C層）

Ａ１区西　完掘（北から）

Ａ１区中央　完掘（北から）

A 1 区東　完掘（北から）

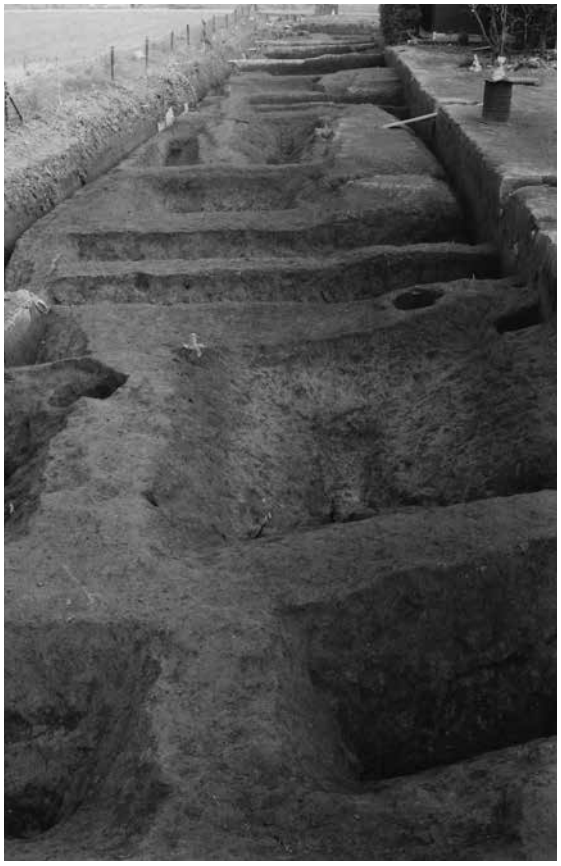
A 2 区西　完掘（北から）

A 2 区東　完掘（北から）

B区　完掘（東から）

B区　調査風景

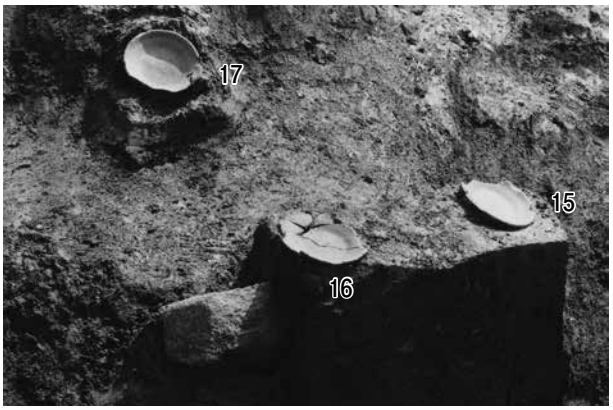
C区北　完掘（北から）



C区　完掘（南から）

C区　調査風景

1 号堀　かわらけ（土13）



同　かわらけ（土15 ～ 17）

同　かわらけ（土32）

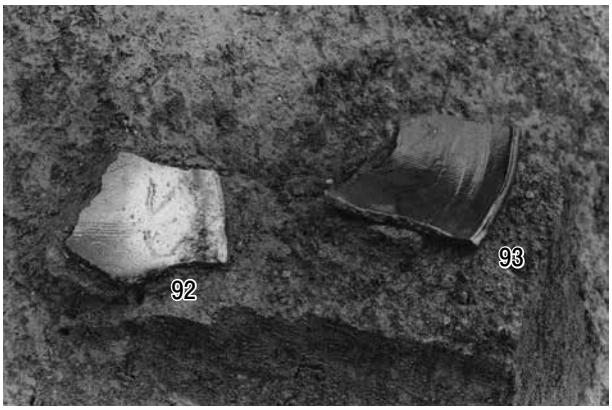
6 号堀　青磁双魚文碗（土65）

同　かわらけ（土67）

同　かわらけ（土68）

同　唐津鉄絵皿（土76）

同　かわらけ（土87）

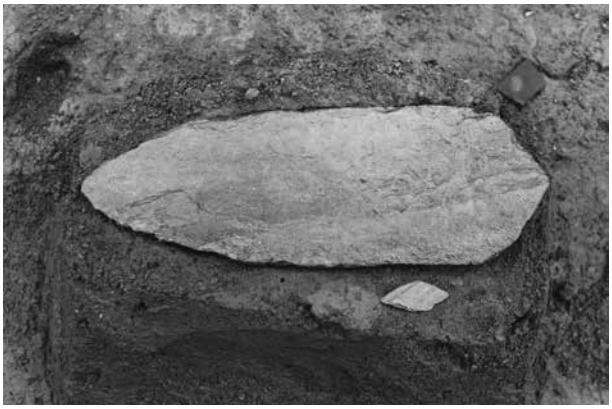


6 号堀　在地擂鉢（土92・93）

同　かわらけ（土95）

同　粉挽臼（石21）

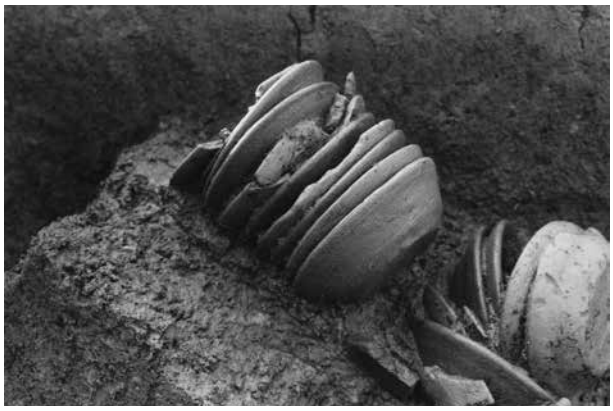
同　硯（石113）


同　板碑（石415）

同　宝筐印塔（石508）

同　頭骨ヵ（C区№696）

7 号堀　かわらけ（土135 ～ 154）


7 号堀　かわらけ（土135 ～ 154）

同　同左

9 号堀　杭列

9 号堀　宝篋印塔（石509）

10号堀　杭列

10号堀　かわらけ（土184・南から）

同　在地香炉（土186）

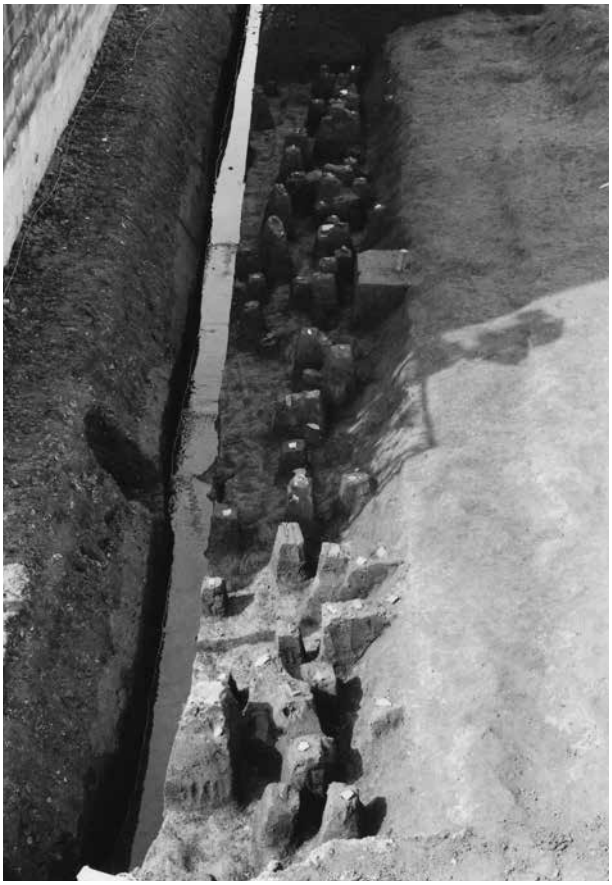
13号堀　ほうろく（土203）

19号堀　備前平鉢（土165）

同　在地火鉢（土216）

21号堀　ほうろく（土217・218）

同　ほうろく（土217）


22号堀イ　遺物出土

22号堀ロ　柄頭（金71）

22号堀ロ　平碗（土226）・銭貨・硯

30号堀　杭列（南から）

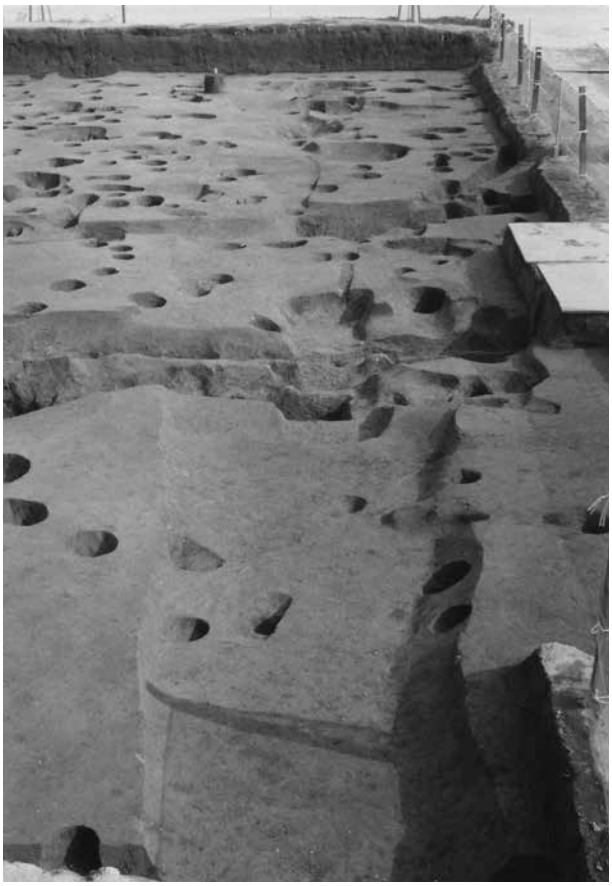
同　調査風景

30号堀　杭列（東から）

1 号溝　完掘（西から）

1 号溝　土層堆積

同　大皿（土258）・粉挽臼（石34）・礫（礫45他）



2 号溝　完掘（西から）

7 ・ 9 ・10号溝　完掘

9 号溝　四耳壺（土679）

11・13号溝　土層堆積

11 ～ 13号溝　完掘（北から）

12・13号溝　土層堆積

16号溝　完掘

2 号井戸　完掘

3 号井戸　完掘

4 号井戸　完掘

5 号井戸　完掘

6 号井戸　完掘

7 号井戸　完掘

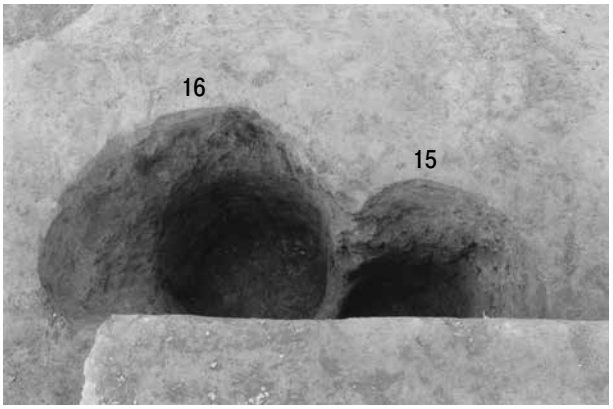
9 号井戸　完掘

10号井戸　完掘

12号井戸　板碑（石435）他

同　板碑・五輪塔（石434・505）

13号井戸　完掘



15・16号井戸　完掘

17号井戸　完掘

19号井戸　完掘

20号井戸　完掘

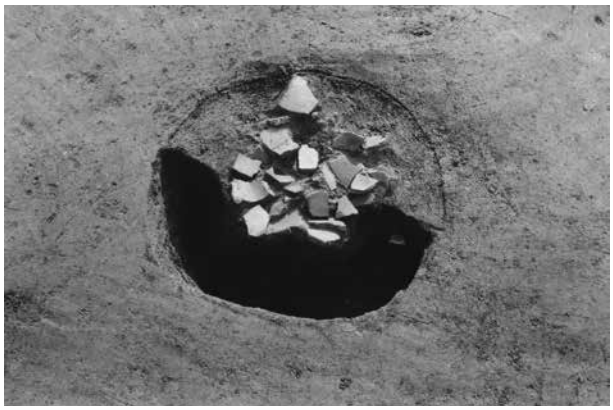
21号井戸　完掘

21号井戸　かわらけ・在地擂鉢（土294・295）、石臼（石40・41）

同　かわらけ（土294）

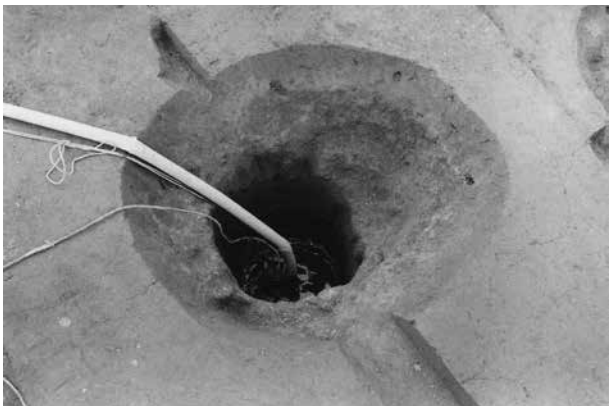
同　かわらけ（土294）

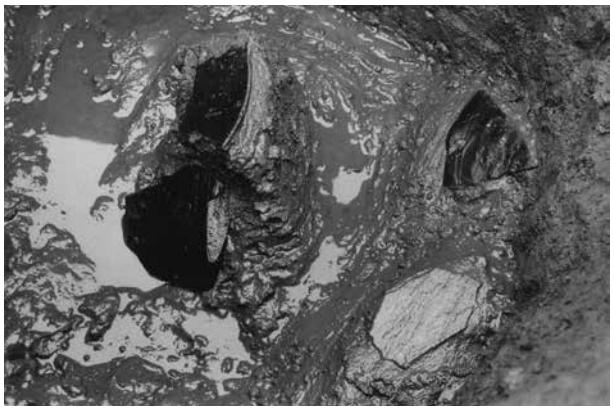
22号井戸　完掘



同　瓦

23号井戸　完掘

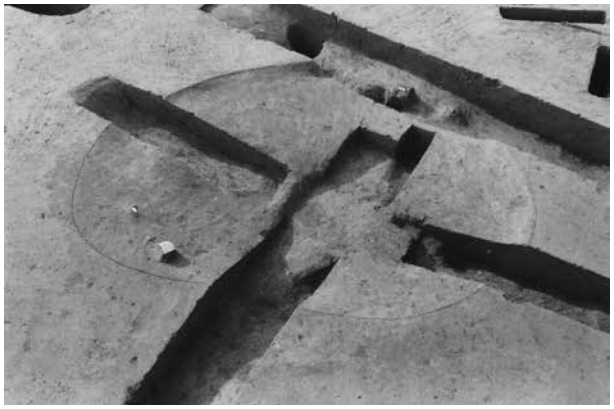

24号井戸　完掘


同　在地片口鉢（土305）

25号井戸　完掘

1 号土壙　完掘

3 号土壙　遺物出土


同　遺物出土

同　志戸呂灯明皿（土312）

4 号土壙　完掘

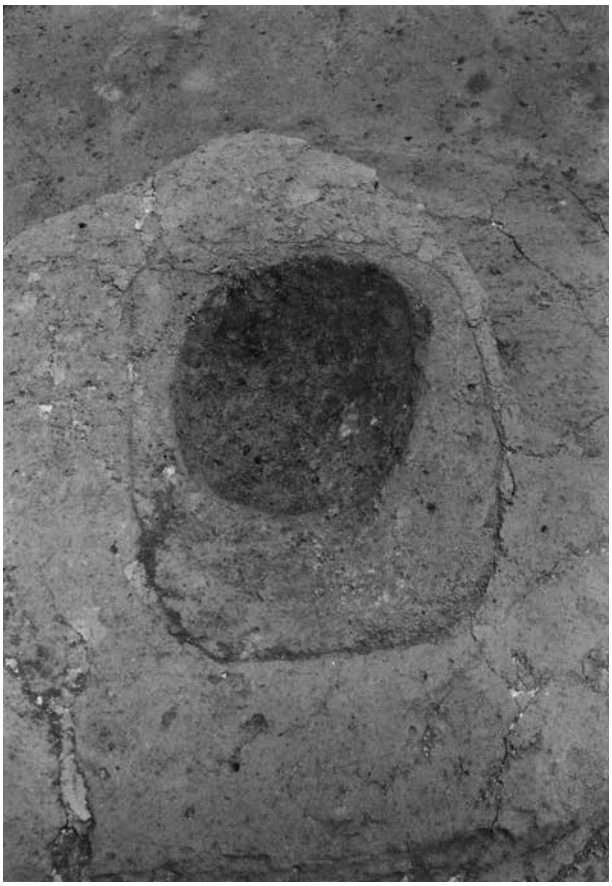
7 号土壙　完掘

8 号土壙　完掘

11号土壙　完掘

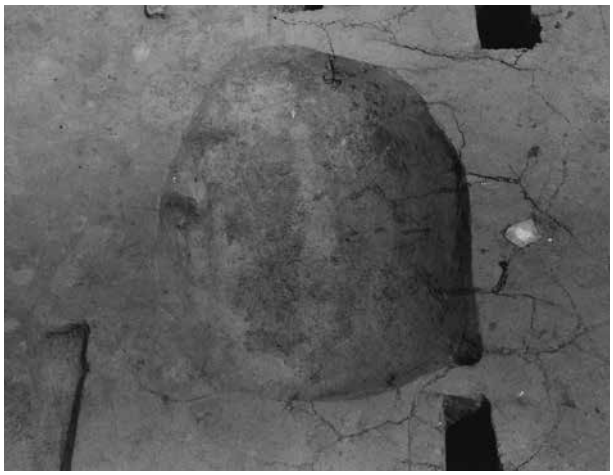
12号土壙　完掘

15 a ・ b 号土壙　検出



15 a 号土壙　完掘

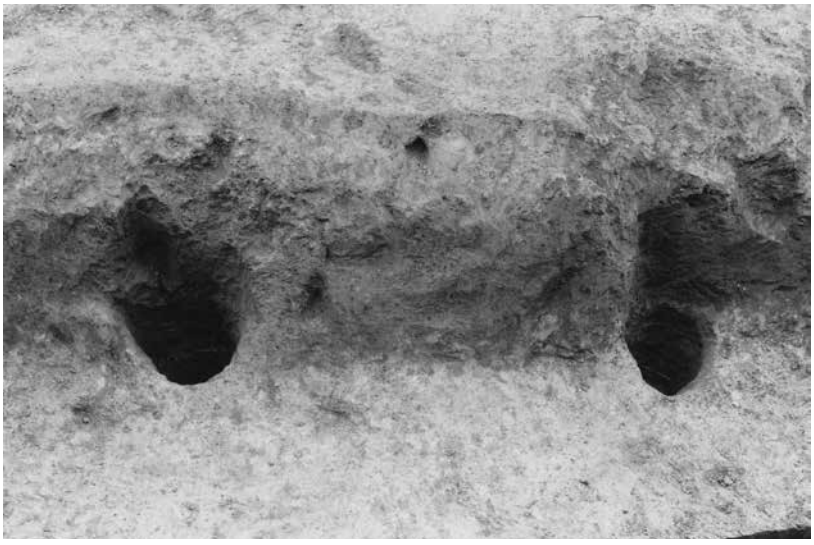
15 b 号土壙　完掘



15 c 号土壙　完掘

16号土壙　完掘

17号土壙　完掘



橋跡ヵ　完掘（南から）

同（東から）

5 C層　遺物出土（北側）

5 C層　遺物出土（南側）

5 C層　かわらけ（土426）

ピット　かわらけ（土730・731?）

ピット　脇鞍（金70）

焼土混じり層（21井　上位）　端反皿（土351）・かわらけ（土753）

調査参加者

報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	キサイジョウアト
書 名	騎西城跡　KB19区－中近世編－遺物２　遺構
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編 著 者 名	嶋村英之・嶋村薫
編 集 機 関	加須市教育委員会
所 在 地	〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
発 行 年 月 日	西暦2025年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
私市城跡 （きさいじょうあと）	埼玉県加須市 （かぞし） 根古屋 （ねごや） 260－２、306、307、308－１、308－２、310	11421	010	36°10′41″	139°58′50″	19910301～ 19920826	1,995	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
私市城跡	城館跡	中近世	障子堀（堀）27／橋跡１／溝16／井戸24／土壙21／建物跡１/炭化物層（３Ｃ層・５Ｃ層）	陶磁器（朝鮮陶器・中国染付・黒織部沓形茶碗・志野丸碗）・かわらけ・ほうろく・土壁片・下駄・桶・漆椀・呪符・位牌の台・将棋の駒・炭化椀・石製円盤95点	１堀上層や炭化物（３・５Ｃ）層から中国染付や16c末～17c初の志野・織部・唐津など陶磁器類が多量に出土。なかでも朝鮮陶器は関東地方では希少。炭化椀底部は未整形でロクロ爪痕が残る。

要　約

19区は城郭部にあたる。江戸時代初期の絵図に描かれる丸（仮称五ノ丸）の西端・南端である曲輪の一部と、３タイプの障子堀（仮称「五ノ丸」と天神曲輪との間の堀・御蔵屋舗との間の堀）が検出された。また土留めの杭列から、松平あるいは大久保氏による曲輪・土橋の拡張が推定される。

１・６堀下層出土の土器類・木製品は16世紀後半のものと思われ、用途は生活からいくさまで多岐にわたる。漆椀は堀下層から多量出土し、うち32点の樹種・下地などから中世から近世への移行の様相が見える。また、未成炭化椀は城内周辺で漆器等の製作を想定させる。

炭化物（３Ｃ・５Ｃ）層では茶陶や焼けた土壁片が出土した。17世紀前期当エリアに喫茶などを行う饗応の場があったもので、廃城などの契機で廃棄されたものと思われる。

印刷仕様

【印刷】　オフセット印刷
【製本】　並製本　糸かがり
【組版】　本文写真植字　横組　10ｐ　明朝体（23字×40行）　段組２段
【用紙】　紙　質：中性紙
表　紙：レザック66（うすあい）四六判　215kg
見返し：色上質　特厚口　アイボリー
扉　：上質紙　　A 判70.5kg
口絵カラー図版：アート A 判70.5kg
巻末写真図版　：ハイコート　A 判70.5kg
本　文：上質紙　A 判57.5kg

加須市埋蔵文化財調査報告書　第18集

騎西城跡

第19区

－中近世編－

遺物２　遺構

令和７年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会
〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
印　刷　関東図書株式会社